

交付又ハ元金ノ償還若ハ利子ノ仕拂ヲ受ケントスル者ハ國債規則第十七條又ハ第六十二條ノ規定ニ準シタル請求書ニ除權判決ノ正本又ハ謄本ヲ添ヘ之ヲ取扱店ニ提出スヘシ

第二款 私設

私設鐵道法

明治三十三年三月十六日 法律第六十四號 鐵道大臣 閣議

第一條 本法ハ軌道條例ノ他特別ノ法令ニ規定スルモノヲ除ク外一般運送ノ用ニ供スル私設鐵道株式會社ヲ運送營業ノ爲ニ支線ヲ敷設スルトキハ現ニ一般運送ノ用ニ供セザル場合トシテ本法ヲ適用ス

起算日見書ニハ發起人各自署名捺印スルコトヲ要ス 第三條 主務大臣ハ前條書類圖面ノ外審査ニ必要ト認ムル書類圖面ノ呈出ヲ命スルコトヲ得

第二款 私設

私設鐵道法

第五條 假免許ニハ本免許申請ノ期限ヲ附ス 前項期限内ニ本免許ノ申請ヲ爲サザルトキハ假免許ハ其ノ效力ヲ失フ但シ正當ノ事由アリテ延期ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

ハ創立總會終結シタルトキハ取締役ハ左ノ書類圖面ニ具シ主務大臣ニ本免許ヲ申請スヘシ 一 定款 二 工事ノ方法書 三 線路圖面 四 工費算書

第二款 私設

私設鐵道法

第十三條 主務大臣ハ第十條ノ書類圖面ヲ審査シ妥當ト認ムルトキハ本免許狀ヲ下付スヘシ 本免許ニハ工事竣功ノ期限ヲ附ス工事竣功ノ期限ハ工區分チテ之ヲ附スルコトヲ得

第十四條 會社ノ設立ノ登記ニハ商法ニ規定スル事項ノ外本免許ノ年月日ヲ記載スルコトヲ要ス 第十五條 本法及商法ニ依リ登記ヲ爲シタルトキ

第二款 私設

私設鐵道法

第二十二條 定款變更ニ因リ登記事項ニ變更ヲ生シ登記ヲ爲ストキハ定款變更認可ノ年月日ヲ併セテ記載スルコトヲ要ス

第二十四條 會社ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケルニ非サルハ他ノ業務ヲ營ムコトヲ得ス 第二十五條 會社ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケルニ非サルハ他ノ株式ヲ取得シ又ハ質權ノ目的トシテ之ヲ受ケルコトヲ得ス

第二款 私設

私設鐵道法

第二十八條 會社ハ鐵道運輸ヲ調整シ之ヲ備置クコトヲ要ス 第二十九條 會社ハ鐵道運輸ニ關スル事項ノ外其主務大臣ノ認可ヲ受ケルコトヲ得

第三十二條 會社ハ毎營業年度中ニ支拂フヘキ社債及負債ノ元利金ヲ控除シタル後ニ非サルハ利益ノ配當ヲ爲スコトヲ得ス 第三十三條 鐵道及之ニ關スル物件ハ質權ノ目的ト爲スコトヲ得ス

第二款 私設

私設鐵道法

第三十六條 工事方法ノ變更及假設ノ工事ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケルニ非サルハ之ヲ爲スコトヲ得ス 第三十七條 工費算書ノ變更ハ主務大臣ノ定ムル規定ニ依リ認可ヲ受ケルコトヲ得

第二十六條 會社ハ主務大臣ノ決議ヲ經テ主務大臣ノ認可ヲ受ケルニ非サルハ鐵道ノ賃借又ハ營業ノ管理委託ヲ爲スコトヲ得ス 第二十七條 會社ノ取締役其ノ他ノ役員又ハ使用人ハ監督官廳ノ呼出ニ應ジ説明ヲ爲スノ義務ヲ負フ

第二款 私設

私設鐵道法

第三十條 會社ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケルニ非サルハ鐵道及之ニ關スル物件ヲ抵當トシテ負債ヲ爲スコトヲ得ス 第三十一條 前二條ノ債務ノ額ハ合セテ總株金拂

第三十四條 鐵道ニ關スル物件ノ質權又ハ質權ハ主務大臣ノ定ムル規定ニ依リ認可ヲ受ケルコトヲ得 第三十五條 會社ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケルニ非サルハ合併ヲ爲スコトヲ得

第二款 私設

私設鐵道法

第三十八條 鐵道ノ建設、設計等ニ關スル法令ノ制定、變更ニ因リ工事方法ノ變更ヲ受ケルコトヲ得 第三十九條 會社ハ設立登記ノ日ヨリ六箇月内ニ鐵道ノ敷設ニ着手シ本免許ニ附シタル期限内ニ之ヲ竣功スヘシ

第四十條 前項ノ若手期限ハ鐵道延長ノ場合ニ在リテハ其ノ本免許狀下付ノ日ヨリ之ヲ起算ス 天災其ノ他過クハカラサル事變ノ爲期限内ニ敷設ニ着手シ又ハ竣功スルコト能ハサルトキハ會

第二款 私設

私設鐵道法

第四十二條 創立總會ニ於テ設立ノ廢止ノ決議ヲ爲シタルトキハ主務大臣ニ假免許狀ヲ返納スヘシ 第四十三條 主務大臣ハ第十條ノ書類圖面ヲ審査シ妥當ト認ムルトキハ本免許狀ヲ下付スヘシ

社ハ期限ノ伸長ヲ申請スルコトヲ得
前項ノ申請ハ天災ノ事變ノ止ミタル日ヨリ一箇月内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス
自己ノ過失ニ歸セザル正當ノ事由ニ因リ期限内ニ敷設ニ着手シ又ハ竣功シ難キトキハ期限經過前ニ延期ヲ申請スヘシ延期ノ期間ハ通シテ原期間ノ半ヲ超ユルコトヲ得ス
法令ノ結果ニ因リ工事方法ニ變更ヲ生シ又ハ主務大臣ノ命令ニ依リ若ハ其ノ認可ヲ受ケ工事方法ヲ變更シタルトキハ更ニ期限ノ指定ヲ申請スルコトヲ得
前項ノ申請ハ法令ノ結果ニ因リモノハ其ノ施行ノ日ヨリ一箇月内ニ、主務大臣ノ命令ニ依リモノハ其ノ命令ヲ受ケタル日ヨリ一箇月内ニ又認可ヲ受ケヘキモ、ハ其ノ認可ノ申請ト同時ニ之ヲ爲スコトヲ要ス
第四十條 軌間ハ特許ヲ得タルモノヲ除クノ外三呎六吋トス
第四十一條 左ニ掲グルモノヲ以テ鐵道用地トス
一 線路用地
二 停車場 信號所及車庫、貨物庫等ノ建設ニ要スル土地
三 鐵道構内ニ職務上常住ヲ要スル鐵道員ノ宿舍及運輸保險ニ從事スル鐵道員ノ駐在所等ノ建設ニ要スル土地
四 鐵道ニ要スル車輛、器具ヲ修理製作スル工場及其ノ資材器具ヲ貯蔵スル倉庫ノ建設ニ要スル線路ニ沿ヒタル土地
線路用地ノ幅員ハ築地、切取、架橋等工事ノ必要ニ應ジ工事方法ニ依リ之ヲ定ム
第四十二條 道路橋梁、河川、溝渠ニ關スル工事ノ施設ハ所管官廳ノ認可ヲ受ケヘシ

第四十三條 線路ノ道路ヲ橫斷スル場所ニハ橋梁ヲ架設シ又ハ地下道若ハ階切道ヲ設ケヘシ其ノ他危險防止ノ爲必要ナル箇所ニハ橋樑、門戶、堤壩、溝渠ヲ設ケ又ハ番人ヲ配付スル等充分ノ設備ヲ爲スコトヲ要ス
第四十四條 主務大臣ハ監督員ヲ派遣シ工事ヲ監視セシムルコトヲ得
工事カ工事方法書又ハ法令若ハ法令ニ基キテ發スル命令ニ遵ヒタルトキハ主務大臣ハ其ノ改築ヲ命ジ又ハ之ヲ停止スルコトヲ得
第四十五條 會社ハ主務大臣ニ申請シ其ノ許可ヲ得タル後ニ非サレハ運輸ヲ開始スルコトヲ得
第四十六條 運輸開始ノ申請アリタルトキハ主務大臣ハ監督員ヲ派遣シ鐵道ノ設備ヲ監督セシメ運輸ヲ開始スルニ適當ト認ムルトキハ其ノ許可ヲ與フヘシ若シ不適當ト認ムルトキハ其ノ改良ヲ命ジ其ノ竣功ノ後更ニ運輸開始ノ申請ヲ爲サシムヘシ
第四十七條 前二條ノ規定ハ新設又ハ變更シタル建設物ヲ運輸ノ用ニ供スル場合ニ準用ス
第四十八條 主務大臣ハ監督員ヲ派遣シ鐵道ノ設備又ハ運輸保險ノ方法ヲ監督セシメ不適當ト認ムルトキハ何時ニテモ必要ナル施設ヲ命ジスルコトヲ得
前項ノ場合ニ於テ危險ナリト認ムルトキハ其ノ施設ヲ終ル迄運輸又ハ使用ヲ停止スルコトヲ得
第四十九條 第四十四條第二項、第四十八條ノ規定ニ依リ改築又ハ必要ナル施設ヲ命ゼラレタルトキハ會社ハ之ヲ終リタル後主務大臣ニ申請シテ監督ヲ受ケヘシ

第五十條 監督員ハ監督上必要ト認ムルトキハ取締役其ノ他會社ノ役員又ハ使用人ニ說明シホメ及審判圖面ヲ檢閱スルコトヲ得
第五十一條 主務大臣ハ鐵道ノ設備カ運輸ノ必要ニ適セザルモノト認ムルトキハ之ニ適スヘキ設備ヲ命スルコトヲ得
第五十二條 主務大臣ハ公衆ノ安全ノ爲官設鐵道ニ實施スル事務ヲ會社ニ命ジテ施設セシメ其ノ他官設鐵道ニ實施スル規則ヲ私設鐵道ニ適用スルコトヲ得
第五十三條 政府又ハ政府ノ許可ヲ受ケタル者ニ於テ會社ノ鐵道ニ接續シ若ハ之ヲ橫斷シテ鐵道ヲ敷設シ又ハ會社ノ鐵道ニ接近シ若ハ之ヲ橫斷シテ道路、橋梁、溝渠若ハ運河ヲ建設スルトキハ會社ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス
前項ノ場合ニ於テ公衆上必要ト認ムルトキハ主務大臣ハ會社ニ命ジテ接續、橫斷ノ場所ニ於ケル設備ヲ共用ニ供セシメ又ハ之ヲ變更セシムルコトヲ得
第五十四條 前條ノ場合ニ於テ設備ノ共用又ハ變更ニ要スル費用ノ負擔ニ付雙方ノ協議調ハサルトキハ申請ニ因リ主務大臣ノ之ヲ裁定ス
前項ノ規定ハ終局トス
第五十五條 農工商業者カ其ノ產物、商品運送ノ爲敷設スル鐵道ヲ會社ノ鐵道ニ接續セシムルコトヲ求メタルトキハ會社ハ正當ノ事由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス
前項ノ場合ニ於テ雙方ノ協議調ハサルトキハ申請ニ因リ主務大臣ノ之ヲ裁定ス
第五十六條 會社ハ運輸ニ關スル規定ヲ定ム主務大臣ノ認可ヲ受ケヘシ之ヲ變更スルコトヲ得

第五十七條 會社ハ旅客及貨物ノ運賃ヲ定ム主務大臣ノ認可ヲ受ケヘシ之ヲ變更スルコトキ亦同シ
主務大臣ハ公益上必要ト認ムルトキハ運賃ノ變更ヲ命スルコトヲ得
運賃增加ノ公告ニハ其ノ認可ノ年月日ヲ記載スルコトヲ要ス
第五十八條 下等旅客運賃額ハ線路ノ距離一哩ニ付金二錢ノ割合ヲ超過スルコトヲ得ズ但シ二哩未滿ノ哩數ニ對シテハ其ノ一人ノ運賃額ヲ金四錢迄ニ定ムルコトヲ得
本法ノ規定ニ依リ運賃ヲ半減スルトキ又ハ哩數ニ應ジテ運賃額ヲ定ムルトキ生スル單位ノ金額ハ之ヲ單位ニ切上クルコトヲ得
第五十九條 會社ハ運賃ノ割引ニ付テハ課メ一定ノ準則ヲ定ム主務大臣ノ認可ヲ受ケヘシ之ヲ變更スルトキ亦同シ
準則ニ依ラサル運賃ノ割引ハ各場合ニ付認可ヲ受ケヘシ
第六十條 主務大臣ハ運賃ノ算法、荷物ノ等級、運賃表ノ格式及公告ノ方法等ニ關シ規定ヲ設ケルコトヲ得
第六十一條 會社ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケルニ非サレハ鐵道運送ニ對シ何等ノ名義ヲ問ハズ運賃以外ノ料金を請求スルコトヲ得ス
第六十二條 會社ハ列車ノ發着時間及度數ヲ定ム主務大臣ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケヘシ之ヲ變更スルトキ亦同シ
主務大臣ハ公益上必要ト認ムルトキハ列車ノ種類、發着時間及度數ヲ定ム其ノ施行ハ會社ニ命スルコトヲ得

第六十三條 主務大臣ハ會社ニ他ノ鐵道トノ連絡ヲ運輸又ハ直通運輸ヲ命スルコトヲ得
第六十四條 二箇以上ノ私設鐵道ヲ連絡運輸又ハ直通運輸ヲ爲ス場合ニ於テ設備ノ變更、交互運輸ノ手續、運賃ノ割合其ノ他費用ノ負擔ニ付會社間ニ協議調ハサルトキハ申請ニ因リ主務大臣ノ之ヲ裁定ス
前項ノ規定ハ終局トス
官設鐵道ト私設鐵道ト連絡運輸又ハ直通運輸ヲ爲ス場合ニ於テ協議調ハサルトキハ主務大臣ノ之ヲ定ム
第六十五條 會社ハ主務大臣ノ定ムル規定ニ依リ事故ノ届出ヲ爲スヘシ
主務大臣ハ監督員ヲ派遣シ事故ノ審査ヲ行ハシムルコトヲ得
事故發生ノ爲必要ト認ムルトキハ會社ニ命ジテ事故發生ノ必要ナル設備ヲ設ケルコトヲ得
監督員ハ取締役其ノ他ノ役員、使用人及關係人ヲ呼出、訊問シ其ノ他事故ノ審査ニ必要ナル書類手續ヲ爲スコトヲ得
第六十六條 會社ハ營業年度毎ニ營業報告書ヲ調製シ定時總會後一週間内ニ主務大臣ニ提出スヘシ
第六十七條 會社ハ主務大臣ノ定ムル規定ニ依リ鐵道統計ヲ調製シ之ヲ提出スヘシ
第六十八條 鐵道事務ニ關シ往復スル吏員ニシテ監督官廳ヨリ發スル乘車證ヲ携帯スルモノハ無料ニ乘車セシムヘシ
第六十九條 公務ヲ以テ往復スル陸海軍軍人、軍醫及警察官吏又ハ軍馬、銃砲、彈藥、糧食、被服、軍具、工器、兵器、天幕等ニシテ公用タルコトヲ證明スル通券アルモノハ半價ヲ以テ輸送スヘシ

第七十條 因難及監督官吏ハ半價ヲ以テ乘車セシムヘシ
第七十一條 會社ハ法令ノ定ムル所ニ依リ平時、戰時ニ於テ鐵道ヲ軍用ニ供スルノ義務ヲ負フ
第七十二條 政府ハ本免許狀ヲ付ノ日ヨリ滿二十五年間ノ後鐵道及附屬物件ヲ買上タルノ權ヲ保有ス
合併其ノ他ノ方法ニ依リ會社カ他會社ト鐵道ヲ引受ケタルトキハ其ノ鐵道ニ對シ前項ノ期限ハ該會社ニ本免許狀ヲ付シタル日ヨリ之ヲ起算ス
第七十三條 前條ニ依リ鐵道及附屬物件ヲ買上タルトキハ前五年間ノ株券價格ノ平均額ニ對シ買上價格ヲ定ム
前項ノ價格カ會社ニ於テ前五年間ニ株主ニ支拂ヒタル純益金ノ配當平均額ノ二十倍ノ金額ヲ超ユルトキハ該金額ヲ以テ買上價格ト爲スヘシ
第七十四條 鐵道及附屬物件ノ狀態不完全ナルトキハ其ノ補修ニ要スル費用ヲ前條ノ金額ヨリ扣除シタルモノヲ以テ買上價格ト爲スヘシ
前項補修ニ要スル費用ニ付協議調ハサルトキハ鑑定人ノ意見ヲ聽キ政府ノ之ヲ定ム
鑑定人ノ選定ニ關スル規則ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
第七十五條 前三條ノ規定ハ法令又ハ免許、許可若ハ認可ニ附シタル條件ノ效力ヲ妨ケズ
第七十六條 會社カ第三十九條ノ期限内ニ鐵道ノ敷設ニ着手セズ又ハ之ヲ竣功セザルトキハ免許ハ其ノ效力ヲ失フ
第七十七條 會社カ第四十五條ノ規定ニ違反シテ

運輸ヲ開始シ若ハ第四十七條ノ規定ニ違反シテ建設物ヲ運輸ノ用ニ供シ又ハ第四十八條第二項ノ停止ノ命令ニ違反シタルトキハ其ノ違反ノ行為ニ因リ得タル收入金ヲ沒收ス收入金ト區別シ難キ他ノ收入アルトキハ併セテ之ヲ沒收ス可キ

第七十八條 會社方法令ノ規定又ハ免許ノ許可若ハ認可ニ附シタル條件ニ依リ命セラルル施設ヲ爲ササルトキハ政府ニ於テ之ヲ施行シ會社ヲシテ其ノ費用ヲ辨償セシムルコトヲ得

第七十九條 第七十七條ノ沒收金及第七十八條ノ費用ハ監督官廳ニ於テ國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ徵收ス但シ其ノ先取特權ハ公課ニ次キ之ヲ行フ

第八十條 會社方法令ノ規定又ハ免許ノ許可若ハ認可ニ附シタル條件ニ違反シ又ハ法令ニ基キ發スル命令ヲ遵守セズ其ノ他公益ヲ害スヘキ行為ヲ爲シタルトキハ主務大臣ハ左ノ處分ヲ爲ス可キトシ得

一 取締役其ノ他ノ役員ヲ解任スルコト
二 官設鐵道又ハ他ノ會社ヲシテ會社ノ計算ヲ以テ運輸ヲ爲サシムルコト
三 免許ノ一部又ハ全部ヲ取消スルコト
前項ノ規定ニ依リ解任セラルル取締役其ノ他ノ役員ハ再任セラルコトヲ得

第八十一條 免許ノ失効又ハ取消ノ場合ニ於テ主務大臣ハ其ノ鐵道及附屬物件ヲ公費ニ付シ買受人ヲシテ之ヲ收功セシムルコトヲ得
買受人ハ原免許ニ屬スル權利及義務ヲ承継ス但シ主務大臣ハ更ニ著手又ハ收功ノ期限ヲ指定スルコトヲ得

二 同ノ公費ヲ行フモ買受人ナキトキハ鐵道及附屬物件ヲ各個ノ物件トシテ之ヲ處分セシム

公費ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第八十二條 鐵道延長免許ノ失効又ハ取消ニ因リ前條ノ公費ヲ爲ス場合ニ於テ鐵道ノ運輸上必要アルトキハ本條ノ免許ノ一部又ハ全部ヲ取消シ併セテ其ノ鐵道及附屬物件ヲ公費ニ付スルコトヲ得

第八十三條 會社ハ免許ノ全部失効又ハ全部取消ニ因リテ解散ス其ノ本免許ノ申請ヲ却下セラレタルトキ亦同シ

第八十四條 假免許ヲ受ケシテ會社設立ノ行為ヲ爲シタル者又ハ免許ヲ受ケシテ工事ニ着手シタル者ハ百圓以上二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十五條 事故發生ノ場合ニ於テ正當ノ事由ナクシテ現狀存置ノ命令ニ違反シ又ハ呼出ノ罰金ニ處ス者ハ百圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十六條 第四十五條ノ規定ニ違反シテ運輸ヲ開始シ若ハ第四十七條ノ規定ニ違反シテ建設物ヲ運輸ノ用ニ供シ又ハ第四十四條第二項第四十八條第二項ノ規定ニ依リ停止ノ命令ニ違反シタルトキハ取締役ヲ百圓以上二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十七條 第十九條第二項第二十七條第五十條ノ場合ニ於テ呼出ノ罰金ニ處ス者ハ呼出拒否若ハ虛偽ノ陳述ヲ爲シタル者ハ五百圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十八條 左ノ場合ニ於テハ發起人、取締役ヲ五圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 本法ニ定メタル登記事項ノ登記ヲ怠リタルトキ
二 第七條第二十九條第二項、第五十七條第三項ノ公告中ニ記載スヘキ事項ヲ記載セズ又

ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ
三 鐵道車輛ノ四製備價ヲ怠リ之ニ記載スヘキ事項ヲ記載セズ又ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ
四 本法ニ定メタル營業報告、統計書、事故其ノ他ノ届出及法令ニ基キテ監督官廳ノ命令シタル報告届出ノ届出ヲ怠リ又ハ故意ニ不正ノ報告届出ヲ爲シタルトキ
五 法令ノ規定若ハ法令ニ基キテ發シタル命令又ハ免許ノ許可若ハ認可ニ附シタル條件ニ基キテ發シタル命令ニ違反シタルトキ

第八十九條 左ノ場合ニ於テハ取締役ヲ十圓以上千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 本法ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケヘキ事項ニ關シテ之ヲ受ケシテ施行シタルトキ
二 第二十五條ノ規定ニ違反シ株式取得シ又ハ買權ノ目的トシテ之ヲ受ケタルトキ
三 第三十二條ノ規定ニ違反シテ配當ヲ爲シタルトキ
四 本法ニ定メタル主務大臣ノ鑑定ヲ遵守セザルトキ

第九十條 通料ノ徵收ニ關シテハ非事件手續法ヲ適用ス

第九十一條 一個人又ハ一會社ニ於テ個人ノ專用ニ供スル爲數股スル鐵道ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第九十二條 第十六條ニ定メタル期間ハ滿期法ノ規定ニ從ヒ會社ノ設立ヲ爲ス場合ニハ免許ヲ受ケタル日ヨリ一箇年トス

第九十三條 第二十五條ノ規定ハ本法施行前ニ取得シ又ハ買權ノ目的トシテ受ケタル株式ニ付

ハ之ヲ適用セズ

第九十四條 第三十一條ノ規定ハ本法施行前ニ生シタル債務ニ付テハ之ヲ適用セズ

第九十五條 第三十三條ノ規定ハ本法施行前ニ設定シタル賃借ノ效力ヲ妨ケズ

第九十六條 第七十三條第二項、第七十四條ノ規定ハ本法施行前ニ免許ヲ受ケタル鐵道ニ付テハ會社ト爲シテ之ヲ適用ス

第九十七條 私設鐵道株式會社ニハ本法施行ノ日ニ本法ニ特別ノ規定アルモノヲ除クノ外商法及其ノ附屬法令中株式會社ニ關スル規定ヲ適用ス

第九十八條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定メ之ヲ施行ス

明治三十三年八月十日
勅令第三百三十號選、大臣副署
私設鐵道法及鐵道營業法施行ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

私設鐵道法及鐵道營業法ハ明治三十三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

●私設鐵道法施行規則

明治三十三年八月十日
逓信省令第二十七號
逓信省令第三三三號選、三九年第六〇號
私設鐵道法施行規則左ノ通定ム

第一條 私設鐵道假免許ノ申請書ハ發起人之ニ運器シ本店ヲ設置セムトスル地方長官ヲ經由

シテ之ヲ提出ス

第二條 地方長官ハ前條ノ申請書ニ意見書ヲ附シテ送達ス

第三條 起業カ他ノ地方管内ニ保ルトキハ地方長官ハ關係地方長官ニ商議シ前項ノ意見書ヲ調製ス

第四條 起業目録見書ニハ左ノ事項ヲ記載ス

一 目的
二 商號及本店設置地
三 線路ノ起點及終點並其ノ經過スヘキ地名
四 鐵道ノ種類及軌間
五 資本ノ種類
六 株式總數及一株ノ金額
七 會社存立時期ヲ定メタルトキハ其ノ時期
八 發起人ノ姓名、住所
九 發起人ノ引受クヘキ株式ノ總數並各發起人ノ引受株式數

前項ノ規定ハ鐵道延長ノ起業目録見書ニ之ヲ準用ス但シ建設資金ノ出資方法ヲ記載スヘシ

第四條 假免許ヲ受ケタル後起業目録見書ニ記載シタル事項ヲ變更セムトスルトキハ地方長官ヲ經由シテ認可ヲ受ケヘシ但シ發起人ノ死亡、氏名、住所ノ變更ニ係ルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ノ場合ニ於テハ發起人ノ運器ヲ以テ之ヲ届出ツヘシ

第五條 假免許ニハ商法ノ規定ニ依リ定款ニ開載スヘキ事項ノ外線路ノ起點、終點及其ノ經過地ノ地名ヲ記載スヘシ

第六條 起業カ公共ノ利益タルコトヲ證スル調査ニハ鐵道敷設ヲ必要トスル地方ノ狀況及鐵道敷設ニ因リ從來ノ交通機關ニ比シ運輸上ニ於テ公

衆ノ受クヘキ利益等詳細ニ記載シ第一條及第二條ノ規定ニ據リ旅客及貨物表ヲ添附スヘシ

第七條 線路標識圖ハ左ノ二種トス

一 標準平面圖
縮尺ハ一吋三十釐トシ線路ノ中心線ハ赤色ヲ以テ影シ其ノ經過スル地名及地勢ヲ明記シ停車場ノ位置、名稱及曲線半徑並交叉角ヲ示シ距離ハ半哩毎ニ記入スヘシ

二 標準斷面圖
縮尺ノ長ハ平面圖同ニシテ高ハ一吋百五十呎トシ中心線地面ノ高低及施工基面ノ高低等ヲ半哩毎ニ記シ隧道及橋梁(渡橋ヲ含ム)ノ長、線路ノ勾配並停車場ノ位置、名稱ヲ記入スヘシ

第八條 線路標識圖ノ說明書ニハ線路經過地ノ地勢ヲ詳細ニ市街、村落、社寺、名勝、舊跡、公園、道路、山嶽、河川、港灣等ノ取モナルモノ及重要地トノ關係ヲ明ニスヘシ

既明書ニハ縮尺二十万分ノ一以上ノ地圖ヲ添ヘ既成鐵道若ハ官設假免許又ハ本免許ヲ受ケタル私設鐵道トノ關係ヲ明示スヘシ

第九條 敷設費用ノ概算書ハ第三條格式ニ依リ其ノ總額及内譯各項毎ノ金額ヲ記載シ且線路ノ距離ヲ掲クヘシ

第十條 運送營業上ノ收支概算書ニハ收入及支出ノ總額及内譯ヲ示シ且資本ニ對スル純益ノ割合ヲ記載スヘシ

線路延長ノ場合ニ於テハ前項ノ外延長ノ爲線路全般ニ及ボスヘキ收入及支出ノ概算ヲ記載スヘシ

ハ左各半額其ノ他ニ於テハ各五額以内ニ在ルトキ

二 曲線ノ半徑ヲ變更シテ之ヲ長カラシムルトキ位之ヲ變更シテ二十額ヨリ短縮セシメサルトキ

三 施工基面高低ノ變更力實測断面圖ニ記セル最初ノ位置ヨリ市街又ハ家屋稠密ノ地ニ於テハ二呎其ノ他ニ於テハ六呎以内ニ在ルトキ

四 線路ノ勾配ヲ變更シテ之ヲ緩ナラシムルトキ位之ヲ變更シテ百分ノ一ヨリ急ナラシメサルトキ

停車場内線路ノ勾配、内務省直轄河川及其ノ他著名ノ建造物所在地ニ關係ナハル場合ニ於テハ前項ニ該當スル場合ト雖認可ヲ受クルコトヲ要ス

前二項ノ外線路ノ變更ハ第一項ニ揭クル書類圖面ヲ添附シ認可ヲ受クヘシ

第二項中著名ノ建造物所在地ニ關係ナハル場合及前項線路ノ變更ノ場合ニ於テハ地方官ヲ經由スヘシ

停車場、附屬所、信號所及隧道、橋梁ノ名稱ヲ變更シタルトキハ之ヲ届出ツヘシ

第二十五條 假設工事ノ認可申請書ハ理由書、圖面、工事方法書及工費算書ヲ添附シ工費支出ノ途ヲ明示シ之ヲ送スヘシ

假設工事ノ豫メ其ノ使用期限ヲ定ムルコトヲ要ス

認可ヲ經タル工事方法ノ範圍内ニ於ケル假設工事ノ變更ニシテ第二十三條第一號乃至第三號及第二十四條第一號第一號乃至第四號ニ該當スル場合ニ於テハ第二十二條ニ揭クル書類圖面等ヲ添附シ工費支出ノ途ヲ明示シ之ヲ届出ツヘシ

第二十六條 左ノ假設工事ヲ施行スルトキハ理由書及圖面ヲ添附シ其ノ都度届出ツヘシ但シ第一號ノ場合ニ於テハ書面ヲ以テ届出ツル外即日電信ヲ以テ報告スヘシ

一 天災事變ニ際シ一時ノ用ニ供スル假設線路及假設建造物

二 停車場内ニ於テ側線其ノ他建造物ノ改修工事ヲ施スニ當リ假設線路及假設建造物

第二十七條 第二十二條乃至第二十六條ノ圖面及工事方法書ニ付テハ第十六條乃至第十八條ノ規定ヲ適用ス

第二十八條 工事方法書及圖面、線路實測圖及工費算書其ノ他附屬表ニハ擔當技術者之署名捺印スヘシ

第二十九條 私股鐵道法第十條第二項第三號ニ揭クル決定書ノ際ハ承認ヲ受ケタル際本ヲ以テ送スヘシ

第三十條 鐵道延長ノ假免許及本免許ノ申請書ニハ株主總會ノ議事及決議ノ要領書ヲ添附スヘシ

一 資本ノ總額

二 株式ノ總數

三 株主ノ總數

四 議決權ノ總數

五 出席株主ノ總數

六 出席株主ノ有スル株式ノ總數

七 出席株主ノ有スル議決權ノ總數

前項ノ規定ハ本規則ノ規定ニ依リ株主總會ノ議事及決議ノ要領書ヲ送スル場合ニ之ヲ準用ス

第三十一條 私股鐵道法及商法ノ規定ニ依リ爲シタル登記ノ届出ハ登記ノ日ヨリ一週内ニ其ノ登記簿ハ添附シテ之ヲ送スヘシ

第三十二條 本免許失効ノ場合ニ於テハ一箇月内ニ地方官ヲ經由シテ免許狀ヲ返納スヘシ

第三十三條 會社ハ本免許ヲ受ケタルトキハ一箇月内ニ主任技術者ヲ選任スヘシ

主任技術者ノ選任ハ本免許ヲ受ケタルトキハ一週内ニ其ノ選任及技術修業ノ證明書類ヲ添附シテ届出ツヘシ

技術ニ關スル書類圖面ニシテ監督官廳ニ呈出スルモノニハ主任技術者之署名捺印スヘシ

第三十四條 主任技術者ノ缺位ヲ生ジタルトキハ選任ナク其ノ更任者ヲ選任シ前條第二項ノ規定ニ依リ届出ツヘシ

第三十五條 定款變更ノ決議認可ノ申請書ニハ株主總會ノ議事及決議ノ要領書ヲ添附スヘシ

第三十六條 增加資本ニ關シ新株ノ募集ナリタルトキハ株式申込証ノ原本、取捨役、監査役及檢査役ロイヤリティ株式總會ニ爲シタル報告ノ要領書ヲ添附シテ届出ツヘシ

第三十七條 資本減少ニ係ル定款變更ノ決議認可ノ申請書ニハ債權者カ期限内ニ異議ヲ述ベサル旨ヲ供シタル旨ヲ證明スル書類ヲ添附スヘシ

第三十八條 他ノ會社ノ株式ヲ取得シ又ハ其ノ目的トシテ之ヲ受ケルノ認可申請書ニハ其ノ事由ヲ詳記シ社名、株數、取得ノ方法及發給ノ記載シ實額ニ在リテハ尙ホ期間元金額、利率、債權者ノ氏名等ヲ記載シ株主總會ノ議事及決議ノ要領書ヲ添附スヘシ

第三十九條 鐵道ノ貸借又ハ貸借ノ管理委託ノ認可

可申請書ニハ株主總會ノ議事及決議ノ要領書、貸借又ハ管理ニ關スル契約書原本等ヲ添附スヘシ

第四十條 社債發行認可ノ申請書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 社債發行ヲ要スル事由

二 社債ノ總額

三 券面ノ金額

四 社債ノ利率

五 社債募集ノ初期及終期

六 社債元利償還ノ方法及期限

前項ニ記載シタル事項ヲ變更セムトスルトキハ更ニ其ノ認可ヲ受クヘシ

第四十一條 前條ノ申請書ニハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一 株主總會ノ議事及決議ノ要領書

二 最終ノ貸借對照表

三 元利金支拂ノ豫算

四 株金總額及拂込額並ニ償還及之ニ關スル物件ノ抵當ノ登記簿本

五 前二社債ヲ募集シタルトキハ其ノ償還ナリタル總額

六 社債發行ニ關スル條件及規程

前項第六號ノ書類ニ記載ノ事項ヲ變更シタルトキハ一週内ニ届出ツヘシ

第四十二條 社債募集ノ公告ヲ爲シタルトキハ一週内ニ届出ツヘシ

第四十三條 社債ノ募集ナリタルトキハ募集締切ノ日ヨリ三十日以内ニ左ノ事項ヲ記載シ届出ツヘシ

一 募集締切ノ年月日

二 募集金額

三 應募金額

四 募集契約締結ノ最昂、最低價格及會社ノ實收スヘキ金額

無記名式ノ債券ヲ發行シ又ハ記名式ノ債券ヲ無記名式ニ、無記名式ノ債券ヲ記名式ニ變更シタルトキハ其ノ金額、券數及發行又ハ變更ノ年月日ヲ記載シ發行又ハ變更ノ日ヨリ一週内ニ届出ツヘシ

前項ノ規定ハ株券ニ之ヲ準用ス

第四十四條 會社ハ毎年社債ニ關スル左ノ事項ヲ翌年二月末日迄三届出ツヘシ

一 其ノ年社債償還高、既往累年償還總高及未償還高

二 其ノ年社債償還高、既往累年償還總高及未償還高

三 利子仕拂高

四 債券譲渡受入ノ人員及資金高

五 其ノ年末現在償還者ノ員數

第四十五條 鐵道及之ニ關スル物件抵當貸借ノ認可申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ地方官ヲ經由シテ之ヲ送スヘシ

一 貸借ヲ要スル事由及其ノ金額

二 元利償還ノ方法及期限

三 利率

四 抵當物件ノ種類但シ目錄ヲ添附ス

五 契約書原本

六 債權者ノ氏名、住所

前項ノ申請書ニハ株主總會ノ議事及決議ノ要領書及最終金拂込額及社債總額並ニ爲シタル抵當ノ登記簿本ヲ添附スヘシ

第四十六條 前條ノ外會社ニ於テ借入金ヲ爲シタルトキハ借入ノ日ヨリ一週内ニ前條第一項第一號乃至第六號ノ書類ヲ添附シテ之ヲ送スヘシ

一 號乃至第三號及第六號ノ事項ヲ記載シ届出ツヘシ其ノ事項ノ變更アリタルトキ亦同シ

第四十七條 機關車、客車及貨車ノ區別又ハ二箇月以上ノ期間ヲ定メ若ハ二箇月以上ニ達シ之カ貸借ヲ爲ストキハ認可ヲ受クヘシ但シ運送設備ノ適合ニ於テ豫メ使用料ヲ定メテ交互ノ使用ハ此ノ限ニ在ラス

前項認可申請書ニハ契約事項ヲ記載シタル書類ヲ添附スヘシ

第四十八條 會社合併認可ノ申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ地方官ヲ經由シテ之ヲ送スヘシ

一 合併ノ事由

二 合併方法

前項ノ申請書ニハ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一 株主總會ノ議事及決議ノ要領書

二 債權者カ期限内ニ異議ヲ述ベサル旨ヲ證明スル書類ヲ送ハル旨ヲ證明スル書類

第四十九條 鐵道敷設ニ着手シタルトキハ一週内ニ届出ツヘシ

第五十條 工事着手及竣功期限ノ伸長延期期間指定ノ申請書ハ地方官ヲ經由シテ之ヲ送スヘシ

第五十一條 工事施行中ハ三箇月毎ニ工程報告ヲ送スヘシ

第五十二條 工事力竣功シタルトキハ成功圖面及諸表ヲ添附シ届出ツヘシ

前項圖面及諸表ハ別ニ之ヲ定ム

第五十三條 旅客列車(混合列車亦同シ)ノ發着時間及度數ヲ定メ若ハ之ヲ變更セムトスルトキハ

(第四號) 收支概算書說明書附表

線路	建設費		貨物運哩		旅客入哩		貨物收入		旅客收入		營業費		鐵道純益		摘要
	合計	第一	合計	第一	合計	第一	合計	第一	合計	第一	合計	第一	合計	第一	

(第五號) 線

曲線表

哩數節									
曲線ノ始點	曲線ノ終點	半徑	交角計		方向	曲線ノ長計		直線ノ長計	
			度	分		哩數節	哩數節	哩數節	哩數節

(第六號) 線

勻配表

哩數節									
哩程	距離計	フオレメシ ノ 尺	h(高低ノ差計)		i(勻配)		備考		
			上	下	上	下			

(第七號) 何々々々工賃保算表

項目	日	數量	平均單價	金額	合計	項目	目	數量	平均單價	合計	備註	
											金額	合計
費用	地場常川川川川切築付地場常川川川切築付地場常	〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇				費用	品木及利費止器器及及附屬軌枕軌枕砂敷諸何何何	〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇			品木及利費止器器及及附屬軌枕軌枕砂敷諸何何何	
費用	地場常川川川切築付地場常川川川切築付地場常	〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇				費用	品木及利費止器器及及附屬軌枕軌枕砂敷諸何何何	〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇			品木及利費止器器及及附屬軌枕軌枕砂敷諸何何何	
費用	地場常川川川切築付地場常川川川切築付地場常	〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇				費用	品木及利費止器器及及附屬軌枕軌枕砂敷諸何何何	〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇			品木及利費止器器及及附屬軌枕軌枕砂敷諸何何何	

(第八號)

目	金	高
營業資金		
工費		
.....		
.....		
計		

備考 營業資金ハ營業開始前營業費ニ屬スル假拂ニ充ツル資金トス

私設鐵道株式會社會計準則

明治三十三年八月十日
逓信省令第三十二號

私設鐵道株式會社會計準則左ノ如ク定ム

第一條 私設鐵道株式會社ハ本則ニ準シ會計ニ關スル規程ヲ設ケ之ヲ届出シヘシ其ノ變更ヲ爲シタルトキ亦同シ

第二條 會計年度ハ定款ノ規定スル所ニ依ル

第三條 會計ノ勘定ハ左ノ四種ニ區別スルコトヲ要ス

一 資本勘定

一 收益勘定

一 積立金勘定

一 雜勘定

第四條 資本勘定ハ株金ノ拂込未償高、拂込高、償

券發行額及是等ヨリ生スル利息他ノ勘定等ヨリ補充スル金額ヲ入トシ建設費、改良費等營業上收益ヲ生スル物件ノ創設改良ニ要スル資金並建設及營業用貯蔵物品ノ購入代金ヲ其ノ出トスルヲ例トス

社債ノ元金等ヲ資本勘定ヨリ支出スルトキハ前項ノ出ニ之ヲ編入ス

第五條 收益勘定ハ會計カ運輸開始後營業上ヨリ生スル諸般ノ收入金ヲ入トシ鐵道ノ維持保存及營業上ニ要スル諸般ノ費用ヲ以テ出トスルヲ例トス

運輸開始前ニ生タル諸般ノ收入ハ資本勘定ニ編入ス

社債發行ノ益金ハ償還金出途ニ依リ資本勘定若ハ社債償還準備積立金勘定ニ編入ス

第六條 各積立金勘定ハ其ノ種類ニ依リ商法等百九十四條ニ依リ積立金、配當準備金、社債償還準備金等ノ積立金及是等各積立金ヨリ生スル利息ヲ入トシ資本勘定損補積金、配當準備金及社債償還元利支出金等各積立金ヨリ支出スヘキ金額ヲ出トスルヲ例トス

商法等百九十四條ニ依リ積立金ハ資本勘定損補積金ノ場合ニ非サレハ之ヲ支出スルコトヲ得ス

第七條 雜勘定ハ職員積立金、救濟金、契約保證金、配當未拂金等前各條以外ノ諸勘定出納ヲ整理スルモノトス

第八條 株式公設又ハ社債發行ノ結果差損金ヲ生シタル場合ト雖モ帳簿ノ記入ハ其ノ券面額ヲ以テ其積額ヲ開示スルコトヲ要ス

會社カ所有スル他會社ノ株式、社債券其ノ他有價證券ハ其ノ買入又ハ拂込金額ヲ以テ記入スヘシ

第九條 財産目錄ニ記入スル價格ハ左ノ標準ニ依ル

一 有價證券ハ目錄調製ノ現時ニ於ケル價格カ其ノ買入代價又ハ拂込金額ヲ超過スルトキハ買入代價又ハ拂込金額ヲ以テ記入スヘシ

二 其ノ他ノ財産ハ實價決算額ヲ以テ記入スヘシ

第十條 貯蔵物品ハ受持共購入實價ヲ以テ出納ヲ爲スモノトス

第十一條 資本勘定及收益勘定ニ關スル費用ハ一定ノ標準ヲ定メ區分スルコトヲ要ス

第十二條 會計カ毎營業年度末日ニ於ケル各勘定ノ貸借一覽表ヲ調製シ之ヲ提出スヘシ

第十三條 本則ノ規定ハ免許、補助其ノ他ノ場合ニ於テ特別ノ事項ヲ指定シタル場合ニハ之ヲ適用セズ

附則

第十四條 本則ハ私設鐵道法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●私設鐵道法施行規則第五十一條ニ依リ工程報告様式

明治三十三年十月十三日
逓信省令第四十六號
昭和三年七月二十七日

私設鐵道法施行規則第五十一條ニ依リ工程報告様式定メ之ヲ定ム

何々鐵道 區 間 (1)

何々線 自 年 月 至 年 月 箇月月報

線測總哩程	前期迄既測哩程	本期間測哩程	殘	既測合哩程 ニ對スル歩合	記	事

用 地

用地總坪數	前期迄既買坪數	本期間買坪數	殘	既買合坪數 ニ對スル歩合	記	事

土 工

土工總坪數	前期迄既作坪數	本期間作坪數	殘	既作合坪數 ニ對スル歩合	記	事

何々鐵道 區 間 (2)

何々線 自 年 月 至 年 月 箇月月報

(甲)

名	稱	得 測	間 數	竣工歩合	記	事

橋 梁 總 延 長
築 工 歩 合

(乙)

總 箇 數	前期迄既築工箇數	本期間築工箇數	殘	既築合箇數 ニ對スル歩合	記	事

備考 本表ニハ徑間三呎以上ノ橋樑ヲ報告スヘシ

何々線		區		向		間	
何々線		自		至		何々線	
		自年 月至 年 月				箇月月報	
		發 電 所					
本 屋	附屬建物	原 動 機	發 電 機	蓄 電 池	配 電 盤	記 事	
<p>備 考 本屋並ニ附屬建物ノ各項ニ付テハ竣工歩合ヲ原動機以下各項ニ付テハ地形、埋付、パイピング、電線取付等ヲ區別シ水力ノ場合ニ在リテハ水路水管其他水利土工工事ヲモ區別シ記載スヘシ</p>							
變 壓 配 電 所							
本 屋	附屬建物	變 壓 器	電 流 變 式 機	配 電 盤	記 事		
<p>備 考 電動發電機ヲ使用スル場合ニハ電流變式機ノ項ニ記入スヘシ</p>							
電 線 路							
延 長	前期迄ノ延 設延長	當期間建設 延長	殘	竣工合算率ノ一歩 合算率ノ歩合	記 事		
<p>備 考 柱柱、架空線建設、地中線敷設、軌條電氣の接續及其他工事ヲ區別シ記載スヘシ</p>							

明治三十四年二月九日
逓信省告示第七十三號
私設鐵道法施行規則第五十一條ニ依ル工程報告ハ之ヲ左ノ四期ニ分チ翌月十五日迄ニ提出スヘシ

第一期 自一月 至三月
第二期 自四月 至六月
第三期 自七月 至九月
第四期 自十月 至十二月

●私設鐵道法施行規則第五十二條ノ成功圖面並諸表樣式左ノ通ニテ定ム

- 一 線路平面圖
- 二 線路縱斷面圖
- 三 停車場圖
- 四 橋梁(徑間三呎以上ノ漢橋ヲ含ム)圖
- 五 隧道圖
- 六 以上總テ私設鐵道法施行規則第十六條及第十八條ニ準據シ調製スルヲ要ス

右ハ甲種乃至丁種圖式ニ準據シ調製スルヲ要ス

第一號乃至第十二號 諸表

何々線		區		向		間	
何々線		自		至		何々線	
		自年 月至 年 月				箇月月報	
		停 車 場					
本 屋	附屬建物	貨 物 庫	留 置 場	手 車 庫	貯 水 器	軌 道 器	側 線
<p>備 考 本屋以下轉車臺ニ至ル各項ハ當期末ニ於ケル竣工歩合ヲ又常置信號器ハ竣工又ハ未竣工ナルコトヲ記載スヘシ</p>							

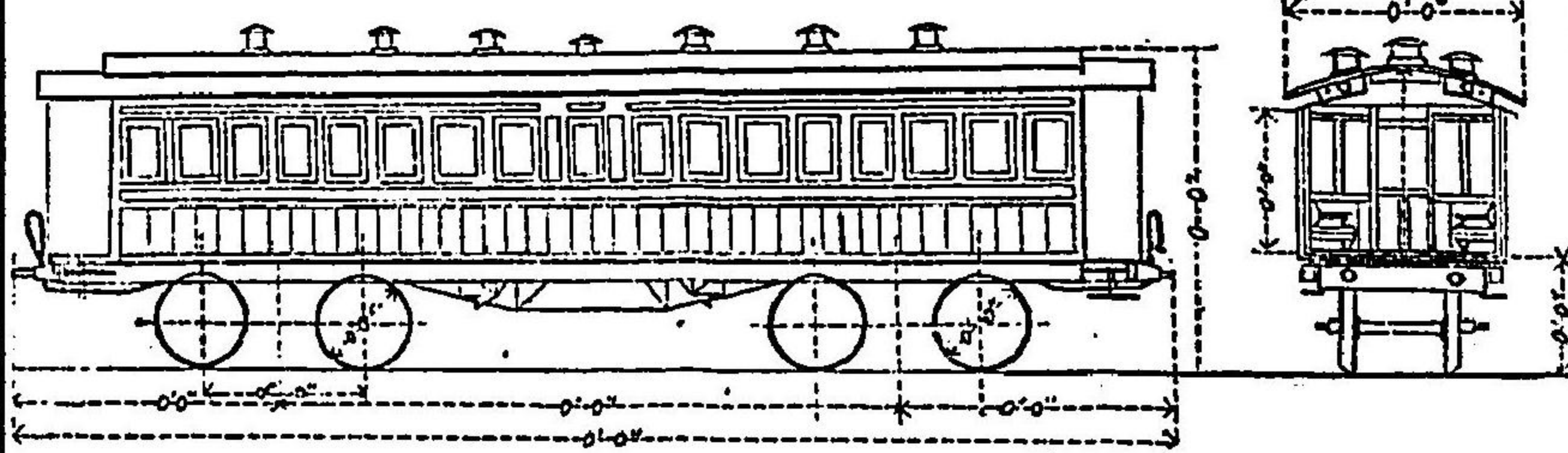
何々線		區		向		間	
何々線		自		至		何々線	
		自年 月至 年 月				箇月月報	
		隧 道					
名 稱	延長	掘 鑿 工	掘 鑿 工	掘 鑿 工	掘 鑿 工	掘 鑿 工	掘 鑿 工
<p>備 考 掘鑿工ノ延長ハ掘鑿工ノ延長ニテ算入スルコトヲ要ス</p>							
隧 道 總 延 長							
竣工歩合							
總 延 長	前期迄竣工	當期間竣工	殘	竣工合算率ノ一歩 合算率ノ歩合	記 事		
道 床							
總 延 長	前期迄竣工	當期間竣工	殘	竣工合算率ノ一歩 合算率ノ歩合	記 事		
電 信 線							
延 長	前期迄竣工	當期間竣工	殘	竣工合算率ノ一歩 合算率ノ歩合	記 事		

形式稱號乙四

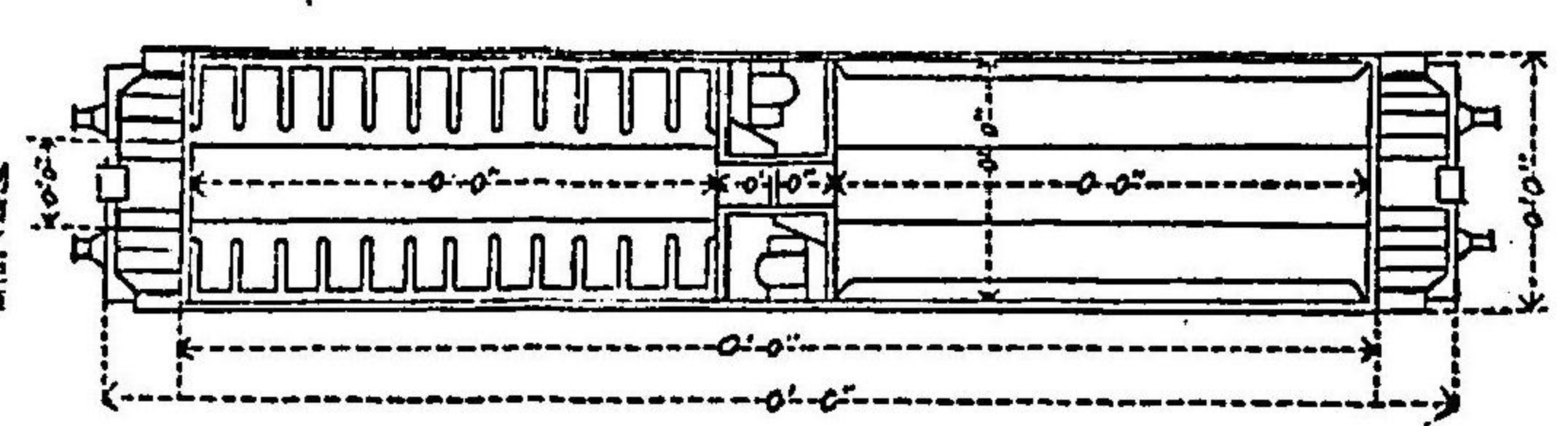
何等客車

何々車輛會社製
記號及番號いろ 7-13. いろ 21-30.

何鐵道工場製
いろ 14-20. いろ 31-50.



乙號
用紙 幅約八吋半
輪廓 長約十三吋半
縮尺 八分一吋ヲ以テ一呎トス



定員	一等.....何人
	二等....."
	三等....."
容積何噸
最大長、幅、高 0'-0" x 0'-0" x 0'-0"
緩衝器ノ高(軌上面ヨリ)	空車..... 何呎何吋
	滿載..... "
自重何噸
制動機ノ種類

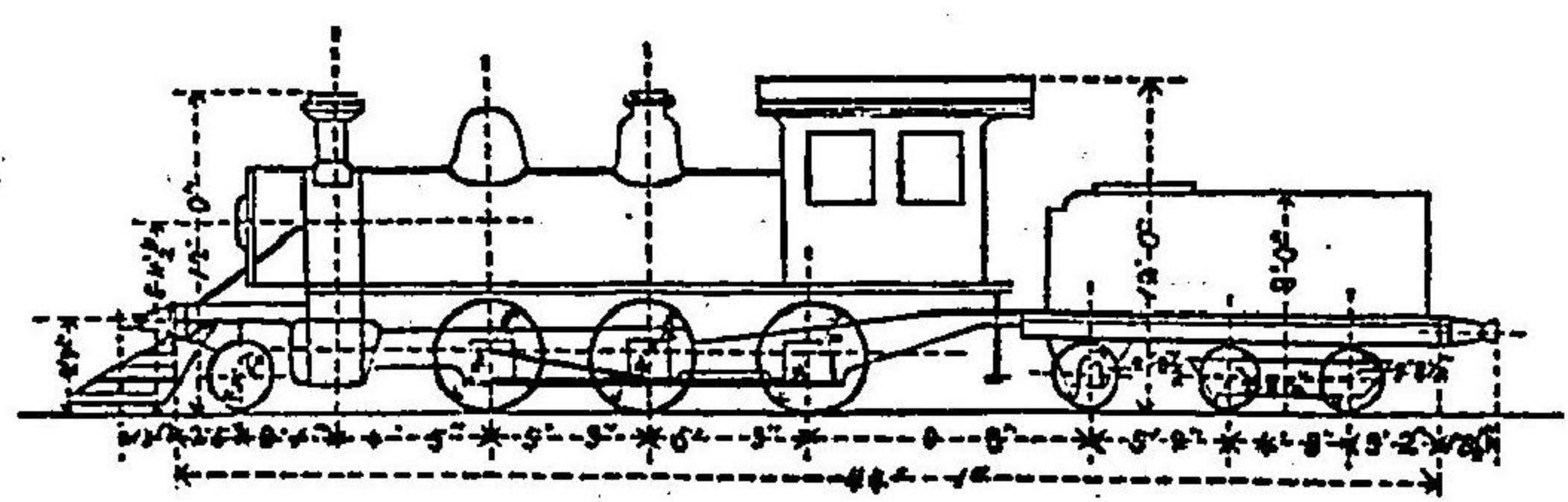
形式稱號丙三

六輪聯動複式タンダー機關車

スケネクタデー製 ローザナー製

機關車番號 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. 16. 17. 18. 19. 20. 21. 22. 23.

甲號
用紙 幅約八吋半
輪廓 長約十三吋半
縮尺 八分一吋ヲ以テ一呎トス

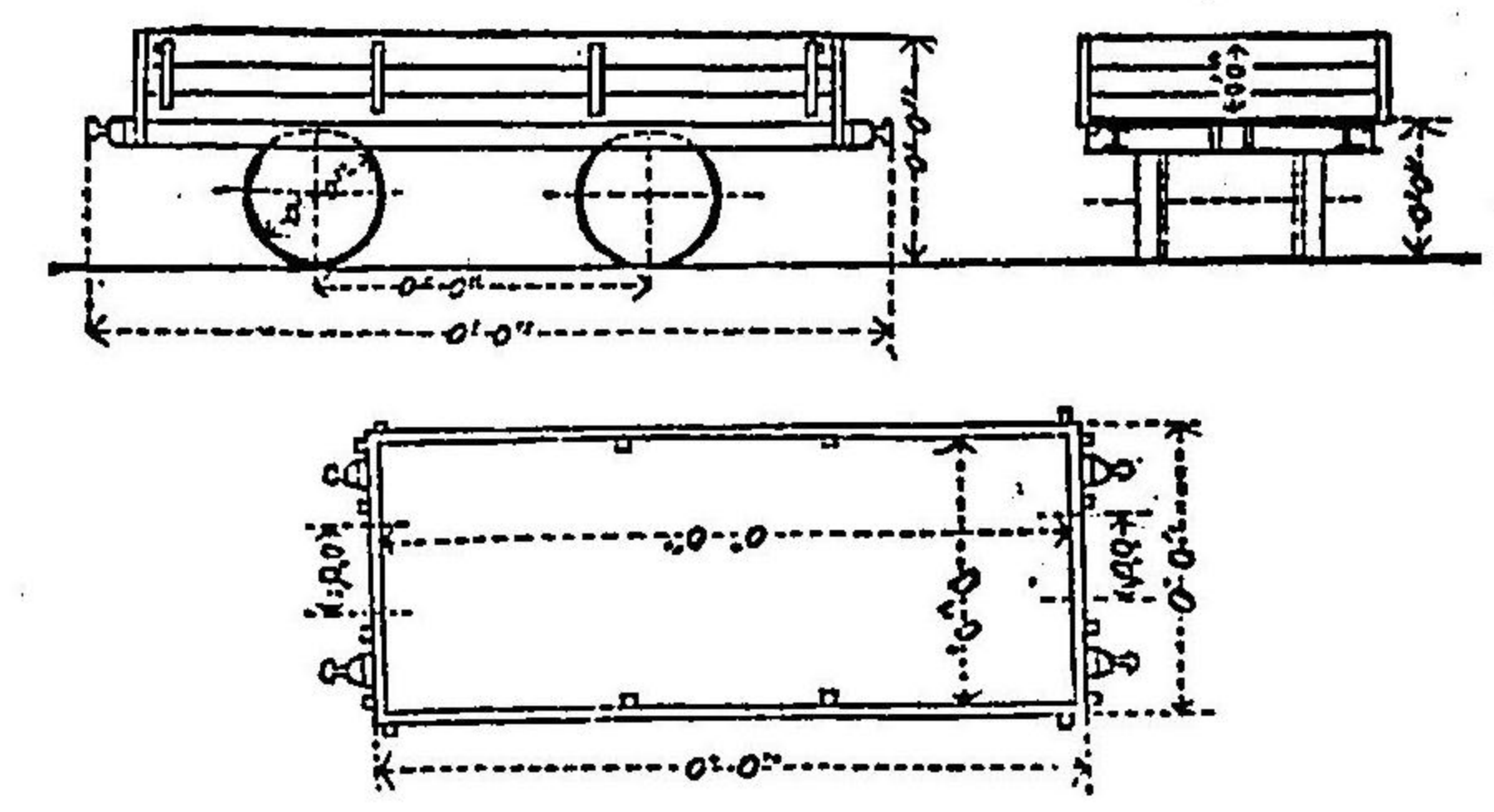


汽筒徑及衝程 11 1/4" + 19" x 22"	爐面 (平方呎) 20.
導輪徑 2'-0"	導輪上重量 (英噸) 5.632
働輪徑 4'-6"	第一働輪上重量 11.475
働輪數 6.	第二働輪上重量 12.175
タンダー輪徑 2'-8 1/2"	第三働輪上重量 10.525
タンダー輪數 6.	運轉整備ノ時機關車重量 39.807
固定輪軸距 11'-6"	" タンダー重量 18.303
全輪軸距(タンダー共) 38'-6"	水槽容量(立方呎) 285 (英ガロン)
機關車全長(タンダー共 緩衝器間)	燃料櫃容量(立方呎) 110.5
 47'-6"	實用最高汽壓(每平方吋封度) 160.
傳熱面(平方呎) {火管...900 {火室...100} 全面積 1000.		

一時間二十哩ノ速度ニテ百分ノ一ノ勾配ヲ昇ルトキ計算上牽引シ得ヘキ重量 (英噸) 232.5

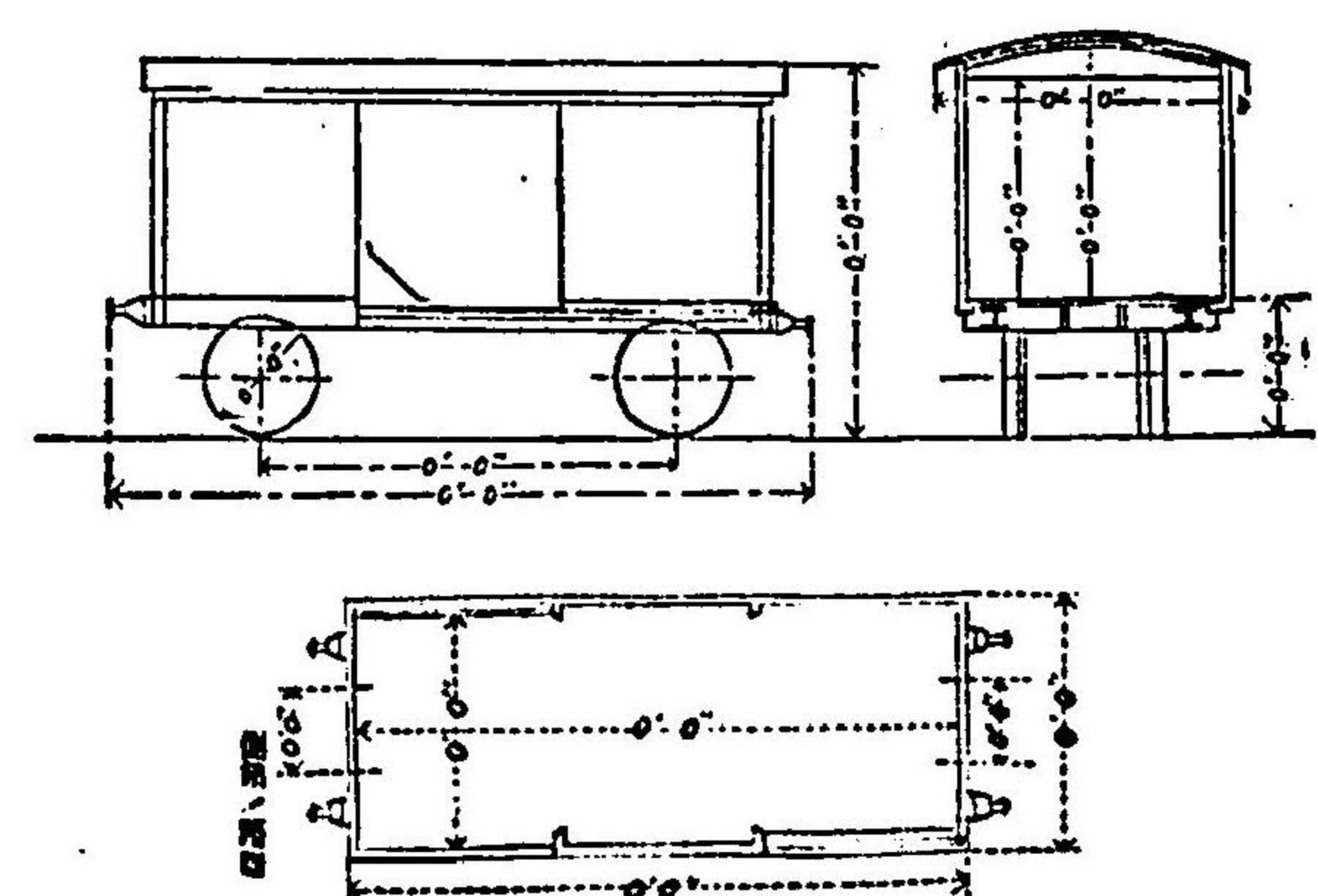
丁號
輪用紙
廓紙
幅五吋
長約十三吋半
長約十一吋

形式稱號丁一 無蓋貨車
何々會社製
記號及番號丑 50-70.



重量.....何噸
容積.....何立方呎
最大長、幅、高.....0'-0" x 0'-0" x 0'-0"
緩衝器ノ高(軌上面ヨリ).....何呎何時
自重.....何噸
聯結器ノ種類.....
制動器ノ種類.....

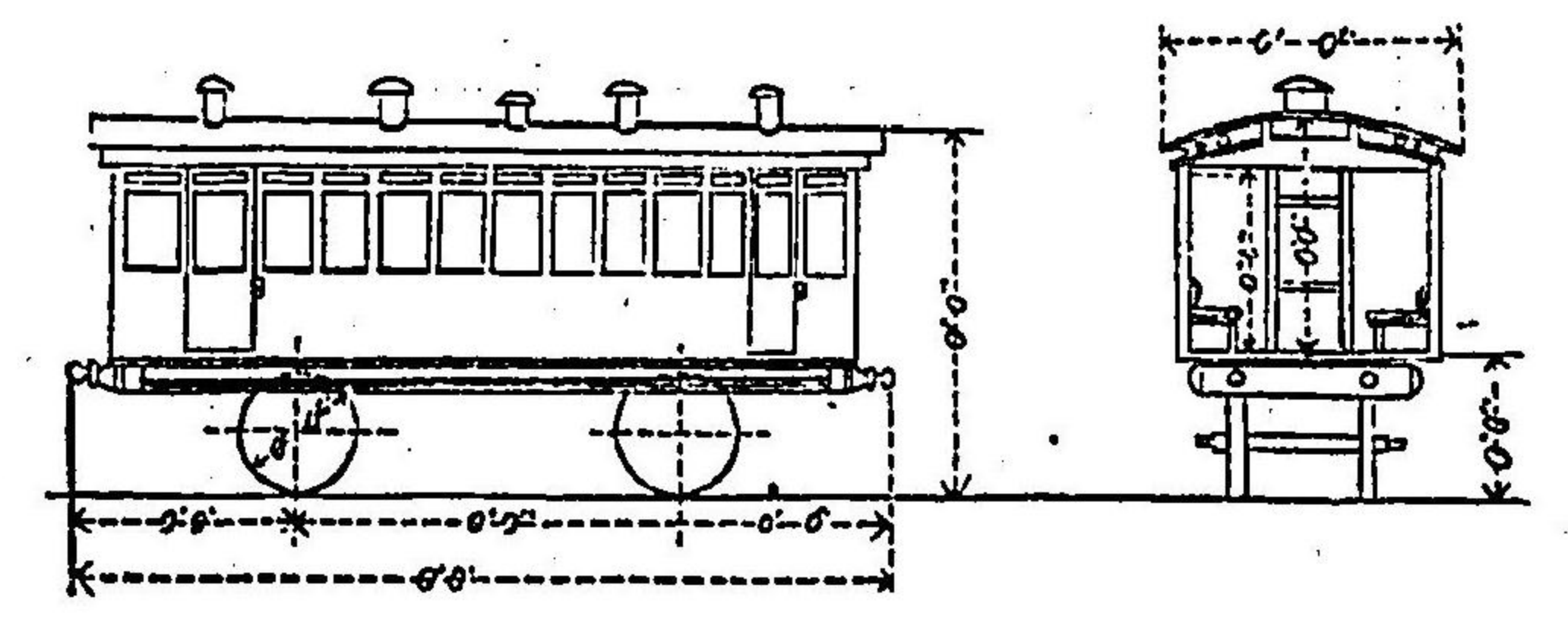
形式稱號戊二 有蓋貨車
何鐵道工場製
記號及番號午 150-300.



重量.....何噸
容積.....何立方呎
最大長、幅、高.....0'-0" x 0'-0" x 0'-0"
緩衝器ノ高(軌上面ヨリ).....何呎何時
自重.....何噸
聯結器ノ種類.....
制動器ノ種類.....

丙號
輪用紙
廓紙
幅五吋
長約十三吋半
長約十一吋

形式稱號甲二 二等客車
何々車輛會社製
記號及番號 乙 10-30, 乙 51-70.
何鐵道工場製
乙 31-50, 乙 71-90.

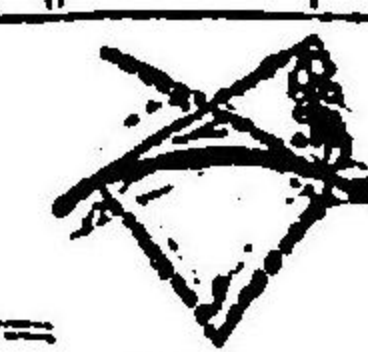


一等.....何人
定員 二等....."
三等....."
容積.....何噸
最大長、幅、高.....0'-0" x 0'-0" x 0'-0"
緩衝器ノ高(軌上面ヨリ).....何呎何時
自重.....何噸
制動器ノ種類.....

縮尺 八分一吋ヲ以テ一呎トス

何々鐵道		曲線表																		
間		曲線ノ起點		曲線ノ終點		半徑		交角		方向		切線ノ長		曲線ノ長		曲線ノ間長		摘要		
第一號	用紙ハ縦九寸横一尺四寸トシ シ輪廓ハ縦六寸横一尺トス	町	丁目	町	丁目	尺	寸	度	分	方	向	尺	寸	尺	寸	尺	寸	尺	寸	摘要

備考 交角トハ兩切線ノ交叉點ニ於ケル偏倚角ヲ云フ即チ圖ノ如シ



何々鐵道		勾配表												
間		哩程		距離		施工基面ノ高		施工基面高ノ差		勾配		摘要		
第二號	用紙ハ縦九寸横一尺四寸トシ シ輪廓ハ縦六寸横一尺トス	町	丁目	哩	寸	尺	寸	上	下	上	下	尺	寸	摘要

何々鐵道		停車場表																							
間		所在地名		施工基面		何々		停車場		場内信號		遠方信號		側線ノ		乘降場		貯水器		轉車臺		摘要			
第三號	用紙ハ縦九寸横一尺四寸トシ シ輪廓ハ縦六寸横一尺トス	町	丁目	尺	寸	町	丁目	間	哩	寸	尺	寸	尺	寸	尺	寸	尺	寸	尺	寸	尺	寸	尺	寸	摘要

備考 側線總長ノ内ニハ待避側線ヲ含ム但シ工場專屬ノ側線ハ之ニ含マズ
側線ノ長ハ轉轍器尖端ヨリノ距離トス
乘降場ノ長ハ其有效長高ハ軌條面以上トス

何々鐵道		停車場建物表																							
間		停車場名		本屋		乘降場上屋		附設又ハ地下道		機關車庫		客車庫		貨物庫		燈室		便所		其他ノ建物		摘要			
第四號	用紙ハ縦九寸横一尺四寸トシ シ輪廓ハ縦六寸横一尺トス	町	丁目	坪	材	坪	材	尺	寸	坪	材	坪	材	坪	材	坪	材	坪	材	坪	材	坪	材	摘要	

備考 貨物上屋ハ貨物庫中ニ含ム
本屋外ノ待合所ハ乘降場上屋中ニ含ム
工務ニ係ルモノハ本表中ニ含マズ

何々鐵道		橋梁表 (甲)																	
第五號	名稱	何々起點ヨリノ哩數		橋梁間ノ長		徑間長		桁又ハ拱		橋	橋	橋	基礎工	桁ノ	桁ノ撓度		製作所名	摘要	
		左	右	左	右	左	右	形式	材質						材質	材質			材質
シ	用紙ハ縱九寸横一尺四寸トス																		
備考 單線又ハ複線ノ區別、橋梁ノ斜角又ハ線路ヲ跨キ架設スルモノニ在リテハ其旨ヲ摘要欄ニ記載スヘシ 桁ノ重量又ハ寸法ノ欄ニハ鐵又ハ鋼製ナレハ噸ヲ以テ總重量ヲ記シ概壓梁ナルトキハ長一呎ニ對スル封度數ヲ記シ又桁木ナレハ寸法ヲ記スヘシ																			
何々鐵道		橋梁表 (乙)																	
第六號	名稱	何々起點ヨリノ哩數		徑間數		徑間長		桁又ハ拱		橋	橋	橋	基礎工	桁ノ	桁ノ撓度		製作所名	摘要	
		左	右	左	右	左	右	形式	材質						材質	材質			材質
シ	用紙ハ縱九寸横一尺四寸トス																		
備考 本表ニハ徑間三呎以上ノ溝橋ヲ掲載スヘシ 桁ノ重量又ハ寸法ノ欄ニハ鐵又ハ鋼製ナレハ噸ヲ以テ總重量ヲ記シ概壓梁ナルトキハ長一呎ニ對スル封度數ヲ記シ又桁木ナレハ寸法ヲ記スヘシ																			

何々鐵道		隧道表											
第七號	名稱	何々起點ヨリノ哩數		長	地質	拱		圓		仰		拱	摘要
		左	右			厚	材質	厚	材質	厚	材質		
シ	用紙ハ縱九寸横一尺四寸トス												
備考 断面ノ形狀單線又ハ複線ノ區別等ハ摘要欄ニ記載スヘシ													
何々鐵道		踏切道路表											
(保安設備アル箇所)													摘要
第八號	位	何々起點ヨリノ哩數	道路名稱	防備ノ方法	道路幅	踏切前後道路ノ勾配		踏切前後道路ノ勾配		踏切前後道路ノ勾配		摘要	
						左	右	左	右	左	右		
シ	用紙ハ縱九寸横一尺四寸トス												
備考 本表中ニハ電氣鐵道又ハ馬車鐵道等ノ交又ヲ包含ム 道路幅ハ道路ノ中心線ニ直角ニ度ルヘシ 直角又ハ斜角等ノ區別ハ摘要欄ニ記載スヘシ													

機關車表
何々鐵道

第九號 用紙ハ縦九寸横一尺四寸トス シ輪廓ハ縦六寸横一尺トス	種類	形式稱號	番號	重量		輛數	製作所			製作ノ年月	代價	備要
				自重	積載		地名	所名	輛數			

備考 重量ハ運輸整備ノトキニ於ケルモノヲ云フ
他ヨリ購入シタルモノハ購入ノ年月及前所有者名ヲ記スヘシ

客車表
何々鐵道

第十號 用紙ハ縦九寸横一尺四寸トス シ輪廓ハ縦六寸横一尺トス	種類	形式稱號	記號及番號	自重	容積		輛數	製作所			製作ノ年月	代價	備要
					定員	積載(噸)		地名	所名	輛數			

備考 合造車ノ場合ニハ定員欄ニ各等ノ定員ヲ區分シ又荷物室ヲ有スルモノハ其積載ヲ記入スヘシ
制動機ノ有無及種類等ハ摘要欄ニ記載スヘシ
他ヨリ購入シタルモノハ購入ノ年月及前所有者名ヲ記スヘシ

貨車表
何々鐵道

第十一號 用紙ハ縦九寸横一尺四寸トス シ輪廓ハ縦六寸横一尺トス	種類	形式稱號	記號及番號	自重	容積		輛數	製作所			製作ノ年月	代價	備要
					重量	容積(立方尺)		地名	所名	輛數			

備考 制動機ノ有無及種類等ハ摘要欄ニ記載スヘシ
他ヨリ購入シタルモノハ購入ノ年月及前所有者名ヲ記入スヘシ

工場表
何々鐵道

第十二號 用紙ハ縦九寸横一尺四寸トス シ輪廓ハ縦六寸横一尺トス	種類	建築物		器機			原動機		備要
		坪數	材料	種類	員數	大ヨリノ最大仕上寸法	種類	馬力	

備考 軌道延長用地總坪數職工數及製造力ノ程度ヲ示スヘキ要領等ハ摘要欄ニ記入スヘシ

●私設鐵道法第六十六條營業報告書様式

明治三十三年十月十三日
逓信省告示第四百八號
私設鐵道法第六十六條營業報告書様式左ノ通相定メ明治三十四年度ヨリ施行ス

一 營業報告書記載例
社務總況ハ會社ノ營業ノ狀況ヲ示スヲ目的トシ當該期間ニ於テ官廳ニ申請セル事項及其指令ノ要領、商業登記、株主總會役員及株主等ニ關スル事項其他會社ノ庶務ニ關スル重要ノ事項ヲ記載スヘシ
二 本項ハ工事ノ狀況ヲ示スヲ目的トシ新築工事及保存工事ノ二項ニ分チ新築工事ニ付キテハ線路ノ方向及地勢ヲ概記シ當該

期間ニ於ケル工事施行區域、工程及工事ノ現況ヲ記シ繼續工事ニ付キテハ其期間ニ於ケル工程、竣工歩進及工事ノ現況ヲ記スヘシ又保存工事ニ付キテハ其工事施行ヲ要スル理由及工程ヲ記載スヘシ
三 運輸 本項ハ運輸ノ狀況ヲ示スヲ目的トシ當該期間ニ於ケル營業日數旅客貨物ノ數量及賃金ヲ詳細シ前年度同期間ニ比較シテ増減ノ主因ヲ説明シ及當該期間ニ於ケル總況ヲ敘述スヘシ又運輸上重大ナル事故ニ就テハ特ニ之ヲ詳記スヘシ
四 會計 本項ハ會計上ノ狀況ヲ示スヲ目的トシ株主ノ募集、株金ノ拂込、借入金、社債金ニ關スル事項及資本、收益、積立、雜勘定ニ關スル事項ヲ記載スヘシ
五 報告書ニハ左ノ様式ニ依リ調製シタル附表

六 前項附表ノ外當該期間ニ保ル總會議事ノ要領ヲ別冊ニ記載シ之ヲ添付スヘシ
七 表中現在數ヲ記入スヘキモノハ其期末日ノ調査ヲ以テスヘシ
八 本様式ハ大要ヲ示セルニ過キサレハ重要ノ事項ハ之ヲ補記シ遺漏ヲキナスヘシ
九 報告書終尾ニ左ノ如ク記載シ署名捺印スヘシ
右私設鐵道法第六十六條ニ據リ及報告書候
何鐵道株式會社社長(或ハ事務取締役)
年 月 日 何 之 謹
逓信大臣宛

何鐵道株式會社明治何年度上半年營業報告書

一 社務總況
記載例參照ノコト以下亦同シ
二 工事
三 運輸
四 合計

資 産 表
明治何年何月何日調

種 類	備 考	金額
持込未済株金	株式何株一様ニ付何圓何角何分何厘	
何々同鐵道(株)	實收何圓何角何分何厘	
何々同鐵道(株)	理數何圓何角何分何厘	
車 輛		
貯 蓄		
假 有		
預 未 付		
合 計		

鐵道線路ノ全部開業セサルカ爲メ其建設費ヲ開業ト未開業トニ區別スヘキ場合ニ正確ニ之ヲ算分スル能ハサルトキハ一定ノ標準ヲ定メ之ヲ區分シ欄外ニ説明スヘシ

勘 定 總 表
明治何年何月何日調

借 方		貸 方	
科 目	金額	科 目	金額
金 資 品 金 券 金 金 *		金 金 金 金 金 益 *	
株 物 出 入		債 入 立 拂 越	
未 成 價 收		株 社 借 債 前 損 何	
逓 延 貯 假 有 預 現 未 何			

假出金、諸未拂金及未收入金ハ其内譯ヲ欄外ニ掲記スヘシ
缺損金ヲ掲記スル場合ニハ其缺損ヲ生シタル事由ヲ欄外ニ説明スヘシ

損 益 計 算 表
自明治何年何月至明治何年何月

借 方			貸 方		
科 目	金額	合計	科 目	金額	合計
線 路 保 存 費			客 車 收 入		
汽 車 輸 送 費			貨 車 收 入		
諸 利 合			雜 收 入		
積 立 金			合 計		
役 員 當 期 配 給					

雜收入ハ其内譯ヲ又株金拂込ヲ異ニセル株式毎ニ一株配當金額ヲ外欄ニ掲記スヘシ

貯蔵物品明細表			
明治何年何月何日調			
種別	金額	果計	
材料	金貨		
貯蔵品	金貨		
運送品	金貨		
倉庫品	金貨		
備用品	金貨		
修理品	金貨		
燃料	金貨		
其他	金貨		
合計			

建設費豫算及財源表				
摘要	豫算總額	次半期間豫算額	摘要	金額
何々間線路ニ對スル建設費豫算			許可ヲ得テ未タ募集セサル株金	
建設未着手線路ニ對スル建設費豫算			社債金	
			募集シテ未タ入金セサル株金	
			社債金	
			現金	
合計			合計	

營業費明細表											
自明治何年何月至明治何年何月											
線路保存費		汽車費		運輸費		總係費		諸稅		諸利子	
科目	金額	科目	金額	科目	金額	科目	金額	科目	金額	科目	金額
材料		燃料		運費		車費		國稅		社債利息	
修理費		油料		倉庫費		保險費		地方稅		借入金利息	
工資		電料		倉庫賃		倉庫費		地稅			
其他		水電		倉庫費		倉庫費		倉庫費			
合計		合計		合計		合計		合計		合計	

建設費明細表												
明治何年何月何日調												
科目	何々間(何々線路)			何々間(何々線路)			總計					
	前次	後次	計	前次	後次	計	前次	後次	計	前次	後次	計
線路豫測費												
工事監督費												
用地費												
土工費												
橋梁費												
其他												
合計												

鐵道ハ其線路ニ係ル暴風警報通報ノ施設ヲ爲スヘシ
鐵道ハ前項ノ通報及之カ警戒ニ關スル規定ヲ定ム
届出シヘシ

附 則

本令ハ明治三十五年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス
●鐵道臺帳規程
明治三十三年八月十日
逓信省令第三十號

鐵道臺帳規程

第一條 鐵道臺帳規程ニ依リ鐵道臺帳ヲ開製スヘシ
第二條 鐵道臺帳ヲ分テ用地臺帳、橋梁臺帳、隧道臺帳、機關車臺帳、客車臺帳及貨車臺帳ノ六種トス
用地臺帳、橋梁臺帳及隧道臺帳ハ各線路若ハ各區間毎ニ之ヲ區分スルコトヲ要ス
第三條 用地臺帳ハ用地一年毎ニ國、郡、市、町村、大字、字、番號、買收當時ノ地名、段別又ハ坪數、原所有者氏名、用地ノ種別、登記年月日、買收代價、勝手當及其ノ合計、取得ノ方法及年月日並登記年月日ヲ記載スヘシ
用地臺帳ニハ前項一節調ノ外各市町村別ニ線路用地、停車場用地及工場其ノ他用地ノ統括ヲ攝クルヲ要ス
第四條 橋梁臺帳ハ各橋梁毎ニ設計ノ要領、竣功年月日、哩程、名稱、單線複線又ハ何線並列ノ區別、徑間ノ長、箇數及總長、前後支保、桁又ハ拱ノ形

式及材質、橋梁橋脚及基礎ノ構造、費額、重要ナル修繕ノ種類及年月日並検査ノ成績及年月日ヲ記載スヘシ
前項ノ外桁又ハ雙脚ヲ使用スルトキハ其ノ製造所名ヲ記載スヘシ
第五條 隧道臺帳ハ各隧道毎ニ竣功年月日、哩程、名稱、單線複線又ハ何線並列ノ區別、長、形狀拱脚壁及仰拱ノ構造、延長、坑門ノ構造、費額、重要ナル修繕ノ種類及年月日並検査ノ成績及年月日ヲ記載スヘシ
第六條 機關車臺帳ハ一輛毎ニ番號、種類、形式、製作者名、製造ノ年、使用開始年月、費額、汽筒徑、牽子衝程、働輪數及徑、炭水車輪數、機關車及炭水車ノ全長並最大ノ高、運轉整備ノトキニ於ケル機關車及炭水車ノ重量、前所有者名及番號、重要ナル修繕ノ種類及年月日並毎年度ノ走行哩數、検査及試驗ノ成績及年月日ヲ記載スヘシ
第七條 客車臺帳及貨車臺帳ハ一輛毎ニ番號、番號ノ形式、製作者名、製造ノ年、使用開始年月、費額、最大ノ長高、車體外部寸法、自重、臺座ノ構造、車輪ノ數、前所有者名及番號、重要ナル修繕ノ種類及年月日並検査ノ成績及年月日ヲ記載スヘシ
前項ノ外客車ニ在リテハ旅客ノ定員、定員ナキモノハ其ノ容積、貨車ニ在リテハ積重、容積ヲ記載スヘシ
第八條 鐵道臺帳ニハ附屬圖面ノ番號ヲ記載スヘシ

第九條 鐵道臺帳ニ掲ケル事項ニ異動ヲ生スルトキハ其ノ都度異動ノ事項及年月日ヲ記入スヘシ

附 則

第十條 本規程ハ私設鐵道法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
●鐵道統計規程
明治三十三年八月十日
逓信省令第三十一號

鐵道統計規程

第一條 鐵道統計規程ニ依リ鐵道統計ヲ開製スヘシ
第二條 鐵道統計ハ別記様式ニ準據シ開製スヘシ
第三條 鐵道統計ハ會計年度ニ依リ之ヲ開製スヘシ
第四條 鐵道統計ハ別記各款ニ記載スル期間内ニ差出スヘシ
第五條 會計ハ鐵道統計主任者ヲ定メ其ノ氏名ヲ届出シヘシ之ヲ變更シタルトキ亦同シ
第六條 本規程ハ明治三十四年度ヨリ之ヲ施行ス

(別記)

第一表

鐵道株式會社鐵道線路總表
明治何年度末日調

區間	哩數	停車場數
區間	哩數	停車場數
區間	哩數	停車場數
區間	哩數	停車場數

備考
開業線
工事未着手線

第二表

鐵道株式會社鐵道開業線總表
明治何年度末日調

區間	哩數	側線延長
區間	哩數	側線延長
區間	哩數	側線延長
區間	哩數	側線延長

(貨物線)

總計

鐵道株式會社機關車總表
明治何年度何半期末日調

種別	輛數	總重量
タンクエンジン		
タンクエンジン		
計		

總計

備考

何々問	何々問
何々問	何々問
何々問	何々問

第二十輯 運輸 第三章 鐵道 第二款 私設

一入ノ換工事補助ノ各費用ニ屬スルモノ又ハ修繕中認可ヲ得テ貸借中ノモノハ各別ニ符號ヲ附シテ其欄内ニ區別記載スヘシ
 第四表 私設鐵道法第六十六條營業報告書ト同時呈出

備考	總計	四輪車				一輪車				種別	輛數	定員	總計
		郵旅	三等客車	二等客車	一等客車	郵旅	客	便	急				
		計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計
		客	客	客	客	客	客	客	客	客	客	客	客
		便	便	便	便	便	便	便	便	便	便	便	便
		急	急	急	急	急	急	急	急	急	急	急	急
		車	車	車	車	車	車	車	車	車	車	車	車
		人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
		人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人
		人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人

一一定員總數ノ欄ニハ其輛數ニ對スル各等定員ノ合計ヲ記載スヘシ又手小荷物室及郵便室等欄内ニハ合造車中ノ部分ヲモ記載スヘシ
 一修繕中又ハ認可ヲ得テ貸借中ノモノハ符號ヲ附シテ其欄内ニ區別記載スヘシ
 第五表 私設鐵道法第六十六條營業報告書ト同時呈出

備考	總計	有貨貨車				無貨貨車				種別	輛數	積載總量
		貨物車	家畜車	魚運車	緩急車	石炭車	木材車	土運車	緩急車			
		計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計
		何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何
		噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸
		噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸
		噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸

一重量ノ欄ニハ積載シ得ヘキ重量ヲ記載スヘシ
 一工事専用、修繕中又ハ認可ヲ得テ貸借中ノモノハ符號ヲ附シテ其欄内ニ區別記載スヘシ
 第六表 一貨車中ホギ一車アルトキハ之ヲ區別記載スヘシ
 私設鐵道法第六十六條營業報告書ト同時呈出

備考	總計	機關車走行哩		列車走行哩		客貨車走行哩		種別	哩數
		補入	單	混合	貨客	混合	貨客		
		計	計	計	計	計	計	計	計
		噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸
		噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸
		噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸
		噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸

一機關車、列車及客貨車走行哩數ハ總テ自己線路ニ於テ營業上運轉シタルモノヲ計算シ他線路ヲ走行シタルモノ又ハ建築及保線用ニ係ルモノヲ算入スヘカラス
 一列車走行哩及客貨車走行哩數ニハ車輛入レ換ノ爲運轉シタル哩數ヲ算入スヘカラス
 第七表 私設鐵道法第六十六條營業報告書ト同時呈出

備考	總計	機關車燃料				油				數	量	代價
		運轉用	點火用	石炭	重油	石炭	重油	煤油	破油			
		計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計
		噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸
		噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸
		噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸
		噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸	噸

第二十輯 運輸 第三章 鐵道 第二款 私設

第八表 鐵道株式會社旅客貨物及運貨表 明治何年度何半期中

一 燃料及油脂消費額ハ營業上機關車及列車(點燈用ヲ除ク)ニ使用シタルモノヲ記載スヘシ

二 定期又ハ同數乗車ノ類ハ各其等級ノ内ヘ總テ其人員ヲ以テ算入スヘシ

三 貨物品及動物等ニシテ箇數又ハ頭數ヲ以テ取扱ヒタルモノハ之ヲ斤量ニ換算シ手小荷物又ハ貨物ノ數量及運賃ニ算入スヘシ

四 郵便物發着手数料、雜入ハ其金額ノミヲ記載スヘシ

五 通常取扱貨物ハ貨量噸數、實切取扱貨物ハ車積噸數ヲ以テ計算スヘシ

六 客車及貨車附帶ノ雜入ハ損益勘定ニ於テ客車又ハ貨車收入ニ組入レタル雜入ヲ記載スヘシ

備考	旅 客		數 量	運 賃	貨 物
	一 等	二 等			
	官 通 常	官 通 常	官 通 常	官 通 常	官 通 常
	小 大 用 兒 人	小 大 用 兒 人	小 大 用 兒 人	小 大 用 兒 人	小 大 用 兒 人
	計	計	計	計	計

第九表 鐵道株式會社旅客貨物及運貨其他月別表 明治何年度何半期中

備考	旅 客		貨 物
	一 等	二 等	
	官 通 常	官 通 常	官 通 常
	小 大 用 兒 人	小 大 用 兒 人	小 大 用 兒 人
	計	計	計

第十表 鐵道株式會社各停車場旅客貨物及運貨表 明治何年度中

備考	旅 客		貨 物
	一 等	二 等	
	官 通 常	官 通 常	官 通 常
	小 大 用 兒 人	小 大 用 兒 人	小 大 用 兒 人
	計	計	計

第十一表 鐵道株式會社各停車場旅客貨物及運貨表 明治何年度中

備考	旅 客		貨 物
	一 等	二 等	
	官 通 常	官 通 常	官 通 常
	小 大 用 兒 人	小 大 用 兒 人	小 大 用 兒 人
	計	計	計

第二十輯 運輸 第三章 鐵道 第二款 私設

第九表 鐵道株式會社旅客貨物及運貨其他月別表 明治何年度何半期中

一 貨物品及動物等ニシテ箇數又ハ頭數ヲ以テ取扱ヒタルモノハ之ヲ斤量ニ換算シ手小荷物又ハ貨物ノ數量及運賃ニ算入スヘシ

二 郵便物發着手数料、雜入ハ其金額ノミヲ記載スヘシ

三 通常取扱貨物ハ貨量噸數、實切取扱貨物ハ車積噸數ヲ以テ計算スヘシ

四 客車及貨車附帶ノ雜入ハ損益勘定ニ於テ客車又ハ貨車收入ニ組入レタル雜入ヲ記載スヘシ

備考	旅 客		貨 物
	一 等	二 等	
	官 通 常	官 通 常	官 通 常
	小 大 用 兒 人	小 大 用 兒 人	小 大 用 兒 人
	計	計	計

第十表 鐵道株式會社各停車場旅客貨物及運貨表 明治何年度中

備考	旅 客		貨 物
	一 等	二 等	
	官 通 常	官 通 常	官 通 常
	小 大 用 兒 人	小 大 用 兒 人	小 大 用 兒 人
	計	計	計

第十一表 鐵道株式會社各停車場旅客貨物及運貨表 明治何年度中

備考	旅 客		貨 物
	一 等	二 等	
	官 通 常	官 通 常	官 通 常
	小 大 用 兒 人	小 大 用 兒 人	小 大 用 兒 人
	計	計	計

一他鐵道ト連帶振テ爲ス會社ニ在リテハ他線ニ屬スルモノハ之ヲ控除シ自己線路ニ屬スル旅客貨物ノ數量及運賃ノミヲ計算スヘシ

一他鐵道ト連絡スル會社ニ於テ他鐵道所屬ノ停車場ヲ其起點又ハ終點ノ停車場トシテ共同使用スル場合ニハ其停車場ニ於テ取扱ヒタルモノノ之ヲ他線振中ニ算入セス特ニ其停車場ヲ別ケテ區別記載スヘシ

一定期又ハ回数乘車ノ類ハ本表中ニ算入シ更ニ其券數、延人員及運賃ヲ欄外ニ再記スヘシ

一貴重品及動物等ニシテ箇數又ハ頭數ヲ以テ取扱ヒタルモノハ之ヲ斤量ニ換算シ手小荷物又ハ貨物ノ數量及運賃ニ算入スヘシ

一郵便物運賃ハ本表中ニ算入セスシテ欄外ニ其金額ヲ記載スヘシ

第十二表

鐵道株式會社營業月報

明治何年何月分

翌月十五日限呈出

營業月報	營業月報	
	營業月報	營業月報
營業月報	營業月報	營業月報
營業月報	營業月報	營業月報

備考	備考	
	備考	備考
備考	備考	備考
備考	備考	備考

●專用鐵道規則

明治三十三年八月十日
逕信省令第二十八號

專用鐵道規則左ノ通定ム

第一條 一個人又ハ一會社ニ於テ個人專用ニ供スル爲鐵道ヲ敷設セムトスルトキハ地方長官ヲ經由シテ免許ヲ申請スヘシ

第二條 前條ノ申請書ニハ使用ノ目的ヲ記載シ左ノ書類圖面ヲ添附スヘシ

一 實地圖面

二 工事方法書

三 工費豫算書

第三條 前條書類圖面ノ外審査ニ必要ト認ムル書類圖面ノ提出ヲ命スルコトアルヘシ

第四條 免許及認可ニハ必要ト認ムル條件ヲ附スルコトアルヘシ

第五條 免許失効ノ場合ニ於テハ一箇月内ニ地方長官ヲ經由シテ免許狀ヲ返納スヘシ

第六條 起業者ハ運輸ニ關スル規程ヲ定メ認可ヲ受クヘシ之ヲ變更スルトキ亦同シ

第七條 起業者ハ運輸ノ管理ヲ他ニ委託セムトスルトキハ認可ヲ受クヘシ

第八條 專用鐵道ヲ讓受ク自己ノ使用ニ供セムトスル者ハ讓渡人ト連署シ地方長官ヲ經由シテ免許ヲ申請スヘシ

第九條 工事方法ノ變更及假設ノ工事ハ認可ヲ受クヘシ

第十條 私設鐵道法第二十七條、第四十二條乃至第五十條、第五十三條及第五十四條ノ規定ハ專用鐵道ニ之ヲ準用ス

第十一條 專用鐵道ハ特ニ認可ヲ受クルニ非サレハ使用ノ目的ニ屬セサル物品運送ノ用ニ供スルコトヲ得ス

第十二條 公安ニ妨害アリト認ムルトキハ專用鐵道ノ全部又ハ一部ノ撤去ヲ命スルコトアルヘシ

第十三條 本則ノ規定又ハ條件ニ違反シタル者ハ二十四日以下ノ罰金ニ處ス

第十四條 起業者ハ法令ノ規定又ハ條件ニ違反シ

又ハ法令ニ基キ發スル命令ヲ遵守セザルトキハ免許ヲ取消スコトアルヘシ

第十五條 本則ハ私設鐵道法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●外國ニ於テ鐵道ヲ敷設スル帝國會社ニ關スル制

明治三十三年九月十五日
法律第八十七號 逕信大臣副署

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル外國ニ於テ鐵道ヲ敷設スル帝國會社ニ關スル法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

帝國臣民ニシテ外國ニ於テ鐵道ヲ敷設シ運輸業ヲ營ムル者ニ帝國國內ニ於テ設立スル會社ニ付テハ勅令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設ケ之ニ準據セシムルコトヲ得

第一條 會社ハ選任大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ工費豫算及工事方法ヲ變更スルコトヲ得ス

第二條 會社ハ選任大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ合併又ハ任意ノ解散ヲ爲スコトヲ得ス

第三條 會社ハ本令ノ規定又ハ免許若ハ認可ニ附シタル條件ニ違反シタルトキハ選任大臣ハ役員ノ改選ヲ命ジ又ハ免許若ハ認可ヲ取消スコトヲ得

第四條 會社ハ前項免許ノ取消ニ因リテ解散ス

第五條 第六條、第八條乃至第十條ノ規定ハ外國ニ於テ鐵道ヲ敷設シ運輸業ヲ營ムル帝國國內ニ於テ審判法ノ規定ニ依リテ設立シタル合資會社ニ之ヲ準用ス

●南滿洲鐵道株式會社ニ關スル制

明治三十九年六月八日
勅令第四百四十二號 逕信大臣副署

朕南滿洲鐵道株式會社ニ關スル條件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 政府ハ南滿洲鐵道株式會社ヲ設立セシメ滿洲地方ニ於テ鐵道運輸業ヲ營ム

第二條 會社ノ株式ハ益々記名ト爲シ日清兩國政府及日清兩國人ニ限リ之ヲ所有スルコトヲ得

第三條 日本政府ハ滿洲ニ於ケル鐵道其ノ附屬財產及炭坑ヲ以テ其ノ出資ニ充テシム

第四條 會社ハ新ニ募集スル株式總額ノ數同二分ツテ募集スルコトヲ得但シ第一回募集額ノ總額ノ五分ノ一ヲ下ルコトヲ得ス

第五條 株式ノ第一回ノ拂込金額ハ株式ノ十分ノ一以下ルコトヲ得

第六條 會社ハ本社ヲ東京市ニ支社ヲ大連ニ置ク

第七條 會社ニ總裁一人副總裁一人理事四人以上監事三人乃至五人ヲ置ク

第八條 總裁ハ會社ヲ代表シ其ノ職務ヲ總理ス副總裁ハ總裁事故アルトキ其ノ職務ヲ代理シ總裁職員ノトキ其ノ職務ヲ行フ

第九條 總裁及理事ハ總裁ヲ補助シ會社ノ業務ヲ分掌ス

第十條 監事ハ會社ノ業務ヲ監査ス

第十一條 總裁副總裁ハ勅令ヲ經テ政府之ヲ命ジ其ノ任期ハ五年トス

第十二條 理事ハ五十株以上ヲ有スル株主中ヨリ政府之ヲ命ジ其ノ任期ハ四年トス

第十三條 監事ハ株主中ヨリ株主總會ニ於テ之ヲ選任シ其ノ任期ハ三年トス

第十四條 總裁副總裁及理事ノ報酬及手當ノ額ハ政府之ヲ定ム

又ハ法令ニ基キ發スル命令ヲ遵守セザルトキハ免許ヲ取消スコトアルヘシ

第十五條 本則ハ私設鐵道法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●外國ニ於テ鐵道ヲ敷設スル帝國會社ニ關スル規定

明治三十三年九月十五日
勅令第三百六十六號 逕信大臣副署

朕外國ニ於テ鐵道ヲ敷設スル帝國會社ニ關スル條件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 外國ニ於テ鐵道ヲ敷設シ運輸業ヲ營ムル者帝國國內ニ於テ帝國臣民ノ設立スル株式會社ニ關シテハ本令ニ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外商法及附屬法令ノ規定ヲ適用ス

第二條 會社ノ發起人ハ株金第一回拂込前定款、工事方法書、鐵路實地圖及工費豫算書ヲ具シ選任大臣ニ會社設立ノ免許ヲ申請スヘシ

前項免許ノ申請ニハ株式申込證ノ原本及必要ナル書類ヲ添付スヘシ

●南滿洲鐵道株式會社ニ關スル制

明治三十九年六月八日
勅令第四百四十二號 逕信大臣副署

朕南滿洲鐵道株式會社ニ關スル條件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一條 政府ハ南滿洲鐵道株式會社ヲ設立セシメ滿洲地方ニ於テ鐵道運輸業ヲ營ム

第二條 會社ノ株式ハ益々記名ト爲シ日清兩國政府及日清兩國人ニ限リ之ヲ所有スルコトヲ得

第三條 日本政府ハ滿洲ニ於ケル鐵道其ノ附屬財產及炭坑ヲ以テ其ノ出資ニ充テシム

第四條 會社ハ新ニ募集スル株式總額ノ數同二分ツテ募集スルコトヲ得但シ第一回募集額ノ總額ノ五分ノ一ヲ下ルコトヲ得ス

第五條 株式ノ第一回ノ拂込金額ハ株式ノ十分ノ一以下ルコトヲ得

第六條 會社ハ本社ヲ東京市ニ支社ヲ大連ニ置ク

第七條 會社ニ總裁一人副總裁一人理事四人以上監事三人乃至五人ヲ置ク

第八條 總裁ハ會社ヲ代表シ其ノ職務ヲ總理ス副總裁ハ總裁事故アルトキ其ノ職務ヲ代理シ總裁職員ノトキ其ノ職務ヲ行フ

第九條 總裁及理事ハ總裁ヲ補助シ會社ノ業務ヲ分掌ス

第十條 監事ハ會社ノ業務ヲ監査ス

第十一條 總裁副總裁ハ勅令ヲ經テ政府之ヲ命ジ其ノ任期ハ五年トス

第十二條 理事ハ五十株以上ヲ有スル株主中ヨリ政府之ヲ命ジ其ノ任期ハ四年トス

第十三條 監事ハ株主中ヨリ株主總會ニ於テ之ヲ選任シ其ノ任期ハ三年トス

第十四條 總裁副總裁及理事ノ報酬及手當ノ額ハ政府之ヲ定ム

第十一條 總裁副總裁及理事ハ在任中何等ノ名稱ニ拘ラス他ノ職務又ハ商業ニ從事スルコトヲ得ス但シ政府ノ認可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十二條 政府ハ南滿洲鐵道株式會社監理官ヲ置キ會社ノ業務ヲ監視セシム

第十三條 政府ハ會社ノ事業ノ監督ヲ監査シ會社ノ金庫帳簿及諸般ノ文書物件ヲ検査スルコトヲ得

第十四條 會社ハ必要ト認ムルトキハ何時ニテモ會社ノ監理官ハ必要ト認ムルトキハ何時ニテモ會社ニ命ジテ營業上諸般ノ計算及狀況ヲ報告セシムルコトヲ得

第十五條 監理官ハ株主總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シテ意見ヲ陳述スルコトヲ得但シ議決ノ數ニ加ハルコトヲ得

第十六條 政府ハ必要ト認ムルトキハ帝國國內ニ於ケル鐵道ニ關スル法令ノ規定ヲ會社ニ適用スルコトヲ得

第十七條 政府ハ必要ト認ムルトキハ帝國國內ニ於ケル鐵道ニ關スル法令ノ規定ヲ會社ニ適用スルコトヲ得

第十八條 會社ハ政府ハ適用スヘキ法令ノ事項ヲ會社ニ報告スヘシ

第十九條 會社ハ政府ハ適用スヘキ法令ノ事項ヲ會社ニ報告スヘシ

第二十條 會社ハ政府ハ適用スヘキ法令ノ事項ヲ會社ニ報告スヘシ

附則

第十八條 政府ハ設立委員ヲ置キ南滿洲鐵道株式會社設立ニ關スル一切ノ事務ヲ處理セシム

第十九條 設立委員ハ定款ヲ作り政府ノ認可ヲ得タル後第一回株式ヲ募集スヘシ

第二十條 設立委員ハ第一回株式ノ募集ヲ終リタルトキハ株式申込證ヲ政府ニ提出シ會社設立ノ許可ヲ稟請スヘシ

第二十一條 前條ノ許可ヲ得タルトキハ設立委員ハ運送ナク各株式ニ付第一回ノ拂込ヲ爲サシムルコトヲ要ス

第二十二條 創立總會終結シタルトキハ設立委員ハ其ノ事務ヲ南滿洲鐵道株式會社總裁ニ引渡スヘシ

第四條 鐵道敷設又ハ運輸ニ要スル車輛器具ヲ製作修繕スル器械場及向上ノ資材器具貯藏スル倉庫ノ建築用ニ供スル線路ニ沿ヒテ工務用地ニ要スル石炭又ハ鐵道敷設ニ要スル材料運搬ノ爲メ敷設スル鐵道敷地其ノ他必要ノ土地ニシテ官有ニ係ルモノハ臺灣總督ニ於テ必要ト認ムルトキハ無代價ニテ之ヲ下付シ又ハ臺灣鐵道株式會社敷設工マテ無料ニテ之ヲ貸付スルコトヲ得

第五條 鐵道用地又ハ前條ニ掲ケタル目的ニ供セントスル土地民有ニ係ル場合ニ於テ之ヲ下付スルコトヲ得但シ其ノ官有地ノ交換セントスル民有地ト評定價格相均シキモノニ限ル

第六條 臺灣總督ハ公益ノ爲メ必要ト認ムルトキハ既設官有鐵道敷設ニ付テ下付スルコトヲ得

第七條 無代價ニテ下付スル官有地ニ附屬スル建物植樹等ハ併テ無代價ニテ之ヲ下付スルモノトス

臺灣私設鐵道會社ニ關スル律令

明治三十一年七月十六日 律令第十二號

臺灣總督ハ茲ニ緊急ノ必要アリト認テ明治二十九年法律第六十三號第三條ニ依リ私設鐵道會社ニ關スル律令ヲ發布ス

明治三十一年七月十六日 前二號起ノ認可ヲ得タル私設鐵道會社ニ付テハ當分ノ內商法第六百三十三節ノ規定ニ依ラス命令ヲ以テ之ヲ補充ス

第三章 營業 (汽車檢査ハ第六條ニ之ヲ公布セシム)

鐵道營業法

明治三十三年三月十六日 法律第六十五號 鐵道大臣 關野 照

第一章 鐵道ノ設備及運送

第一條 鐵道ノ建設、車輛器具ノ構造及運轉ハ命令ヲ以テ定ムル規程ニ依ルヘシ

第二條 本法其ノ他特別ノ法令ニ規定スルモノノ外鐵道運送ニ關スル特別ノ事項ハ鐵道運輸規程ノ定ムル所ニ依ル

第三條 運送ノ增加及運送取扱件ノ變更ハ關係停車場ニ二週間以上公告シタル後ニ非サレハ之ヲ實施スルコトヲ得

第四條 傳染病患者ハ主務大臣ノ定ムル規程ニ依ルニ非サレハ乗車セシムルコトヲ得

第五條 傳染病者ノ乗車ハ之ヲ拒絕スルコトヲ得

第五條 火藥其ノ他爆發性危險品ハ鐵道力其ノ運送取扱ノ公告ヲ爲シタル場合ノ外其ノ運送ヲ拒絕スルコトヲ得

第六條 鐵道ハ左ノ事項ノ具備シタル場合ニ於テハ貨物ノ運送ヲ拒ムルコトヲ得

一 荷送人ハ法令其ノ他鐵道運送ニ關スル規定ヲ遵守スルコトヲ得

二 貨物ノ運送ニ付特別ナル義務ノ條件ヲ荷送人ヨリ求メザルコトヲ得

三 運送方法令ノ規定又ハ公ノ秩序若ハ善良ノ風俗ニ反セザルコトヲ得

四 貨物力成規ニ依リ其ノ線路ニ於ケル運送ニ適スルコトヲ得

五 天災事變其ノ他已ムテ得ザル事由ニ基因シタル運送上ノ支障ナキコトヲ得

第六條 規定ハ旅客運送ニ之ヲ準用ス

第七條 運送ニ付特別ノ設備ヲ要スル貨物ニ關シテハ鐵道ハ其ノ設備アル場合ニ限リ之ヲ引受クルノ義務ヲ負フ

第八條 鐵道ハ直ニ運送ヲ爲シ得ヘキ場合ニ限リ貨物ヲ受取ルヘキ義務ヲ負フ

第九條 貨物ノ運送ノ爲受取リタル順序ニ依リ之ヲ運送スルコトヲ要ス但シ運輸上正當ノ事由若ハ公益上ノ必要アルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十條 鐵道ハ貨物ノ種類及性質ヲ明告スヘキコトヲ荷送人ニ求ムルコトヲ得若シ其ノ種類及性質ニ付疑アルトキハ荷送人ノ立會ヲ以テ之ヲ點檢スルコトヲ得

第十一條 點檢ニ因リ貨物ノ種類及性質カ荷送人ノ明告シタル所ト異ナラサル場合ニ限リ鐵道ハ點檢ニ關スル費用ヲ負擔シ且之カ爲生シタル損害ヲ賠償

第十二條 牛馬其ノ他ノ獸類ニ付テハ荷送人ハ運送委託ノ際價格ヲ明告セザルトキ又ハ明告スルモ鐵道運輸規程ニヨリ鐵道ノ請求スル増賃金ヲ支拂ハサルトキハ其ノ損害ニ付鐵道ハ鐵道運輸規程ニ定ムル最高金額迄ヲ賠償ス

第十三條 惡意又ハ重大ナル過失ニ因リ貨物ノ損失、毀損ニ付テハ鐵道ハ鐵道運輸規程ニ定ムル最高金額迄ヲ賠償ス

第十四條 運賃償還ノ債權ハ一年間之ヲ行ハサルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

第十五條 旅客ハ營業上別段ノ定アル場合ノ外運賃ヲ支拂ヒ乗車券ヲ受クルニ非サレハ乗車スルコトヲ得

第十六條 乘車券ヲ有スル者ハ列車中座席ノ存在スル場合ニ限リ乗車スルコトヲ得

第十七條 旅客力乘車前旅行ヲ止メタルトキハ鐵道運輸規程ノ定ムル所ニ依リ運賃ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得

乘車後旅行中止シタルトキハ運賃ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得ス

第十七條 天災事變其ノ他已ムテ得サル事由ニ因リ運送ニ着手シ又ハ之ヲ繼續スルコト能ハサルニ至リタルトキハ旅客及荷送人ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テ鐵道ハ既ニ爲シタル運送ノ割合ニ應ジ運賃其ノ他ノ費用ヲ請求スルコトヲ得

第十八條 旅客ハ鐵道係員ノ請求アリタルトキハ何時ニテモ乘車券ヲ呈示シ檢査ヲ受ケヘシ有テ無テ乘車券ヲ所持セス又ハ乘車券ノ檢査ヲ拒ミ又ハ取換ノ際之ヲ渡ササル者ハ鐵道運輸規程ノ定ムル所ニ依リ罰金ヲ支拂フヘシ

前項ノ場合ニ於テ乘車券不明ナルトキハ其ノ列車ノ出發停車場ヨリ運賃ヲ計算ス

第二章 鐵道係員

第十九條 鐵道係員ノ職制ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十條 鐵道係員ハ鐵道係員ノ職務規程ヲ定メ主務大臣ノ認可ヲ受ケルコトヲ要ス

第二十一條 主務大臣ハ鐵道係員タルニ要スル資格ヲ定ムルコトヲ得

第二十二條 旅客及公眾ニ對シテ職務ヲ行フ鐵道係員ハ一定ノ制服ヲ著スヘシ

第二十三條 鐵道係員ハ職務上ノ義務ニ違背シ若ハ職務ヲ怠リ又ハ失行アリタルトキハ懲戒ヲ受ケ

會社ハ懲戒ニ關スル規程ヲ定メ主務大臣ノ認可ヲ受ケヘシ

懲戒ヲ爲スヘキ場合ニ於テ會社之ヲ爲ササルトキハ主務大臣ニ於テ懲戒ヲ爲スコトヲ得

第二十四條 鐵道係員職務取扱ニ違背シ若ハ公眾ニ對シ失行アリタルトキハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十五條 鐵道係員職務上ノ義務ニ違背シ又ハ職務ヲ怠リ旅客若ハ公眾ニ危害ヲ及ボスノ虞アル所爲アリタルトキハ五百圓以下ノ罰金又ハ三月以下ノ重禁錮ニ處ス

第二十六條 鐵道係員旅客ヲ強ヒテ定員ヲ超エ車中ニ乘込マシメタルトキハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十七條 鐵道係員旅客又ハ荷送人若ハ荷受人ト通謀シ運賃ノ一部若ハ全部ヲ免レシメタルトキハ三年以下ノ重禁錮ニ處シ五百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第二十八條 鐵道係員道路閉切ノ開通ヲ怠リ又ハ故ナク車輛其ノ他ノ器具ヲ閉切ニ留置シ因テ往來ヲ妨害シタルトキハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三章 旅客及公眾

第二十九條 運賃ヲ免ルルノ目的ヲ以テ左ノ所爲ヲ爲シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

一 有效ノ乘車券ヲシテ乘車シタルトキ

二 乘車券ニ指示シタルモノヨリ優等ノ車ニ乘リタルトキ

三 乘車券ニ指示シタル停車場ニ於テ下車セザルトキ

第三十條 運送品ノ種類若ハ性質ヲ詳稱シ又ハ運賃ヲ免ルルノ目的ヲ以テ詐爲ノ所爲ヲ爲シタル者ハ三月以下ノ重禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十一條 鐵道運送ニ關スル法令ニ背キ火藥類其ノ他爆發物危險品ヲ運送シ又ハ車中ニ携帯シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十二條 列車等機械ヲ濫用シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十三條 旅客左ノ所爲ヲ爲シタルトキハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

一 列車運轉中乗降シタルトキ

二 列車運轉中車輛ノ側面ニ在リ車扉ヲ開キタルトキ

三 列車中旅客乘用ニ供セザル箇所ニ乘リタルトキ

第三十四條 禁止ヲ背セスシテ左ノ所爲ヲ爲シタル者ハ科料ニ處ス

一 停車場其ノ他鐵道地内吸煙禁止ノ場所及吸煙禁止ノ車内ニ於テ吸煙シタルトキ

二 婦人ノ爲ニ設ケタル待合室及車室等ニ男子安ニ立入りタルトキ

第三十五條 車内、停車場其ノ他鐵道地内ニ於テ妄狀ヲ現ハシ其ノ他不良ノ行爲ヲ爲シタル者ハ科料ニ處ス

第三十六條 車輛、停車場其ノ他鐵道地内ノ標識指示ヲ改竄、毀棄、撤去シ又ハ燈火ヲ滅シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

信號機ヲ改竄、毀棄、撤去シタル者ハ三月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ五百圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三十七條 停車場其ノ他鐵道地内ニ安ニ立入りタル者ハ科料ニ處ス

第三十八條 暴行脅迫ヲ以テ鐵道係員ノ職務ヲ執行ヲ妨害シタル者ハ一年以下ノ重禁錮ニ處シ五百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三十九條 車内、停車場其ノ他鐵道地内ニ於テ發砲シタル者ハ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十條 列車ニ向テ瓦石類ヲ投擲シタル者ハ四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十一條 第四條ノ規定ニ違反シ懲戒ノ受ケル者ハ

乘車セシメタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス但シ疾病患者其ノ病症ヲ隱蔽シテ乘車シタルトキ亦同

前項ノ場合ニ於テ途中下車セシメタルトキト雖既ニ支拂ヒタル運賃ハ之ヲ還付セス

第四十二條 左ノ場合ニ於テ鐵道係員ハ旅客及公眾ヲ車外又ハ鐵道地外ニ退去セシムルコトヲ得

一 有效ノ乘車券ヲ所持セス又ハ檢査ヲ拒ミ運賃ヲ支拂フコトヲ得

二 第三十三條第三號ノ罪ヲ犯シ鐵道係員ノ制止ヲ背セサルトキ又ハ第三十四條ノ罪ヲ犯シタルトキ

三 第三十五條、第三十七條ノ罪ヲ犯シタルトキ

四 其ノ他車内ニ於ケル秩序ヲ紊ルノ所爲アリタルトキ

前項ノ場合ニ於テ既ニ支拂ヒタル運賃ハ之ヲ還付セス

第四十三條 前諸條ノ犯罪及鐵道保安ニ關スル犯罪ニシテ罰金ノ刑ニ該ルヘキ輕罪若ハ違警罪ノ現行犯アリタルトキ被告人カ其ノ住所其者チ分明ニ告知セス又ハ逃亡ノ虞アルトキハ鐵道係員ハ司法警察官ニ之ヲ引致スルコトヲ得

附則

第四十四條 本法ハ私設鐵道法ニ依ラサル私設鐵道ニハ之ヲ適用セス

第四十五條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

鐵道規則 鐵道犯罪罰則例、明治十六年七月第二十三號布告ハ之ヲ廢止ス

(本法ハ三十三年勅令第三百三十號ヲ以テ三十三年十月一日ヨリ施行ス該勅令ハ私設鐵道法ニ

附則

●鐵道建設規程

明治三十三年八月十日

逓信省令第三十三號

鐵道建設規程 左ノ通定ム

第一章 線路

第一條 建築定規

建築定規ノ最小限ハ本規程中特別ノ規定アル場合ノ外甲線間ニ依リ但シ曲線ニ於テハ外方軌條ノ高度並軌間ノ擴張ニ隨ヒ建築定規中心ノ偏倚傾斜ニ應ジ度法ヲ取ルコトヲ要ス

燃料供給所給水所、轉車臺、計量臺、洗車所、貨車積載定規支柱、電柱及信號柱ニシテ停車場内ノ側線ニ係ルモノハ第三十五條第一項ノ最大限外六吋送建築定規内ニ入ルコトヲ得

貨物側線ニ於テハ特許ヲ得テ第一項ノ建築定規ヲ縮少スルコトヲ得

第二條 曲線

本線路ニ在リ曲線ノ半徑ハ十五圓以上トス特別ノ場合ニ於テハ特許ヲ得テ八圓送縮小スルコトヲ得

停車場外ニ在リ反方向ノ曲線間ニハ相當ノ長ヲ有スル直線ヲ挿入スルコトヲ要ス

第三條 勾配

鐵道線路ノ勾配ハ四十分ノ一ヨリ急ナラサルヲ通例トス如何ナル場合ト雖二十五分ノ一ヨリ急ナルコトヲ得ス

勾配ノ變更スル箇所ニ於テ交切ノ外角三十五分以

上ナルトキハ相當半徑ノ弧線ヲ以テ其ノ屈折點ヲ緩和ナラシムルコトヲ要ス

第四條 施工基準ノ幅

第五條 排水及道床

線路ノ施工基準ノ排水ニ必要ナル高チ有スルコトヲ要ス

道床ノ厚ハ枕木下面ヨリ施工基準迄六吋以上タルヲ通例トス如何ナル場合ト雖三吋ヨリ減スルコトヲ得ス

第六條 軌道ノ間隔

兩軌道中心間ノ距離ハ十一呎以上トス第三軌道ヲ設ケタルトキハ其ノ軌道ハ兩軌道中心間ノ距離十二呎以上トス

二對以上ノ複線ヲ設ケタルトキハ甲ノ一對ト乙ノ一對トノ互ニ連接セル軌道中心間ノ距離ハ十二呎以上トス

停車場内ニ於テハ軌道中心間ノ距離ハ十二呎以上トス

第七條 軌道ノ負擔力

本線路ニ於ケル軌道ノ各部ハ列車ノ活重ニ耐フヘキ負擔力ヲ有スルコトヲ要ス如何ナル場合ト雖一軸十噸ノ活重ニ耐フヘキ程度ヲ下ルコトヲ得ス

第八條 軌條

本線路ノ軌道ニ用フル軌條ハ鋼製ニシテ新製ノトキ其ノ重量一碼四十五磅度以上ノモノタルコトヲ要ス

第九條 軌間及外方軌條ノ高度

軌間ハ直線ニ於テ軌條頭ノ内側ヨリ内側迄三呎六吋トス

直線ニ於テハ兩軌條ノ高チ均クスルコトヲ要ス

曲線ニ於テハ鐵道ニ附帶スル場合ノ外其ノ半徑ニ應ジテ第一項ノ軌間ヲ擴ムルコトヲ要ス

曲線ニ於テハ鐵道ニ附帶スル場合ノ外其ノ半徑及

列車ノ速度ニ應シテ外方ノ軌條ヲ内方ノモノヨリ高クスルコトヲ要ス

内外軌條ノ高低ハ曲線ニ接線スル直線若ハ緩曲線ニ於テ其ノ差ヲ減減スルコトヲ要ス但シ高低差ノ二百倍以上ノ距離ニ達スル迄ハ之ヲ全廢スルコトヲ得ス

第十條 轉轍器及轍又
轍又ニ附帶スル曲線ノ半徑ハ本線路ニ於テハ四百呎其ノ他ノ部分ニ於テハ二百呎ヨリ小ナルコトヲ得ス

第十一條 護輪軌條ノ間隔
轍又ニ於テ軌條ト護輪軌條トノ間隔ハ一時八分ノ七以下トス

第十二條 橋梁
線路ニ架設スル橋梁ハ木造ト爲スコトヲ得ス但シ徑間十二呎以下ノ桁ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十三條 停車場内本線路ノ勾配
停車場内ニ於ケル本線路ノ勾配ハ三百分ノ一ヨリ急ナルコトヲ得ス特別ノ場合ニ於テハ特許ヲ得テ百分ノ一ニ至ルコトヲ得

第十四條 避讓設備

本線路ニ向ヒ三百分ノ一ヨリ急ナル下リ勾配ヲ有スル側線若ハ支線アルトキハ本線路ハ車輛ノ進出セザル様相當ノ設備ヲ爲スコトヲ要ス

第十五條 聯絡停車場
二箇以上ノ鐵道線路カ同一停車場ニ集合スル場合ニ於テハ甲乙兩線路間ニ少クトモ短列車ヲ運轉スル線路ノ最長列車ニ均シキ長チ有スル列車ヲ容易ニ且迅速ニ相互轉移セシムヘキ設備ヲ爲スコトヲ要ス

第十六條 聯絡所及信號所
停車場外ニ於テ鐵道線路カ聯絡スル箇所ハ信號常設ノ場所ト爲スコトヲ要ス

第十七條 鐵道ノ聯絡及交叉
停車場内ニ於テ二箇以上ノ鐵道線路カ同一軌道ヲ列車ノ發着ニ共用スルカ又ハ同平面ニ交叉スルトキハ之ニ關聯スル轉轍器及當座信號機ハ相互聯絡ノ裝置タルコトヲ要ス

第十八條 乘降場
乘降場設置面(突出點ヨリ度)ヨリ軌道中心迄ノ距離ハ四呎六吋以上トス但シ乘降場カ曲線内ニ在ルトキハ少クトモ五十五呎(兩端ヨリ中心間ノ距離ハ少クトモ七十呎)ノ全長ヲ有シ且第三十五條第一項ノ最大幅チ有スル車輛ヲ通過セシムルニ足ル

ケナキ機其ノ半徑ニ應シテ軌道中心ヨリ距離ヲ增加スルコトヲ要ス

乘降場ノ幅ハ七呎以上トス又兩軌道ノ中間ニアル乘降場ノ幅ハ九呎以上トス但シ第五項ノ長以外ノ箇所ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

軌道面ヨリ乘降場面迄ノ高ハ二呎以下一呎六吋以上トス

乘降場ハ少クトモ其ノ一端ニ四分ノ一ヨリ急ナル勾配ヲ附スルコトヲ要ス

乘降場ノ長ハ少クトモ其ノ線路ニ運轉スル列車中ノ客車全數ニ相應スルコトヲ要ス

乘降場上ニ在ル柱類ハ乘降場面ヨリ三呎六吋以上ヲ隔ツルコトヲ要ス

乘降場上ニ在ル踏梯及地下道口ハ乘降場面ヨリ五呎以上ヲ隔ツルコトヲ要ス

停車場木屋ハ乘降場面ヨリ七呎以上ヲ隔ツルコトヲ要ス

第十九條 轉轍器及轍
轉轍器及轍等ノ軌道面上ニ突出スル各部ハ軌道中心ヨリ四呎九吋以上ヲ隔ツルコトヲ要ス

第二十條 待避側線
單線軌道ニ於ケル停車場内ノ待避側線ノ有效長ハ七百呎以上トス但シ長列車ヲ運轉スルノ必要ナキ區間ニ在リテハ該區間ニ適度ト認ムラルル迄其ノ長ヲ減縮スルコトヲ得

第二十一條 信號機
停車場、聯絡所及信號所ニハ場内信號機ヲ設ケルコトヲ要ス若シ其ノ防護區域外四十呎以上ノ距離ヨリ之ヲ見ル能ハサルトキハ前方ニ進方信號機ヲ設ケルコトヲ要ス

軌道面上給水口ノ高ハ九呎以上トス

第二十二條 電氣通信器
停車場、聯絡所及信號所ニハ電氣通信ノ設備ヲ爲スコトヲ要ス

第二十三條 待合所其ノ他ノ設備
停車場ニハ待合所、乘降場及便所等旅客ニ必要ナル設備ヲ爲スコトヲ要ス

第二十四條 貨物積卸場
貨物積卸場設置面(突出點ヨリ度)ヨリ軌道中心迄ノ距離ハ第一條第二項ノ場合ノ外四呎六吋以上トス

第二十五條 機關車庫及客車庫
機關車庫及客車庫ノ門路並内部ノ幅及高ハ第三十五條第一項ノ最大限外六吋以上ノ遊間ヲ存スルコトヲ要ス

第二十六條 踏梯橋及地下道
列車ノ行進ヲ爲ス停車場ニシテ旅客ノ乘降頻繁ナル場所ニハ踏梯橋若ハ地下道ヲ設ケルコトヲ要ス

第二十七條 貯水器
貯水器ノ容量ハ三百立方呎以上トス

給水量ハ一分時間二十六立方呎以上トス

軌道面上給水口ノ高ハ九呎以上トス

第二十八條 機車及客車庫
機關車庫及客車庫ノ門路並内部ノ幅及高ハ第三十五條第一項ノ最大限外六吋以上ノ遊間ヲ存スルコトヲ要ス

第二十九條 貨車積載定規及計重臺
大荷物ヲ取扱フ停車場ニハ必要ニ應シ貨車積載定規及計重臺ヲ設ケルコトヲ要ス

第三十條 簡易停車場
地方ノ狀況ニ依リ特許ヲ得テ本規程ニ依ラサル簡易停車場ヲ設ケルコトヲ得

第三十一條 修繕工場
車輛器具ヲ修理スル工場ヲ設ケルコトヲ要ス但シ他ニ修理ヲ託スヘキ相當ノ場所アルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三十二條 待避所
隧道、橋梁其ノ他列車ヲ避ケルニ困難ナル場所ニハ三百呎以下ノ距離ニ待避所ヲ設ケルコトヲ要ス

第三十三條 標誌及車止
線路ニハ左ノ標誌ヲ設ケルコトヲ要ス

一 每四分ノ一哩ノ距離ヲ示ス哩標

二 勾配ノ變更スル箇所毎二前後ノ勾配ヲ示ス勾配標

三 本線路ニ接線スル側線若ハ支線アル場所ニハ車輛ノ停止區域ヲ示ス警標

四 踏切道ニハ通行人ノ注意ヲ惹クヘキ警標

五 第一條第三項ノ場合ニ於テハ建築定規ノ縮小ヲ示ス警標

第一項第一號及第二號ノ標誌ハ線路ノ同側ニ設ケルコトヲ要ス

軌道ノ終端ニハ車止ヲ設ケルコトヲ要ス

第三十四條 線路ノ防護
人又ハ牛馬等ノ線路ニ踏入ルコトヲ防ク爲其ノ他保安上必要ナル場所ニハ適當ノ柵又ハ標識ヲ設ケ若ハ溝渠ヲ鑿ツコトヲ要ス

往來頻繁ナル踏切道ニハ門扉其ノ他相當ノ保安設備ヲ爲スコトヲ要ス

第三十五條 車輛ノ高及幅
車輛定規ノ最大限ハ車輛ヲ除クノ外乙鐵道面ニ依リ下リト得

一 排障器制輪子及鐵管等輪蓋ノ幅外ニ出テヤル部分並制輪器ノ下端ハ軌道面上一時ノ高さ

二 彈簧ノ作用ニ依リ上下動ヲ爲ササル部分ハ車輛定規中心ヨリ左右各三呎四吋ノ幅内ニ於テ軌道面上二吋ノ高さ

三 排障器ハ使用ニ際シ軌道頭ニ接觸セシムルモ妨ケナシ但シ轉轍器、護輪軌條等アル箇所ニ於テハ軌道面上三吋以上ヲ起スルコトヲ要ス

本條ノ規定ハ輪蓋其他ノ附掛シ又ハ彈簧ノ變形シタル場合ニモ亦之ヲ適用ス

第三十六條 輪軸距
車輛ノ固定輪軸距ハ十五呎ヨリ大ナルコトヲ得ス但シ餘餘ナキ車輛ヲ有スル機關車ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第三十七條 車重

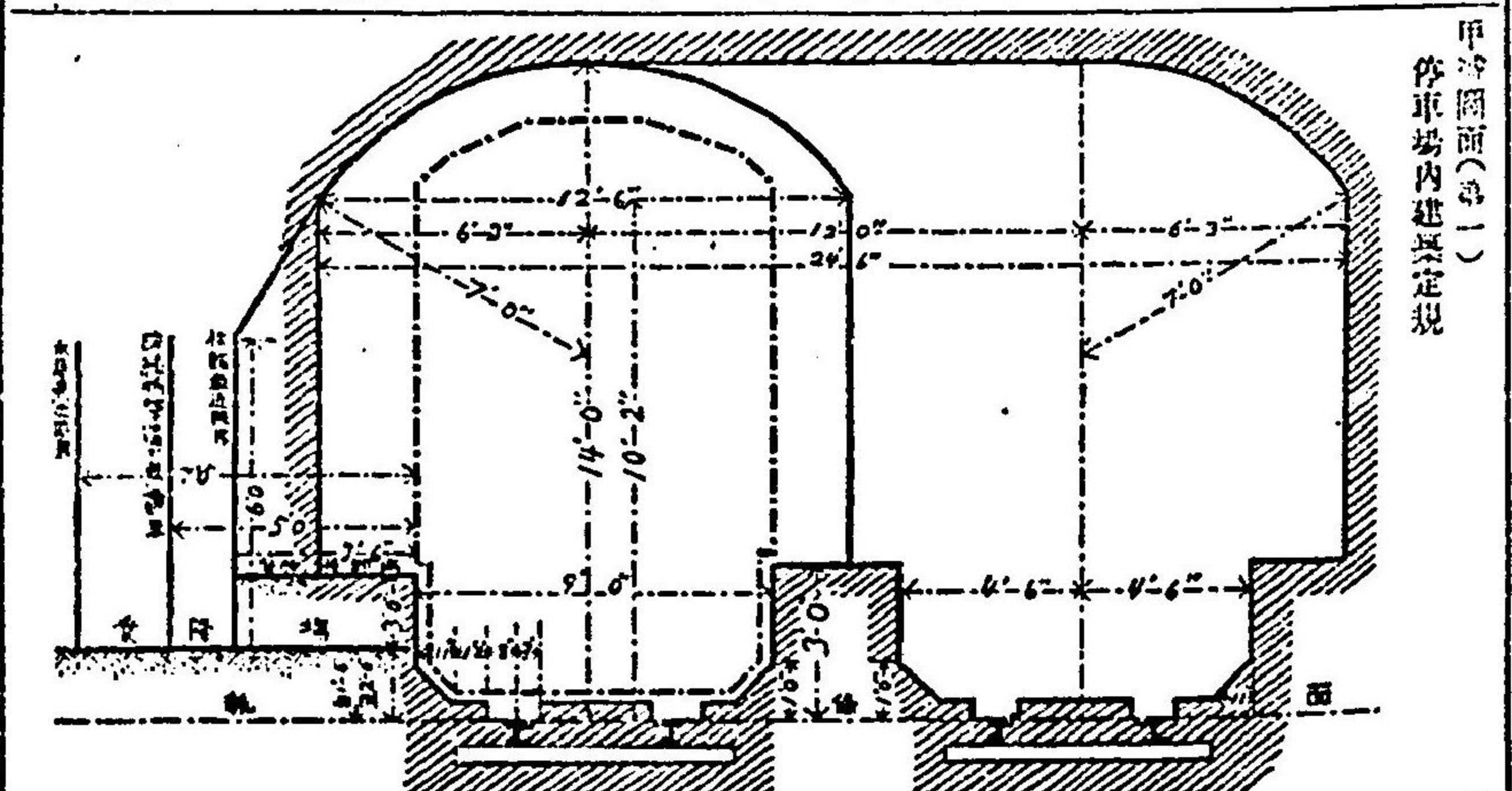
機關車輪一對ノ軌條ニ對スル壓力ハ停止中ニ於テ十四噸ヨリ大ナルコトヲ得ス
 固定輪軸距每一呎ニ對スル總重量ハ四噸ヨリ大ナルコトヲ得ス
 機關車(炭水車アルモノハ之ヲ併セ)ノ前後緩衝器間ノ距離每一呎ニ對スル總重量ハ二噸ヨリ大ナルコトヲ得ス
 客貨車車輪一對ノ軌條ニ對スル壓力ハ停止中ニ於テ十噸ヨリ大ナルコトヲ得ス
 第三十八條 車輪ノ直徑(丙號圖面参照)
 車輪ノ直徑ハ機關車ノ車輪及從輪ヲ除クノ外二呎六吋以上トス特別ノ場合ニ於テハ特許ヲ得テ二呎迄縮小スルコトヲ得
 機關車(從輪)ノ直徑ハ三呎ヨリ小ナルコトヲ得ス
 第三十九條 車輪ノ大サ
 車輪ハ滿載車ヲ最大速度ニテ運轉スルモ安全ヲ保ツニ充分ナル大サヲ有スルコトヲ要ス
 第四十條 輪軌(丙號圖面参照)
 輪軌ノ幅ハ四吋半以上六吋半以下トス
 輪軌一對ノ中間距離ハ三呎三吋以上三呎三吋四分以下トス但シ輪軌ナキ輪軌ニ付テハ三呎二吋半迄縮小スルコトヲ得
 第四十一條 輪軌(丙號圖面参照)
 輪軌ノ高ハ車輪一對ノ中心線ヨリ左右各一呎十吋ノ距離ニ於ケル路面ヨリ度リ一吋以上一吋十六分ノ七以下トス
 車輪一對ノ中心線ヨリ輪軌外面迄ノ距離ハ車輪一對ノ中心線ヨリ左右各一呎十吋ノ距離ニ於ケル路面ヨリ半吋以下トス一呎八吋四分ノ三ヨリ大ナルコトヲ得ス
 輪軌ノ厚ハ前項半吋以下ニ於テ輪軌内側ノ路面ヨリ

コリ四分ノ三吋ヨリ小ナルコトヲ得ス
 本條ノ規定ハ輪軌ノ磨損シタル場合ニモ亦之ヲ適用ス
 第四十二條 緩衝器及連結器
 緩衝器及連結器ノ中心ハ空車ニ於テハ軌條面上三呎八吋下ルコトヲ得ス又滿載車ニ於テハ同シク二呎八吋下ルコトヲ得ス
 兩側緩衝器間ノ距離ハ四呎トス又緩衝器間ヨリ車輪緩衝器ノ距離ハ壓迫セラレタルトキニ於テ一呎ヨリ小ナルコトヲ得ス
 車輪ノ連結器ハ總テ複式連結ノ裝置トシ其ノ一ハ螺旋連結器タルコトヲ要ス但シ旅客列車ニ連結セサル貨車ニ限リ特別ノ場合ニ於テ特許ヲ得テ本項ノ規定ニ依ラサルコトヲ得
 中央緩衝器連結器ヲ使用スル場合ニハ本條ノ規定ニ依ラサルコトヲ得
 第四十三條 機關車ノ裝置
 機關車ニ左ノ裝置ヲ爲スコトヲ要ス
 一 汽機ニハ各獨立ニ其ノ用ヲ爲シ得ヘキ二箇以上ノ給水器ヲ備フルコト
 二 汽機内側ノ水平ヲ認知スルヲ得ヘキ二箇以上ノ各獨立ナル量水器ヲ備フルコト但シ其ノ一箇ハ機關手ノ位置ヨリ水平ヲ直ニ認メ得ヘキモノニシテ且其ノ汽機ノ實用最低水位ヲ表示スルモノタルコトヲ要ス
 三 二箇以上ノ安全弁ヲ備フルコト
 四 火室ノ頂板ニ少クトモ一箇ノ可變栓ヲ備フルコト
 五 汽機ヲ備フルコト但シ指針盤ニ實用最高汽壓ヲ表示スルコトヲ要ス
 六 汽機ノ火室ニ在ル煤屑ニハ其ノ頂上ニ在ル

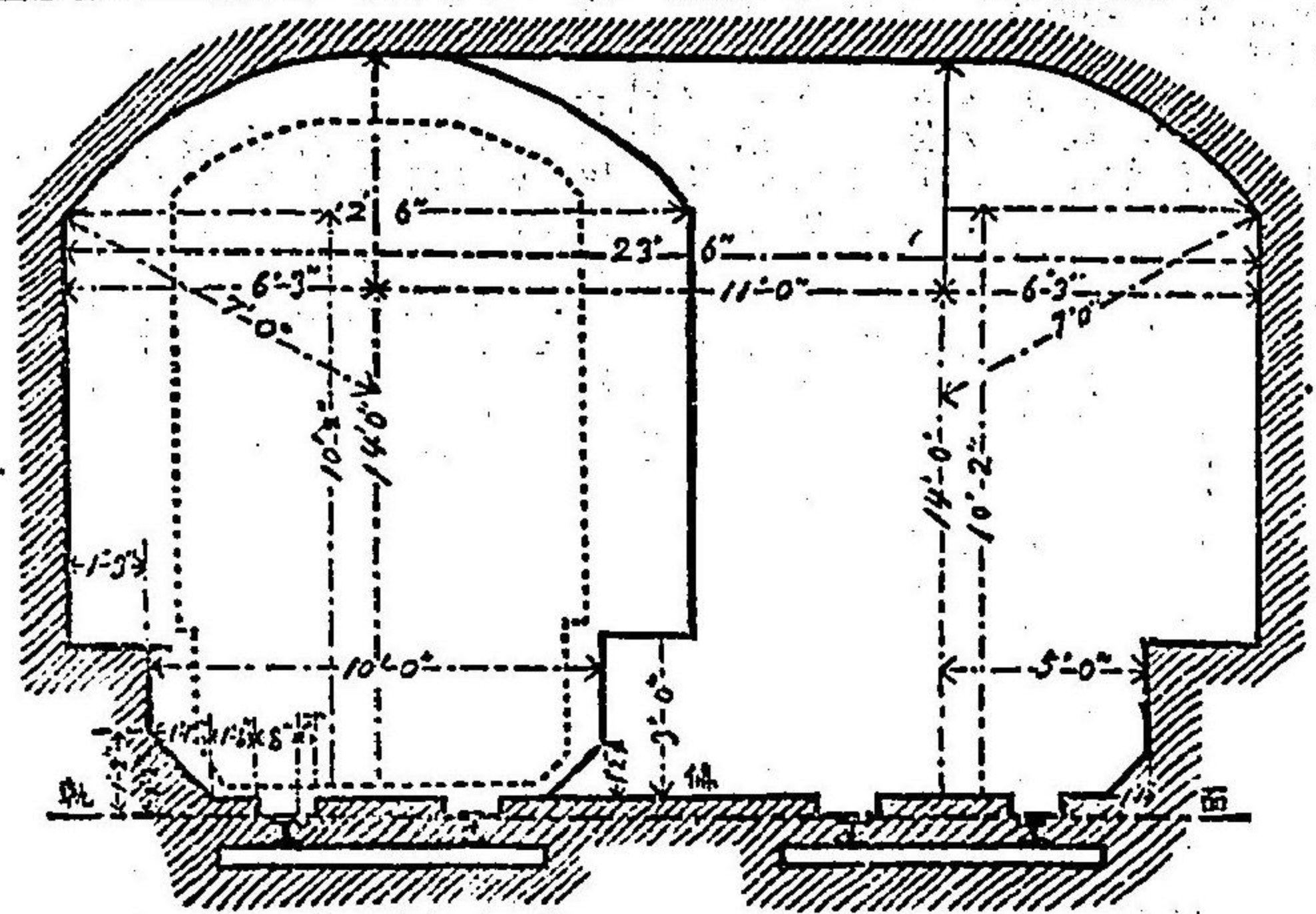
モノヲ除クノ外熱テ其ノ股損ヲ外部ヨリ見シ得ヘキ設備ヲ爲スコト
 七 汽筒ハ少クトモ一箇ヲ備フルコト
 八 前後ニ排塵器ヲ附スルコト
 九 煙筒及灰箱ヨリ火粉ノ放出ヲ防ク設備ヲ爲スコト
 十 他ノ制動機ノ裝置アル場合ニ於テモ制動機及炭水車ノ車輪ニ總クヘキ手用制動機ヲ備フルコト
 第四十四條 客車
 客車内ノ面積ハ旅客定員一人ニ付平均三平方呎ヨリ小ナルコトヲ得ス
 窓楯子ノ面積ハ旅客定員一人ニ付六十平方吋ヨリ小ナルコトヲ得ス
 客車内ニハ二箇以上ノ點燈裝置ヲ爲シ又車内ニ區分室アルトキハ各室ニ一箇以上ノ點燈裝置ヲ爲スコトヲ要ス
 客車ノ側面ニ在ルハ二箇ノ閉鎖器ヲ備ヘ又戸ヲ閉ルトキ手摺ヲ備ムルノ底ナキ裝置ヲ爲スコトヲ要ス
 第四十五條 緩急車
 緩急車ニハ他ノ制動機ノ裝置アル場合ニ於テモ手用制動機ヲ備フルコトヲ要ス
 附則
 第四十六條
 本規程ハ鐵道營業法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス
 第四十七條
 本規程施行前工事ニ著手シ又ハ竣功シタル線路ニシテ第一章中左ニ掲ケル條項ノ規定ニ依リ變更ヲ受ケルモノハ本規程施行ノ日ヨリ本條ノ期間内ニ之ヲ改築スヘシ

一 第六條、第十三條、第十八條第一項、第十九條、第二十四條第一項及第二十五條第一項ニ付テハ十五年以内
 二 第三條、第九條第五項、第十七條、第十八條、第二項第六項乃至第八項及第二十八條ニ付テハ十年以内
 三 第四條、第十八條第二項、第二十五條第二項及第三十二條ニ付テハ五年以内
 四 第三條、第五條、第七條、第八條、第十一條、第十二條第一項、第十四條、第十五條、第十八條第四項第五項、第二十條、第二十四條第二項、第二十五條第三項及第二十七條ニ付テハ三箇年以内
 第四十八條
 隧道若ハ橋梁カ第一條ノ規定ニ抵觸スルモノ五十五呎(兩端ヨリ中心間ノ距離ハ三十七呎トス)ノ全長ヲ有シ且第三十五條第一項ノ最大幅ヲ有スル車輛ノ通過ニ妨ケナキモノハ該隧道若ハ橋梁ノ大改築ノトキ迄之ヲ改築スルコトヲ得
 第二條第二項及第九條第五項ノ規定ニ依リ變更ヲ受ケル場合ニ於テ之ヲ改築スルモノハ該隧道若ハ橋梁ノ改築ヲ要スルモノハ該隧道若ハ橋梁ノ大改築ノトキ迄之ヲ改築スルコトヲ得
 爲隧道若ハ橋梁ノ新築ヲ要スルモノハ其ノ線路區間ノ大改築ノトキ迄之ヲ改築スルコトヲ得
 第四十九條
 本規程施行前工事ニ著手シ又ハ竣功シタル線路ニ在リテハ特別ノ場合ニ於テハ特許ヲ得テ第六條ニ規定スル十二呎ノ最小限ヲ十一呎迄減縮スルコトヲ得
 第五十條
 本規程施行ノ際現存シ又ハ製造中ニ係ル車輛ニシ

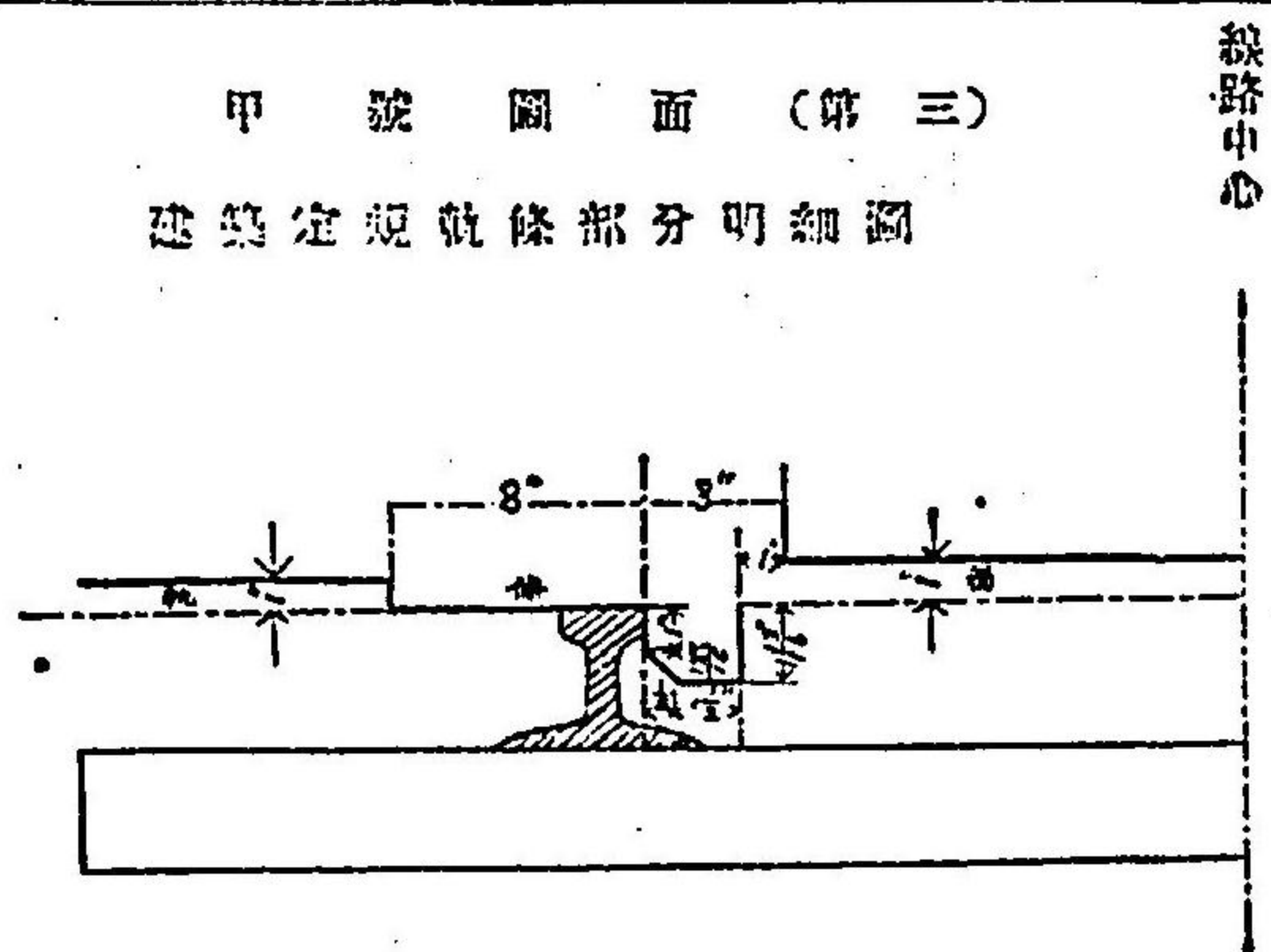
テ第二章中左ニ掲ケル條項ノ規定ニ依リ變更ヲ受ケルモノハ本規程施行ノ日ヨリ本條ノ期間内ニ之ヲ改築スヘシ
 一 第三十七條第二項ニ付テハ十年以内
 二 第三十五條第三項、第三十六條第二項、第三十八條第二項、第四十條、第四十一條、第四十二條第一項乃至第三項及第四十三條第一項第二號第三號第六號第十號ニ付テハ七箇年以内
 三 第四十四條第四項ニ付テハ五年以内
 第五十一條
 私設鐵道ニ於テ第四十七條及第五十條ノ規定ニ依リ改築改造ヲ要スルモノハ本規程施行ノ日ヨリ左ニ掲ケル期間内ニ其ノ設計及期間ヲ定メ之ヲ認可シテ申請スヘシ
 一 改築改造ノ期間十五箇年以内及十箇年以内ノモノハ三箇年以内
 二 同七箇年以内及五箇年以内ノモノハ二箇年以内
 三 同三箇年以内ノモノハ一箇年以内
 第五十二條
 第四十七條、第四十八條、第五十條及第五十一條ノ規定ハ保安上必要ノ場合若ハ期限前改築改造ヲ爲ス場合ニ於テ本規程ニ依リ施工ヲ命スルコトヲ妨ケス
 第五十三條
 特殊ノ設計ヲ必要トスル鐵道ニシテ本規程ニ依リ難キモノ及局部運送ノ用ニ供スル鐵道ニシテ本規程ニ依ルノ必要ナキモノニ在リテハ本規程ニ依ラサル工事方法ヲ特許スルコトアルヘシ



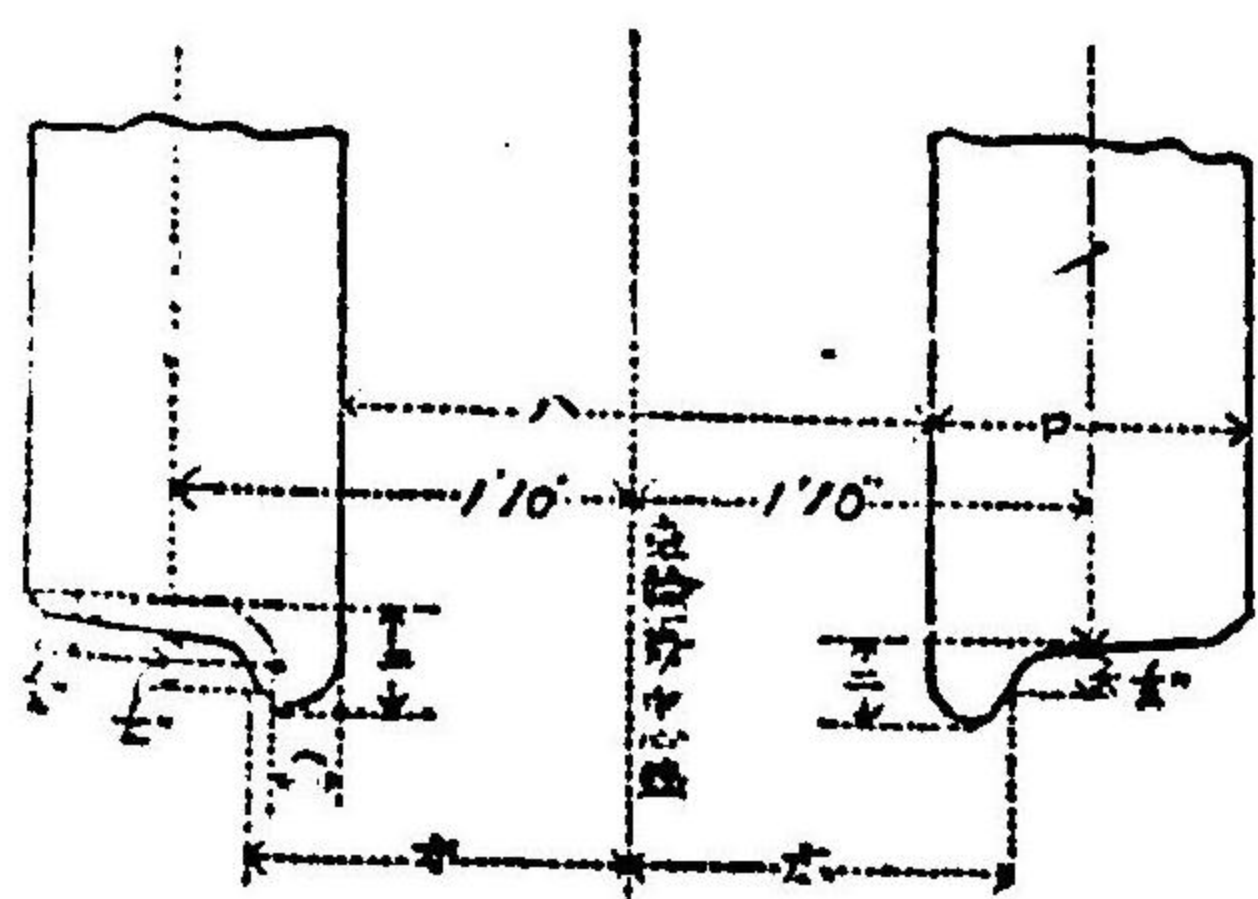
甲號圖面(第一) 停車場外建築定規



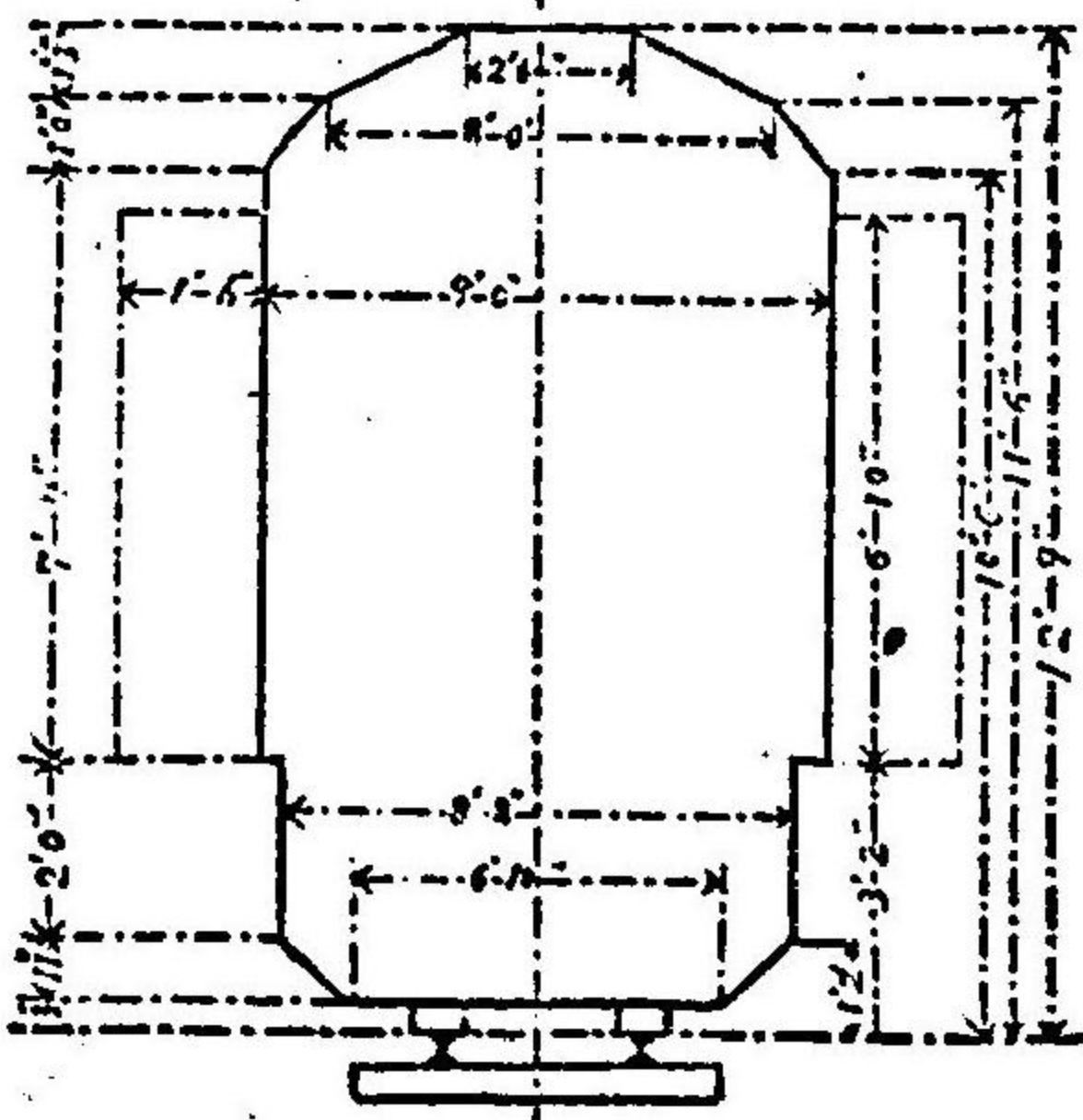
甲號圖面(第三) 建築定規軌條部分明細圖



丙號圖面 車輪各部之度方



乙號圖面 車輛定規



イ、車輪ノ直徑
 ロ、輪鐵ノ幅 四吋半乃至六吋半
 ハ、輪鐵一對ノ中間距離 三呎三吋乃至三呎三吋四分ノ一
 ニ、輪鐵ノ高 最小一吋最大一吋十六分ノ七
 ホ、車輪一對ノ中心線ヨリ輪鐵外面迄ノ距離最
 大一呎八吋四分ノ三
 ヘ、輪鐵ノ厚 最小四分ノ三吋

鐵道運輸規程

明治三十三年八月十日
逓信省令第三十四號

第一章 線路

第一條 線路ノ狀態

線路ハ常ニ第二十二條第一項ノ最大速度ヲ以テ危險ヲ列車ヲ運轉スルコトヲ得ヘキ狀態ヲ備フルコトヲ要ス但シ修繕又ハ改良工事施行等ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二條 線路ノ監視

線路ハ列車運轉上危險ノ虞ナキ機常ニ工夫ヲシテ之ヲ監視セシムヘシ
 線路ハ毎日少クトモ一回保線係員ヲシテ其ノ狀態ヲ監視セシムヘシ

第三條 對向轉轍器

本線路ニ在ル對向轉轍器ハ列車又ハ車輛通過ノ際ハ之ヲ鎖錠シ置クカ又ハ其ノ取柄ヲ支持スヘシ但シ常置信號機ト聯動ノ裝置ヲ施シタル轉轍器ハ此ノ限ニ在ラス

第四條 踏切道ノ監視
 交通頻繁ナル踏切道及停車場内ノ踏切ハ列車運轉中番人ヲ置キ常ニ之ヲ看守セシムヘシ
 前項ノ踏切ハ列車ノ通過前ニ閉テ通過後速ニ之ヲ開クヘシ

第五條 建築定規内ノ障礙物

建築定規ノ限界内ニ障礙物ヲ置クコトヲ得ス又其ノ以外ニ在リテモ其ノ限界内ニ崩落シ來ルノ虞アル物ノ之ヲ置クコトヲ得ス

第六條 停車場

停車場内待合所、便所、乘降場等ハ常ニ之ヲ清潔ニ保持スヘシ
 停車場入口、踏線橋、地下道及乘降場等ハ旅客ノ通行ニ不便ナキ機常ニ之ヲ保持スヘシ
 乘降場階面ヨリ四呎以内其ノ他旅客ノ通行ニ妨害トナルヘキ場所ニ物品ヲ積置クコトヲ得ス

第七條 車輛ノ狀態

車輛ハ常ニ安全ニ運轉スルコトヲ得ヘキ狀態ヲ備フルコトヲ要ス
 車輛ハ各部ヲ検査シ試運轉ヲ爲シタル後ニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第八條 機關車ノ検査

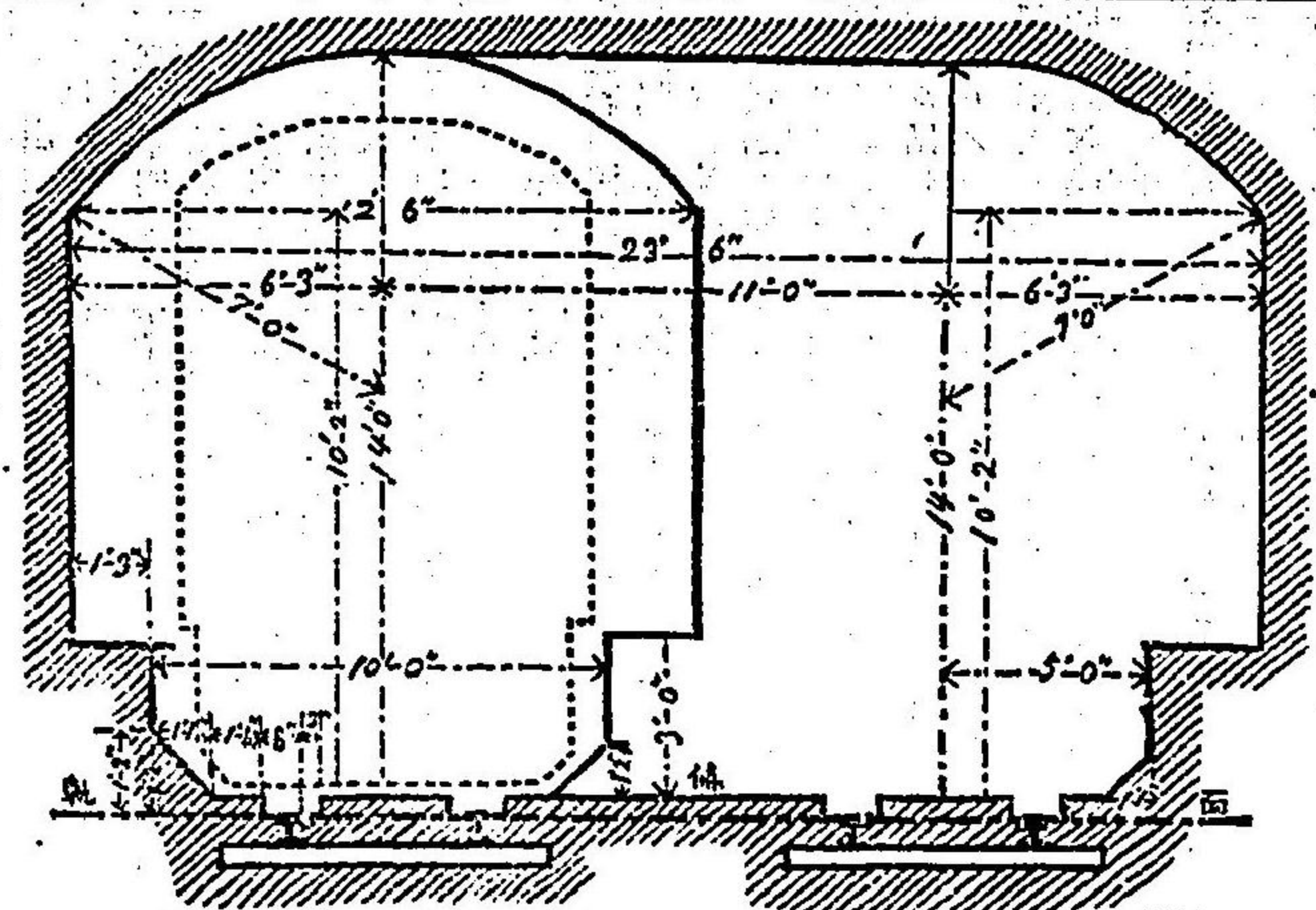
機關車ハ使用前及使用開始後少クトモ三箇年毎ニ一回又三箇年以内ト雖汽機ノ取換ヲ爲シ若シ汽機ニ重要ナル修繕ヲ施シタル際ニハ其ノ各部ヲ検査シ同時ニ汽機ノ試驗ヲ爲スヘシ
 汽機ノ試驗ニハ水力ヲ用ヒ其ノ試驗壓力ハ汽機ノ最高實用壓力ニ三割五分以上ヲ増シタルモノナルヘシ
 前項ノ試驗ニ際シ汽機力其ノ原形ヲ變シ位留セザ

第九條 客貨車ノ検査
 客貨車各部ノ検査ハ使用ノ狀況ニ依リ時々之ヲ施行シ客車ニ在リテハ少クトモ三箇年毎ニ一回車輪ハ車輛附著ノ處ニ修繕具及彈簧ヲ取外シ之ヲ施行スヘシ
 検査ノ成績ハ修繕ニ詳記シ置クヘシ
 列車ノ始發及終着停車場中間所屬ノ停車場ニ於テ各車ノ要部ヲ検査スヘシ

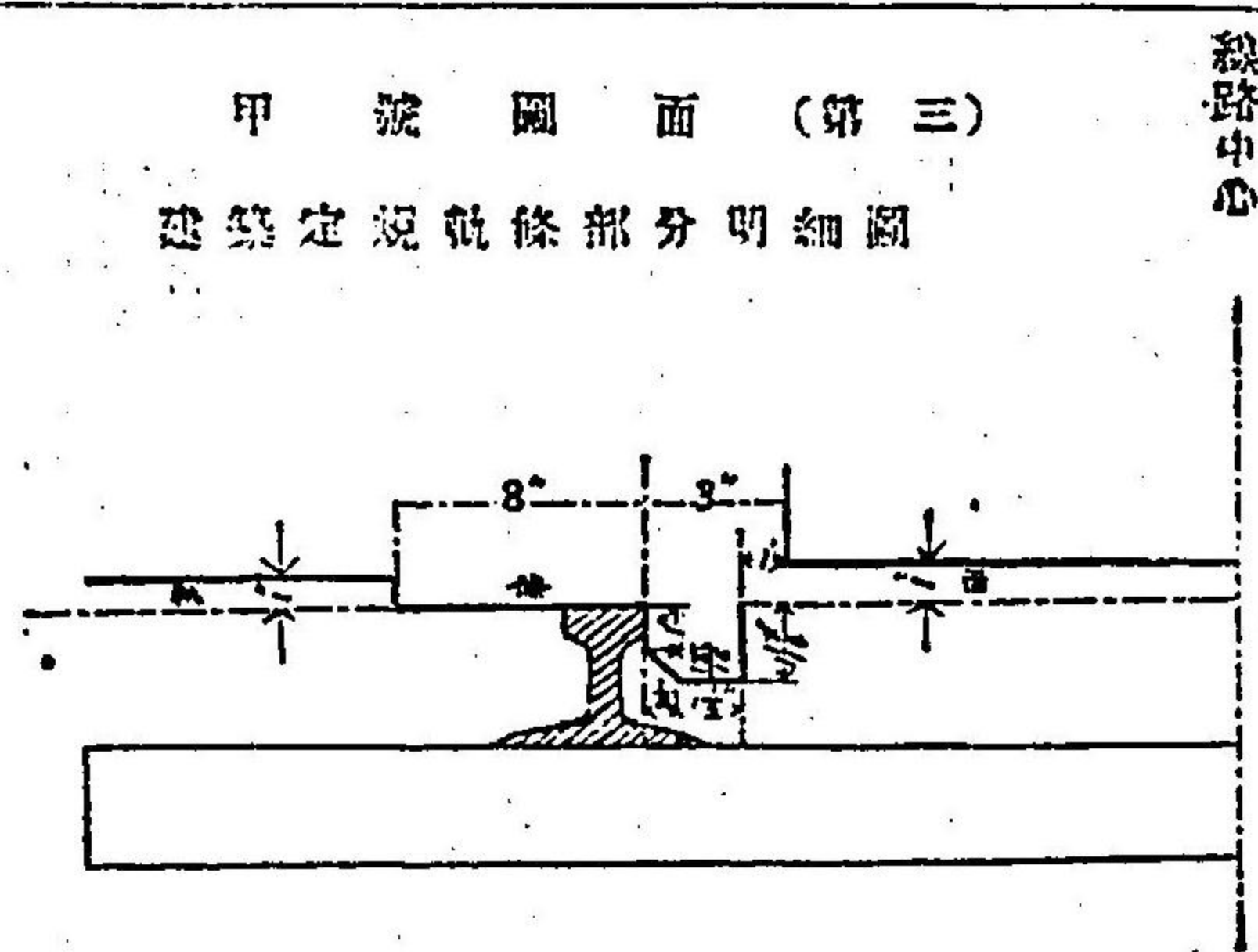
第十條 車輛ノ標記

機關車ニハ左ノ事項ヲ標記スヘシ
 一 所屬鐵道ノ記號
 二 番號
 三 製造所ノ名稱及製造ノ年
 四 第八條第一項最終検査ノ年月
 客貨車ニハ左ノ事項ヲ標記スヘシ
 一 所屬鐵道ノ記號
 二 番號
 三 製造所ノ名稱及製造ノ年
 四 客車ニハ等級及旅客定員

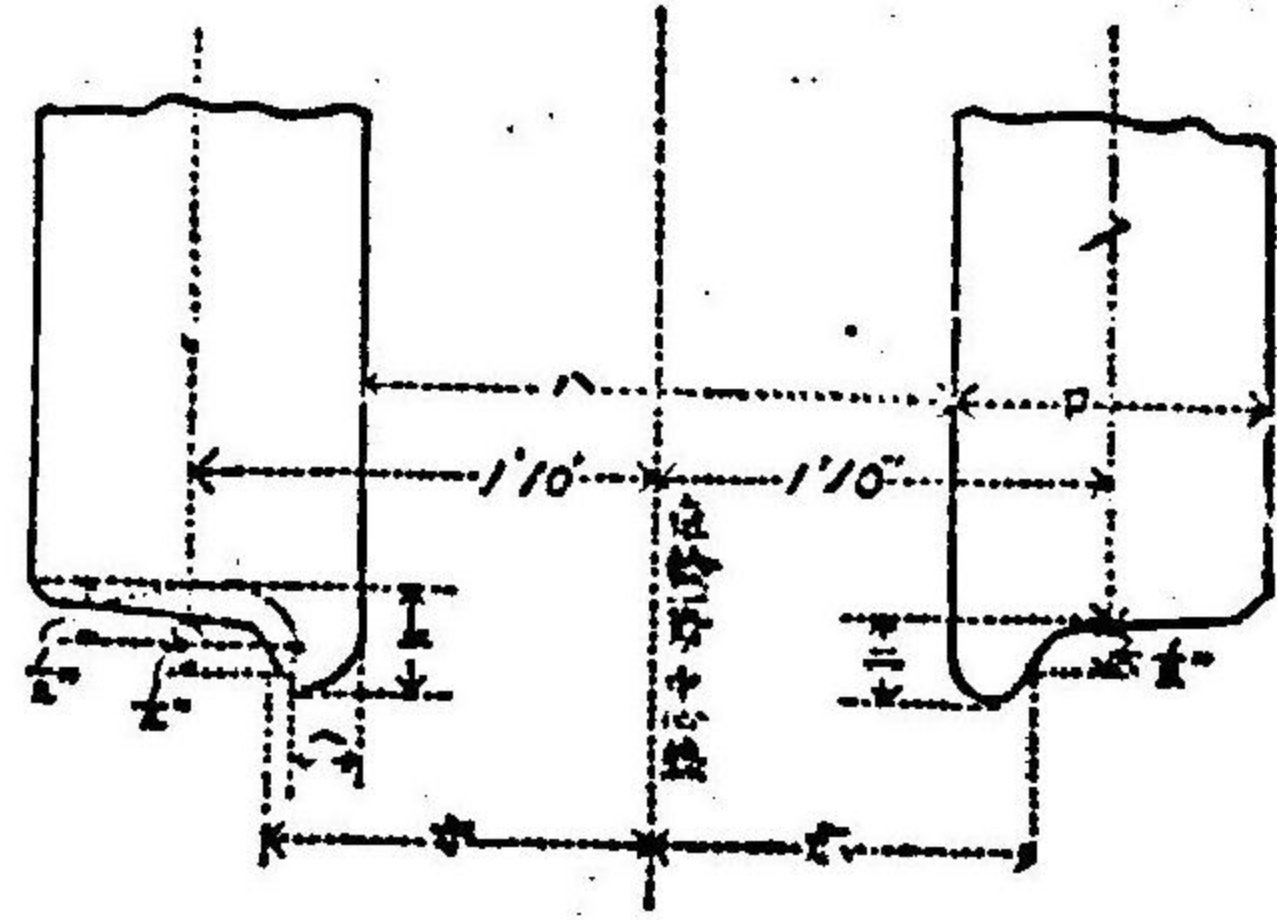
甲號圖面(第三) 停車場外建築定規



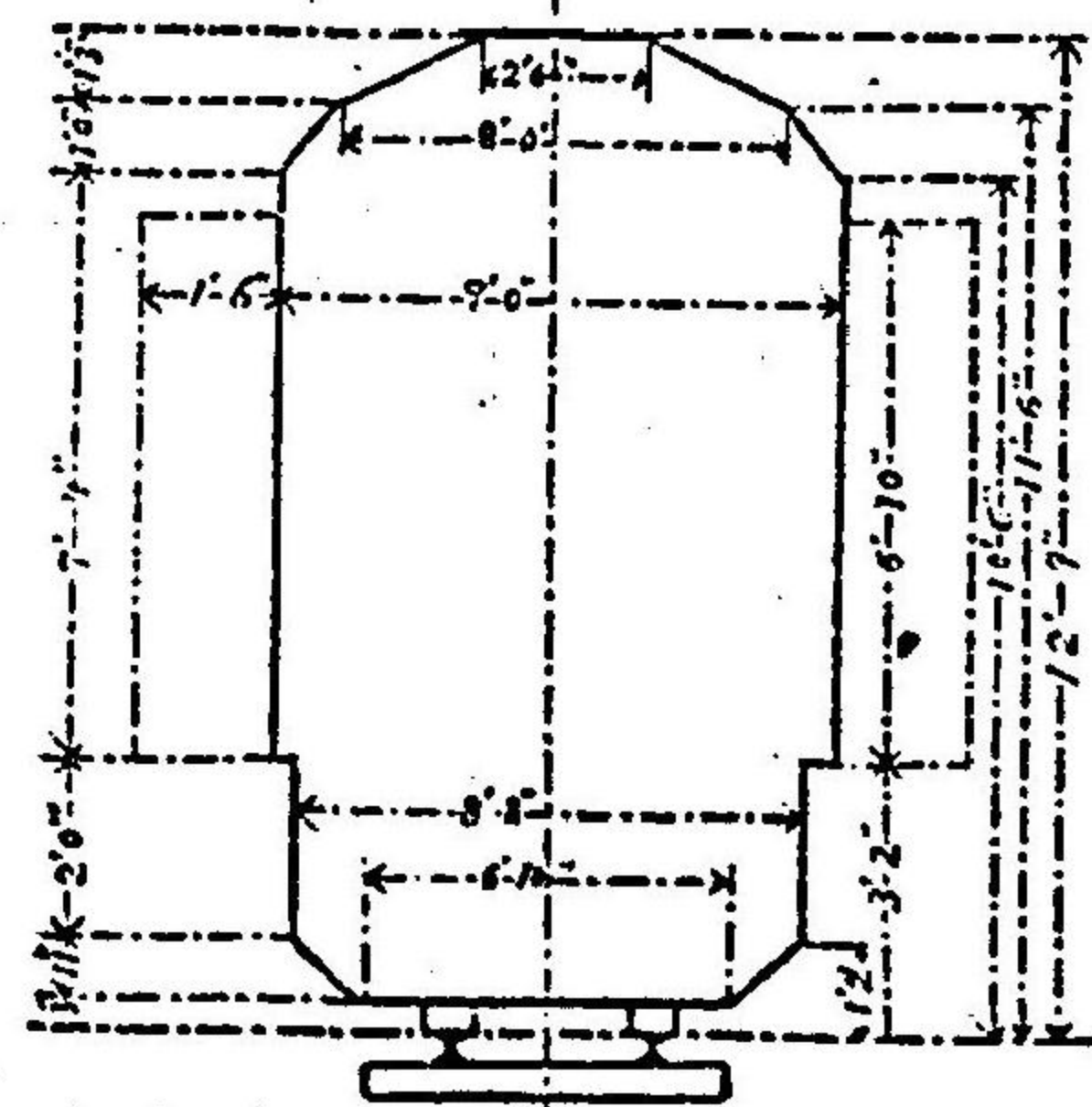
甲號圖面(第三) 建築定規軌條部分明細圖



丙號圖面 車輪各部之度方



乙號圖面 車輛定規



一、車輪ノ直徑 四吋半乃至六吋半
 二、輪軸ノ對ノ中間距離 三呎三吋乃至三呎三吋四分一
 三、輪軸ノ高 最小一吋最大一吋六分ノ七
 四、車輪一對ノ中心線ヨリ輪軸外面迄ノ距離最
 大一呎八吋四分ノ三
 五、輪軸ノ厚 最小四分ノ三吋

鐵道運輸規程

明治三十三年八月十日
逕信省令第三十四號

鐵道運輸規程

第一章 線路

第一條 線路ノ狀態
 線路ハ常ニ第二十二條第一項ノ最大速度ヲ以テ危
 險ナク列車ヲ運轉スルコトヲ得ヘキ狀態ヲ備フル
 コトヲ要ス但シ修繕又ハ改良工事施行等ノ場合ハ
 此ノ限ニ在ラス

第二章 線路ノ監視

第一條 線路ノ監視
 線路ハ列車運轉上危險ノ虞ナキ檢常ニ工夫ヲシテ
 之ヲ監視セシムヘシ
 線路ハ毎日少クトモ一回保線係員ヲシテ其ノ狀態
 ナリ監視セシムヘシ

第二條 對向轉轍器
 本線路ニ在ル對向轉轍器ハ列車又ハ車輛通過ノ際
 ハ之ヲ鎖錠シ置クカ又ハ其ノ取柄ヲ支持スヘシ但
 シ常設信機ト聯動ノ裝置ヲ施シタル轉轍器ハ此
 ノ限ニ在ラス

第三條 對向轉轍器
 本線路ニ在ル對向轉轍器ハ列車又ハ車輛通過ノ際
 ハ之ヲ鎖錠シ置クカ又ハ其ノ取柄ヲ支持スヘシ但
 シ常設信機ト聯動ノ裝置ヲ施シタル轉轍器ハ此
 ノ限ニ在ラス

第四條 踏切道ノ監視
 交通頻繁ナル道路ノ踏切及停車場内ノ踏切ハ列車
 運轉中踏切ノ閉切ヲ常ニ監視セシムヘシ
 前項ノ踏切ハ列車ノ通過前ニ閉切ヲ通過後ニ之
 ナ開クヘシ

第五條 建築定規内ノ障礙物
 建築定規ノ限内ニ障礙物ヲ置クコトヲ得ス又其
 ノ以外ニ在リテモ其ノ限内ニ崩壞シ來ルノ虞ア
 ル物ノ之ヲ置クコトヲ得ス

第六條 停車場
 停車場内待合所、便所、乗降場等ハ常ニ之ヲ清潔
 ニ保持スヘシ
 停車場入口、踏切橋、地下道及乗降場等ハ旅客ノ
 通行ニ不便ナキ檢常ニ之ヲ保持スヘシ
 乘降場橋面ヨリ四呎以内其ノ他旅客ノ通行ニ妨
 害ナルヘキ場所ニ物品ヲ置クコトヲ得ス
 停車場及乗降場ハ日没後少クトモ旅客列車發着三
 十分前ニ點燈スヘシ

第七條 車輛ノ狀態
 車輛ハ常ニ安全ニ運轉スルコトヲ得ヘキ狀態ヲ備
 フルコトヲ要ス
 車輛ノ各部ヲ檢査シ試運轉ヲ爲シタル後ニ非サレ
 ハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第八條 機關車ノ檢査
 機關車ハ使用前及後使用開始後少クトモ三箇年毎ニ
 一回又三箇年以内ト雖汽缸ノ取換ヲ爲シ若ハ汽缸
 ニ重要ナル修繕ヲ施シタル際ニハ其ノ各部ヲ檢査
 シ同時ニ汽缸ノ試驗ヲ爲スヘシ
 汽缸ノ試驗ニハ水力ヲ用ヒ其ノ試驗壓力ハ汽缸ノ
 最高實用壓力ニ三割五分以上ヲ増シタルモノタル
 ヘシ

第九條 試驗汽缸力其ノ原形ヲ變シ置クセザ
 前項ノ試驗ニ際シ汽缸力其ノ原形ヲ變シ置クセザ

第十條 試驗汽缸力其ノ原形ヲ變シ置クセザ
 前項ノ試驗ニ際シ汽缸力其ノ原形ヲ變シ置クセザ

第十一條 試驗汽缸力其ノ原形ヲ變シ置クセザ
 前項ノ試驗ニ際シ汽缸力其ノ原形ヲ變シ置クセザ

第十二條 試驗汽缸力其ノ原形ヲ變シ置クセザ
 前項ノ試驗ニ際シ汽缸力其ノ原形ヲ變シ置クセザ

第十三條 試驗汽缸力其ノ原形ヲ變シ置クセザ
 前項ノ試驗ニ際シ汽缸力其ノ原形ヲ變シ置クセザ

第十四條 試驗汽缸力其ノ原形ヲ變シ置クセザ
 前項ノ試驗ニ際シ汽缸力其ノ原形ヲ變シ置クセザ

旅客ノ乘込ミタル列車ニ二輛以上ノ車輛ヲ連結スルトキ又ハ動物若ハ危險品ヲ積載シタル車輛ヲ入レ換スルトキハ解放ノ儘ニ之ヲ爲スコトヲ得ス

第二十六條 停止機關車及車輛
機關車力蒸氣ヲ有シ停止スル間ハ前汽弁ヲ閉テ向機ヲ中央ニ置キ制動機ヲ緊締シテ看守スヘシ
機關車ト連結セサル停止車輛ニハ制動ノ手段ヲ施スヘシ

第二十七條 運轉報告
列車ノ運轉ニ關シテハ驛長、車掌及機關手ナシテ報告表ヲ調製セシムヘシ
驛長報告ハ毎日各停車場毎ニ上リ列車及下り列車ノ二表トシテノ事項ヲ記載スヘシ

一 停車場名
二 年月日
三 當務者氏名
四 各列車番號
五 規定發着ノ時刻
六 實際發着ノ時刻
七 實際發生ノ場合ニ於テハ其ノ記事
八 車掌報告ハ毎日各列車毎ニ一表トシテノ事項ヲ記載スヘシ

一 列車番號
二 年月日
三 主任車掌、助務車掌及制動手氏名
四 運轉區間
五 停車場名
六 實際發着ノ時刻
七 實際發生ノ場合ニ於テハ其ノ記事
八 驛長報告ハ毎日一驛關車ノ仕業ヲ區別シテ上リ及下リノ二表トシテノ事項ヲ記載スヘシ

一 機關車番號
二 年月日
三 機關手及火夫氏名
四 運轉區間
五 停車場名
六 實際發着ノ時刻
七 實際發生ノ場合ニ於テハ其ノ記事
八 驛長報告ハ毎日各停車場毎ニ上リ列車及下り列車ノ二表トシテノ事項ヲ記載スヘシ

一 運轉報告表
二 運轉報告表
三 運轉報告表
四 運轉報告表
五 運轉報告表
六 運轉報告表
七 運轉報告表
八 運轉報告表

第二十八條 本規程ニ於テ旅客列車トハ特ニ明文アル場合ノ外混合列車亦同シ
單行機關車ノ運轉ニ關シテハ列車ニ準ス

第二十九條 本規程ハ明治三十四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス
從來施行セル運轉上ノ規定ニシテ本規程ニ抵觸スルモノハ本規程施行ノ日ヨリ其ノ效力ヲ失フ

第三十條 特殊ノ設計ヲ必要トスル鐵道ニシテ本規程ニ依リ發着ノ時刻及局所運送ノ用ニ供スル鐵道ニ在リテハ必要ニ應ジ監督官廳ノ認可ヲ得テ本規程ノ適用ヲ省略スルコトヲ得

(別記)
鐵道列車保安規程

第一章 總則
第一條 列車ノ運轉ハ閉塞式ニ依ルヘシ
第二條 縱行列車ヲ運轉スルコトヲ得ヘキ線路ニ於ケル列車ノ運轉ハ閉塞式ニ依ルヘシ

於ケル列車ノ運轉ハ閉塞式ニ依ルコトヲ得
第三條 左ノ場合ニ於ケル列車ノ運轉ハ閉塞式ニ依ルコトヲ得
一 覆線ニ於テ一線カ閉鎖セラレタルトキ
二 單線又ハ複線ニ於テ一區間ヲ一時二區以上ニ分テタルトキ
三 通過力破損又ハ喪失セシトキ
前項ノ場合ニ於テ鐵道運轉規程第二十一條第二項ニ該當セザルトキハ閉塞式ヲ併用スヘシ

第四條 鐵道運轉規程第二十二條第五號及第六號ノ場合ニ於ケル列車ノ運轉ハ閉塞式ニ依リ閉塞式ヲ併用スヘシ

第五條 本規程ニ規定セザルモノト異ナリタル保安法ヲ用ヒムトスルコトキ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第二章 閉塞式
第六條 閉塞區間ノ兩端停車場、聯絡所及信號所ニハ閉塞器ヲ備フヘシ
第七條 閉塞器ハ線路上列車ノ有無ヲ表示スル電氣指針若ハ標識ヲ裝置シ之ニ電氣若ハ電氣指針等ヲ添設シ列車運轉上ノ必要ナル信號ヲ授受スルコトヲ得ヘキモノトスルヘシ

第八條 閉塞器ハ前條ノ信號ヲ授受スルノ外他ノ目的ニ使用スルコトヲ得ス

第九條 閉塞式ヲ施行スル線路ニ於テハ一列車區間ニ入ルノ信號ヲ前方ノ停車場、聯絡所若ハ信號所ニ送示シ先方ヨリ電氣指針若ハ標識ニ依リ之カ承認シ信號ヲ受クルコトヲ得ス

第十條 閉塞器ハ前條ノ信號ヲ授受スルノ外他ノ停車場、聯絡所若ハ信號所ニ於テハ該方ノ列車區間ニ入ルノ信號ヲ受ク之ニ承認スルヘシ

ムトスルトキハ電氣指針若ハ標識ヲ以テ承認ノ信號ヲ該停車場、聯絡所若ハ信號所ニ送示シ左ノ條件ヲ具備スルニ至ル迄ハ次ニ受領スル一列車區間ニ入ルノ信號ニ對シ承認ヲ與フルコトヲ得ス但シ線路ノ狀況ニ依リ第二號ノ條件ヲ合略スルコトヲ得

一 列車ノ全部無事ニ到着ス
二 列車他線若ハ次ノ區間ニ入ル
第十一條 總テ閉塞信號ヲ送示スルトキハ之ヲ受領スル停車場、聯絡所若ハ信號所ヨリ該信號ヲ承認シタル際ニシテ所定ノ信號ヲ返示セラルルニ非ザレバ之ヲ完了セシモノト認ムルコトヲ得

第十二條 單線ニ閉塞式ヲ施行スル場合ニ於テハ單線用トシテ特ニ造ラレタル閉塞器ヲ用フルコトヲ得但シ其ノ他ノ閉塞器ヲ用フルトキハ閉塞式ヲ併用スルコトヲ得

第三章 閉塞式
第十三條 閉塞ハ各區間一箇ニ限ル
閉塞ニハ該區間ノ兩端停車場、聯絡所若ハ信號所ノ名ヲ明記スヘシ又該區間ノ通過スルノ形狀ヲ異ニスヘシ
閉塞ハ其ノ使用區間ヲ明示シ該區間ノ通過ヲ以テスルニ非ザレバ閉塞ヲ能ハサル中ニ保管セラルルカ若ハ通過ニ錠鎖セラレタルコトヲ要ス又該區間ノ通過ハ其ノ形狀若ハ著色ヲ異ニスヘシ

第十四條 閉塞式ヲ施行スル線路ニ於テハ如何ナル列車ト雖其ノ機關車カ該區間ノ通過若ハ通過ヲ得ズルニ非ザレバ其ノ區間ヲ運轉スルコトヲ得ス

第十五條 閉塞式ヲ併用スル場合ノ外通過ヲ得ズルコトヲ得

第二十輯 運輸 第三章 鐵道 第三款 營業

鐵道信號規程
明治三十三年八月十日
逕信省令第三十五號

第一章 總則
第一條 鐵道信號規程左ノ通定ム

第一條 總則
本規程ニ於テ夜間トハ日没ヨリ日出迄ヲ指フ但シ極端風雪等時限ノ時ニ在リテハ晝間ト認ムルコトヲ得

第二條 晝間ニ於テ列車ニ向ヒ現示スル信號ハ夜間ノ法ニ依ル

第三條 信號ヲ現示スル定例ノ場所ニ何等信號ヲ現示セズ又ハ之ヲ現示スルモノ平常ト異ナル狀態ヲ呈スルトキハ危險信號ト見做スヘシ

第四條 信號ハ二箇以上ノ線路ニ兼用スルコトヲ得

第五條 本規程ニ於テ列車トハ特ニ明文アル場合ノ外單行機關車亦同シ

第二章 常置信號
第六條 常置信號機ハ柱上高ク設置シ該機ニ危險信號ヲ現示スルカ其ノ定位トシ必要ノ場合ニ於テ無難信號ヲ現示スルカ得ヘキモノトスルヘシ

第七條 常置信號ノ主要ナル種類左ノ如シ
一 場內信號 停車場内へ進入シ又ハ聯絡所若ハ信號所ヲ通過セムトスル列車ニ對スル信號ニシテ其ノ防護區域内へ進入ノ可否ヲ表示ス
二 遠方信號 列車カ該信號ト場內信號ノ防護區域トノ間ニ於テ必要ニ應ジ停止シ得ヘキ程度ヲ以テ除行スヘキカ又ハ相當速度ヲ以テ進行スヘキカヲ表示スルモノニシテ場內信號ノ防護區域外相當ノ距離ニ設置スヘキモノトス

三 出發信號 停車場ヨリ出發セムトスル列

車及通過列車ニ對スル信號ニシテ該信號
ヨリ外方へ進行ノ可否ヲ表示ス
四 側線信號 側線ニ關スル信號ニシテ其ノ
所屬線ニ出入セムトスル列車ニ對シ進行
ノ可否ヲ表示ス
前項第三號及第四號ノ信號機ハ第一號及第二號
ノ信號機ヨリ其ノ高ク低クシテ是區別シ易カラ
シムヘシ
第八條 二箇以上同種類ノ常置信號機一ノ柱ニ
設置スルトキハ最上位ニ在ルモノハ最左側ノ線
路ニ屬シ以下順次右方ノ線路ニ屬スルモノトス
第九條 常置信號機ハ夜間ハ之ニ向テ視ルトキ左腕
ノ位置又夜間ハ燈色ヲ以テ左ノ法式ニ依リ之ヲ
現示スヘシ
一 場內信號
一 危險信號(列車停止スヘシ)
夜間 腕ノ位置水平
二 無難信號(列車進行スヘシ)
夜間 腕ノ位置下向四十五度
三 進方信號
危險信號(列車進行スヘシ)
夜間 腕ノ位置水平
四 無難信號(列車進行スヘシ)
夜間 腕ノ位置下向四十五度
五 出發信號及側線信號
場內信號ノ法式ニ同シ
第十條 常置信號機ノ腕ハ長方形トシ其ノ表面ヲ
赤色、背面ヲ白色トシ腕端ニ近ク表面ニハ白色

線、背面ニハ黑色線ヲ登ニ畫スヘシ但シ遠方信
號機ニ限リ腕端ヲ矢形ニ切ルヘシ
第十一條 常置信號機ノ燈カ何色ヲ示スヤ後方
ヨリ列別スル必要アルトキハ左ノ背面部ヲ現示
スヘシ
一 赤色燈ノ背面 大ナル白光
二 綠色燈ノ背面 小ナル白光
第十二條 出發信號機及側線信號機ハ圓板信號機
ヲ以テ之ニ代用スルコトヲ得此ノ場合ニ於ケル
信號ハ左ノ法式ニ依ルヘシ
危險信號(列車停止スヘシ)
夜間 圓板正面ニ向フ
無難信號(列車進行スヘシ)
夜間 圓板側面ニ向フ
第十三條 停止場外線路ノ信號
第十三條 列車ノ停止若ハ後行ヲ要スル區域ノ兩
端ニハ左ノ法式ニ依リ信號ヲ現示スヘシ
危險信號(列車停止スヘシ)
夜間 赤色圓板正面ニ向フ
無難信號(列車進行スヘシ)
夜間 赤色圓板側面ニ向フ
第十四條 轉轍機ハ尖端軌條ト聯動シ之ヲ前方
又ハ後方ヨリ見ルモ夜間ハ標夜間ハ燈ノ表示ニ
依リ轉轍機方向ノ方向ニ開キ又如何ナル狀態

ニ在ルヤヲ容易ニ了解シ得ル號設タルコトヲ要
ス但シ標及燈ニハ赤色及綠色、用フヘカラス
第五章 手合圖
第十五條 信號機ヲ設ケル場所若ハ之ヲ用フル
コト能ハサル場合ニ於テ列車ニ向ヒ危險又ハ注
意信號ヲ現示セムトスルトキハ左ノ法式ニ依
リ手合圖ヲ爲スヘシ
危險信號(列車停止スヘシ)
夜間 赤色旗ヲ現示スルヲ定メトシ已ムテ
得サル場合ニハ片腕ヲ高ク舉ケ之ニ
代フ
注意信號(列車進行スヘシ)
夜間 綠色旗ヲ現示スルヲ定メトシ已ムテ
得サル場合ニハ片腕ヲ高ク舉ケ之ニ
代フ
第十六條 何色ノ燈ニテモ又如何ナル物體ニテモ
之ヲ急激ニ振リ回ハストキハ危險信號ヲ示スモ
ノトス
第十七條 故障ノ爲列車途中ニ停止シ又ハ事故若
ハ必ズニ因リ一時線路ヲ閉鎖スル場合ニ於テ
ハ其ノ所ヨリ單線ニ在リテハ前後各四分ノ三
哩以上、複線ニ在リテハ後方同距離以上ニ於テ
第十九條 規定スル發信信號ニ伴ヒ第十五條ノ
危險信號ヲ現示スヘシ但シ四分ノ三哩以内ニ停
車場、聯絡所若ハ信號所アリテ之ニ通知シタル
トキハ該方面ニ對シ本條信號ヲ現示ヲ要セス
第六章 發信信號
第十八條 發信信號ハ他ノ信號ノ現示シアルコト
ヲ警告スルノ用ニ供スルモノトス
發信信號ハ相互約四十呎ヲ隔テ發信二箇以上ヲ

軌條上ニ附著スヘシ
第十九條 第十七條ノ場合ニ於テハ晴雨晝夜ヲ論
セズ同條ニ規定セル危險信號現示ノ場所ニ發信
信號ヲ設置スヘシ
第二十條 發信信號アリトキ之ニ伴ヒ他ニ何等
信號ノ現示ナキハ危險信號ト見做スヘキモノト
ス
第七章 車輛入換合圖
第二十一條 停車場ニ於テ機關車ヲ以テ車輛ノ入
換ヲ爲ストキハ左ノ法式ニ依リ合圖ヲ爲スヘ
シ
一 牽引セヨ
晝間 綠色旗ヲ上下ニ振ルヲ定メトシ
已ムテ得サル場合ニハ片腕ヲ上
下ニ動かシ之ニ代フ
夜間 綠色燈ヲ上下ニ動かカス
二 推進セヨ
晝間 綠色旗ヲ左右ニ振ルヲ定メトシ
已ムテ得サル場合ニハ片腕ヲ左
右ニ動かシ之ニ代フ
夜間 綠色燈ヲ左右ニ動かカス
三 停止セヨ
晝間 赤色旗ヲ現示スルヲ定メトシ已
ムテ得サル場合ニハ兩腕ヲ高ク
舉ケ之ニ代フ
夜間 赤色燈ヲ現示ス
第二十二條 車輛ヲ聯結セサル機關車ニ對シテハ
左ノ法式ニ依リ合圖ヲ爲スヘシ但シ前通ト退却
トハ機關車前後部ノ別ニ依リ之ヲ定ム
前通セヨ 前部牽引ノ法式ニ同シ
退却セヨ 前部推進ノ法式ニ同シ
停止セヨ 前部停止ノ法式ニ同シ

第八章 列車乘務員ノ合圖
第二十三條 列車出發ノ際車掌ハ機關手ニ向ヒ左
ノ法式ニ依リ合圖ヲ爲スヘシ
晝間 片腕ヲ水平ニ伸ヘ手當チ長聲ニ吹ク
夜間 綠色燈ヲ高ク圓形ニ動かシツツ手當チ
長聲ニ吹ク
第二十四條 列車乘務員ハ保線係員又ハ踏切警等
ハ直ニ線路ヲ檢査スヘキ旨ヲ通告スル必要アル
トキハ左ノ法式ニ依リ合圖ヲ爲スヘシ
晝間 朝又ハ或ル物體ヲ二振ル
夜間 燈ヲ二振ル
第二十五條 機關手ハ左ノ法式ニ依リ汽笛合圖ヲ
爲スヘシ
一 機關車運轉ヲ始ムルトキ其ノ他注意ヲ促
ストキ 一聲
二 制動機ノ緊縮ヲ車掌ヘ促ストキ 一聲
三 制動機ノ緩解ヲ車掌ヘ促ストキ 一聲
四 列車ノ近ケルヲ停車場、聯絡所、信號所
又ハ往來頻繁ナル踏切ヘ告ケル必要アル
トキ 長聲汽笛 一聲
五 保線係員ヲ招集スル必要アルトキ 數聲
第九章 列車信號
第二十六條 列車ノ前部ニハ左ノ法式ニ依リ信號
ヲ掲ケヘシ
一 通常列車
晝間 別ニ信號ヲ掲ケス
夜間 機關車前部緩衝梁ノ右側ニ赤色
燈一箇
二 臨時列車
晝間 機關車前部緩衝梁ノ上ニ赤色圓板一箇
夜間 機關車前部緩衝梁ノ右側ニ綠色
燈一箇
三 反對ノ方向ニ運送スル列車
單線ニ於ケル臨時列車ノ法式ニ同シ
前項信號ノ外總テ機關車前部ノ上ニハ夜間白色
燈ヲ點スヘシ
第二十七條 機關車ヲ逆向シ列車ヲ牽引スルトキ
及推進列車ノ場合ニ於テハ前條ニ規定スル信號
及點燈ハ總テ列車前部ノ相當位置ニ掲ケヘキモ
ノトス
第二十八條 列車ノ後部ニハ左ノ法式ニ依リ信號
ヲ掲ケヘシ
一 通常及臨時列車
晝間 後部緩衝梁ノ右側ニ白色
後方ハ赤色ヲ示シ圓板各一箇、
後部緩衝梁ノ左側ニ赤色圓板一
箇
夜間 後部緩衝梁ノ右側ニ白色
後方ハ赤色ヲ示シ圓板各一箇、
後部緩衝梁ノ左側ニ赤色燈一箇

二 同上列車ノ後部ニ補助機關車ヲ附スルトキ
 蓋間 後部緩急車ノ兩側ニ前方へ白色
 後方へ赤色ヲ示ス圓板各一箇ト
 補助機關車後部緩急車ノ左側ニ
 赤色圓板一箇
 夜間 後部緩急車ノ兩側ニ前方へ白色
 後方へ赤色ヲ示ス燈各一箇ト補
 助機關車後部緩急車ノ左側ニ赤
 色燈一箇
 三 同上列車推進ノトキ
 蓋間 機關車後部緩急車ノ左側ニ赤色
 圓板一箇ト別ニ前部緩急車ノ兩
 側ニ後方へ白色ヲ示ス圓板各一
 箇
 夜間 機關車後部緩急車ノ左側ニ赤色
 燈一箇ト別ニ前部緩急車ノ兩側
 ニ後方へ白色ヲ示ス燈各一箇
 四 單行機關車ノ場合
 蓋間 機關車ノ後部緩急車ノ左側ニ赤
 色圓板一箇
 夜間 機關車ノ後部緩急車ノ左側ニ赤
 色燈一箇
 無蓋緩急車ニ在リテハ其兩側ニ掲クヘキ圓板及
 燈ヲ省略スルコトヲ得
 第二十九條 臨時列車ノ出發アルトキハ之ニ先シ
 同方向ニ運轉スル列車ノ後部ニハ前條ニ規定ス
 ル信號ノ外左ノ信號ヲ掲クヘシ
 蓋間 緩急車ノ右側ニ赤色圓板一箇
 夜間 緩急車ノ右側ニ赤色燈一箇
 第三十條 第二十八條及第二十九條ノ場合ニ於テ
 蓋間ノ同色ノ燈ヲ以テ圓板ニ代用スルコトヲ得

前項代用燈ニハ夜間信號ノ法式ニ依ルヘキ場合
 ノ外蓋間點火ヲ要セス
 第三十一條 停車場ニ於ケル車輛入ノ換用機關車
 ハ夜間前部緩急車ノ右側及後部緩急車ノ左側ニ
 赤色燈各一箇ヲ掲クヘシ
 第三十二條 列車力長半哩以上ノ隧道ヲ通過スル
 トキハ蓋間ト雖夜間信號ヲ用フヘシ
 第三十三條 夜間列車ノ一部ヲ停車場外線路ニ留
 置スルトキハ其ノ所在ヲ示ス爲少クトモ前部及
 後部ニ赤色燈各一箇ヲ掲クヘシ
 附則
 第三十四條 本規程ハ明治三十四年十月一日ヨリ
 之ヲ施行ス
 從來使用セル信號ニシテ本規程ニ抵觸スルモノ
 ハ本規程施行ノ日ヨリ其ノ效ヲ失フ
 第三十五條 特殊ノ設計ヲ必要トスル鐵道ニシテ
 本規程ニ依リ難キモノ及局部運送ノ用ニ供スル
 鐵道ニ在リテハ必要ニ依リ監督官廳ノ認可ヲ得
 テ本規程ノ適用ヲ省略スルコトヲ得

●鐵道運輸規程
 明治三十三年八月十日
 運信省令第三十六號

第一章 總則
 第一條 鐵道係員ハ運輸上ノ安全便宜ヲ旨トシ旅
 客及公眾ニ對シ懇切ニ其ノ職務ヲ行フヘシ
 第二條 旅客及公眾ハ鐵道係員ノ職務上ノ指圖ニ
 從フヘシ
 第三條 鐵道ハ主要ナル停車場ニ中寄附ヲ備置ク
 コトヲ要ス

第四條 旅客貨物ノ取扱ニ關シ鐵道ノ處置ニ不當
 ノ際アリト認ムル者ハ前條ノ中寄附ニ認シテ抗
 告ヲ爲スコトヲ得
 中寄附ニ依リ抗告ヲ爲ス者ハ事實ヲ詳記シ其ノ
 住所ヲ記シ署名スルコトヲ要ス
 鐵道ハ氏名住所ヲ明示シタル抗告ニ付テハ運送
 ナク聲明ヲ與フヘシ
 第五條 停車場ニハ見易キ場所ニ警告ヲ明示シ其
 ノ他旅客ノ指導タルヘキ標示ヲ爲スヘシ
 第六條 停車場ニハ旅客及貨物ノ運送時、列車時
 刻表其ノ他運輸上必要ナル諸表規則等ヲ備置ク
 ヘシ
 第七條 停車場ニハ旅客及貨物ノ運送ニ必要ナル
 事項及鐵道ノ取締ニ關スル法令其ノ他ノ條項ヲ
 摘要シテ之ヲ揭示スヘシ
 第八條 效用ナル中央ヒタル諸標示類ハ即時ニ之ヲ撤
 去スヘシ
 第九條 停車場ニハ時計ヲ備付ケ正確ニ時刻ヲ察
 正スヘシ
 第二章 旅客運送
 第十條 停車場ニハ見易キ場所ニ當リ停車場口
 ノ列車出發時刻及到着時刻並運送列車ノ數
 著明ナル標示スヘシ
 第十一條 停車場ニハ當該線路ニ於ケル列車時刻
 表、運賃表及必要ニ應ジ他ノ關係線路ニ於ケル
 時刻表及運賃表ノ摘要ヲ揭示スヘシ
 第十二條 停車場ニハ見易キ場所ニ當リ停車場
 ノ運送貨物標示スヘシ
 第十三條 四年未滿ノ小兒ハ無賃、滿四年以上十
 二年未滿ノ小兒ハ半賃金ヲ以テ運送スヘシ
 第十四條 乘車券ニハ通用區間及期限、列車ノ等

級、運賃額並發行ノ日附ヲ記載スヘシ
 特種及臨時發行ノ乘車券ニ在リテハ前項ノ記載
 事項ヲ省略スルコトヲ得
 第十五條 停車場ニ於テハ少クトモ列車ノ出發時
 刻十五分前ニ乘車券ノ賣出ヲ開始スヘシ交通頻
 繁ナル停車場ニ於テハ少クトモ一時間前ニ之ヲ
 開始スヘシ
 出札ノ列車出發時刻五分前迄ハ之ヲ停止スルコ
 トヲ得ス
 改札口ハ同一分前迄ハ之ヲ閉鎖スルコトヲ得ス
 第十六條 鐵道ハ旅客ニ對シ運賃金額正算拂渡ヲ
 請求スルコトヲ得
 第十七條 旅客ハ改札前ニ在リテハ其ノ買受ケタ
 ル乘車券ヲ他級ノ乘車券ト交換シ又ハ之ヲ返還
 シテ運賃ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得但シ運賃拂
 戻ノ請求ハ乘車券發行ノ當日ニ限ル
 乘車券相當ノ坐席ナキ場合ニ於テ鐵道係員力便
 等車ニ一時便乗ノ取扱ヲ爲ササルトキハ旅客ハ
 選擇ニ依リ旅行ヲ止メ又ハ劣等車ニ移乗シテ運
 賃ノ金額又ハ差額ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得但
 シ此ノ場合ニ於テハ直ニ鐵道係員ニ申告スルコ
 トヲ要ス
 前二項ノ場合ノ外旅客ハ乘車券ヲ返還シ運賃ノ
 拂戻ヲ受ク又ハ劣等車ニ乘換ノ請求ヲ爲スコト
 ヲ得ス
 改札後ト雖坐席ノ餘裕アルトキハ旅客ハ何時ニ
 テモ運賃差額ヲ支拂ヒ優等車へ乗換ノ請求ヲ爲
 スコトヲ得
 第十八條 乘車券ハ其ノ通用區間中何レノ部分ニ
 付テモ之ヲ使用スルコトヲ得但シ特種ノ列車ニ
 付監督官廳ノ認可ヲ得テ別段ノ定ヲ爲シタルト
 キハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ハ乘車券額定ノ效ヲ妨ケス
 第十九條 天災事變其ノ他已ムテ得サル事由ニ因
 リ列車ノ運轉ヲ中断シタルトキハ旅客ニ對シ相
 當ノ便宜ヲ與ヘ及保護ヲ爲スヘシ
 前項ノ場合ニ於テ旅客ノ請求アルトキハ既ニ通
 過セル線路ニ對シ運賃ヲ控除シ殘額ノ拂戻ヲ
 爲シ且出發停車場へ無賃送還スヘシ
 第二十條 列車運送ノ爲相當ノ時間中ニ接續スル
 列車ニ乘車券スルコトヲ得サルトキハ運送乘車券
 ナク乘車券ニ限リ其ノ請求ニ因リ無賃ニテ出
 發停車場(途中下車セルトキハ其ノ最近下車停
 車場)ニ送還シ出發停車場ヨリ運賃途中下車
 セルトキハ其ノ最近下車停車場ト出發停車場ト
 ノ間ニ對シ運賃ヲ控除シ殘額ヲ拂戻スヘシ
 但シ旅客力大同ノ返リ列車ヲ以テ中断ナク復歸
 スルトキニ限ル
 第二十一條 旅客力任意ニ劣等車ニ便乗シタルト
 キハ運賃差額ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得ス
 第二十二條 事故ノ爲列車發着ノ遲延、運轉ノ中
 斷等アリタルトキハ關係停車場ニ運送ナク之カ
 揭示ヲ爲スヘシ
 第二十三條 乘車券ヲ所持セス又ハ無効ノ乘車券
 ヲ以テ乘車シ若ハ檢査ノ際乘車券ノ呈示ヲ拒ミ
 又ハ取集ノ際之ヲ渡ササル旅客ニ對シ鐵道ハ警
 通運賃二倍以内ノ罰金運賃請求スルコトヲ得
 乘車券ヲ買受ケルノ暇ナク鐵道係員ノ許諾ヲ得
 テ乘車シタル旅客ニ對シ鐵道ハ二十錢以内ノ増
 拂ヲ請求スルコトヲ得
 罰金運賃又ハ増拂ノ支拂ヲ受ケタルトキハ之ニ
 對シ罰金交付スヘシ
 第二十四條 列車出發時刻五分前ニ至ルトキハ鐵
 道係員ハ喚鈴其ノ他便宜ノ方法ニテ發車ノ注意

ナク與フヘシ
 第二十五條 列車ハ揭示時刻表ニ示サレタル時刻
 前ニ出發セシムルコトヲ得ス
 揭示時刻表ニ掲ケタル列車ノ運轉ハ天災事變其
 ノ他已ムテ得サル事由ニ基因シタル運送上ノ支
 障アルトキ若ハ之ヲ豫知シタルトキハ例外止ス
 ルコトヲ得ス
 第二十六條 鐵道係員ハ旅客ノ請求アルトキハ坐
 席ヲ指定スヘシ
 必要ト認ムルトキハ旅客ノ請求ナキ場合ト雖坐
 席ノ指定ヲ爲スコトヲ得
 旅客乘車中坐席ヲ離レ特ニ之ヲ占據カサルトキ
 ハ他人ノ之ヲ占據スルモ果シテ逃フルコトヲ得ス
 第二十七條 囚徒ヲ乘車セシムルトキハ普通旅客
 トノ之ヲ區別スヘシ
 第二十八條 列車出發ノ合圖アリタル後ハ旅客ハ
 乘車券スルコトヲ得ス
 出發時刻ニ後レタル爲發行當日限リ通用ノ車券
 券ノ效用ヲ失フニ至リタルトキハ其ノ翌日以内ニ
 限リ該乘車券ヲ以テ目的地ニ向ヒ發スル列車ニ
 乘車スルコトヲ得但シ乘換レノ際運賃ナク其ノ
 乘車券ヲ鐵道係員ニ提出シ有效ノ證明ヲ受ケタ
 ルトキニ限ル
 特ニ列車ヲ指定シタル乘車券ノ通用期限ハ前項
 ノ規定ニ依リテ延長セリルコトヲ得
 第二十九條 旅客ハ同乘者ニ迷惑ヲ及ハス風體、
 行爲ヲ爲スヘカラス
 車内ニ兜リ又ハ肢體ヲ車外ニ出タスヘカラス
 車内ノ器具、裝飾物ヲ汚損セサル様注意ヲ爲ス
 ヘシ
 煙草ノ燃燻、煙草ノ吸及及唾等ヲ唾壺ノ外ニ投
 スヘカラス

第三十七條 火藥類及危毒物ハ其ノ他及ホスヘキ虞アル物品、臭氣ヲ發シ若ハ不潔ナル物品及容積重量過大ナル物品ハ手荷物トシテ託送スルコトヲ得ス

第三十八條 鐵道ハ旅客一人ニ付少クモ三十斤送リ手荷物ヲ無貨ニテ運送スルノ便ヲ與フヘシ半貨金ニテ運送スル小兒ノ無貨手荷物斤量ハ前記斤量ノ半ヲ以テ制限トス

第三十九條 斤量ニ依リ運貨ヲ定メサル特定物品ハ小荷物トシテ託送ノ手續ヲ爲スヘシ

第四十條 託送手荷物ハ物品ノ散逸セザル機軸鎖緊束シ給フヘシ他ノ運送標記等ヲ附著スヘカラス

第四十一條 手荷物ヲ託送スル者ハ第十五條ニ規定スル乘車券發出時間内ニ其ノ手續ヲ爲スヘシ但シ列車出發時刻ヨリ少クモ五分前ニ之カ手續ヲ爲サザルトキハ大同ノ列車ヲ以テ運送セラルルモ故障ヲ述フルコトヲ得ス

第四十二條 手荷物ヲ託送スル者ハ其ノ乘車券ヲ鐵道係員ニ呈示スヘシ

第四十三條 手荷物ノ託送ヲ受ケタルトキハ引換ノ符號ヲ交付シ之ヲ引換ニ引渡サザルコトヲ得ス

第四十四條 手荷物ノ受取ノ際前記引換ノ符號ヲ所持セザルトキハ其ノ受取ルヘキ權利アルコトヲ證明シ又ハ相當ノ擔保ヲ供スルニ非サルハ之カ引渡ヲ請求スルコトヲ得ス

第四十五條 託送手荷物ハ其ノ到達停車場ニ於テ之カ引渡ヲ爲スヘキモノトス但シ時間其ノ他取扱ニ於テモ之カ引渡ヲ爲スヘシ

第四十六條 第十九條及第二十條ノ規定ニ於テ旅客ヲ送還スルトキハ該旅客ノ託送セル手荷物ハ旅客ト共ニ之ヲ無貨送還スヘシ此ノ場合ニ於テ手荷物運賃ノ償還ハ旅客運賃ノ例ニ依ル

第四十七條 手荷物到達後二十四時間内ニ引取フサルトキハ保管料ヲ請求スルコトヲ得

第四十八條 鐵道ハ惡意又ハ重大ナル過失ニ因リ手荷物ノ滅失又ハ毀損ニ付テハ旅客一人ニ對シ價格百圓以内ニ限リ損害賠償ノ責任スルモノトス

第四十九條 紛失手荷物ニ對シ賠償ヲ爲シタル後該手荷物ヲ發見シタルトキハ其ノ手荷物ヲ發見シタルトキニ該旅客ニ之ヲ通知スルコトヲ要ス

第五十條 手荷物ヲ以テ運送スルニ適スル貨物ハ小荷物トシテ旅客列車(混合列車亦同シ)ヲ以テ運送ノ便ヲ開クヘシ

第五十一條 第三十九條ノ物品ノ旅客ノ請求ニ因リ旅客ト同一列車ヲ以テ運送スヘシ

第五十二條 行商人及呼賣商人ノ攜帶スル商品ハ其ノ請求ニ因リ小荷物トシテ旅客ト同一列車ヲ以テ運送スヘシ

第五十三條 小荷物ヲ託送セムトスル者ハ列車出發時刻ヨリ少クモ二十分前迄ニ其ノ手續ヲ爲スヘシ但シ第五十一條及第五十二條ノ小荷物ニ付テハ第四十一條ノ規定ヲ準用ス

第五十四條 第三十七條、第四十條、第四十三條及第四十四條ノ規定ハ小荷物ノ運送ニ之ヲ準用ス

第五十五條 第四十二條、第四十五條乃至第四十七條ノ規定ハ第五十一條及第五十二條ノ小荷物ニ之ヲ準用ス

第五十六條 小荷物ノ運送ニハ本章ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外第八章ノ規定ヲ準用ス

第五十七條 死體ヲ託送セムトスル者ハ列車始發停車場ニ於テハ其ノ出發時刻ヨリ少クモ六時間前迄ニ、中間停車場ニ於テハ同時刻ヨリ少クモ十二時間前迄ニ其ノ申込ヲ爲スヘシ

第五十八條 死體ハ堅固ナル棺槨ニ納メ密塞スヘシ

第五十九條 死體ヲ託送セムトスル者ハ死亡證書ヲ呈示シ且運送狀ニ其ノ寫ヲ添ヘ差出スヘシ

第六十條 死體ノ運送ニハ託送人ニ於テ附添人ヲ附スヘシ

第六十一條 死體ハ手荷物車又ハ有蓋貨車ヲ以テ運送スルモノトス但シ特約ニ因リ特別車ヲ用フ

第六十二條 死體ハ他ノ荷物ト離隔搭載スヘシ飲食物及其ノ原料等ハ死體ト同一車中ニ共載スルコトヲ得ス

第六十三條 死體搭載ノ車輛ヲ託送人ノ請求アル場合ノ外旅客列車(混合列車亦同シ)ニ附結スヘシ

第六十四條 死體ハ到達後速ニ之ヲ引取ルヘシ若シ六時間内ニ引取ラザルトキハ鐵道ハ所轄警察官署ニ之ヲ届出ツヘシ

第六十五條 貴重品運送
金銀貨、金、紙幣、郵便切手、同業書、印紙、有價證券、寶石等貴重品ノ運送ニ付請求スル増賃金ハ左ノ割合ヲ超過スヘカラス

一 二十五兩未満	同	金十錢
一 二十五兩以上	同	金十五錢
一 五十兩以上	同	金二十錢
一 一百兩以上	同	金二十五錢
一 二百兩以上	同	金五錢

第六十六條 前條ニ明記シタル品目ノ外貴重品ノ品目ヲ定メトスルコトキハ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第六十七條 貴重品ノ嚴重ニ包裝封印シ列車出發時刻ヨリ少クモ三十分前迄ニ託送ノ手續ヲ爲スヘシ

第六十八條 貴重品ノ運送ニ付定メタル列車ニ限ルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ該列車ノ貨物車場ニ標示スルコトヲ要ス

第六十九條 貴重品ノ運送ニハ本章ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外第八章ノ規定ヲ準用ス

第七十條 手荷物車ヲ以テ運送スルニ適スル小動物ハ旅客列車(混合列車亦同シ)ヲ以テ運送ノ便ヲ開クヘシ

第七十一條 旅客ノ攜帶スル小動物ハ旅客ノ請求ニ因リ旅客ト同一列車ヲ以テ運送スヘシ

第七十二條 小動物ハ其ノ到達停車場ニ於テ即時ニ之カ引取ヲ爲スヘシ之カ引取ヲ爲サザルトキハ鐵道ハ之ヲ飼養スルノ義務ナシ

第七十三條 旅客ノ攜帶スル犬ヲ除ク外小動物ハ運出ノ虞ナキ棧箱、網若クハ箱等ニ納メ託送スヘシ

第七十四條 旅客列車(混合列車亦同シ)ニ依ル小動物ノ運送ニ付テハ前條ニ定メタル場合ヲ除ク外小荷物運送ニ關スル規定ヲ準用ス

第七十五條 鐵道ハ動物ノ運送ニ付附添人ヲ請求スルコトヲ得

第七十六條 附添人ノ乘車賃ハ下等旅客運賃ノ定額ヲ超過スルコトヲ得ス

第七十七條 附添人ハ動物ヲ監視シ暴行ノ虞ヲ受ケルニ非

サレトモ他車ニ轉乘スルコトヲ得ス
 附添人ノ藥、枯草等燃易キ物品アルトキハ喫
 煙具及煙火シ易キ物品ヲ車中ニ攜帶スルコトヲ
 得ス
 第七十六條 猛獸ヲ託送セムトスル者ハ逃走其ノ
 他危害防止ノ爲充分ナル編網ヲ施スヘシ
 第七十七條 動物ヲ託送セムトスル者ハ其ノ
 中込ヲ爲シ列車出發時刻ヨリ少クトモ一時間前
 迄ニ之ヲ停車場ニ送致スヘシ
 鐵道力動物運送列車ヲ定メテ公告シタルトキハ
 託送人ハ前項ノ申込ヲ爲スコトヲ要セス
 第七十八條 動物ノ積卸ハ鐵道ノ請求アルトキハ
 託送人、受取人ニ於テ之ヲ擔當シ且之ニ要スル
 材料ヲ準備スヘシ
 第七十九條 小動物ノ外動物ハ到達ノ通知ヲ受ケ
 タル後速ニ之ヲ引取テ爲スヘシ之ヲ引取テ爲サ
 サルトキハ鐵道ハ之ヲ飼養スルノ義務ナシ
 第八十條 託送ノ際價格ヲ明告シ鐵道ノ請求ニ因
 リ増賃金ヲ支拂ヒタル場合ノ外鐵道ノ惡意又ハ
 重大ナル過失ニ因テサレバ鐵道ノ損失賠償ニ付テ
 ハ左ニ掲ケル金額以內ニ限リ賠償ヲ請求スルコ
 トヲ得
 一 馬 一頭ニ付 金七十圓
 一 乳牛 同 金三十圓
 一 牛 同 金十圓
 一 羊 同 金十圓
 一 豚 同 金五圓
 一 山羊 同 金十圓
 一 其ノ他ノ獸類 同 金五圓
 第八十一條 託送ノ際明告セラレバ價格前條制
 限額ヲ超ニルトキハ鐵道ハ其ノ超過額ニ對シ左
 ニ掲ケル割合以內ニ於テ増賃金ヲ請求スルコト
 ヲ得
 一 五十哩未満 同 (増賃金) 金十圓
 一 五十哩以上百哩未満 同 金十五圓
 一 百哩以上二百哩未満 同 金二十圓
 一 二百哩以上ノ二 同 金五圓
 前項ノ規定ニ準據シ増賃金ヲ定ムルトキハ監督
 官廳ニ届出ツヘシ
 第八十二條 動物ノ運送ニハ本章ニ別段ノ定アル
 場合ヲ除ク外第八十條ノ規定ヲ準用ス
 第八十條 大荷物 大貨物ノ運送
 第八十三條 鐵道力直ニ運送セムコトヲ得サル
 場合ニ於テ特約ヲ以テ發送送保管ノ爲貨物ノ引
 渡ヲ受ケタルトキハ運送狀ニ特約ノ條件ヲ明記
 スルコトヲ要ス
 荷送人ハ鐵道ノ承諾ヲ得テ停車場其ノ他ノ鐵道
 地内ニ自己ノ責任ヲ以テ發送送一時貨物ヲ留置
 スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ鐵道ハ相當ノ留
 置料ヲ請求スルコトヲ得
 第八十四條 貨物ヲ託送セムトスル者ハ貨物取扱
 時間内ニ運送狀ヲ添ヘ其ノ手續ヲ爲スヘシ
 第八十五條 運送狀ニハ左ノ事項ヲ掲ケルコトヲ
 要ス
 一 運送狀作成ノ地及年月日
 二 發送停車場ノ名稱
 三 到達停車場及所屬鐵道名
 四 届先、荷受人ノ氏名又ハ商號及住所
 五 貨物ノ品名、重量又ハ容積及其ノ荷重ノ種
 類、箇數或記號
 六 價格ヲ明告スヘキトキハ其ノ價格
 七 運送便ノ種類
 八 運賃ノ支拂方法
 九 貨物引換請求ノ有無
 十 特約ノ條件アルトキハ其ノ事項
 十一 荷送人ノ氏名又ハ商號及住所
 第八十六條 鐵道ハ運送狀ノ式紙ヲ停車場ニ備置
 キ荷送人ノ使用ニ供スヘシ
 第八十七條 託送ノ際荷送人ノ請求アルトキハ鐵
 道ハ運送狀ノ原本ヲ交付スヘシ此ノ場合ニ於テ
 ハ金五圓以內ノ手数料ヲ請求スルコトヲ得
 第八十八條 鐵道ハ貨物ノ運送ヲ引受ケタルトキ
 ハ運送狀ニ其ノ交付附號ヲ記入スヘシ
 第八十九條 貨物引換請求ニハ左ノ事項ヲ掲ケルコ
 トヲ要ス
 一 貨物引換作成ノ地及年月日
 二 第八十五條第二號乃至第八號第十號及第十
 一號ニ掲ケタル事項
 三 第八十八條ノ受付附號
 四 運賃、増賃金、料金ノ額及其ノ受否
 第九十條 荷送人ハ貨物ノ性質ニ依リ運送中ノ減
 量又ハ毀損ヲ防クニ必要ナル措置ヲ爲スヘシ
 貨物ニハ各箇ニ箇數、記號、宛名等ヲ明記シ其ノ
 外面ニ標記シ他物ト取違ハサル様ニ爲スヘシ
 且成レハク到達停車場名ヲ附記スヘシ
 第九十一條 貨主カ貨物ノ積卸ヲ爲スヘキ場合ニ
 於テハ貨物取扱時間内ニ之ヲ爲スヘシ
 貨切貨車ニ付テハ鐵道ハ之ヲ準備シ積卸時
 間ヲ定メ貨主ニ通知スヘシ
 貨主カ前項ノ期間内ニ積卸ヲ爲サザルトキハ其
 ノ運送ニ對シ鐵道ハ監督官廳ノ認可ヲ得タル車
 輛留置料ヲ請求スルコトヲ得

第九十二條 一箇ノ重五百斤以上若ハ其ノ才積
 三十才以上ノ貨物及二車以上ノ跨長大ナル貨
 物ノ積卸ハ貨主ノ負擔トス
 第九十三條 貨主カ積卸ヲ負擔スル場合ニ於テ鐵
 道所屬ノ器具ヲ使用スルトキハ鐵道ハ監督官廳
 ノ認可ヲ得タル料金を請求スルコトヲ得
 第九十四條 貨物ノ運賃其ノ他運送ノ爲受ケル料
 金ハ鐵道ノ認諾アルトキノ外貨物運送ノ際ニ之
 ヲ支拂フヘシ
 運賃金額ヲ確定スルコトヲ得サルトキハ鐵道ハ
 概算額ヲ請求スルコトヲ得
 第九十五條 鐵道保護ヲ要シ又ハ雨澤ヲ避ケルノ
 必要アルモノ若ハ火氣ニ感シ易キ物品ハ有蓋貨
 車ニ搭載スヘシ但シ特約アル場合ハ此ノ限ニ在
 ラス
 第九十六條 鐵道ハ無蓋貨車用ノ帆布及網ヲ準備
 スヘキモノトス其ノ使用ニ對シ料金を請求スル
 コトヲ得但シ貨車貸切ノ場合ニ於テ特約アル
 トキハ此ノ限ニ在ラス
 第九十七條 貨物カ到達停車場ニ到達シタルトキ
 ハ鐵道ハ直ニ到達ノ通知ヲ爲シ之ヲ引渡ノ準備
 ヲ爲スヘシ
 貨物カ停車場外ニ送致セラレハキモノナルトキ
 ハ直ニ之ヲ配送ノ手續ヲ爲スヘシ
 貨物引取期間ノ懈怠ニ對シ保管料、留置料ヲ請
 求セムトスルトキハ鐵道ハ第一項ノ通知ニ其ノ
 旨ヲ明記シテ告知ヲ爲スコトヲ要ス
 第九十八條 貨物ハ其ノ到達ノ通知ヲ受ケタル後
 二十四時間内ニ引取ノ手續ヲ爲スヘキモノトス
 前項ノ期間内ニ引取ヲ爲サザルトキハ鐵道ハ保
 管料ヲ請求スルコトヲ得
 前項ノ保管料ハ監督官廳ノ認可ヲ得且運賃表ニ
 第二十輯 運輸 第三章 鐵道 第三款 營業

附記シテ停車場ニ揭示スルコトヲ要ス
 荷受人カ荷卸ヲ爲スヘキ場合ニ於テ第一項ノ制
 限内ニ引取ヲ爲サザルトキハ鐵道ハ荷受人ノ負
 担ヲ以テ貨物ノ引渡前荷卸ヲ爲スコトヲ得
 第九十九條 貨物ノ滅失又ハ毀損アリタルトキハ
 鐵道ハ速ニ調査ヲ遂ゲ之ヲ書面ニ具シ荷送人及
 荷受人ニ通知スヘシ
 第一百條 貨物引換請求ヲ交付シタル場合ニ於テ該証
 ノ紛失等ニ因リ之ヲ引換ニ貨物ノ引渡ヲ請求ス
 ルコトヲ得サルトキハ鐵道ハ引渡請求人ニ於テ
 其ノ權利ヲ證明シ又ハ相當ノ擔保ヲ供シタルト
 キニ限リ貨物引渡ノ義務アルモノトス
 第一百一條 貨物引渡ノ際重量ノ検査若ハ貨物ノ狀
 態ニ付證明ヲ請求セラレタルトキハ鐵道ハ之ヲ
 拒ムコトヲ得ス
 第一百二條 第十九條ノ規定ハ貨物ノ運送ニ之ヲ準
 用ス
 附 則
 第一百三條 本規程ハ鐵道營業法施行ノ日ヨリ之ヲ
 施行ス

明治三十九年九月二十八日
 逓信省告示第四百三十二號
 公務ヲ以テ往來スル陸海軍軍人軍屬及警察官吏又
 ハ軍馬銃砲彈藥糧食被服軍用具鐵兵器具天幕等ニ
 シテ公用タルコトヲ證明スル通券アルモノ故因徒及
 監督官吏ハ來十月一日ヨリ官設鐵道ニ於テ運賃半
 價ヲ以テ輸送スヘシ但輸送手續ハ私設鐵道ニ關ス
 ル規定ニ準シテ之ヲ取扱フ

●鐵道係員職制
 明治三十三年八月十日
 逓信省令第三十七號

鐵道係員職制左ノ通定ム
 第一條 鐵道ニハ左ノ係員ヲ設ケ
 運輸長
 車輛長
 保線長
 車掌
 出札掛
 改札掛
 貨物掛
 小荷物掛
 電信掛
 機車掛
 信號手
 轉轍手
 轉轍主任
 機關主任
 機關手
 火夫
 車輛検査費
 注油夫
 保線手
 線路工夫
 橋梁掛
 踏切掛
 第二條 運輸長ハ鐵道ノ運輸及鐵道用電氣通信並
 信號ニ關スル事務ヲ掌理シ所屬ノ係員ヲ監督ス
 第三條 車輛長ハ車輛ノ修理、保管及運轉ニ關ス
 ル事務ヲ掌理シ所屬ノ係員ヲ監督ス
 第四條 保線長ハ線路並橋梁建造物ノ修理及保存ニ

關スル事務ヲ掌理シ所部ノ係員ヲ監督ス
第五條 驛長ハ運輸長ノ指揮ヲ承ケ驛務ヲ處理シ
驛員ヲ監督ス
第六條 車掌ハ運輸長ノ指揮ヲ承ケ列車ノ運轉及
輸送ノ事務ニ従事ス
第七條 車掌ハ列車力停車場内ニ在ルトキハ驛長ノ指示
ヲ承ケテ其ノ事務ヲ執行ス
第八條 車掌ハ車内ノ秩序ヲ保持スル爲必要アル
トキハ旅客ニ對シ相當ノ指圖及處分ヲ爲スコト
ヲ得
第九條 出札掛ハ驛長ノ指揮ヲ承ケ乗車券發賣ノ
事務ニ従事ス
第十條 改札掛ハ驛長ノ指揮ヲ承ケ乗車券ノ檢査
及取收ノ事務ニ従事ス
第十一條 貨物掛ハ驛長ノ指揮ヲ承ケ運送貨物ノ
受授、保管ノ事務ニ従事ス
第十二條 小荷物掛ハ驛長ノ指揮ヲ承ケ小荷物及
手荷物ノ受授、保管ノ事務ニ従事ス
第十三條 電信掛ハ驛長ノ指揮ヲ承ケ停車場ニ於
ケル電氣通信ノ事務ニ従事ス
第十四條 機車掛ハ驛長ノ指揮ヲ承ケ停車場ニ於
ケル車輛ノ入レ換及操配ニ従事ス
第十五條 信號手ハ驛長ノ指揮ヲ承ケ信號ノ取扱
ニ従事ス
第十六條 轉轍手ハ驛長ノ指揮ヲ承ケ轉轍器ノ取
扱ニ従事ス
第十七條 驛夫ハ驛長ノ指揮ヲ承ケ停車場ニ於ケ
ル雜務ニ従事ス
第十八條 機關庫主任ハ車輛長ノ指揮ヲ承ケ機關
庫ニ關スル事務ヲ處理シ所屬ノ係員ヲ監督ス
第十九條 機關庫主任ハ指示ヲ承ケ機關

車運轉ノ事務ニ従事ス
機關庫主任ハ在リテハ車掌又列車力停
車場内ニ在ルトキハ驛長ノ指示ヲ承ケ其ノ事
務ヲ執行ス
第二十條 火夫ハ機關庫主任ノ指示ヲ承ケ其ノ職
務ニ従事ス
火夫ハ機關庫主任ノ指示ヲ
承ケテ其ノ職務ニ従事ス
第二十一條 注油夫ハ機關庫主任ノ指示ヲ承ケ其
ノ職務ニ従事ス
第二十二條 車輛檢査番ハ機關庫主任ノ指示ヲ承
ケ其ノ職務ニ従事ス
第二十三條 保線手ハ保線長ノ指揮ヲ承ケ線路ノ
修理、保存ノ事務ニ従事シ所屬係員ヲ監督ス
第二十四條 線路工夫ハ保線手ノ指示ヲ承ケ其ノ
職務ニ従事ス
第二十五條 隨道番、橋梁番及踏切番ハ保線手ノ
指示ヲ承ケ線路、橋梁及踏切ノ看守ニ従事ス
停車場内及其ノ附近ニ於ケル看守ニ付テハ驛長
ノ指示ヲ承ケ其ノ職務ニ従事ス
第二十六條 鐵道ハ其ノ狀況ニ依リ本廠制ニ定ム
タル係員ノ職務ヲ分チ若シテ合シテ則ニ係員
ヲ兼テシコトヲ得
第二十七條 本廠制ニ定ムタル係員以外ニ現業從事員ヲ置ク
トキハ私設鐵道ハ其ノ職掌ヲ定メ届出ツヘシ之
ヲ變更スルコトキ亦同シ
第二十八條 現業從事員ヲ分チ主務ノ係員ヲ置キ又ハ
特種ノ現業從事員ヲ置カシムルコトアルヘシ
第二十九條 現業從事員ノ職掌ハ定員表ヲ調製

シテ届出ツヘシ之ヲ變更スルコトキ亦同シ
附則
第二十九條 本廠制ハ鐵道營業法施行ノ日ヨリ之
ヲ施行ス
明治三十三年八月十日
逓信省令第三十八號

●傳染病患者鐵道乘車規程
傳染病患者鐵道乘車規程左ノ通定ム
第一條 傳染病患者ヲ乘車セシムルコトキハ
醫者ノ力申込ケ爲シ鐵道ノ承諾ヲ受ケルコトヲ
要ス
第二條 前條ノ申込ケタルトキハ鐵道ハ列車
ヲ指定シ其ノ他運送上旅客及公衆ノ安全ヲ保ス
ルニ必要ナル事項ヲ指定スルコトヲ得
第三條 傳染病患者ハ傳染病預防法第九條ニ依リ
當該員ヨリ移送認可ヲ得タルコトヲ證明スル
ニ非サレハ乘車セシムルコトヲ得ス
第四條 傳染病患者ニハ少クモ一人ノ附添人ヲ
附スルコトヲ要ス
第五條 傳染病患者ハ貸切車ヲ以テ運送シ普通旅
客ト其ノ車輛ヲ區別シ當該掛員ノ外一切之方交
通ヲ遮斷スヘシ
第六條 傳染病患者ハ傳染病預防法第九條ニ依リ
移送ノ認可ヲ受ケタル地ノ外張リニ下車セシム
ルコトヲ得ス
第七條 傳染病患者ヲ搭載セル車輛ハ其ノ入口ニ
「傳染病者」ノ四字ヲ掲示スヘシ
第八條 傳染病患者車中ニ於テ死亡シタルトキハ
警察官又ハ其ノ他ノ當該員ニ之ヲ申報スヘシ

●火藥類鐵道運送規程
明治三十四年五月二十四日
逓信省令第二十六號
明治三十四年五月二十五日
逓信省令第二十七號
火藥類鐵道運送規程左ノ通定ム明治三十四年六
月十五日ヨリ施行ス
明治十八年工部省告示第十四號火藥類鐵道運送
規程ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス

第一條 鐵道ニ依リ火藥類ヲ運送スルコトキハ本規
程ヲ遵守スヘシ
第二條 火藥類ノ荷送人カ銃砲火藥類取締法施行
規則ニ依リ當該官廳ノ運搬許可證ヲ受ケヘキ場
合ニ於テハ鐵道係員ハ其許可證ヲ檢閱スヘシ
第三條 火藥類ノ荷送人ハ少クモ四十八時間前
ニ發送停車場ニ託送ヲ申込ミ承諾ヲ求ムヘシ
第四條 火藥類ハ銃砲火藥類取締法施行規則ノ規
定ニ依リ容器ニ收納スヘシ
但シ軍用ノ託送ニ係ルモノハ當該軍衛所定ノ容
器ニ收納スルコトヲ得
前項ノ火藥類ハ其ノ容器ノ外部見易キ所ニ火藥
ト標記スヘシ
第五條 火藥類ノ受授ハ事務ノ鐵道係員ニ非サレ
ハ之ヲ爲スコトヲ得ス

火藥類ノ持込ミハ鐵道係員ヨリ特定シタル日時
ニ限ル
第六條 一車以上ノ火藥類ノ運送ヲ引受ケタルト
キハ荷送人ニ對シ附添人ヲ要求スルコトヲ得
附添人ハ火藥類積載ノ貨車ニ乗込ムコトヲ得
附添人ノ乘車費ハ下等旅客運賃ノ定額ヲ超過ス
ルコトヲ得ス
第七條 無蓋貨車ハ火藥類ノ運送ノ用ニ供スルコ
トヲ得ス有蓋貨車ト雖モ其ノ内部ニ鐵製ノ釘又
ハ螺絲等ノ突起スルモノ亦同シ
第八條 銃砲火藥類取締法施行規則ニ依リ別所ニ
積載スルコトヲ要スル火藥類ハ一車中ニ之ヲ混
載スルコトヲ得ス
第九條 火藥類積載ノ重量ハ貨車積載定額ノ三分
ノ二ヲ超過スルコトヲ得ス又其ノ重量ハ一車四
噸以下ニ限ル
第十條 火藥類ハ左ノ事項ヲ具備スル場合ノ外之
ヲ他ノ貨物ト一車中ニ混載スルコトヲ得ス
一 小銃用安全彈藥筒、雷管若シテ雷管ノミヲ裝
著セル銃砲ノ空彈筒、雷管、安全導火線、信
管、雷管起爆筒ヲ附セサル黃色火藥類積載
ニ關シテ是等物品及五十斤以下ノ火藥(タ
イナマイト)類火藥等別於火藥類ヲ除ク)ニ
シテ其ノ包裝ヲ安全堅牢ナラシメ且外部見
易キ所ニ火藥ト明記シタルトキ但シ火藥ハ
黃色藥ト混載スルコトヲ得ス
二 混載貨物カ容易ニ燃焼シ又ハ爆發ノ原因ト
ナルヘキ炭ナキモノナルトキ
三 火藥類及混載貨物ノ重量ヲ合シテ貨車積載
定額ノ三分ノ二ヲ超過セザルトキ

四 混載貨物カ火藥類ト同一停車場ヨリ發送ス
ルモノナルトキ
五 混載貨物カ火藥類ヨリ後ニ荷卸ナ爲スヘキ
モノナルトキ
第十一條 火藥類ハ廢棄、動搖、衝突又ハ轉轍セザ
ル積載ニ積載スヘシ
第十二條 火藥類ノ積卸等ヲ爲ストキハ之ヲ投下
スルコトヲ得ス又本、麻布若シテ毛布ノ類ヲ以テ
其ノ經過スヘキ場所ヲ蔽ヒタルトキノ外之ヲ轉
轍スルコトヲ得ス
第十三條 火藥類ヲ取扱フ者ハ鐵釘等ヲ附シタル靴類ヲ穿
テ又ハ鐵釘其ノ他發火シ易キ物品ヲ携帯シ又ハ
吸煙スルコトヲ得ス
第十四條 火藥類ノ取扱ハ運搬ナク之ヲ完了スヘシ
第十五條 火藥類積載ノ貨車ノ兩側面ニハ見易キ
位置ニ白地ニ火藥ト赤膏シタル標記ヲ附スヘシ
第十六條 火藥類積載貨車ノ前後ニハ各二輛以上
ノ不燃貨物ヲ積載シタル貨車若シテ空車ヲ連結ス
ヘシ
第十七條 火藥類積載ノ貨車ハ五輛以下ニ非サレ
ハ他貨物積載ノ列車ニ之ヲ連結スルコトヲ得ス
第十八條 鐵道ノ自用ニ供スル信號用雷管及第十
條第一號ニ掲ケタル火藥ノ外他ノ火藥類ヲ積載
シタル貨車ハ旅客列車(混合列車亦同シ)ニ之ヲ
連結スルコトヲ得ス
第十九條 火藥類積載ノ貨車ニ於テハ制動機ヲ使
用スルコトヲ得ス但シ車制動機ハ此ノ限ニ在
ラス
第二十條 火藥類ハ成ルヘク到達停車場比直進ス
ル列車ヲ以テ運送スヘシ又已ム得ザル場合ノ
外運送中ノ他ノ貨車ニ積載スルコトヲ得ス
第二十一條 火藥類運送ノ列車力停止スルコトキハ特

ニ車軸ヲ點檢シ危險ヲ生スルノ虞アリト認ムル
トキハ即時ニ車輛ヲ解放シテ危險防止ノ處置ヲ
爲スヘシ

列車運轉中車軸發熱ノ徵候ヲ發見シタルトキハ
進行ヲ止メ又ハ徐行シテ次ノ停車場ニ到リ即時
ニ車輛ヲ解放シテ危險防止ノ處置ヲ爲スヘシ

第二十條 火藥類運送ノ列車カ一時以上ノ停止
ヲ要スルトキハ離隔シタル線路ニ移シ危險防止
ノ處置ヲ爲スヘシ此ノ場合ニ於テハ所轄警察官
署又ハ巡查駐在所派出所若ハ停車場出張ノ警察
官吏ニ之ヲ届出ツヘシ

第二十一條 火藥類積載ノ貨車カ到達停車場ニ達
シタルトキハ即時ニ之ヲ荷受人ニ通知シ運送ナ
ク停車場外ニ其ノ火藥類ヲ搬出セシムヘシ但シ
附添人アル場合ニ於テハ附添人ヲシテ直ニ之ヲ
受取ラシムルコトヲ得

荷受人カ六時間内ニ其ノ火藥類ヲ停車場外ニ搬
出セサルトキハ離隔シタル線路ニ移シ危險防止
ノ處置ヲ爲スヘシ

第二十二條 旅客ハ火藥類ヲ携帯シテ乗車スルコ
トヲ得ス但シ少量ノ小銃用火藥類ヲ携帯スル場
合ハ此ノ限ニ在ラス

●鐵道作業局乘車券ノ通用期限
並改缺及割増運賃規定

明治三十八年二月二十四日
逕信省告示第六十九號

鐵道作業局乘車券通用期限、乘車券ノ改缺及割増
運賃等左ノ通相定メ來月一日ヨリ施行ス
但明治三十八年鐵道總務告示第三號及同三十
一年逕信省告示第八十七號ハ本告示施行ノ日ヨ
リ廢止ス

第一條 五十哩未滿ノ乘車券ヲ所持スルモノ途中
ノ停車場ニ下車シタルトキハ他ノ列車ニ乘繼ク
コトヲ得ス

五十哩以上ノ乘車券ヲ所持スルモノハ指定ノ停
車場ニ限リ下車シ再ヒ他ノ列車ニ乘繼クコトヲ
得

五十哩以上ノ乘車券通用期限左ノ如シ

一 五十哩以上百哩未滿ノ 二日
一 百哩以上二百哩未滿ノ 二日
一 二百哩以上ノ 三日

但シ通用期限ハ總テ發行當日ヨリ起算ス

第二條 旅客ハ乘車ノ際所持ノ乘車券ニ改缺ヲ受
ケルヘシ

旅客乘繼ニ途中下車スルトキ亦前項ニ同シ

第三條 乘車券ヲ買受ケル暇ナク乘車シ又ハ乘車
券相當ノ車室ヨリ優等車ニ轉乘スルトキハ係員
ニ申告シ座席ヲ受取ルヘシ

第四條 乘車券ヲ所持セス(廢止ノ乘車券ニ依
リテ)又ハ無効ノ乘車券ヲ以テ乘車シタル場合
ニ於テ其乘車等級不明ナルトキハ該列車ニ於ケ
ル最優等ノ車室ニ乘車シタルモノト見做シ運賃
ヲ計算ス

第五條 乘車券ヲ所持セス又ハ無効ノ乘車券ヲ以
テ乘車シ若クハ檢査ノ際乘車券ヲ呈示拒ミ又
ハ取換ノ際之ヲ滅ササルトキハ普通運賃ノ外之
ト額額ノ割増運賃ヲ支拂フヘシ

係員ニ申告セスシテ優等車ニ轉乘シタルトキハ
其運賃差額ノ外之ト額額ノ割増運賃ヲ支拂フヘ
シ

前二項ノ場合ニ於ケル割増運賃ハ乘車等級ニ應
ジ左ノ金額ヲ以テ限度トス

一等金三圓

二等金二圓

三等金一圓

第六條 乘車券ヲ買受ケルノ暇ナク係員ノ許諾ヲ
得テ乘車シタルトキハ普通運賃ノ外更ニ二十段
ノ増拂金カ普通運賃額ヨリ多キトキハ普通
運賃額ヲ限度トス

●鐵道作業局急行列車券規程

明治三十九年四月二十二日
逕信省告示第四百十二號

鐵道作業局急行列車券規程左ノ通相定メ本月十
六日ヨリ施行ス

急行列車券規程

第一條 新橋神戶間ニ運轉スル急行列車ニ乘車ス
ルモノハ乘車券ノ外更ニ急行列車券ヲ購求スヘ
シ

第二條 急行列車券料金ハ左ノ如シ

區別	急行	普通
一等	百五十哩未滿	百五十哩以上
二等	八十二圓	八十二圓
三等	五十五圓	五十五圓

四年未滿ノ小兒ハ無料、滿四年以上十二年未
滿ノ小兒ハ前項料金ノ半トス

第三條 急行列車券ハ途中ノ停車場ニ下車シタル
トキハ前途無効トス

第四條 天災事變其他ノ事由ニ因リ急行列車ノ運
轉ヲ中止シ又ハ途中ヨリ普通列車ニ變更シ若ハ
車輛ノ故障ニ因リ旅行ヲ繼續スルコトヲ得ザル
場合ニ於テハ急行列車券料金ハ全部戻戻シテ爲

●鐵道作業局旅客列車便ニ依リ
託送手荷物小荷物死體貴重品
小動物ノ運賃保管料及其取扱
手續

明治三十七年十二月五日
逕信省告示第四百八十八號

鐵道作業局旅客列車便ニ依リ託送手荷物、小荷物、
死體貴重品、小動物ノ運賃、保管料及其取扱手續
左ノ通相定メ明治三十八年一月一日ヨリ施行ス
明治三十四年逕信省告示第三百三十四號ハ本告示

施行ノ日ヨリ廢止ス

鐵道作業局旅客列車便ニ依リ託送手荷物、
小荷物、死體貴重品、小動物ノ運賃、保管料
及其取扱手續

第一條 旅客旅行ニ必要ナル物品ヲ託送スルト
キハ手荷物トシテ之ヲ引受ク一等旅客一人ニ付
百斤、二等同六十斤、三等同三十斤迄ハ無貨ヲ以
テ取扱フ

牛貨金ニテ運送スル小兒ノ無貨手荷物斤量ハ前
項斤量ノ半トス

無貨制限外ノ託送手荷物運賃ハ第七條通常小荷
物運賃ニ依ル

第二條 託送手荷物重量ノ計算方ハ箇數ニ拘ハラ
ズ總テ全斤量ニ依ル

第三條 託送手荷物ヲ受付タルトキハ乘車券ノ裏
面ニ(手荷物)印ヲ捺捺ス

第四條 無貨制限内ノ手荷物ヲ託送シタル乘車券
ヲ以テ更ニ無貨ニテ手荷物ヲ託送セント欲スル
モノハ最初託送ノ停車場ニ於テ託送斤量ノ證明
ヲ受クヘシ

第五條 無貨託送シタル手荷物ヲ途中驛ニ取卸シ
更ニ無貨託送ナサントスルトキハ驛ノ停車場
ニ於テ手荷物取卸證ヲ受ケ置クヘシ

前項ノ場合ニ於テハ該取卸證ニ記載シタル斤量
迄無貨ヲ以テ運送スヘシ

第六條 託送手荷物及旅客攜帶手荷物ニ對シ一箇
五錢ノ配達料ヲ支拂フトキハ停車場所在地市內
及其停車場ヨリ凡一里半以內ノ地ニ限リ配達ノ
取扱ヲナス

特ニ指定シタル停車場ニ於テハ前項配達ノ取扱
ヲ爲ササルコトアルヘシ

第七條 通常小荷物ノ運賃ハ左表ニ依ル

小荷物

重量	五錢以上	十錢以上	二十錢以上	四十錢以上
運賃	十錢	二十錢	四十錢	八十錢

●紙明紙ノ運賃ハ前項ニ依ル

第八條 紙細工、漆器、造花、硝子、磁器、玩具、輕便家具、器械類其他損傷易キカ又
ハ輕重ニシテ容易損傷ナル物品ノ運賃ハ總テ前條通常小荷物運賃ノ二倍トス
荷受人ヨリ持テ易損物品ヲ以テ運送方ヲ請求シタル物品ニ對シテモ亦前
項ノ運賃ニ依ル

第九條 行商人及呼賣商人ノ攜帶スル商品(貴重品及獸類ヲ除ク)ノ運賃ハ
左表ニ依ル

重量	二十五斤未滿	二十五斤以上五十斤未滿	五十斤以上
運賃	十錢	二十錢	四十錢

●紙明紙ノ運賃ハ前項ニ依ル

第十條 紙細工、漆器、造花、硝子、磁器、玩具、輕便家具、器械類其他損傷易キカ又
ハ輕重ニシテ容易損傷ナル物品ノ運賃ハ總テ前條通常小荷物運賃ノ二倍トス
荷受人ヨリ持テ易損物品ヲ以テ運送方ヲ請求シタル物品ニ對シテモ亦前
項ノ運賃ニ依ル

第十一條 行商人及呼賣商人ノ攜帶スル商品(貴重品及獸類ヲ除ク)ノ運賃ハ
左表ニ依ル

重量	二十五斤未滿	二十五斤以上五十斤未滿	五十斤以上
運賃	十錢	二十錢	四十錢

前記最高運程又ハ斤量ヲ超過スルモノハ總テ其物品ニ相當スル普通運賃ニ依ル

第十條 新聞紙及雜誌ノ運賃ハ運程ノ遠近ニ拘ハラス重量一斤ニ付金一錢、最低運賃五錢トス

第十一條 馬車、自働車、人力車、自轉車、小兒車、商品運搬車(空ノ運賃ハ斤量ニ依ラス一輛毎ニ左ノ割合ニ依ル)

但シ旅客自用ノ自轉車ハ一人一輛ニ限リ無貨トス尤モ無貨手荷物託送ノ權利ヲ有シテ手荷物ヲ託送セサル場合ニ限ル

馬車 一哩ニ付 最低運賃 金二十錢 金四圓

自働車 金十五錢 金三圓

人力車 金三錢 金六十錢

自轉車、小兒車 金二錢 金四十錢

第十二條 第七條、第八條、第十六條ノ物品(第七條中水ニ入レル活魚及第十六條中白銅貨並ニ引換證ヲ發行シタル物品ヲ除ク)ハ停車場所在都市内及其停車場ヨリ凡一里半以内ノ地ニ限リ無料ヲ以テ配送ノ取扱ヲ爲ス

第十三條 死體ノ運賃ハ一箇一哩ニ付金二十錢、最低運賃金四圓トス

但シ十二年未滿ノ小兒死體ハ半額トス

第十四條 死體到着後六時間以内ニ引取ラサルヨリ生スル費用ハ別ニ之ヲ請求スヘシ

第十五條 火葬遺骨(箱又ハ壺ノ類ニ納メタルモノ)ノ運賃ハ第七條通常小荷物運賃ノ二倍トス

第十六條 第一種貴重品(白銅貨、生絲、絹絲、糊織物、同類物類)ノ運賃ハ第七條通常小荷物運賃ニ依ル

第十七條 第二種貴重品(金銀貨、資金屬地金、同類物品、寶石、同類物品及高價ナル鍍金銀器、美術工器、骨董品、磁器、樂器、鏡、眼鏡、小間物等)ノ運賃ハ第七條通常小荷物運賃ノ二倍トス

但シ最低運賃金二十五錢トス

第十八條 第三種貴重品(紙幣、郵便切手、郵便葉書、印紙、有價證券其他金銀及物件ニ係ル證書類)ノ運賃ハ左ノ割合ニ依ル

但シ最低運賃金五十錢トス

一 五十哩以上 重量一斤ニ付金二十錢

一 五十哩以上 同 金三十錢

一 一百哩以上 同 金四十錢

一 一百哩以上 同 金五十錢

第十九條 荷送人ヨリ特ニ貴重品扱ヲ以テ運送方ヲ請求シタル物品ハ其物品ニ應シテ前記三條列記ノ第一種乃至第三種貴重品ニ準シテ之ヲ取扱フ

第二十條 貴重品ノ運送ニ對スル増賃金ハ左ノ割合ニ依ル

一 五十哩未滿 價格金百(金百圓未) 金十錢

一 五十哩以上 同 金十五錢

一 一百哩以上 同 金二十錢

一 一百哩以上 同 金三十錢

一 一百哩以上 同 金五十錢

第二十一條 容器ニ入レル小犬及其他小動物ノ運賃ハ第七條通常小荷物運賃ノ二倍トス

第二十二條 犬(容器ニ入レル小犬ヲ除ク)ノ運賃ハ左ノ割合ニ依ル

一 五十哩未滿 一頭ニ付 金二十錢

一 五十哩以上 同 金三十錢

一 一百哩以上 同 金四十錢

一 一百哩以上 同 金五十錢

第二十三條 獸類ノ運送ニ對スル増賃金ハ左ノ割合ニ依ル

一 五十哩未滿 一頭ニ付 金二十錢

一 五十哩以上 同 金三十錢

一 一百哩以上 同 金四十錢

一 一百哩以上 同 金五十錢

第二十四條 託送手荷物、行人及呼賣商人ノ携帶スル商品、旅客附隨ノ小荷物ハ到着後、小荷物及貴重品(停車場留置)ハ到着通知後二十四時間以内ニ引取ラサルモノハ保管料ハ左記各條ニ依ル

一 託送手荷物、通常小荷物、行人及呼賣商人ノ携帶スル商品、新聞紙雜誌ニ對スル保管料ハ一箇ニ付二十四時間若クハ其未滿ヲ増ス毎ニ左ノ割合ニ依ル

一 重量三十斤未滿 金二錢

一 同 三十斤以上 金四錢

一 同 百斤以上 金六錢

二 易損品、貴重品(第八條ノ物品)及貴重品ニ對スル保管料ハ前記ノ二倍トス

三 馬車、自働車ニ對スル保管料ハ一輛ニ付二十四時間若クハ其未滿ヲ増ス毎ニ金十錢

鐵道作業局大貨物運賃手數料及等級表

明治三十四年一月二十六日 運輸省告示第三十七號

鐵道作業局大貨物運賃、手數料及等級表左ノ通り定メ明治三十四年四月一日ヨリ施行ス

鐵道貨物運送規則及賃金表ノ同日以降之ヲ廢止ス

大貨物運賃及手數料

一 通常扱

一 一級品 百斤一哩ニ付 運賃割合 金二圓

二 二級品 金三圓

三 三級品 金四圓

四 高級品 金六圓

同一品種ノ貨物ニシテ一口二噸以上ノモノハ一噸一哩ニ付

一 貨切扱

一 高級品以下二品級 運賃割合 金二圓五錢

一 高級品級 金七錢

一 一級外品等(斤量ヲ以テ運) 金四錢

一 一種生獸(送セサル場合) 一車一哩ニ付 運賃割合

大貨物運賃

一 一級品 百斤一哩ニ付 運賃割合 金十二錢

二 二級品 金十三錢

三 三級品 金十四錢

四 高級品 金十六錢

但中ト價ト混載ノトキハ一頭ニ付價三頭ノ割合ヲ以テ計算ス

一 羊 一頭ニ付 金二圓

二 山羊 一頭ニ付 金三圓

三 豚 一頭ニ付 金四圓

四 馬 一頭ニ付 金十二圓

五 牛 一頭ニ付 金十二圓

六 六頭以上 一頭ニ付 金十二圓

七 頭數増ス毎ニ 一圓

八 但馬四ト騎ト混載ノトキハ馬四一頭ニ付騎三頭ノ割合ヲ以テ計算ス

九 但牛ト價ト混載ノトキハ牛一頭ニ付價三頭ノ割合ヲ以テ計算ス

一 級外品第二種危險品

一 一級品 百斤一哩ニ付 運賃割合 金七圓

二 二級品 金七圓

三 三級品 金七圓

四 高級品 金七圓

貨切扱

一 級外品第一種車輛類 運賃割合 金二圓五錢

一 自働車 一車ニ付 金二圓五錢

二 人力車 一車ニ付 金二圓五錢

三 小兒用 一車ニ付 金一圓五錢

四 馬車 一車ニ付 金十五錢

五 荷馬車 一車ニ付 金十錢

六 荷馬車及鞍(自己ノ車輛ニテ) 一車ニ付 金十錢

七 機關車及機車(運轉スルモノ) 一車ニ付 金二圓五錢

四 人力車、自轉車、小兒車、商品運搬車ニ對スル保管料ハ一輛ニ付二十四時間若クハ其未滿ヲ増ス毎ニ金五錢

第二十五條 運賃、保管料等ノ計算上重量ハ總テ皆掛トシ斤未滿ハ一斤ニ哩未滿ハ一哩ニ哩未滿ハ一錢ニ切上ケルモノトス

第二十六條 託送手荷物ニ對スル金屬製「チエツキ」ヲ紛失、毀損シタル場合ノ辨償金ハ一箇ニ付金三十錢トス

第二十七條 手荷物受託後品種相違、斤量超過アルトキハ左記各條ニ依リ運賃ノ追加ヲナスモノトス

一 手荷物中手荷物トシテ取扱フヘカラサル物品ヲ混シタルトキハ其物品ニ對スル相當運賃

二 斤量超過ノトキハ現斤量相當運賃ヨリ最初計算シタル運賃ヲ控除シタル差額

第二十八條 貨率異ナル小荷物ヲ一括シタル場合ニ於ケル運賃及保管料ハ貨率ノ高キモノニ依リ之ヲ計算スルモノトス

第二十九條 小荷物受託後品種相違、斤量超過アルトキハ左記各條ニ依リ運賃ノ追加ヲナスモノトス

一 品種相違ノトキハ現品相當運賃ヨリ最初計算シタル運賃ヲ控除シタル差額

二 斤量超過ノトキハ現斤量相當運賃ヨリ最初計算シタル運賃ヲ控除シタル差額

三 貨率ノ異ナル品種ノ物品ヲ混シタルトキハ該品種中貨率ノ最高ナルモノニ依リ全斤量ニ對スル運賃ヨリ最初計算シタル運賃ヲ控除シタル差額

<p>機關車及炭(自己ノ汽力ニテ) 運轉スルモノ 水車 一噸ニ付金一錢五厘 客車及貨車(自己ノ車輛ニテ) 二軸ノモノ(運轉スルモノ) 一車ニ付金二錢 客車及貨車(自己ノ車輛ニテ) 軸以上ノモノ(運轉スルモノ) 一車ニ付金四錢 一級外品第四種死體 一噸ニ付金一錢 死體 但小兒(十二歳未満)ハ此半額トス 金十五錢 一級外品第五種特種貴重品 臨時ノ約束ニ依ル 一級外品第一種 運送便扱 五十斤ニ付 金四十錢 運送便扱 百斤以上五十噸 金五錢 大貨物(運送便扱) 發着手数料 百斤ニ付發着手数料 料割合(發着各) 一、二、三級、高級品 一噸ニ付發着手数料 料割合(發着各) 一、二、三級、高級品 一噸ニ付發着手数料 料割合(發着各) 一、二、三級、高級品 一噸ニ付發着手数料 料割合(發着各)</p>	<p>牛 馬匹二同シ 六頭迄 金三十錢 六頭以上三頭 以內増ス每頭 金五錢 驢 駒二同シ 山羊 駒二同シ 豚 駒二同シ 一級外品第二種 運送便扱 百斤ニ付發着手数料 料割合(發着各) 一噸ニ付發着手数料 料割合(發着各) 一噸ニ付發着手数料 料割合(發着各)</p>	<p>一級外品第四種 一箇ニ付發着手数料 料割合(發着各) 金五十錢 死體 但小兒(十二歳未満)ハ此半額トス 一級外品第五種 臨時ノ約束ニ依ル 第一 貨物ハ本表記載ノ料割合ヲ以テ運賃ニ發着各停車場ニ於ケル發着手数料ヲ計算徴收シテ運送スルモノトス 第二 斤ニ依リ計算スルモノハ五十斤未満ハ五十斤ニ切上ク 第三 噸ニ依リ計算スルモノハ噸未満ハ噸ニ切上ク 第四 通常扱貨物ニシテ特ニ一車ヲ要スルモノハ其重量三噸以下ナルトキハ三噸分ノ貨金ヲ取リ發着便扱貨物ハ一噸未満ハ一噸分ヲ取ル 第五 運送便扱貨物ニ付テハ一噸ニ切上ク 第六 運送便扱貨物一口ノ運賃三錢ニ滿ササルモノハ三錢ヲ取リ又未滿三錢ニ滿ササルモノハ三錢ニ切上ク 第七 運送便扱貨物一口ノ中ニ異數ノモノハ同數ノモノト雖モ種類ノ異ナリタルモノハ運送便扱モノノ高級品貨金ニ依ル 第八 等級表中記載ナキモノハ類似ノ物品ニ依リ類似ノ物品ニ依リ運送スルモノハ三級品ノ貨金ニ依ル 第九 運送便扱貨物ハ鐵道作業員ニ於テ定ムル區域内ニ於ケル受人住所迄運送スルモノニ限リ取扱フモノトス 第十 運送便扱貨物ノ運賃ハ貨物ノ箇數ニ依リ箇數ノ計算トス 第十一 運送便扱貨物ノ内掛物便扱ノ類ニシテ別</p>
---	---	---

<p>二十斤量ノ標準ヲ定メタルモノハ斤量ノ端數ヲ切捨テ取扱フコトアルヘシ 第十二 左記ノ貨物ハ運送便扱ヲ爲サス 級外品第一、二、四、五種 一箇重量二百斤以上若クハ才積四十立方尺以上又ハ長サ十五尺以上ノモノ 第十三 輕量貴重品ノ噸數ニ係ルモノニシテ其重量百立方尺一噸ニ滿タサルモノハ百立方尺ヲ以テ一噸トシ通常扱及運送便扱ニシテ其重量一立方尺七斤ニ滿タサルモノハ一立方尺ヲ以テ七斤トシテ計算ス 第十四 才積ヲ測ルニハ幅、厚及長共最長ナル部ヲ測リテ測リ之ヲ相乘シ得タル數ニ據リ一立方尺未満ハ一立方尺ニ切上ク計算ス但シ特ニ定ムルモノハ此限ニ非ス 第十五 長十八尺以上ノ長尺物若クハ一箇ノ重量三噸以上ノ大ナルモノハ相當貨率ニ左ノ割増ヲ爲ス 長サ十八尺以上若クハ重量三噸以上ノモノ 五割 長サ三十六尺以上若クハ重量五噸以上ノモノ 十割 長サ五十尺以上若クハ重量十噸以上ノモノハ臨時ノ約束ニ依リ運送ス 長尺且大ナルモノニシテ前二項割増ノ率ヲ異ニスル場合ニハ高率ノ方ニ依ル 第十六 性質上荷造リヲ爲ササルカ又ハ荷造不完</p>	<p>全ニシテ敷亂ノ虞アルモノハ貨切扱ニアラサルヘシ 第十七 貨切車ノ發着ノ荷主ノ負擔タルヘシ 第十八 貴重品ノ増賃金割合左ノ如シ 一、二十五噸未満 金五錢 二、二十五噸以上五十噸未満 金十錢 三、五十噸以上百噸未満 金十五錢 四、百噸以上二百噸未満 金二十錢 五、二百噸以上五百噸未満 金三十錢 六、五百噸以上一噸未満 金五十錢 第十九 運輸規程第八十一條ニ示ス動物運送増賃金ハ左記ノ通 一、五十噸未満 金五錢 二、五十噸以上百噸未満 金十錢 三、百噸以上二百噸未満 金十五錢 四、二百噸以上五百噸未満 金二十錢 五、五百噸以上一噸未満 金三十錢 第二十 貨物ハ到着通知後二十四時間内ニ引取りサルトキハ以上二十四時間若クハ其未滿每ニ左ノ割合ニ依リ保管料ヲ支拂フヘシ 斤又ハ箇數ヲ以テ取扱フ貨物 金二錢 噸ヲ以テ取扱フ貨物及貨切貨物 金五十錢 噸數ヲ以テ取扱フ貨物 金二圓 貨車一輛ニ付 金二圓 六時間ノ積留時間ヲ定メ之カ通知ヲ爲スモノトス若シ其期間内ニ積留チ爲ササルトキハ以上十二時間若クハ其未滿每ニ一噸金五十錢ノ割合ヲ以テ貨車積留料ヲ支拂フヘシ 第二十二 貨切貨車準備ノ後荷送人ノ都合ニ依リ運送ヲ見合セタルトキハ其準備ノ通知ヲ受ケタルトキヨリ運送ノ中止ヲ申出タルトキ迄十二時間若クハ其未滿每ニ前項ノ割合ニ依リ違約金ヲ支拂フヘシ 第二十三 貨車ヲ旅客列車ニ連結シテ貨物ヲ運送シテ望ムモノアルトキハ貨切扱相當貨金ノ二倍ヲ以テ臨時ノ運送料ヲ取ルヘシ 第二十四 貨物取扱時間ハ日出ヨリ日没迄ノ間トス但時宜ニ依リ之ヲ延長スルコトアルヘシ 第二十五 貨物ハ當日發送スルヲ得ヘキ場合ノ外其受付ヲ附屬スルコトアルヘシ</p>	<p>第一級 (イ) 石工ヲ受ケサル碎塊共(大理石類、瑪瑙石、水晶石、磁石、磁石、石灰各種ヲ除ク) 運送料 運送 第三級 鐵道 第三款 營業 石灰各種ヲ除ク 磁黃 不精塊</p>
---	--	---

(ア) 鐵道建築用品 枕木及枕條ヲ除ク	(イ) 鐵道	(一) 鐵道
(カ) 天幕 附屬品	(ロ) 鐵道建築用品	(二) 鐵道
(ク) 電信電話建築用品 電柱、腕木、インスレーツル、電線(被覆線、ケーブル)線共、其他建築ニ使用スル道具	(ハ) 鐵道建築用品	(三) 鐵道
(ケ) 鋼、黃銅、青銅、各種厚板、鋼線、鋼魚籠、島流	(ニ) 鐵道建築用品	(四) 鐵道
(コ) 麻類各種	(ヘ) 鐵道建築用品	(五) 鐵道
(サ) 藍葉生若クハ干ダ、藍葉ル、藍葉ヲ除ク	(ホ) 鐵道建築用品	(六) 鐵道
(シ) 砂糖各種、砂糖共	(ニ) 鐵道建築用品	(七) 鐵道
(ス) 金、銀、銅、鐵、鋼、各種厚板、鋼線、鋼魚籠、島流	(ヘ) 鐵道建築用品	(八) 鐵道
(セ) 樹脂各種	(ホ) 鐵道建築用品	(九) 鐵道
(ソ) 味噌、醬油及酢	(ニ) 鐵道建築用品	(十) 鐵道
(タ) 石炭	(ヘ) 鐵道建築用品	(十一) 鐵道
(チ) 芝	(ホ) 鐵道建築用品	(十二) 鐵道
(リ) 木材、唐木、黃楊、桑、黒柿、胡桃、桐、如輪、檜、及埋木	(ニ) 鐵道建築用品	(十三) 鐵道
(ニ) 水車	(ヘ) 鐵道建築用品	(十四) 鐵道
(ハ) 硫黄粉	(ホ) 鐵道建築用品	(十五) 鐵道
(ヘ) 石(石油、石炭、石膏、石灰、セメント、及埋石)	(ニ) 鐵道建築用品	(十六) 鐵道
(ト) 石綿	(ヘ) 鐵道建築用品	(十七) 鐵道
(ニ) 印刷	(ホ) 鐵道建築用品	(十八) 鐵道
(ハ) 肉類	(ニ) 鐵道建築用品	(十九) 鐵道
(ロ) 皮革類	(ヘ) 鐵道建築用品	(二十) 鐵道
(ハ) 漆類	(ニ) 鐵道建築用品	(二十一) 鐵道
(ニ) 漆類	(ヘ) 鐵道建築用品	(二十二) 鐵道
(ハ) 漆類	(ニ) 鐵道建築用品	(二十三) 鐵道
(ニ) 漆類	(ヘ) 鐵道建築用品	(二十四) 鐵道
(ハ) 漆類	(ニ) 鐵道建築用品	(二十五) 鐵道
(ニ) 漆類	(ヘ) 鐵道建築用品	(二十六) 鐵道
(ハ) 漆類	(ニ) 鐵道建築用品	(二十七) 鐵道
(ニ) 漆類	(ヘ) 鐵道建築用品	(二十八) 鐵道
(ハ) 漆類	(ニ) 鐵道建築用品	(二十九) 鐵道
(ニ) 漆類	(ヘ) 鐵道建築用品	(三十) 鐵道
(ハ) 漆類	(ニ) 鐵道建築用品	(三十一) 鐵道
(ニ) 漆類	(ヘ) 鐵道建築用品	(三十二) 鐵道
(ハ) 漆類	(ニ) 鐵道建築用品	(三十三) 鐵道
(ニ) 漆類	(ヘ) 鐵道建築用品	(三十四) 鐵道
(ハ) 漆類	(ニ) 鐵道建築用品	(三十五) 鐵道
(ニ) 漆類	(ヘ) 鐵道建築用品	(三十六) 鐵道
(ハ) 漆類	(ニ) 鐵道建築用品	(三十七) 鐵道
(ニ) 漆類	(ヘ) 鐵道建築用品	(三十八) 鐵道
(ハ) 漆類	(ニ) 鐵道建築用品	(三十九) 鐵道
(ニ) 漆類	(ヘ) 鐵道建築用品	(四十) 鐵道
(ハ) 漆類	(ニ) 鐵道建築用品	(四十一) 鐵道
(ニ) 漆類	(ヘ) 鐵道建築用品	(四十二) 鐵道
(ハ) 漆類	(ニ) 鐵道建築用品	(四十三) 鐵道
(ニ) 漆類	(ヘ) 鐵道建築用品	(四十四) 鐵道
(ハ) 漆類	(ニ) 鐵道建築用品	(四十五) 鐵道
(ニ) 漆類	(ヘ) 鐵道建築用品	(四十六) 鐵道
(ハ) 漆類	(ニ) 鐵道建築用品	(四十七) 鐵道
(ニ) 漆類	(ヘ) 鐵道建築用品	(四十八) 鐵道
(ハ) 漆類	(ニ) 鐵道建築用品	(四十九) 鐵道
(ニ) 漆類	(ヘ) 鐵道建築用品	(五十) 鐵道

(ア) 鐵道建築用品 枕木及枕條ヲ除ク	(イ) 鐵道	(一) 鐵道
(カ) 天幕 附屬品	(ロ) 鐵道建築用品	(二) 鐵道
(ク) 電信電話建築用品 電柱、腕木、インスレーツル、電線(被覆線、ケーブル)線共、其他建築ニ使用スル道具	(ハ) 鐵道建築用品	(三) 鐵道
(ケ) 鋼、黃銅、青銅、各種厚板、鋼線、鋼魚籠、島流	(ニ) 鐵道建築用品	(四) 鐵道
(コ) 麻類各種	(ヘ) 鐵道建築用品	(五) 鐵道
(サ) 藍葉生若クハ干ダ、藍葉ル、藍葉ヲ除ク	(ホ) 鐵道建築用品	(六) 鐵道
(シ) 砂糖各種、砂糖共	(ニ) 鐵道建築用品	(七) 鐵道
(ス) 金、銀、銅、鐵、鋼、各種厚板、鋼線、鋼魚籠、島流	(ヘ) 鐵道建築用品	(八) 鐵道
(セ) 樹脂各種	(ホ) 鐵道建築用品	(九) 鐵道
(ソ) 味噌、醬油及酢	(ニ) 鐵道建築用品	(十) 鐵道
(タ) 石炭	(ヘ) 鐵道建築用品	(十一) 鐵道
(チ) 芝	(ホ) 鐵道建築用品	(十二) 鐵道
(リ) 木材、唐木、黃楊、桑、黒柿、胡桃、桐、如輪、檜、及埋木	(ニ) 鐵道建築用品	(十三) 鐵道
(ニ) 水車	(ヘ) 鐵道建築用品	(十四) 鐵道
(ハ) 硫黄粉	(ホ) 鐵道建築用品	(十五) 鐵道
(ヘ) 石(石油、石炭、石膏、石灰、セメント、及埋石)	(ニ) 鐵道建築用品	(十六) 鐵道
(ト) 石綿	(ヘ) 鐵道建築用品	(十七) 鐵道
(ニ) 印刷	(ホ) 鐵道建築用品	(十八) 鐵道
(ハ) 肉類	(ニ) 鐵道建築用品	(十九) 鐵道
(ロ) 皮革類	(ヘ) 鐵道建築用品	(二十) 鐵道
(ハ) 漆類	(ニ) 鐵道建築用品	(二十一) 鐵道
(ニ) 漆類	(ヘ) 鐵道建築用品	(二十二) 鐵道
(ハ) 漆類	(ニ) 鐵道建築用品	(二十三) 鐵道
(ニ) 漆類	(ヘ) 鐵道建築用品	(二十四) 鐵道
(ハ) 漆類	(ニ) 鐵道建築用品	(二十五) 鐵道
(ニ) 漆類	(ヘ) 鐵道建築用品	(二十六) 鐵道
(ハ) 漆類	(ニ) 鐵道建築用品	(二十七) 鐵道
(ニ) 漆類	(ヘ) 鐵道建築用品	(二十八) 鐵道
(ハ) 漆類	(ニ) 鐵道建築用品	(二十九) 鐵道
(ニ) 漆類	(ヘ) 鐵道建築用品	(三十) 鐵道
(ハ) 漆類	(ニ) 鐵道建築用品	(三十一) 鐵道
(ニ) 漆類	(ヘ) 鐵道建築用品	(三十二) 鐵道
(ハ) 漆類	(ニ) 鐵道建築用品	(三十三) 鐵道
(ニ) 漆類	(ヘ) 鐵道建築用品	(三十四) 鐵道
(ハ) 漆類	(ニ) 鐵道建築用品	(三十五) 鐵道
(ニ) 漆類	(ヘ) 鐵道建築用品	(三十六) 鐵道
(ハ) 漆類	(ニ) 鐵道建築用品	(三十七) 鐵道
(ニ) 漆類	(ヘ) 鐵道建築用品	(三十八) 鐵道
(ハ) 漆類	(ニ) 鐵道建築用品	(三十九) 鐵道
(ニ) 漆類	(ヘ) 鐵道建築用品	(四十) 鐵道
(ハ) 漆類	(ニ) 鐵道建築用品	(四十一) 鐵道
(ニ) 漆類	(ヘ) 鐵道建築用品	(四十二) 鐵道
(ハ) 漆類	(ニ) 鐵道建築用品	(四十三) 鐵道
(ニ) 漆類	(ヘ) 鐵道建築用品	(四十四) 鐵道
(ハ) 漆類	(ニ) 鐵道建築用品	(四十五) 鐵道
(ニ) 漆類	(ヘ) 鐵道建築用品	(四十六) 鐵道
(ハ) 漆類	(ニ) 鐵道建築用品	(四十七) 鐵道
(ニ) 漆類	(ヘ) 鐵道建築用品	(四十八) 鐵道
(ハ) 漆類	(ニ) 鐵道建築用品	(四十九) 鐵道
(ニ) 漆類	(ヘ) 鐵道建築用品	(五十) 鐵道

(イ) 絹、又ハ絹ヲ混シタル者 石水晶、瑪瑙、水晶、大理石 花造花 人形及動物模造品	(ロ) 香水、各種線香、香粉、香油、麝香、白檀、胡椒 各種香煙及其他諸香ヲ目的トスルモノ各種	(ハ) 帽子各種	(ニ) 屏風、及掛立品、除キテ 時計、寶金、寶玉石、 動物、鳥獸、魚ノ生キタルモノ、ニシテ箱、桶、籠等、ニ入ルモノ、 動物クハ足、爪等、ニテ鑿キタル各種(第三級ノモノヲ除ク)	(ホ) 度量衡各種、銅貨、青銅貨 地圖	(ヘ) 旅行用具 縫製物	(カ) 鏡、眼鏡、皮、 裝飾品、金、銀、玉、根掛等、及洋裝用ノモノ、各種 寶飾品、寶玉石等、ニテ製シタル及混作ノモノヲ除ク	(ケ) 樂器、※ 面、美術工、 品ヲ除ク	(コ) 硯、硯箱、硯、 硯、硯箱、硯、 硯、硯箱、硯、	(ク) 禮拜用具、若クハ混作ノモノヲ除ク 角細工物各種、美術工、 品ヲ除ク	(カ) 硯、硯箱、硯、 硯、硯箱、硯、 硯、硯箱、硯、	(ク) 禮拜用具、若クハ混作ノモノヲ除ク 角細工物各種、美術工、 品ヲ除ク	(カ) 硯、硯箱、硯、 硯、硯箱、硯、 硯、硯箱、硯、	(ク) 禮拜用具、若クハ混作ノモノヲ除ク 角細工物各種、美術工、 品ヲ除ク	(カ) 硯、硯箱、硯、 硯、硯箱、硯、 硯、硯箱、硯、	(ク) 禮拜用具、若クハ混作ノモノヲ除ク 角細工物各種、美術工、 品ヲ除ク	(カ) 硯、硯箱、硯、 硯、硯箱、硯、 硯、硯箱、硯、	(ク) 禮拜用具、若クハ混作ノモノヲ除ク 角細工物各種、美術工、 品ヲ除ク	(カ) 硯、硯箱、硯、 硯、硯箱、硯、 硯、硯箱、硯、	(ク) 禮拜用具、若クハ混作ノモノヲ除ク 角細工物各種、美術工、 品ヲ除ク	(カ) 硯、硯箱、硯、 硯、硯箱、硯、 硯、硯箱、硯、	(ク) 禮拜用具、若クハ混作ノモノヲ除ク 角細工物各種、美術工、 品ヲ除ク
---	---	----------	--	------------------------	-----------------	---	----------------------------	-----------------------------------	---	-----------------------------------	---	-----------------------------------	---	-----------------------------------	---	-----------------------------------	---	-----------------------------------	---	-----------------------------------	---

級外品	第一種 生獸類	四百哩以上 四百哩以上(シ)ニ毛 四百哩以上一哩以上ハ五十哩若クハ其未滿ヲ増 ス毎二百斤ニ付一級品金二錢二級品金三錢三 級品金四錢高級品金六錢ナ加フ	第一級品 二級品 三級品 高級品 一哩以上 一錢 二錢 三錢 四錢 五錢 六錢 七錢 八錢 九錢	鐵道作業局大貨物運賃ヲ左記ノ通リ減シ來十一月 日ヨリ實施ス
馬、牛、羊、豚、驢、騾、	馬、牛、羊、豚、驢、騾、	馬、牛、羊、豚、驢、騾、	馬、牛、羊、豚、驢、騾、	鐵道作業局大貨物運賃ヲ左記ノ通リ減シ來十一月 日ヨリ實施ス
馬、牛、羊、豚、驢、騾、	馬、牛、羊、豚、驢、騾、	馬、牛、羊、豚、驢、騾、	馬、牛、羊、豚、驢、騾、	鐵道作業局大貨物運賃ヲ左記ノ通リ減シ來十一月 日ヨリ實施ス
馬、牛、羊、豚、驢、騾、	馬、牛、羊、豚、驢、騾、	馬、牛、羊、豚、驢、騾、	馬、牛、羊、豚、驢、騾、	鐵道作業局大貨物運賃ヲ左記ノ通リ減シ來十一月 日ヨリ實施ス
馬、牛、羊、豚、驢、騾、	馬、牛、羊、豚、驢、騾、	馬、牛、羊、豚、驢、騾、	馬、牛、羊、豚、驢、騾、	鐵道作業局大貨物運賃ヲ左記ノ通リ減シ來十一月 日ヨリ實施ス

第二十輯 運輸 第三章 鐵道 第三款 營業

以上貨切扱級外品第一種トモ短距離運賃力長距離運賃ヨリ高キトキハ低廉ナル方ニヨル又鐵道作業局大貨物運賃手數料及等級表第十五記載ノ長尺重量物ハ本制引運賃ニ規定ノ割増チナス

明治三十九年十一月二十四日 逓信省告示第五百二十一號

鐵道作業局大貨物運賃左記ノ通減シ來十二月一日ヨリ實施ス
一 通常行扱 山陽鐵道線(吳線、鹽竈線及大嶺線ヲ含ム)ニ限リ但播但線ヲ除ク
一 一級品 二級品 三級品 高級品
五十哩未満 一級品 一厘九毛 二級品 一厘九毛 三級品 一厘九毛 高級品 一厘九毛
五十哩以上同 一級品 一厘七毛 二級品 一厘七毛 三級品 一厘七毛 高級品 一厘七毛
百哩以上同 一級品 一厘五毛 二級品 一厘五毛 三級品 一厘五毛 高級品 一厘五毛
二百哩以上同 一級品 一厘三毛 二級品 一厘三毛 三級品 一厘三毛 高級品 一厘三毛
三百哩以上同 一級品 一厘一毛 二級品 一厘一毛 三級品 一厘一毛 高級品 一厘一毛
三級品以上同 一級品 一厘 二級品 一厘 三級品 一厘 高級品 一厘
一貨切扱 同上
一貨切扱以下一品

五十哩未満一厘
五十哩以上同 一厘四厘
百哩以上同 一厘五厘
二百哩以上同 一厘五厘
三百哩以上同 一厘五厘
以上通常貨切扱共短距離運賃力長距離運賃ヨリ高キトキハ低廉ナル方ニヨル又鐵道作業局大貨物運賃手數料及等級表第十五記載ノ長尺重量物ハ本制引運賃ニ規定ノ割増チナス

明治三十九年十二月十二日 逓信省告示第五百六十二號

鐵道作業局大貨物運賃手數料及等級表中外品第一種危險品ノ内石油類及附木(各種貨切扱限リ)三級品以下一品低減運賃ヲ適用シ來四月一日ヨリ實施ス

明治三十八年九月二十二日 逓信省告示第五百一號

鐵道作業局大貨物運賃規程左ノ通相定メ來十月一日ヨリ施行ス
明治三十四年逓信省告示第七十六號ハ本告示施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

鐵道作業局大貨物運賃規程

鐵道作業局大貨物運賃規程
一 個人又ハ一會社ヨリ託送ノ大貨物運賃(運送便扱運賃及發着手數料ヲ除ク)カ多額ニ達スルトキハ區間ニ依リ左記割合ヲ以テ割戻チ爲ス(ハシ) 東海鐵道線北陸線中央西線(通算)
一箇月 金一萬圓以上二萬圓未満 百分ノ一
金二萬圓以上三萬圓未満 百分ノ二
金三萬圓以上四萬圓未満 百分ノ三
金四萬圓以上五萬圓未満 百分ノ四
金五萬圓以上 百分ノ五
奥羽線越前線及非線及中央東線
一箇月 金一萬圓以上一萬五千圓未満 百分ノ二
金一萬五千圓以上二萬圓未満 百分ノ三
金二萬圓以上三萬圓未満 百分ノ四
金三萬圓以上四萬圓未満 百分ノ五
但信越線ト律ノ非線ト中央東線ハ通算ス

統監府鐵道管理局運輸營業規程

統監府鐵道管理局運輸營業規程
第一章 總則
第一條 運輸營業ハ本規程ニ依リ之ヲ行フ但シ特別ノ契約ニ依ルモノハ此ノ限ニ在ラス
第二條 鐵道係員ハ運輸上ノ安全便宜ヲ計トシ旅客及公眾ニ對シ懇切ニ其ノ職務ヲ行フハシ
第三條 旅客及公眾ハ本規程ヲ遵守シ且鐵道係員ノ職務上ノ指圖ニ從フハシ
第四條 左ノ場合ニ於テハ旅客又ハ貨物ノ運送ヲ附帶スルコトアルヘシ
一 旅客又ハ公眾カ本規程其ノ他鐵道運送ニ關スル規定ヲ遵守セザルトキ
二 運送ニ關シ特別ナル實務ノ條件ヲ求ムルトキ
三 列車中座席ノ餘裕ナキトキ又ハ車類ノ不足其ノ他已ムテ得ザル事由ニ起因スル運送上ノ支障アルトキ
四 法令ノ規定又ハ公ノ秩序若ハ善其ノ風俗ニ反スルトキ
第五條 不可抗力ノ爲生スル旅客、貨物ノ損害ニ付テハ賠償ノ責任ニ任ズ
第六條 運賃及噸計計算上噸數ヲ生スルトキハ一錢未満ハ一錢ニ切上ケ一厘未満ハ一厘ニ切上ケ
第七條 重量ハ一斤ヲ百六十匁一噸ヲ千六百八十八斤トス
第八條 運賃其ノ他料金ノ償還ノ價額ハ五年間之

鐵道作業局火藥類運賃及手數料

時ハ其以上二十四時間若ハ其未滿每二前項ノ割合ヲ以テ貨物留置料ヲ徵收ス
但保管料ヲ徵收スル時間ニ對シテハ留置料ヲ徵收ス
明治三十四年五月二十四日 逓信省告示第二百二十八號
明治三十四年五月三十一日 逓信省告示第二百二十九號
鐵道作業局火藥類運賃及手數料左ノ通相定メ來三月十四日ヨリ施行ス
火藥運賃
百斤ニ付一厘 金一錢二厘
三千五百斤未滿ハ三千五百斤分ヲ取ル
但火藥類運送規程第十條第一號記載ノモノニ限リ左記割合トス
一 小銃用完全彈藥筒、雷管若クハ摺管ノモノヲ裝著セル銃砲ノ空藥莖(安全導火線)信管門管起爆劑ヲ附セザル黃色藥莖(起爆劑)ヲ裝著セル起爆劑
百斤ニ付一厘 金一錢二厘
五百斤未滿ハ五百斤分ヲ取ル
一 五十斤以下ノ火藥(「ダイナマイト」縮火藥等) 一 口ニ付一厘 金六錢
火藥發着手數料
一車ニ付 金一圓(發着各)
但火藥類運送規程第十條第一號記載ノモノニ限リ左記割合トス
一 小銃用安全彈藥筒、雷管若クハ摺管ノモノヲ裝

鐵道作業局大貨物運賃手數料及等級表火藥類運賃及手數料

著セル銃砲ノ空藥莖(安全導火線)信管門管起爆劑ヲ附セザル黃色藥莖(起爆劑)ヲ裝著セル起爆劑
一 口ニ付 金五十錢(發着各)
一 五十斤以下ノ火藥(「ダイナマイト」縮火藥等) 一 口ニ付 金五十錢(發着各)
大貨物運賃表第二、第五、第六段、第十七、第二十一、第二十二ハ火藥類運送取扱ニ之ヲ適用ス
但運送火藥類ニシテ一車ヲ要スルモノハ大貨物運賃切扱ノ例ニ準ス
鐵道作業局大貨物運賃手數料
大貨物運賃表第二、第五、第六段、第十七、第二十一、第二十二ハ火藥類運送取扱ニ之ヲ適用ス
但運送火藥類ニシテ一車ヲ要スルモノハ大貨物運賃切扱ノ例ニ準ス
鐵道作業局大貨物運賃手數料
大貨物運賃表第二、第五、第六段、第十七、第二十一、第二十二ハ火藥類運送取扱ニ之ヲ適用ス
但運送火藥類ニシテ一車ヲ要スルモノハ大貨物運賃切扱ノ例ニ準ス

第九條 停車場ニハ本規程、旅客及貨物ノ運賃其
ノ他料金並本規程ニ掲ケタル鐵道ノ取締ニ關
スル必要事項ノ摘要ヲ揭示ス

第十條 車輛、停車場其ノ他鐵道用地内ノ標識、揭
示類、踏踏機、建造物、柵垣等ヲ檢査、改竄若ハ毀
損スル者ニハ相當ノ賠償金ヲ支拂ハシム

第二章 旅客運送

第十一條 旅客ハ所定ノ運賃ヲ支拂ヒ乘車券ヲ受
領シ乘車スヘシ

第十二條 乘車券ハ一等、二等及三等ノ三種トシ
等級ニ依リテ各停車場間ノ運賃ヲ定ム

特種級ノ乗客ニ對シテハ特種乘車券ヲ發行スル
コトアルヘシ

第十三條 四年未滿ノ小兒ハ無賃滿四年以上十二
年未滿ノ小兒ハ半賃金ヲ以テ運送ス

第十四條 乘車券ニハ通用區間、通用期限、客車ノ
等級、運賃額並發行ノ日附ヲ記載ス

特種及臨時發行ノ乘車券ニハ前項ノ記載事項ヲ
省略スルコトアルヘシ

第十五條 停車場ニ於テハ少クモ列車ノ出發時
刻十五分前ニ乘車券ノ賣出ヲ開始ス

列車出發時刻前五分後ハ出札ヲ停止スルコトアル
ヘシ

第十六條 旅客ハ乘車前乘車券ノ改竄ヲ受ケ其ノ
等級相當ノ車室ニ乘車スヘシ

改竄ナキ乘車券ハ無効トスルコトアルヘシ

改札口ハ列車出發時刻前一分ニ至レハ之ヲ閉鎖
スルコトアルヘシ

第十七條 旅客ハ改竄前ニ在リテハ其ノ買受ケタ
ル乘車券ヲ他級ノ乘車券ト交換シ又ハ之ヲ返還
シテ運賃ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得但シ運賃ノ

拂戻ヲ爲スハ乘車券發行ノ當日ニ限ル

乘車券相當ノ座席ナキ場合ニ於テ係員ニ申告シ
テ旅行ヲ止メ又ハ劣等車ニ移乘スル旅客ニ對シ
テハ其ノ請求ニ因リ運賃ノ全額又ハ差額ノ拂戻
ヲ爲ス但シ旅客任意ニ旅行ヲ中止スルトキハ此
ノ限ニ在ラス

前二項ノ場合ヲ除クノ外運賃ノ拂戻ヲ爲サス
第十八條 五十哩迄ノ乘車券ヲ所持スル者途中停
車場ニ下車スルトキハ再ヒ他ノ列車ニ乘車ク
コトヲ得ス

五十一哩以上ノ乘車券ヲ所持スル旅客ハ該乘車
券通用期限内ハ途中指定ノ停車場ニ限り下車シ
テ再ヒ他ノ列車ニ乘車クコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ旅客ハ乘車停車場係員ニ乘
車券ヲ示シ改竄ヲ受ケヘシ

乘車券ノ通用期限左ノ如シ

五十哩迄 發行當日限

五十哩以上 發行當日共二日間

百一哩以上ハ百哩若ハ其ノ未滿ヲ増ス毎二
日ヲ加フ

第十九條 乘車券ハ其ノ通用區間中何レノ部分ニ
付テモ前條ノ範圍ニ於テ使用スルコトヲ得但シ
特種ノ列車ニ付特別ノ定メ爲ストキハ此ノ限ニ
在ラス

第二十條 天災事變其ノ他已ムテ得サル事由ニ因
リ列車ノ運轉ヲ中断スルトキハ旅客ノ請求ニ因
リ既ニ通過セル路線ニ相當スル運賃ヲ扣除シ殘
額ノ拂戻ヲ爲シ且出發停車場ニ無賃送還ス

第二十一條 列車運送ノ爲相當ノ時間中ニ接続ス
ル列車ニ乘車スルコトヲ得サルトキハ連絡乘車
券ヲ有スル旅客ニ限り其ノ請求ニ因リ無賃ニテ
出發停車場(途中下車セルトキハ其ノ最近下車

停車場)ニ送還シ出發停車場ヨリ運賃途中下
車セルトキハ其ノ最近下車停車場ト出發停車場
トノ間ニ相當スル運賃ヲ控除シタル額ノ拂戻
ヲ爲ス但シ旅客力次同ノ返リ列車ヲ以テ中断ナク
復歸スルトキニ限ル

第二十二條 事故ノ爲列車發着ノ遅延、運轉ノ中
斷等アルトキハ關係停車場ニ之ヲ揭示ス

第二十三條 旅客ハ乘車券指定ノ到着停車場ニ於
テ乘車券ヲ鐵道係員ニ交付スヘシ

第二十四條 旅客ハ鐵道係員ノ請求アルトキハ何
時ニテモ乘車券ヲ呈示シ檢査ヲ受ケヘシ

第二十五條 左記各條ノ一ニ該當スル旅客アルト
キハ其ノ乘車區間又ハ乘車區間ニ相當スル賃金
ヲ徴收シ別ニ定ムル所ノ増賃金ヲ徴收ス

一 乘車券ヲ所持セス又ハ無効乘車券ヲ以テ乘
車スル者

二 乘車券面記載ノ區域外ニ乘車ク爲ス者

三 乘車券面ニ指示スルモノヨリ優等車ニ乘車
スル者

前項第一號及第二號ノ場合ニ於テ乘車停車場不
明ナルトキハ其ノ列車ノ始發停車場ヨリ運賃
ヲ徴收ス

第二十六條 鐵道係員ハ旅客ノ請求アルトキハ又
ハ必要ト認ムルトキハ座席ノ指定ヲ爲ス

旅客乘車中座席ヲ離レ特ニ之ヲ占據カサルトキ
ハ他人之ヲ占據スルモ異議ヲ述ブルコトヲ得
ス

第二十七條 旅客ハ列車出發ノ合圖アリタル後乘
車スルコトヲ得ス

乘後レノ爲發行當日限通用乘車券ノ效用ヲ失ヒ
タルトキ運賃ナク其ノ乘車券ヲ鐵道係員ニ提出
シ有效ノ證明ヲ受クルトキハ其ノ翌日限内ニ限り

該乘車券ヲ以テ目的地ニ向ヒ發スル列車ニ乘車
スルコトヲ得

特ニ列車指定スル乘車券ノ通用期限ハ前項ノ
規定ニ依リテ延長セラルコトナシ

第二十八條 鐵道係員ハ列車力停車場ニ到着スル
トキ其ノ停車場ノ名稱、乘換アルトキハ其ノ旨
並停車場時間五分以上アルトキ其ノ時間ヲ喚呼ス
ヘシ旅客ハ列車力停車場外ニ於テ停止スルトキ
假令長時間ニ涉ルト雖鐵道係員ノ許諾ヲ得ルニ
非サレハ下車スルコトヲ得ス

第二十九條 旅客ハ左ノ行爲ヲ爲スヘカラス

一 車内ニ於テ發砲スルコト

二 列車中旅客乗用ニ供セザル箇所ニ乘ルコト

三 運轉中乘降其ノ他危險ノ行爲ヲ爲スコト

四 同乗者ニ迷惑ヲ及ボス風行爲ヲ爲スコト

五 肢體ヲ車外ニ出スコト

六 車内ノ器具裝飾ヲ汚損スルコト

七 樽ノ燃差、煙草ノ吸殻及嘔吐等ヲ唾壺外
ニ投スルコト

八 線路係員、通行人等ニ危險ヲ與フルノ虞アル
物品ヲ携リニ車外ニ投棄スルコト

第三十條 旅客自ラ携帶シ得ル物品ト雖座席ヲ
塞キ又ハ不潔、臭氣等ノ爲同乗者ニ迷惑ヲ及
ボスモノハ客車内ニ持込ムコトヲ得ス

旅客自ラ客車内ニ携帶スル物品ハ自ラ保管ノ責
任ヲ負ヘシ

第三十一條 動物ハ客車内ニ携帶スルコトヲ得ス
但シ犬ハ同乗者苦情ヲキトキハ此ノ限ニ在ラ
ス

第三十二條 旅客ハ火藥類其ノ他危害ヲ及ボスヘ
キ虞アル物品ヲ客車内ニ携帶スルコトヲ得但

シ少量ノ小銃用火藥類ハ此ノ限ニ在ラス

第三十三條 傳染病患者、附添人ナキ重病人又ハ
瘋癲者及附添人アルモ他ノ旅客ニ迷惑ヲ及ボス
ヘキ虞アル重病人又ハ瘋癲者ハ乘車スルコトヲ
得ス

發症、約養、駕籠等ニ載セザル患者ハ附添人ヲ同
車セシメ賃切扱又ハ旅客檢査車ヲ以テ運送ニ應
ジスルコトアルヘシ

此ノ場合ニ於テ患者及附添人ハ各相當ノ乘車券
ヲ所持スヘシ尙發症、約養、駕籠等ノ運搬具ニ付
テハ相當運賃ヲ徴收ス

第三十四條 傳染病患者其ノ病症ヲ隠蔽シテ乘車
シタルコトヲ發見スルトキハ直ニ下車セシム此
ノ場合ニ於テハ既ニ支拂ヒタル運賃ヲ返付セ
ス

第三十五條 旅客乘車中ニ於テ傳染病ヲ發スルト
キハ直ニ下車セシム此ノ場合ニ於テハ既ニ通過
セル線路ニ相當スル賃金ヲ控除シ其ノ殘額ヲ拂
戻ス

第三章 手小荷物運送

第三十六條 旅客カ其ノ旅行ニ必要ナル携帶器具
類ニ限リ手荷物トシテ旅客ト同一列車ヲ以テ運
送ス

第三十七條 手荷物ハ一等旅客一人ニ付百斤、二
等同六十斤、三等同三十斤迄無賃トス此ノ制限
ヲ超過スルトキハ其ノ超過斤量ニ付別ニ定ムル
所ノ手荷物賃金ヲ徴收ス

半賃金ニテ運送スル小兒ノ無賃手荷物制限ハ前
項ノ半量トス

第三十八條 斤量ニ依リ運賃ヲ定メサル特定品ハ
手荷物ノ取扱ヲ爲サスルコトヲ得但シ手小

前項物品ノ種類運賃ハ之ヲ停車場ニ揭示ス

第三十九條 前條ノ物品ハ旅客ノ請求ニ因リ旅客
ト同一列車ヲ以テ運送ス

第四十條 手荷物車ヲ以テ運送スルニ運送スル荷
物ハ小荷物トシテ旅客列車ヲ以テ運送ス

第四十一條 行商人及呼賣商人ノ携帶スル物品ハ
其ノ請求ニ因リ小荷物トシテ旅客ト同一列車ヲ
以テ運送ス

第四十二條 手小荷物ハ物品ノ數選セザル權鐵
道乘車トシテ運送スルコトヲ得

第四十三條 左記ノ物品ハ手小荷物トシテ運送ス
ルコトヲ得ス

一 貨幣、有價證券、其ノ他高價品、動物

二 火藥類及危害ヲ及ボスヘキ虞アル物品

三 臭氣ヲ發シ若ハ不潔ナル物品

四 容積、重量過大ナル物品

第四十四條 手小荷物ノ託送ヲ受クルトキハ託送
停車場ニ於テ引換ノ符號ヲ交付シ到着停車場ニ
於テ之ヲ引換ニ引渡サス

第四十五條 手小荷物引渡ノ際前條引換ノ符號ヲ
所持セザル者ニ對シテハ其ノ受取ルヘキ權利アル
コトヲ證明スルカ又ハ相當ノ擔保ヲ供スルニ
非サレハ之ヲ引渡セザス

第四十六條 旅客ト同一列車ヲ以テ運送スル手荷
物ニ限リ時間其ノ他取扱ニ差支ナキトキハ旅客
ノ請求ニ應シ中間停車場ニ於テ之ヲ引渡セザル
コトアルヘシ此ノ場合ニ於テ有賃ニ限ルモノハ
運賃ノ拂戻ヲ爲サス

前項ノ場合ニ於テハ旅客ハ該項係員ニ乘車券ヲ
呈示シ引渡ヲ請求スヘシ

第四十七條 旅客ト同一列車ヲ以テ運送スル手小

荷物ヲ託送セムトスル者ハ列車出發時刻ヨリ少
クトモ五分前迄ニ其ノ乗車券ヲ係員ニ呈示シ託
送ノ手續ヲ爲スヘシ然ラサルハ次回ノ列車ヲ以
テ運送セラルルモ故障ヲ述フルコトヲ得ス

第四十八條 小荷物(旅客ト同一列車ヲ以テ運送
スルモノヲ除ク)ヲ託送セムトスル者ハ列車出
發時刻ヨリ少クトモ二十分前迄ニ其ノ手續ヲ爲
スヘシ

第四十九條 一旦託送シタル手荷物斤量力第三十
七條ノ制限内ナル場合ニ於テモ其ノ同一乗車券
ニ依リ再ヒ無貨手荷物ヲ託送スルコトヲ得ス

第五十條 旅客力金屬製手荷物引換符標ヲ紛失
又ハ毀損スルトキハ一箇ニ付金三十錢ノ辨償金
ヲ到着停車場ニ於テ徴收ス

第五十一條 到着後二十四時間内ニ引取ラサル手
小荷物ニ付テハ以後二十四時間若ハ其ノ未滿チ
増ス毎二別ニ定ムル所ノ保管料ヲ徴收ス

第五十二條 惡意又ハ重大ナル過失ニ因リテ手
荷物ノ滅失又ハ毀損ニ付テハ旅客一人ニ對シ金
百圓以内ニ限リ損害賠償ノ責任ニ任ス

第五十三條 天災事變ノ爲列車ノ運轉ヲ中斷スル
場合ニ於テ旅客ヲ無貨運送スルコトキ該旅客ノ託
送セル手荷物ノ取扱ハ旅客取扱ノ例ニ依リ

第五十四條 手小荷物運送ニ關シテ本章ニ定ム
ルモノヲ除ク外第七章ノ規程ヲ準用ス

第四章 死體運送

第五十五條 死體ハ棺槨ニ密塞シ列車發着停車場
ニ於テハ其ノ發着時刻ヨリ少クトモ六時間前迄
ニ中間停車場ニ於テハ同時刻ヨリ少クトモ十二
時間前迄ニ託送ノ手續ヲ爲スヘシ

第五十六條 死體ヲ託送セムトスル者ハ死亡證書
ヲ呈示シ且託送狀ニ其ノ寫ヲ添附スヘシ

第五十七條 死體運送ニハ託送人ニ於テ附添人ヲ
附スヘシ

第五十八條 死體ハ手荷物車又ハ有蓋車ヲ以テ運
送ス

第五十九條 死體ハ到達後速ニ之ヲ引取ルヘシ若
シ六時間内ニ引取ラサルトキハ鐵道ハ相當ノ處
置ヲ爲シ引取延滞ノ爲生スル費用ヲ託送人ヨリ
徴收ス

第五章 貴重品運送

第六十條 貴重品ノ品目ハ停車場ニ揭示ス
第六十一條 貴重品ハ嚴重ニ包裝封印シ列車出發
時刻ヨリ少クトモ三十分前迄ニ託送ノ手續ヲ爲
スヘシ

第六十二條 貴重品ヲ託送セムトスル者ハ運送狀ヲ差出スヘ
シ

第六十三條 貴重品運送ハ特ニ列車ヲ指定スルコ
トアルヘシ

第六十四條 到着後二十四時間内ニ引取ラサル貴
重品ニ付テハ以後六時間若ハ其ノ未滿チ増ス毎
二別ニ定ムル所ノ保管料ヲ徴收ス

第六十五條 貴重品ノ滅失又ハ毀損ニ付テハ旅客
一人カ託送ノ際其ノ物品ノ種類、性質及價格ヲ明
告シ別ニ定ムル所ノ増賃金ヲ支拂ヒタル場合ニ
限リ損害賠償ノ責任ニ任ス

第六十六條 貴重品ノ運送ニ關シテ本章ニ定ム
ルモノヲ除ク外旅客列車便ニ依リモノ第三章
第三章貨物列車便ニ依リモノ第七章ノ規程ヲ準用
ス

第六章 動物運送

第六十七條 手荷物車ヲ以テ運送スルニ適スル小
動物ハ旅客列車(混合列車亦同シ)ヲ以テ運送
ス

第六十八條 旅客ノ攜帶スル小動物ハ旅客ノ請求
ニ因リ旅客ト同一列車ヲ以テ運送ス

第六十九條 旅客ノ攜帶スル犬ヲ除ク外小動物
ハ運出ノ處ナキ機關、網若ハ箱等ニ入レ託送ス
ヘシ

第七十條 旅客列車(混合列車亦同シ)ニ依リ小
動物ノ運送ニ關シテハ前各條ニ定ムルモノヲ除
ク外小荷物運送ニ關スル規程ヲ準用ス

第七十一條 小動物ヲ除ク外動物ヲ託送セムト
スル者ハ其ノ申込ヲ爲シ列車出發時刻ヨリ少
クトモ一時間前迄ニ之ヲ停車場ニ送致スヘ
シ

第七十二條 動物運送ニ際シ必要ト認ムルトキハ
附添人ヲ請求スルコトアルヘシ

第七十三條 牛馬運送ノ附添人ハ一車ニ二人ヲ限リ無貨トス
其ノ以外ノ附添人ハ三等車券ヲ所持スヘシ

第七十四條 動物運送ニ際シ保員ノ認諾ヲ受ケル
ニ非サルハ他車ニ轉乘スルコトヲ得ス

第七十五條 附添人ハ蒸、枯草等燃易キ物品アルトキハ喫
煙具及發火ノ易キ物品ヲ車中ニ攜帶スルコトヲ
得ス

第七十六條 瘋獸ヲ託送セムトスル者ハ逃走若ハ
危害防止ノ爲充分ノ組織ヲ施スヘシ

第七十七條 動物ハ其ノ到達停車場ニ於テ直ニ之
カ引取ラサルヘシ運送中ハ勿論到着後若シ引取
ラサルモノモ鐵道ハ飼養ノ責任ニ任セス

第七十八條 惡意又ハ重大ナル過失ニ因リテ牛
馬其ノ他獸類ノ紛失、損傷等ニ付テハ旅客一人
カ託送ノ際價格ヲ明告シ別ニ定ムル所ノ増賃金ヲ
支拂ヒタル場合ニ限リ損害賠償ノ責任ニ任ス

第七十九條 動物ノ運送ニ關シテ本章ニ定ムル

モノヲ除ク外第七章ノ規程ヲ準用ス

第七章 大貨物運送

第七十六條 大貨物ハ貨物列車ヲ以テ運送ス
第七十七條 大貨物ヲ託送セムトスル者ハ運送狀
ヲ添ヘ取扱時間内ニ其ノ手續ヲ爲スヘシ

第七十八條 大貨物ハ運送狀一通ヲ以テ一口トス
第七十九條 大貨物ハ運送ノ順序ニ依リ運送ス但
シ運輸上正當ノ事由若ハ公益上ノ必要アルトキ
ハ此ノ限ニ在ラス

第八十條 當日發送スルヲ得ヘキ場合ヲ除ク外其ノ受附
チ継続スルコトアルヘシ

第八十一條 運送上ニハ左ノ事項ヲ掲ケ荷送人ハ
記事ノ正確ナルコトニ付其ノ責任ニ任スヘシ

一 運送狀作成ノ地及年月日

二 發着停車場ノ名稱

三 到達停車場及所屬鐵道名

四 荷受人ノ氏名又ハ商號及住所

五 貨物ノ品名、重量又ハ容積及其ノ荷造ノ種
類、箇數並記號

六 價格

七 運送便ノ種類

八 運賃ノ支拂方法

九 荷物引換證請求ノ有無

十 特約ノ條件アルトキハ其ノ事項

十一 荷送人ノ氏名又ハ商號及住所

運送狀式紙ハ停車場ニ備置キ荷送人ノ使用ニ供
ス

第八十二條 託送ノ際荷送人ノ請求アルトキハ運
送狀ノ原本ヲ交付ス此ノ場合ニ於テハ別ニ定ム
ル所ノ手数料ヲ徴收ス

第八十三條 運送ノ爲特別ノ設備ヲ要スル貨物ハ
其ノ設備アル場合ニ限リ託送ノ際ニ應ス

第八十四條 運送通知書ヲ交付シタル貨物ニ付テハ荷送
人ニ貨物運送通知書ヲ交付シ引渡チ爲シタル貨
物ニ付テハ荷受人ヨリ受領證ヲ徴ス

第八十五條 荷送人ノ請求アルトキハ貨物引換證
ヲ交付ス

第八十六條 此ノ場合ニ於テハ別ニ定ムル所ノ手数料ヲ徴收
シ貨物運送通知書ヲ交付ス

第八十七條 貨物引換證ニハ左ノ事項ヲ掲ケ
一 貨物引換證作成ノ地及年月日

二 第八十條第二號乃至第八號、第十號及第十
一號ニ掲ケル事項

三 運送狀ノ受附番號

四 運賃、増賃金、料金ノ額及其ノ受否

五 貨物引換證ヲ交付スルトキハ本號ト引換ニ非サ
レハ到着貨物ノ引渡チ爲サス引渡請求人ハ本號
ノ裏面ニ受取ノ旨ヲ記載シ署名捺印スヘシ

第八十八條 荷送人ハ貨物ノ性質ニ依リ運送中ノ
減量又ハ毀損ヲ防クニ必要ナル荷造ヲ爲スヘ
シ

第八十九條 荷送人ハ貨物ノ各箇ニ品名、箇數、記號、宛名等ヲ
明瞭ニ其ノ外面ニ表記スヘシ

第九十條 貨物運送其ノ他運送ニ關スル料金ハ
貨物運送ノ際ニ之ヲ支拂フヘシ

第九十一條 鐵道ハ貨物ノ種類及性質ヲ明告スル
コトヲ荷送人ニ求ムルコトアルヘシ若シ其ノ種
類及性質ニ付疑アルトキハ荷送人ノ立會ヲ以テ
之ヲ點檢ス

第九十二條 貨物ノ取扱チ斤換、噸換、運送便換ノ
三種トス斤換ハ斤ニ依リ噸換ハ噸ニ依リ貨金チ
計算ス

第九十三條 運送貨物一口ニ噸未滿ノモノチ斤換
トシ同品種ニシテ一口ニ噸以上ノモノチ噸換
トス但シ二噸未滿ト雖二噸分ノ貨金チ仕拂フト
キハ噸換ニ依ル

第九十四條 貴重品及高價品ハ噸換チ爲サス

第九十五條 噸換貨物ニシテ特ニ列車ヲ指定シ運
送ヲ欲ムモノアルトキハ相當貨金ノ二倍ヲ以テ
臨時ニ之ニ應スルコトアルヘシ

第九十六條 斤ニ依リ貨金チ計算スル大貨物ハ五
十斤未滿チ五十斤ニ切上ケ、噸ニ依リ貨金チ計
算スルモノハ噸未滿チ一噸ニ切上ケ

第九十七條 噸程ニ依リ運賃チ計算スルモノハ十
噸未滿チ十噸ニ切上ケ

第九十八條 輕量品、嵩高品ニシテ其ノ重量一立
方尺七斤二兩チサレモノハ一立方尺チ七斤計
算ス

第九十九條 貨物ノ才積ハ其ノ幅、厚及長共最長
度ノ部分チ曲尺ニテ測リ之ヲ相乘シ得タル數ニ
依リ一立方尺未滿チ一立方尺ニ切上ケ計算ス特
ニ才積計算法ヲ定ムルモノハ此ノ限ニ在ラス

第一百條 貨物ノ性質上荷造ヲ爲ササルカ又ハ
荷造不完全ニシテ散亂ノ虞アルモノハ一車ヲ使
用スルニ非サルヘシ託送ノ際ニ應セサルコトアル
ヘシ

第一百零一條 貨主ノ請求ニ因リ少量貨物運送ノ爲
特ニ一車ヲ使用スル場合ニ於テハ貨車標記ノ積
載重量ニ依リ貨金チ計算ス

第一百零二條 運送便換ノ運賃ハ貨物ノ箇數ニ依リ
一箇毎ニ計算ス但シ一箇、量目二百斤以上若ハ
才積四十立方尺以上又ハ長十五尺以上ノ貨物及
生獸類死體、貴重品、危險品ハ運送便換チ爲サ
ス

第一百條 火藥類、危險品、(劇毒)石油類、摺附木各種、火口、油紙、油布、生石灰)死體、特種貴重品(金銀貨、白銅貨、貨金、地金、寶石、金玉、細工物、紙幣、郵便切手、同端書、收入印紙、有價證券、金錢、保險單、遺囑)ノ大貨物運送ノ際時ノ約束ニ依ル

第一條 一箇ノ重量五百斤以上若ハ其ノ才積三十才以上及長大ナル貨物ノ積卸ハ貨主ノ負擔トス但シ積載方法ニ關シテハ保員ノ指揮ニ依ルヘシ

第二條 貨主カ貨物積卸ヲ負擔スル場合ニ於テ積卸ノ器具ヲ使用スルトキハ相當ノ使用料ヲ徴ス

第三條 錠鎖保護ヲ要シ又ハ雨浸ヲ避クルノ必要アルモノ若ハ火氣ニ感シ易キ物品ハ有蓋貨車ヲ以テ運送ス但シ荷受人カ損害負擔ノ特約ヲ爲ストキハ此ノ限ニ在ラス

第四條 貨物カ到達停車場ニ到達スルトキハ直ニ荷受人ニ通知ス

第五條 貨物ノ滅失又ハ毀損アルトキハ運送調査ヲ遂ク書面ヲ以テ荷受人及荷受人ニ通知ス

第六條 荷受人ノ請求アルトキハ貨物引渡ノ際重量ノ検査若ハ貨物ノ狀態ニ付證明書ヲ交付ス

第七條 荷受人ノ都合ニ依リ運送ヲ中止スルモ既納ノ貨金ハ拂戻ヲ爲サス

第八條 高價品ノ滅失又ハ毀損ニ付テハ荷受人カ既送ノ際物品ノ種類、性質及價格ヲ明示シ別ニ定ムル所ノ増貨金ヲ支持セタル場合ニ限リ損害賠償ノ責任ヲ負ハス

第九條 運送狀況ニ記載シタル運送品ノ價格不相當ナリト認ムルトキハ相當ノ手續ニ依リ之ヲ訂正ス

正ヲ爲サシムルコトアルヘシ

第十條 運送貨物一口ノ中ニ貨金増増ヲ要スルモノヲ運送スル場合ニ於テ貨金ノ仕拂ナキトキハ其ノ全部ニ付賠償ノ責任ヲ負ハス

第十一條 荷受人ノ不備又ハ自然ノ腐敗、沸騰、漏洩、融解等ニ因リ生スル運送貨物ノ滅失毀損ニ付テハ賠償ノ責任ニ在ラス

第十二條 到着後二十四時間内ニ引取ラサル貨物ニ付テハ以後二十四時間若ハ其ノ未滿増スル物ニ別ニ定ムル所ノ保管料ヲ徴ス

第十三條 發送前ノ貨物若ハ到着貨物ニシテ貨主ノ都合ニ依リ自己ノ責任ヲ以テ之ヲ停車場構内ニ留置シ二十四時間ヲ經過シタルモノニ付テハ以後二十四時間若ハ其ノ未滿増スル物ニ別ニ定ムル所ノ保管料ヲ徴スルコトアルヘシ

第十四條 荷受人カ貨物ノ引取ヲ拒ミ若ハ荷受人不明ナルトキハ相當期間ヲ定メ荷受人又ハ荷受人ニ處分ヲ催告ス

第十五條 前項ノ期間内ニ於テ荷受人又ハ荷受人カ貨物ノ處分ヲ爲ササルトキハ之ノ公費ニ付シ其ノ代金ヲ以テ債務ノ履行ニ充テ尙不足アルトキハ荷受人若ハ荷受人ノ請求シ剩餘アルトキハ之ヲ還付ス

附則
本規程ハ明治四十年一月一日ヨリ施行ス

明治三十九年十二月二十七日
統監府令第五十五號
明治三十九年十二月二十九號
統監府令第四十九號
統監府令第五十一號
統監府令第五十二號
統監府令第五十三號
統監府令第五十四號
統監府令第五十五號
統監府令第五十六號
統監府令第五十七號
統監府令第五十八號
統監府令第五十九號
統監府令第六十號
統監府令第六十一號
統監府令第六十二號
統監府令第六十三號
統監府令第六十四號
統監府令第六十五號
統監府令第六十六號
統監府令第六十七號
統監府令第六十八號
統監府令第六十九號
統監府令第七十號

徵收スル増貨金ハ二十錢トス但シ乘車區間、乘越又ハ乘換區間ノ運貨カ二十錢以内ナルトキハ其ノ運貨ト同額トス

本令ハ明治四十年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

●大貨物貨金表

統監府令第五十一號
明治三十九年十二月十一日

種類 品名	貨金		備考
	斤	兩	
一斤以上	五錢	三錢	
五斤以上	十錢	七錢	
十斤以上	十五錢	十錢	
五十斤以上	五十錢	三十錢	
一百斤以上	八十錢	五十錢	
二百斤以上	一百五十錢	八十錢	
五百斤以上	二百五十錢	一百五十錢	
一噸以上	五百錢	三百錢	
二噸以上	一千錢	六百錢	
三噸以上	一千五百錢	九百錢	
四噸以上	二千錢	一千二百錢	
五噸以上	二千五百錢	一千五百錢	
六噸以上	三千錢	一千八百錢	
七噸以上	三千五百錢	二千一百錢	
八噸以上	四千錢	二千四百錢	
九噸以上	四千五百錢	二千七百錢	
十噸以上	五千錢	三千錢	
二十噸以上	一萬錢	六千錢	
三十噸以上	一萬五千錢	九千錢	
四十噸以上	二萬錢	一千二百錢	
五十噸以上	二萬五千錢	一千五百錢	
六十噸以上	三萬錢	一千八百錢	
七十噸以上	三萬五千錢	二千一百錢	
八十噸以上	四萬錢	二千四百錢	
九十噸以上	四萬五千錢	二千七百錢	
一百噸以上	五萬錢	三千錢	

大貨物貨金左ノ通定メ明治四十年一月一日ヨリ施行ス

一斤級及噸級大貨物及動物貨率

一 手小荷物貨金表

重量	貨金
一斤以上	二錢
二斤以上	三錢
三斤以上	四錢
四斤以上	五錢
五斤以上	六錢
六斤以上	七錢
七斤以上	八錢
八斤以上	九錢
九斤以上	十錢
十斤以上	十一錢
十一斤以上	十二錢
十二斤以上	十三錢
十三斤以上	十四錢
十四斤以上	十五錢
十五斤以上	十六錢
十六斤以上	十七錢
十七斤以上	十八錢
十八斤以上	十九錢
十九斤以上	二十錢
二十斤以上	二十一錢
二十斤以上	二十二錢
二十斤以上	二十三錢
二十斤以上	二十四錢
二十斤以上	二十五錢
二十斤以上	二十六錢
二十斤以上	二十七錢
二十斤以上	二十八錢
二十斤以上	二十九錢
二十斤以上	三十錢

二 運送便扱大貨物ノ運賃

百斤以上ハ五十噸若ハ五十噸未滿每ニ金五

種類	運賃
自輦車	一輛一哩二付 金一錢五厘
小兒車	同 金一錢五厘
人力車	同 金二錢五厘
轎子	一臺同 金二錢五厘
荷馬車	一輛同 金十錢
荷馬車	同 金十五錢
自働車	同 金十五錢

三 手小荷物貨金表

重量	貨金
一斤以上	二錢
二斤以上	三錢
三斤以上	四錢
四斤以上	五錢
五斤以上	六錢
六斤以上	七錢
七斤以上	八錢
八斤以上	九錢
九斤以上	十錢
十斤以上	十一錢
十一斤以上	十二錢
十二斤以上	十三錢
十三斤以上	十四錢
十四斤以上	十五錢
十五斤以上	十六錢
十六斤以上	十七錢
十七斤以上	十八錢
十八斤以上	十九錢
十九斤以上	二十錢
二十斤以上	二十一錢
二十斤以上	二十二錢
二十斤以上	二十三錢
二十斤以上	二十四錢
二十斤以上	二十五錢
二十斤以上	二十六錢
二十斤以上	二十七錢
二十斤以上	二十八錢
二十斤以上	二十九錢
二十斤以上	三十錢

●手小荷物貨金表
明治三十九年十二月十一日
統監府令第五十一號

手小荷物貨金左ノ通定メ明治四十年一月一日ヨリ施行ス

一 易損品及高品(紙細工、漆器、造花、硝子器、朝子、輕家具、器機類其ノ他損シ易キカ又ノ輕重ニシテ高ナル物品)ノ運賃ハ該ノ本表ノ二倍トス

二 荷送人ヨリ特ニ易損品扱ヲ以テ運送方ヲ請求シタル物品ニ付テモ亦前號ノ運賃ニ依ル行商人及呼賣商人ノ携帶スル商品(貴重品及獸類ヲ除ク)ノ運賃

三 前號最高運程又ハ斤量ヲ超過スルモノハ總テ其ノ物品ニ相當スル普通運賃ニ依ル

四 新聞紙及雜誌ノ運賃ハ運程ノ遠近ニ拘ハラズ重量一斤ニ付金一錢最低運賃五錢トス

五 馬車、自動車、人力車、鞍子、自轉車、小兒車、商品運搬車(空)ノ運賃 一輛若ハ一臺一哩ニ付 最低運賃 馬車、自動車 金二十錢 金四十錢 人力車、鞍子(馬車) 金三錢 金六十錢 小兒車、自轉車、商品運搬車 金二錢 金四十錢

六 但シ旅客自用ノ自轉車ハ一人一輛ニ限リ無貨トス尤モ無貨手荷物託送ノ權利ナクシテ手荷物ヲ託送セザル場合ニ限ル

七 第一項及第七項第一號ノ物品(第一項中手荷物及水ニ入レル活魚、第七項第一號中白銅貨並引換證ヲ發行シタル物品ヲ除ク)ハ停車場所在地市内ニ限リ無料ヲ以テ配達ノ取扱ヲ爲ス

八 死體ノ運賃ハ一箇一哩ニ付金二十錢最低運賃金四圓トス

九 但シ十二年未滿ノ小兒死體ハ半額トス

十 火葬遺骨(箱又ハ蓋ノ類ニ納メタルモノ)ノ運賃ハ第一項小荷物運賃ノ二倍トス

十一 貴重品

十二 第一種 白銅貨、生絲、絹絲、絹織物、同組物同編物等ノ運賃ハ第一項小荷物運賃ニ同

十三 第二種 金銀貨、貴金屬、地金、風細工物、寶石、同細工物及高價ナル鍍金銀器、美術工器、骨董品、繡織物、磁器、鏡、眼鏡、小間物等ノ運賃ハ第一項小荷物運賃ノ二倍トシ最低運賃金二十五錢トス

十四 第三種 紙幣、郵便切手、同葉書、印紙、有價證券其ノ他金銀及物件ニ係ル證券類

十五 五十哩未滿 重量一斤ニ付金二十錢

十六 五十哩以上百哩未滿 同 金三十錢

十七 百哩以上二百哩未滿 同 金四十錢

十八 但シ最低運賃金五十錢トス

十九 荷送人ヨリ特ニ貴重品扱ヲ以テ運送方ヲ請求シタル物品ハ其ノ物品ニ應ジテ前號三號列記ノ第一種乃至第三種貴重品ニ準ス

二十 貴重品ノ運送ニ對スル増賃金

二十一 五十哩未滿 價格金百圓ニ付(價格別表)

二十二 五十哩以上百哩未滿 同 金十錢

二十三 百哩以上二百哩未滿 同 金十五錢

二十四 二百哩以上二百哩未滿 同 金二十錢

二十五 同 金五錢

二十六 二大(容器ニ入レル小大ヲ除ク)ノ運賃

二十七 五十哩未滿 一箇ニ付 金二十錢

二十八 五十哩以上百哩未滿 同 金三十錢

二十九 百哩以上二百哩未滿 同 金四十錢

三十 客車内ニ持込ム大ハ前項ノ二倍トス

三十一 但シ同乘者ノ苦情アリタル場合緩急車ニ移ストモ前ニ徵收シタル料金を返付セズ

三十二 小動物ノ運送ニ對スル増賃金

三十三 五十哩未滿 價格金十圓ニ付(價格別表)

三十四 五十哩以上百哩未滿 同 金十錢

三十五 百哩以上二百哩未滿 同 金十五錢

三十六 二百哩以上二百哩未滿 同 金二十錢

三十七 運輸營業規程第五十一條ニ示ス保管料

三十八 一 託送手荷物、通常小荷物、行商人及呼賣商人ノ携帶スル商品、新聞紙、雜誌ニ對スル保管料ハ一箇ニ付二十四時間若ハ其ノ未滿増賃金ニ左ノ割合ニ依ル

三十九 重量三十斤未滿 金二錢

四十 同三十斤以上百斤未滿 金四錢

四十一 同百斤以上 金六錢

四十二 易損品、高品(第一項第一號ノ物品)及貴重品ニ對スル保管料ハ前號ノ二倍トス

四十三 馬車、自動車ハ一輛ニ付二十四時間若ハ其ノ未滿増賃金ニ全十錢

四十四 人力車、鞍子、自轉車、小兒車、商品運搬車ハ一輛ニ付二十四時間若ハ其ノ未滿増賃金ニ全五錢

四十五 手荷物受託手荷物中ニ手荷物トシテ取扱フヘカフサル物品アリタルトキハ其ノ物品ニ對

スル相當運賃ヲ追徴ス

十一 貨率異ナル小荷物ヲ一括シタル場合ニ於ケル運賃及保管料ハ貨率ノ高キモノニ依リ之ヲ計算ス

十二 小荷物受託品種相違アリタルトキハ左記各號ニ依リ運賃ヲ追徴ス

一 品種相違ノ時ハ現品相當運賃ヨリ最初計算シタル運賃ヲ控除シタル額

二 貨率ノ異ナル品種ノ物品ヲ混シタルトキハ該品種中貨率ノ最高ナルモノニ依リ全斤量ニ對スル運賃ヨリ最初計算シタル運賃ヲ控除シタル額

●臺灣鐵道營業ニ關スル律令

明治三十三年八月十六日 律令第十六號

臺灣總督府評議會ノ議決ヲ經タル臺灣鐵道營業ニ關スル律令勅諭ヲ得テ茲ニ之ヲ發布ス

臺灣鐵道營業ニ關スル律令

第一條 鐵道營業ニ關シテハ明治三十三年法律第六十六號鐵道營業法ニ依ル

第二條 鐵道營業法中命令ヲ以テ定ムヘキ事項ハ臺灣鐵道法中主務大臣ノ職務ニ屬セシメタルモノハ臺灣總督之ヲ行フ

第三條 本令ノ施行期日ハ臺灣總督之ヲ定ム

明治三十三年十二月十九日 臺灣總督府令第百十八號

明治三十三年律令第十六號臺灣鐵道營業法ハ明治三十四年一月一日ヨリ施行ス

●鐵道係員職制

第二十輯 運輸 第三章 鐵道 第三款 營業

臺灣鐵道係員職制

明治三十三年十二月十九日 臺灣總督府令第百十九號

鐵道係員職制左ノ通相定ム

第一條 明治三十三年律令第十六號ニ依ル鐵道係員ハ臺灣總督府鐵道部ニ在テハ左ノ職員ヲ總稱ス

運輸課長

汽車課長

工務課長

運轉事務所長

保線事務所長

驛長

驛長助役

驛務取扱

車長

出札掛

交札掛

貨物掛

小荷物掛

電信掛

操車掛

信號掛

信號手

制動手

警手

驛夫

機關庫主任

機關庫助手

機關手

火夫

檢車工

注油夫

保線手

保線助手

築造番

橋梁番

隘切番

第二條 運輸課長ハ鐵道ノ運輸及鐵道用電氣通信設備ニ關スル事務ヲ掌理シ所部ノ掛員ヲ監督ス

第三條 汽車課長ハ車輛ノ修理保管及運轉ニ關スル事務ヲ掌理シ所部ノ掛員ヲ監督ス

第四條 工務課長ハ線路建設遺物ノ修理及保存ニ關スル事務ヲ掌理シ所部ノ掛員ヲ監督ス

第五條 運轉事務所長ハ運輸課長ノ命ヲ承ケ所管内ニ於ケル運輸鐵道電氣通信及信號ニ關スル運輸課長ノ事務ヲ補助シ並所屬係員ヲ監督ス

第六條 保線事務所長ハ工務課長ノ命ヲ承ケ所管内ニ於ケル線路建設遺物ノ修理及保存ニ關スル工務課長ノ事務ヲ補助シ並所屬係員ヲ監督ス

第七條 驛長ハ運輸課長ノ指揮ヲ承ケ驛務ヲ處理シ驛員ヲ監督ス

第八條 驛長助役ハ驛長ヲ補佐シ驛務ヲ代理ス

第九條 驛務取扱ハ驛長ヲ置カサル停車場ノ驛務ヲ處理シ驛員ヲ監督ス

第十條 車長ハ運輸課長ノ指揮ヲ承ケ列車ノ運轉及輸送ノ事ニ從フ

第十一條 車長ハ列車カ停車場内ニ在ルトキハ驛長ノ指示

チ承テ其事務ヲ執行ス
 第八條 車長ハ車内ノ秩序ヲ保持ス
 第九條 車長ハ車内ノ秩序ヲ保持スル爲必要アルトキハ旅客ニ對シ相當ノ指圖及處分ヲ爲スコトヲ得
 第十條 出札掛ハ車長ノ指揮ヲ承テ乗車券發賣ノ事ニ從フ
 第十一條 改札掛ハ車長ノ指揮ヲ承テ乗車券ノ檢査及集收ノ事ニ從フ
 第十二條 貨物掛ハ車長ノ指揮ヲ承テ運送貨物ノ受授保管ノ事ニ從フ
 第十三條 小荷物掛ハ車長ノ指揮ヲ承テ小荷物及手荷物ノ受授保管ノ事ニ從フ
 第十四條 電信掛ハ車長ノ指揮ヲ承テ電氣通信ノ事ニ從フ
 第十五條 換車掛ハ車長ノ指揮ヲ承テ車輛ノ入レ換及操縦ノ事ニ從フ
 第十六條 信號手ハ車長ノ指揮ヲ承テ信號ノ取扱ニ從ス
 第十七條 輻輳手ハ車長ノ指揮ヲ承テ輻輳器ノ取扱ニ從ス
 第十八條 制動手ハ車長ヲ補佐シ列車運轉中制動機ノ取扱ニ從ス
 第十九條 警手ハ車長ノ指揮ヲ承テ停車場内及倉庫車内又ハ旅客ノ取締ニ從ス
 第二十條 驛夫ハ驛長ノ指揮ヲ承テ停車場ノ雜務ニ從ス
 第二十一條 機關車主任ハ汽車課長ノ指揮ヲ承テ機關車ニ關スル事務ヲ處理シ所屬ノ掛員ヲ監督ス
 第二十二條 機關車助手ハ機關車主任ヲ補佐シ機關車主任が故障アルトキハ之ヲ代理ス
 第二十三條 機關車主任ハ機關車主任ノ指示ヲ承テ機關車運轉ノ事ニ從フ
 第二十四條 火夫ハ機關車運轉中ニ在テハ機關車主任ノ指示ヲ承テ火夫ノ職務ニ從ス
 第二十五條 注油夫ハ機關車主任ノ指示ヲ承テ火夫ノ職務ニ從ス
 第二十六條 檢車工ハ機關車主任ノ指示ヲ承テ線路ノ修理及保存ニ從ス
 第二十七條 保線助手ハ保線手ヲ補佐ス
 第二十八條 保線工長ハ保線手ノ指示ヲ承テ職務ニ從ス
 第二十九條 保線手ハ保線工長ノ指示ヲ承テ職務ニ從ス
 第三十條 鐵道部ハ保線手ノ指示ヲ承テ職務ニ從ス
 第三十一條 鐵道部ハ保線手ノ指示ヲ承テ職務ニ從ス
 第三十二條 鐵道部ハ保線手ノ指示ヲ承テ職務ニ從ス
 第三十三條 鐵道部ハ保線手ノ指示ヲ承テ職務ニ從ス
 第三十四條 鐵道部ハ保線手ノ指示ヲ承テ職務ニ從ス
 第三十五條 鐵道部ハ保線手ノ指示ヲ承テ職務ニ從ス
 第三十六條 鐵道部ハ保線手ノ指示ヲ承テ職務ニ從ス
 第三十七條 鐵道部ハ保線手ノ指示ヲ承テ職務ニ從ス
 第三十八條 鐵道部ハ保線手ノ指示ヲ承テ職務ニ從ス
 第三十九條 鐵道部ハ保線手ノ指示ヲ承テ職務ニ從ス
 第四十條 鐵道部ハ保線手ノ指示ヲ承テ職務ニ從ス

臺灣總督府鐵道部運輸規程
 明治三十三年十二月十九日
 臺灣總督府令第五百二十號
 第三十條 此鐵道部運輸規程ノ施行ニ從テ
 第三十一條 臺灣總督府令第五百二十號
 第三十二條 臺灣總督府令第五百二十號
 第三十三條 臺灣總督府令第五百二十號
 第三十四條 臺灣總督府令第五百二十號
 第三十五條 臺灣總督府令第五百二十號
 第三十六條 臺灣總督府令第五百二十號
 第三十七條 臺灣總督府令第五百二十號
 第三十八條 臺灣總督府令第五百二十號
 第三十九條 臺灣總督府令第五百二十號
 第四十條 臺灣總督府令第五百二十號

臺灣總督府鐵道部運輸規程
 第一條 旅客及公衆ハ鐵道部員ノ職務上ノ指圖ニ從フ
 第二條 旅客及公衆ハ鐵道部員ノ職務上ノ指圖ニ從フ
 第三條 本規程中ニ規定セザル旅客及貨物等ノ運送ハ鐵道部ニ於テ之ヲ定メ各停車場ニ指示ス
 第四條 運賃其他料金ノ計算上積算ノ端數ハ總テ錢位ニ切上ル
 第五條 衡度ハ斤ヲ以テ單位トシ一斤ノ量目ハ百六十分トス但一斤未満ノ端數ハ一斤二切上ル
 第六條 四歲未満ノ小兒ハ無貨滿四歲以上十二歲未満ノ小兒ハ半貨金ヲ以テ運送ス
 第七條 旅客ハ客車ノ定員ニ對シ運賃ヲ支拂ヒ鐵道部ノ承認ヲ得タルトキハ其客車ヲ借切リ定員マテ人員ヲ乗車セシムルコトヲ得
 第八條 前條ノ場合ニ於テハ列車始發停車場ニ於テハ其出發時刻ヨリ少クモ六時間前マテ中間停車場ニ於テハ同時刻ヨリ少クモ十二時間前マテ其申込ヲ爲シ同時刻運賃ヲ支拂フニ從フ
 第九條 停車場ニ於テハ少クモ列車ノ出發時刻十五分前ニ乘車券ヲ賣出ヲ開始ス
 第十條 出札ハ列車出發時刻五分前マテ之ヲ停止スルコトヲ得
 第十一條 改札口ハ列車出發一分前ニ閉鎖ス
 第十二條 鐵道部ハ旅客ニ對シ運賃金額正算補償ヲ

請求スルコトアルヘシ
 第十一條 旅客ハ改札前ニ在テハ其買受ケタル乘車券ヲ他級ノ乘車券ト交換シ又ハ之ヲ返還シテ運賃ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得但運賃拂戻ノ請求ハ乘車券發行ノ當日ニ限ル
 第十二條 乘車券相當ノ座席ナキ場合ニ於テ鐵道部員ハ優等車ニ一時便乗ノ取扱ヲ爲ササルコトヲ得旅客ハ選擇ニ依リ旅行ヲ止メ又ハ劣等車ニ移乗シテ運賃ノ全額又ハ差額ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得但此場合ニ於テハ直ニ鐵道部員ニ申告スルコトヲ要ス
 第十三條 前項ノ場合ノ外旅客ハ乘車券ヲ返還シ運賃ノ拂戻ヲ受ケ又ハ劣等車ニ乗換ノ請求ヲ爲スコトヲ得
 第十四條 改札後ト雖座席ノ餘裕アルトキハ旅客ハ何時ニテモ運賃差額ヲ支拂ヒ優等車ニ乗換ノ請求ヲ爲スコトヲ得
 第十五條 乘車券ハ其通用區間中何レノ部分ニ付テモ之ヲ使用スルコトヲ得但限定ノ乘換區以外ニ下車シタルトキハ再其乘車券ヲ使用スルコトヲ得ス
 第十六條 天災事變其他已ムテ得ザル事由ニ因リ列車ノ運轉中斷シタルトキハ旅客ノ請求ニ依リ既ニ通過セル線路ニ對シ運賃ヲ檢除シ殘額ノ拂戻ヲ爲シ且出發停車場ヘ無貨運送ス
 第十七條 乘車券有效期間最後ノ日ニ於テ列車運送ノ爲接續スル列車ニ乘車スル能ハス爲ニ乘車券ノ效力ヲ失フヘキ場合ニ於テハ其翌日內ニ限リ該乘車券ヲ以テ目的地ニ乘換クコトヲ得但運送ナク其乘車券鐵道部員ニ呈示シ有效ノ證明ヲ受ケタルトキニ限ル
 第十八條 旅客力任意ニ劣等車ニ便乗シタルトキ

ハ運賃差額ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得ス
 第十九條 乘車券ヲ所持セス又ハ無効ノ乘車券ヲ以テ乘車シ若ハ檢査ノ際乘車券ノ呈示ヲ拒ミ又ハ取集ノ際之ヲ波ササル旅客ニ對シ鐵道部ハ優等車運賃ノ二倍ノ罰金ヲ請求スルコトヲ得但罰金ノ支拂ヲ受ケタルトキハ之ニ對シ差額ヲ交付ス
 第二十條 鐵道部員ハ旅客ノ請求アルトキハ座席ヲ指定スルヘシ
 第二十一條 必要ト認ムルトキハ旅客ノ請求ナキ場合ト雖座席ノ指定ヲ爲スコトアルヘシ
 第二十二條 旅客乘車中座席ヲ離レテ之ヲ占カサルトキハ他人ノ之ヲ占取スルモ異議ヲ述ブルコトヲ得ス
 第二十三條 列車出發ノ合圖アリタル後ハ旅客ハ乘車スルコトヲ得ス
 第二十四條 旅客ハ同乗者ニ迷惑ヲ及ボス風體行爲ヲ爲スヘカラス
 第二十五條 車内ノ器具裝飾物ヲ汚損スヘカラス
 第二十六條 車内ノ燃差煙草ノ吸殻及唾等ヲ唾盤ノ外ニ投スヘカラス
 第二十七條 線路係員通行人等ニ危險ヲ與フルノ虞アル物品ハ限ニ之ヲ車外ニ投棄スヘカラス
 第二十八條 列車力停車場外ニ於テ停車スルトキハ假令長時間ニ渉ルト雖鐵道部員ノ許諾ヲ得ルニアラサレハ下車スルコトヲ得ス
 第二十九條 旅客自ラ携帶シ得ル物品ニシテ座席ヲ塞カス且不潔臭氣等ノ爲同乗者ニ迷惑ヲ及ボササルモノハ客車内ニ持込ムコトヲ得
 第三十條 前項ノ物品ニ對シテハ旅客自ラ保管ノ責ニ任スルモノトス

第二十條 犬其他ノ動物ハ客車内ニ携伴スルコトヲ得ス
 第二十一條 携帶制限ヲ超スル火氣類及危毒物他ニ及ハスヘキ虞アル物品ハ客車内ニ持込ムコトヲ得ス
 第二十二條 第三章 手荷物運送
 第二十三條 旅客カ其旅行ニ必要ナル物品ハ手荷物トシテ託送スルコトヲ得但左ノ物品ハ手荷物トシテ託送スルコトヲ得ス
 一 商品
 二 火藥類及危險品類
 三 臭氣ヲ發シ若ハ不潔ナルモノ
 四 貴重品及動物
 五 各種ノ車類及駕籠、乘物、神輿、屏風、簾ノ類
 六 落載スヘキ列車ノ積載車ニ積載シ能ハサル物品
 七 其他容積重量過大ナル物品
 第二十四條 一等旅客ハ百斤マテ二等旅客ハ六十斤マテ三等旅客ハ三十斤マテ手荷物ハ無貨ニテ運送ス
 第二十五條 牛貨金ニテ運送スル小兒ノ無貨手荷物斤量ハ前記斤量ノ半ヲ以テ制限トス
 第二十六條 託送手荷物ハ物品ノ散逸セザル様樣鐵道部員ニ對シテ之ヲ注意セザル限リ之ヲ附著スヘカラス
 第二十七條 手荷物ヲ託送スル者ハ第九條ニ規定スル乘車券賣出時間內ニ其手摺ヲ爲スヘシ然ラサレハ次同ノ列車ヲ以テ運送セザルモノトシテ託送スルコトヲ得ス
 第二十八條 手荷物ヲ託送スル者ハ其乘車券賣出時間內ニ其手摺ヲ爲スヘシ

一且託送シタル手荷物カ假令第二十五條ノ制限斤量以内ナリト雖其乘車券ニ依リ再無手荷物ヲ託送スルコトナラズ

第二十九條 手荷物ノ託送ヲ受ケタルトキハ引換ノ符號ヲ交付シ之ヲ引換ニ引渡サスモ、ト

第三十條 手荷物受取ノ際前條引換ノ符號ヲ所持セザルトキハ其受取ルヘキ權利アルコトヲ證明シ又ハ相當ノ擔保ヲ供スルニアラザラハ之カ引渡ヲ請求スルコトナラズ

第三十一條 託送手荷物ノ其到達停車場ニ於テ之カ引渡ヲ爲スモ、トス但時間其他取扱ニ差支ナキトキハ旅客ノ請求ニ應ジ中間停車場ニ於テモ之カ引渡ヲ爲スヘシ

前項但書ノ場合ニ於テハ豫メ鐵道係員ニ乘車券ヲ呈示シ引渡ノ請求ヲ爲スヘシ

第一項但書ノ場合ニ於テハ手荷物運賃ノ拂戻ヲ請求スルコトナラズ

第三十二條 第三十三條ノ場合ニ於テ旅客ヲ送還スルトキハ該旅客ノ託送セル手荷物ハ旅客ト共ニ之ヲ無償ニ送還ス此場合ニ於テ手荷物運賃ノ償還ハ旅客運賃ノ例ニ依リ

第三十三條 手荷物到達後二十四時間内ニ之ヲ引取ラサルトキハ鐵道部所定ノ保管料ヲ請求ス

第三十四條 鐵道部ノ惡意又ハ重大ナル過失ニ因テ手荷物ノ滅失又ハ毀損ニ付テハ旅客一人ニ對シ價格百圓以内ニ限り損害賠償ノ責任スルモノトス

第三十五條 紛失手荷物ニ對シ賠償額ヲ爲シタル後豫メ請求アリタル場合ニ於テハ其手荷物ヲ發見シタルトキ速ニ之ヲ旅客ニ通知スヘシ

前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ三十日以内ニ賠償

金ヲ還付シ手荷物到達地又ハ託送地マテ無料ニテ該手荷物ノ送付返還ヲ請求スルコトヲ得

旅客カ本條ノ請求ヲ爲サントスルトキハ賠償金額收ノ際書面ヲ以テ之カ豫告ヲ爲スコトヲ要ス

第四十條 小荷物(小貨物)運送

第三十六條 手荷物車ヲ以テ運送スルニ適スル貨物ノ小荷物トシテ旅客列車(混合列車亦同シ)ヲ以テ運送スヘシ但第二十四條第三號第六號及第七號ノ貨物ハ此限ニアラス

第三十七條 手荷物トシテ託送スルヲ得サル物ヲ小荷物トシテ託送シタル場合ニ於テハ旅客ノ請求アルトキハ旅客同一列車ヲ以テ運送スヘシ

第三十八條 小荷物ヲ託送セントスル者ハ列車出發時刻ヨリ少クモ二十分前マテニ其手續ヲ爲スヘシ但前條ノ小荷物ニ付テハ第二十七條ノ規定ヲ準用ス

第三十九條 第二十六條第二十九條及第三十條ノ規定ノ小荷物運送ニ之ヲ準用ス

第四十條 第二十八條第一項第三十一條乃至第三十三條ノ規定ハ第三十七條ノ小荷物運送ニ之ヲ準用ス

第四十一條 小荷物ハ主ナル停車場ニ於テハ荷送人ノ請求ニ依リ受取人カ停車場所在地區内ニ在ル迄ノ爲ニ限リ但第二十四條第四號第五號ノ物品ハ此限ニアラス

配送ヲ取扱フ停車場ハ各停車場ニ之ヲ指示スヘシ

第四十二條 小荷物ノ運送ニハ本章ニ別段ノ定メアル場合ヲ除ク外第八章ノ規定ヲ準用ス

第五章 死體運送

第四十三條 死體ノ託送ニ付テハ第八條ヲ準用ス

第四十四條 死體ハ堅固ナル棺槨ニ納メ蓋スヘシ

第四十五條 死體ヲ託送セントスル者ハ死亡證書ヲ呈示シ且運送狀ニ其寫ヲ添ヘ差出スヘシ

第四十六條 死體ノ運送ニハ託送人ニ於テ附添人ヲ附スヘシ

第四十七條 死體運送ニ付特約アル場合ヲ除ク外三等乗車券ヲ所持スルヲ要ス

第四十八條 死體ハ手荷物車又ハ有蓋貨車ヲ以テ運送スルモノトス但特約ニ依リ特別車ヲ用ユル場合ハ此限ニアラス

第四十九條 死體擔載ノ車輛ハ託送人ノ請求アル場合ノ外旅客列車(混合列車亦同シ)ニ專用スヘシ

第六十條 死體ノ運送狀式ハ鐵道部之ヲ定ム

第六十一條 費運送

第五十一條 本章ニ於テ貨運品ト稱スルハ金銀、紙幣、銀行券、郵便切手、同額券、印紙、有價證券、寶石、寶石製金、寶石、寶石製金、寶石製金ニテ製シタル物又ハ其混作物等ヲ指シ高價品ト稱スルハ貨運品以外ノ高價ナル物ヲ指シ

第五十二條 貨運品及高價品ノ運送ニ付請求スル増賃金ハ左ノ割合トス

一 運送重量二十五哩未滿 價額百分之五

二 同二十五哩以上五十哩未滿 價額百分之十

三 同五十哩以上二百哩未滿 同 金十五錢

四 同二百哩以上二百哩未滿 同 金二十錢

五 同二百哩以上二百哩未滿 同 金三十錢

同 金五錢ヲ増ス

第五十三條 貨運品ハ鐵道部ノ包裝封印列車出發時刻ヨリ少クモ三十分前マテニ託送ノ手續ヲ爲スヘシ

貨運品ノ託送者ハ運送狀ヲ差出スヘシ

第五十四條 貨運品ハ旅客列車(混合列車亦同シ)ヲ以テ運送ス但特約アル場合ハ此限ニアラス

前項ノ列車ハ特ニ限定スルコトアルヘシ此場合ニ於テハ豫メ其旨ヲ停車場ニ指示スヘシ

第五十五條 貨運品ハ其到達ノ通知ヲ受ケタル後六時間内ニ引取ノ手續ヲ爲スヘシ但第三十七條ノ場合ハ到達ノ時ヨリ起算ス

前項ノ期間内ニ引取ラサルトキハ鐵道部所定ノ保管料ヲ請求ス

第五十六條 貨運品及高價品ノ運送ニハ本章ニ別段ノ定メアル場合ヲ除ク外第八章ノ規定ヲ準用ス

第七章 動物運送

第五十七條 旅客ノ攜帶スル小動物ハ旅客ノ請求ニ依リ旅客同一列車ヲ以テ運送スヘシ

第五十八條 小動物ノ其到達停車場ニ於テ即時ニ之カ引取ヲ爲スヘシ若シ之カ引取ヲ爲ササル場合ニ於テハ鐵道部ハ之ヲ飼養スルノ責ヲ負フ

第五十九條 旅客ノ攜帶スル犬ヲ除ク外小動物ハ送付ノ際ニ標識、網、若シハ箱等ニ納メ託送スヘシ

第六十條 旅客列車(混合列車亦同シ)ニ依リ小動

物ノ運送ニ付テハ前條各條ニ定メアル場合ノ外小荷物運送ニ對シテ規定ヲ準用ス

第六十一條 鐵道部ハ動物運送ニ付附添人ヲ請求スルコトアルヘシ

附添人ハ三等乗車券ヲ所持スヘシ

附添人ハ動物ヲ監視シ辱罵シ虐待スルコトヲ得ラザラニ他車ニ轉乘スルコトヲ得ス

附添人ハ糞、枯草等燃ハ易キ物品アルトキハ喫煙器具及發火易キ物品ヲ車中ニ攜帶スルコトヲ得ス

第六十二條 猛獸ヲ託送セントスル者ハ送付其他危害防止ノ爲充分ナル柵柙ヲ施スヘシ

第六十三條 小動物ヲ除ク外動物ヲ託送セントスル者ハ豫メ其中込テ爲シ列車出發時刻ヨリ少クモ一時間前マテニ之ヲ停車場ニ送致スヘシ

特ニ動物運送列車ヲ定メテ公告シタルトキハ託送人ハ前項ノ申込ヲ爲スコトヲ要セス

第六十四條 動物ノ糞、尿ハ小動物ヲ除ク外總テ貨主ニ於テ之ヲ擔當シ且鐵道部ニ於テ請求スルトキハ之ニ要スル材料ヲ準備スヘシ

第六十五條 小動物ノ外動物ハ到着ノ通知ヲ受タリ後速ニ之カ引取ヲ爲スヘシ之カ引取ヲ爲ササル場合ニ於テハ鐵道部ハ之ヲ飼養スルノ責ヲ負フ

第六十六條 託送ノ際價格ヲ明告シ鐵道部ノ請求ニ依リ増賃金ヲ支拂ヒタル場合ノ外鐵道部ノ惡意又ハ重大ナル過失ニ因ラサル毀損ノ損失賠償額スルコトヲ得

一 馬 一頭ニ付 金七十四

二 乳牛 同 金百四

三 牛 同 金三十四

四 犂 同 金十四

五 羊及山羊 同 金五圓

六 豚 同 金四圓

七 其他ノ獸類 同 金五圓

第六十七條 託送ノ際明告セラレタル價格額額限額ヲ越ユルトキハ鐵道部ハ其超過額ニ對シ左ニ掲グル割合ニ依リ増賃金ヲ請求スヘシ

一 五十哩未滿 價格金十(額未滿)金十錢

二 五十哩以上 同 金十五錢

三 二百哩未滿 同 金二十錢

四 二百哩以上 同 金二十五錢

五 三百哩以上 同 金三十錢

第六十八條 動物ノ運送ニハ本章ニ別段ノ定メアル場合ヲ除ク外第八章ノ規定ヲ準用ス

第八章 大貨物運送

第六十九條 荷送人ハ鐵道部ノ承諾ヲ得テ停車場其他鐵道地内ニ自己ノ責任ヲ以テ發送マテ一時貨物ヲ留置スルコトヲ得此場合ニ於テ留置承諾書ハ購票之ヲ交付ス

前項承諾書ハ鐵道係員ノ請求アルトキハ何時タリトモ之ヲ呈示スルコトヲ要ス

本條留置貨物ニ對シテハ所定ノ留置料ヲ徵ス

第七十條 前條留置貨物ハ鐵道部ノ請求アルトキハ其所定ノ時間内ニ場所ノ變更又ハ全部若ハ一部ノ而去テ爲スコトヲ要ス

前項時間内ニ鐵道部請求ノ處置ヲ爲サザルトキハ其時間經過後ハ前條第三項ノ留置料ノ五倍ヲ徵スヘシ

第七十一條 貨物ヲ託送セントスル者ハ貨物取扱時間内ニ運送狀ヲ添ヘ其手續ヲ爲スヘシ

貨物取扱時間ハ午前七時ヨリ午後六時マテトス

但鐵道部之都合ニ依リ本項時間ヲ伸縮スルコトアルヘシ

第七十二條 運送狀ニハ左ノ事項ヲ掲ケルコトヲ要ス

- 一 運送狀作成ノ地及年月日
- 二 發送停車場ノ名稱
- 三 到達停車場
- 四 荷受人ノ氏名若ハ商號及住所、荷受人ノ住所以外ニ配送ヲ要スル物ナルトキハ其届先
- 五 貨物ノ品名重量又ハ容積及其荷造ノ種類箇數並記號
- 六 價格ヲ明告スヘキトキハ其價格及貴重品高價品並動物ニ在テハ増賃金支拂ニ關スル荷受人ノ意思ノ明示
- 七 運送便ノ種類
- 八 貨物引取請求ノ有無
- 九 特約ノ條件アルトキハ其事項
- 十 荷受人ノ氏名又ハ商號及住所
- 十一 託送ノ際荷受人ノ請求アルトキハ鐵道部ノ所定ノ手数料ヲ請求シ運送狀ノ原本ヲ交付スヘシ

第七十四條 貨物引取證ニハ左ノ事項ヲ掲ケ

- 一 貨物引取證作成ノ地及年月日
- 二 第七十二條第二號乃至第七號及第九號第十號ニ掲ケタル事項
- 三 運賃増賃金料金ノ額

第七十五條 荷受人ハ貨物ノ性質ニ依リ運送中ノ減量又ハ毀損ヲ防クニ必要ナル荷造ヲ爲スヘシ

第七十六條 大貨物ノ取扱ヲ適當扱切車扱ノ二種トス

一箇ノ重量五百斤以上若ハ其容積三十立方尺以上ノ貨物又ハ二車以上ヲ要スル貨物ハ貨切車扱トス

一立方尺ノ重量八斤以下ノ貨物ニ對シテハ特ニ品名ヲ指定シ所定ノ割増運賃ヲ請求スルコトアルヘシ

前項ノ品名及割増ノ率ハ各停車場ニ揭示スヘシ

第八十條 一箇ノ貨物ニシテ二車以上ニ跨ル長尺物又ハ重量三噸以上若ハ容積三百立方尺以上ノ大貨物ノ所定ノ割増運賃ヲ請求スヘシ但長五十五尺以上重量十噸以上若ハ容積千立方尺以上ノ貨物ハ臨時ノ約束ニ依リテアラサルハ運送セズ

第八十一條 前條ノ各條件ニ該當シ且割増ノ率ヲ異ニスルモノアルトキハ最高ナル率ニ依リ貨切車扱ノ場合ニ前條割増ヲ爲スヘキモノニ對シテ貨物ヲ積合スルトキハ其全部ニ對シ割増ヲ爲スヘシ

第八十二條 一箇ノ重量五百斤以上若ハ其容積三十立方尺以上ノ貨物又ハ二車以上ヲ要スル貨物ハ貨切車扱トス

一立方尺以上ノ貨物又ハ二車以上ニ跨ル長大物及危險物並貨切車扱ノ貨物ノ積卸ハ貨主ノ負擔トス

第八十三條 第七十九條第八十條及第八十二條ノ容積ノ貨物ノ形狀如何ニ拘ラス長厚幅共最長度ヲ測リ計算ス但寸未滿ハ寸二切トシ又一立方尺未滿ハ一立方尺ニ切上ケ

第八十四條 貨主カ貨物ノ積卸ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ貨物取扱時間内ニ之ヲ爲スヘシ

貨切貨車ニ付テハ鐵道部ハ之カ準備ヲ爲シ積卸時間ヲ定メ貨主ニ通知スヘシ

貨主カ前項ノ期間内ニ積卸サレザルトキハ其運送ニ對シ所定ノ貨車積卸料ヲ請求ス貨切貨車運送ノ後荷受人ノ都合ニ依リテ全ク運送ヲ見合セタルトキ亦同シ

第八十五條 貨主カ積卸ヲ負擔スル場合ニ於テ鐵道部所屬ノ器具ヲ使用スルトキハ其使用料ヲ請求スルコトアルヘシ

第八十六條 貨切車扱ノ場合ニ於テ荷受人ハ貨車使用上必要アルトキハ驛長ノ承諾ヲ得テ自己ノ所有物ヲ使用スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ鐵道部所定ノ方法ニ依リ該品ハ無償ニテ返送スルコトアルヘシ

第八十七條 錠鎖保護ヲ要シ又ハ雨浸ヲ避ケル必要アルモノ若ハ火氣ニ感シ易キ物品ハ有價貨車ニ積載スヘシ

貨切車扱ノ場合ニ於テ荷受人ハ前項ノ物品トシテ驛長ノ承諾ヲ得テ無價貨車ニ積載スルコトヲ得但荷受人カ因テ起ル損傷ヲ引受ケ且其旨ヲ運送狀ニ明記シタル場合ニ限ル

第八十八條 火氣ニ感シ易キ物品若ハ白ラ燐火スル虞アル物品ハ貨物列車ニ依リテアラサルハ運

送スルコトヲ得ス又車長ノ乗務スル緩急車ニ積載スル場合ノ外他品ト積合スルコトヲ得ス

前項ノ危險品ノ品目ハ鐵道部ニ於テ之ヲ定メ各停車場ニ揭示スヘシ

第八十九條 貨物ハ其到達ノ通知ヲ受ケタル後前條ノ物品ハ六時間内其他ハ二十四時間内ニ引取ヲ爲スヘシ

前項ノ期間内ニ引取ヲ爲サザルトキハ鐵道部ノ所定ノ保管料ヲ請求ス

荷受人カ荷卸ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ第一項ノ期間内ニ引取ヲ爲サザルトキハ鐵道部ハ荷受人ノ費用ヲ以テ貨物ノ引渡前荷卸ヲ爲スコトヲ得

第九十條 到着停車場内ニ於テ貨物ノ引渡サレシタル後荷造地内ヨリ引取ヲ爲サザルトキハ鐵道部ハ該貨物ニ對シ一切ノ責任ニ任セズ

前項ノ場合ニ於テハ所定ノ留置料ヲ請求スヘシ

第九十一條 荷受人若ハ貨物引取證所持人カ自己ノ都合ニ依リ運送ノ中止若ハ運送品ノ返還ヲ請求スル場合ニ於テハ既納ノ賃金ハ拂戻ヲ爲サズ且返還ヲ要スルモノニ在テハ貨物ノ現在地ヨリ返還地ニ至ル普通ノ運賃ヲ仕拂フヘシ

第九十二條 第二十九條第三十條ノ規定ハ引取證ヲ交付セザル貨物ニ之ヲ準用ス

第九十三條 第十三條ノ規定ハ貨物ノ運送ニ之ヲ準用ス

第九十三條ノ二 第十六條ノ割増賃金ハ過量ニ積載シタル貨物ノ運送ニ之ヲ準用ス

附則

第九十四條 此規程ハ明治三十三年律令第十六號施行ノ日ヨリ施行ス

明治三十一年七月府令第五十三號貴重品鐵道運送規程ハ此規程施行ノ日ヨリ廢止ス

第二十輯 運輸 第三章 鐵道 第三款 營業

一三七

火藥類鐵道運送條規

明治三十一年七月十三日 臺灣總督府令第五十一號

火藥類鐵道運送條規ノ通稱定メ明治三十一年七月十五日ヨリ施行ス

第一條 火藥類ハ鐵道運輸上ノ都合ニ依リ貨物列車ヲ以テ運送スヘシ

火藥類ハ左ノ事項ヲ具備スル場合ニ限リ他ノ貨物ト一車中ニ混載シ又旅客列車若ハ混合列車ニ積載スルコトヲ得但シ「ゲイナマイト」類火藥等劇發火藥類ハ此ノ限ニ在ラス

一 小銃用安全彈藥筒、雷管若ハ爆管ノミナ裝着セル銃砲ノ空彈筒、安全彈火繩起爆劑ヲ附セル黄色空彈筒(前項ノ起爆劑ヲ附セル者ニ限リ)及五十斤以下ノ火藥ニシテ其包裝ヲ安全堅牢ナラシメ且外部見易キ所ニ火藥ト明記シタルトキ

二 混載貨物カ容易ニ燃燒シ又ハ爆發ノ誘因ナルヘキ炭ナキモノナルトキ

三 混載貨物カ火藥類ト同一停車場ヨリ發送スルモノナルトキ

四 混載貨物カ火藥類ヨリ後ニ荷卸ヲ爲スヘキモノナルトキ

第二條 火藥類運送賃金ハ百斤ニ付一哩金二錢トス但三千五百斤未滿ハ三千五百斤分二十哩未滿ハ二十哩分ヲ徵收スヘシ但前條第二項第一號記載ノモノニ限リ左ノ割合トス

一 小銃用安全彈藥筒、雷管若ハ爆管ノミナ裝着セル銃砲ノ空彈筒、安全彈火繩、起爆劑ヲ附セル黄色空彈筒、混載貨物(前項ノ起爆劑ヲ

百斤ニ付一哩金五錢トシ三百斤未滿ハ三百斤分、二十哩未滿ハ二十哩分ヲ徵收ス

二 五十斤以下ノ火藥ハ一口ニ付一哩金十五錢トシ二十哩未滿ハ二十哩分ヲ徵收ス

第三條 火藥類ヲ運送セントスルモノハ別記トシ書ヲ二十四時間以前ニ停車場驛長ニ提出シ其承諾ヲ領受スヘシ其書ニキリキ之ヲ運送セズ但非常急劇ノ場合ハ此限ニアラス

第四條 火藥類ノ受渡ハ日出後日没前ニシテ鐵道當該官更ニ於テ特ニ指定スル日時ニ限ルヘシ

第五條 火藥類ノ受渡庫人荷揚荷積ヲ爲ストキハ其積卸等ハ成ルヘク互ニ手渡シシ決シテ地上ニ投下シ又ハ傾倒セシムヘカラス

第六條 火藥類ノ受渡庫人荷揚荷積ヲ爲ス者ハ鋼鐵或ハ釘ヲ附シタル靴類ヲ穿テ又ハ摺附木等ノ發火質アル器具ヲ携ヘ又ハ吸煙スルヲ許サズ

第七條 火藥類ノ受渡庫人荷揚荷積ヲ始ムルトキハ之ヲ終ルマテ少時間ト雖積積スヘカラス又其事ニ關與セザル者ハ決シテ其場ニ近カシムヘカラス

第八條 火藥類停車場若ハ鐵道ノ倉庫ニ到着シタルトキハ六時間以内ニ其受取方ヲ爲スヘシ其時間ヲ過クレハ一時間毎ニ三千五百斤ニ付金二圓ノ運賃料ヲ徵收スヘシ三千五百斤ニ滿タサル際數亦同シ

第九條 火藥類ノ受渡庫人運送中ニ生シタル損害ニ對シテハ一切其責任ニ任セズ

第十條 旅客ハ火藥類ヲ攜帶シテ乘車スルコトヲ得ス但限額内火藥百發以内ヲ攜帶スル場合及兵員乘車ノトキ其攜帶スル火藥ハ此限ニアラス(別記)

第 一 條 火藥類托送者 左記ノ貨物火藥類鐵道運送規程本條ノ上 聯送運送仰依托致候也

明治 年 月 日 住 所 姓 名

Table with columns for name, address, and other details for the carriage regulations.

傳染病患者鐵道乘車規程

明治三十四年一月二十三日 傳染病患者鐵道乘車規程 傳染病患者鐵道乘車規程

鐵道軍事供用令

明治三十七年一月二十五日 鐵道軍事供用令 鐵道軍事供用令

列車ニ依リ又ハ普通列車中一車以上ヲ專用シテ陸海軍別體及其ノ携行シ又ハ之ニ短シテ運送スル馬匹及軍用品ヲ輸送スルヲ謂フ

乃至第八條ノ規定ニ依ラサルコトヲ得 第一條 軍用輸送ニ供スル車輛ノ清潔ニ掃除シ必

Table with columns for military transport types and their respective costs.

第二條 鐵道軍事供用令第四條乃至第八條ニ依リ 第一條 陸海軍ニ於テ軍用輸送ヲ要求セントスル

途中ノ取捨ニ任セシム
普通列車ニ依ル軍車輸送ヲ爲ス場合ニ於テモ輸送指揮官又ハ軍車輸送指揮官ハ必要ニ應ジテ車場司令官若ハ特派員ニ命シタル將校同相當官ヲ派シ當該停車場ニ於ケル輸送ノ業務ヲ掌ラシム
第十二條 軍車輸送ヲ要求シタル官衙ハ軍車輸送ニ對シ鐵道軍用輸送券ヲ發行ス但輸送指揮官又ハ軍車輸送指揮官ハ輸送ニ在テハ此限ニテアラス
前項ノ輸送券ハ搭載地即チ下地間ヲ通シテ一通過ス但途中ニ於テ搭載又ハ卸チ下爲ス輸送物アルトキハ其輸送ニ關シテハ各別ニ輸送券ヲ發行スルモノトス

第十三條 輸送券ハ甲乙丙ノ三部ニ区分シ甲部ハ料金計算ノ用ニ乙部ハ料金對照ノ用ニ丙部ハ輸送途中ノ證據ニ供スルモノトス
第十四條 軍車輸送ノ料金ハ會社ヨリ仕拂請求書ニ輸送券ノ甲部ヲ添ヘ請求スヘシ但輸送券ヲ發行セサル場合ニ在テハ就運貨物輸送ノ例ニ依ルモノトス
二箇以上ノ會社ニ關係スル軍車輸送ノ料金ハ始發停車場所管ノ會社ヨリ請求スルモノトス
前項料金ノ分配方ハ關係會社協議ノ上ニ決定スルモノトス
第十五條 軍車輸送ノ料金ハ時宜ニ依リ現金拂トス
第十五條 軍車輸送ノ料金ハ時宜ニ依リ現金拂トス

「料金拂濟」ト朱書スルモノトス
第十六條 鐵道軍事供用金第三條ノ費用ハ一口毎ニ一通トシ會社ヨリ其仕拂請求書ニ證據書ヲ添ヘ之ヲ請求スヘシ
第十七條 會社ニ於テ軍車輸送實施ノ爲生シタル民事上ノ損害ニシキ賠償ヲ受ケントスルトキハ一口毎ニ證據書ヲ添ヘ主務大臣ニ申出ツヘシ
第十八條 會社ハ陸海軍ノ要求ニ依リ軍車輸送ニ關シ必要ナル事項ヲ報告スヘシ
第十九條 本規定ニ規程セサル事項ハ鐵道運輸規程鐵道信託規程及火藥類鐵道運送規程ノ規定ヲ準用ス
第二十條 本規程ハ官設鐵道ニ之ヲ準用ス

甲

第一號 鐵道軍用輸送券 (甲部) 至

明治年月日 發送官衙

發送區間 自 經 至

輸送部隊 (若ハ輸送物) 及其所屬官衙

一 發送官衙ハ券ノ表面(甲、乙、丙部共)所定ノ位置ニ必要ナル事項及甲部裏面ニ輸送料金仕拂請求書ヲ記入シ且官印ヲ捺シ輸送指揮官若ハ軍車輸送指揮官若ハ軍車輸送指揮官ノ署名捺印シ後發車停車場司令官若ハ主任將校同相當官(若ハ特派員)ニ交付ス

二 發車停車場司令官若ハ主任將校同相當官ハ券面記入ノ事項及車場長ハ券ノ甲部ヲ取り置キ乙部丙部所定ノ位置ニ署名捺印シ之ヲ當該指揮官ニ交付ス

三 發車停車場司令官若ハ主任將校同相當官ハ券面記入ノ事項及車場長ハ券ノ甲部ヲ取り置キ乙部丙部所定ノ位置ニ署名捺印シ之ヲ當該指揮官ニ交付ス

四 發車停車場司令官若ハ主任將校同相當官ハ券面記入ノ事項及車場長ハ券ノ甲部ヲ取り置キ乙部丙部所定ノ位置ニ署名捺印シ之ヲ當該指揮官ニ交付ス

五 發車停車場司令官若ハ主任將校同相當官ハ券面記入ノ事項及車場長ハ券ノ甲部ヲ取り置キ乙部丙部所定ノ位置ニ署名捺印シ之ヲ當該指揮官ニ交付ス

六 發車停車場司令官若ハ主任將校同相當官ハ券面記入ノ事項及車場長ハ券ノ甲部ヲ取り置キ乙部丙部所定ノ位置ニ署名捺印シ之ヲ當該指揮官ニ交付ス

乙

第二號 鐵道軍用輸送券 (乙部) 至

明治年月日 發送官衙

發送區間 自 經 至

輸送部隊 (若ハ輸送物) 及其所屬官衙

明治年月日 發車停車場場長

此部ハ發車後ニ交付スヘシ

乙

輸送人馬物件	所要鐵道車輛	摘要
種類	種類	
數量	數量	

表申不用ノ欄ハ斜線ヲ畫スヘシ

甲

輸送人馬物件	所要鐵道車輛	摘要
種類	種類	
數量	數量	

明治年月日

輸送料金ハ仕拂請求書ニ本券ヲ添附シテニ請求スヘシ

●陸軍軍人軍屬鐵道乘車物品輸送手續

明治三十六年三月三日

陸軍省告示第三號

陸軍軍人軍屬鐵道乘車物品輸送手續左ノ通改正ス

陸軍軍人軍屬鐵道乘車物品輸送手續

第一條 陸軍軍人軍屬明治三十九年以前選信者告示第四百三十二號並鐵道法第六十九條ニ依リ往復スルトキ及物品ヲ輸送スルトキハ所屬ノ軍隊官衙學校ニ於テ左ノ様式ニ從ヒ證券ヲ調製シ軍人軍屬ニハ單獨旅行ニ在リテハ各本人ニ部隊

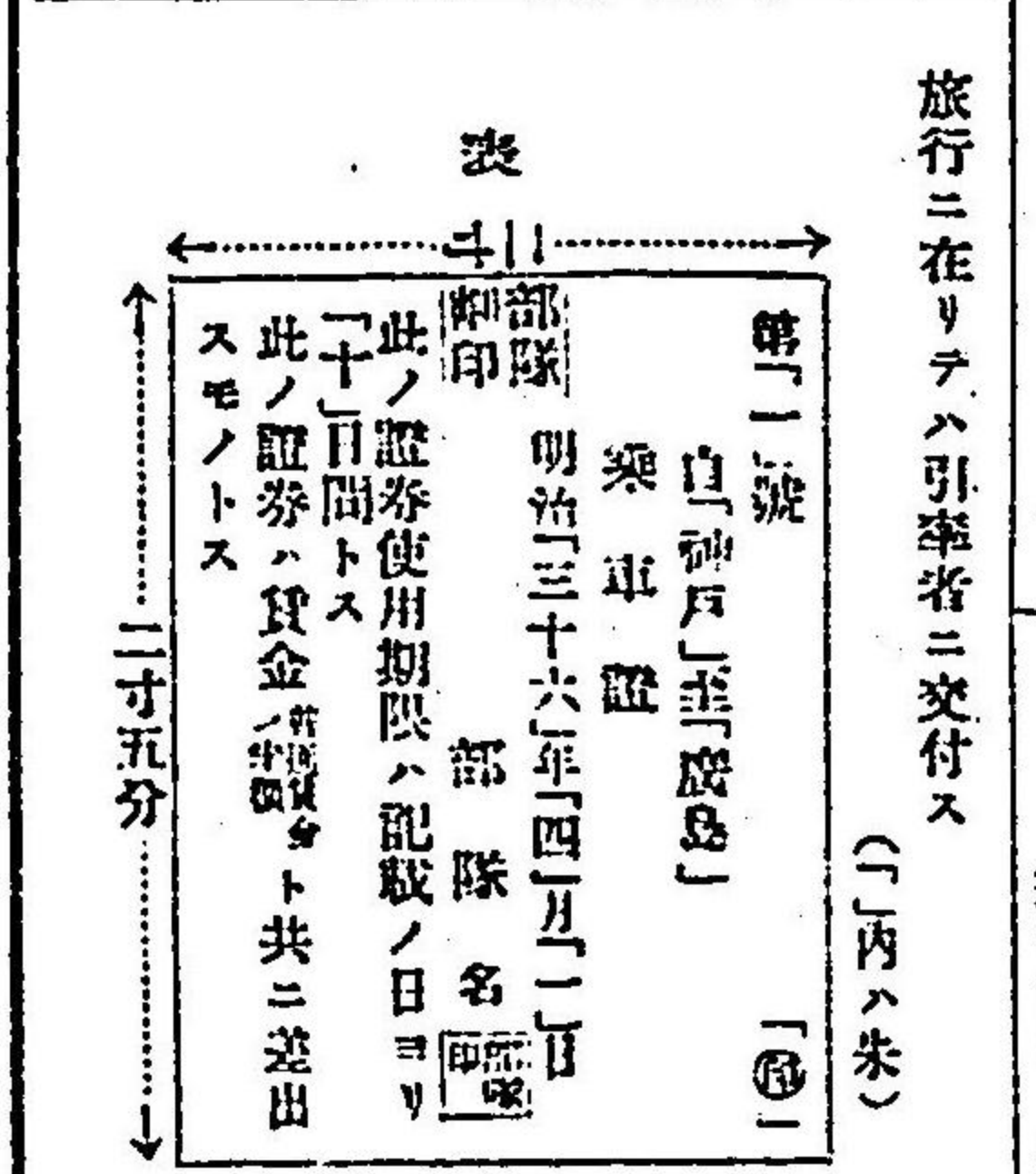


表 (行旅圖章)

「一等」 [官氏名]

「二等」 [何年何月]

「三等」 [何人]

「引率者」 [何氏名]

「一等」 [何人]

「二等」 [何氏名]

「三等」 [何人]

「兵器器具」 [何箇何斤]

「工兵器具」 [何箇何斤]

第二條 (行旅) 「何人」 「何人」 「馬匹」 「何頭」 「物名箇數斤量」

「發送部隊名」 「(發)」 「物名箇數斤量」 「發送請負者ニ托送スル物」 「(キ)左ノ如ク記入スヘシ」 「右ノ其會社ニ托送ス」

朱字ハ赤字ト爲シ必要ニ應ジテ記入附與スルモノトス

但シ記入ノ文字ハ鉛筆ヲ用井サルモノトス

表面乘車區間ノ下及裏面發送部隊名ノ下ノ小印ハ證券發行担当者ノ認印ナリ

第二條 軍人軍屬ニ附與スル乘車證券ハ軍人ニ在リテハ上長官以上一等室士官准士官二等室以下三等室軍屬ニ在リテハ高等官五等以上一等室同六等以下二等室列任官及雇員備員ハ三等室ヲ以テ定規トス然レトモ本人ノ希望ニ依リ等級ヲ變更シ又ハ各等級室ノ設ナキ列車ニ在リテハ附券面ノ一等室ニ乗リ二等室ニ變更スルモ妨ケナシ

第三條 一時數種ノ物品ヲ輸送スルトキ證券裏面ニ列記シ能ハサルトキハ別紙ニ物名、箇數、斤量ヲ記載シ添付スルコトヲ得

第四條 乘車證券ハ其地ニ往復スル者或ハ旅行各

地ニ互リ汽車ノ乘替ヲ要スル者ノ如キハ其ノ度數ヲ量リ乘車券ヲ附與スルコトヲ得

但シ證券不用ト爲リタルトキハ返付スルモノトス

第五條 水火盜難等ノ爲ニ證券ヲ失ヒタルカ或ハ臨時證券ヲ要スルコトキハ其ノ附近ノ軍隊官衛學校ニ就キ請求スルコトヲ得

第六條 無貨攜帶スルヲ得ヘキ手荷物ノ定限ハ尋常乗客ニ同シ其ノ定限ヲ超ユルモノニ對シテハ相當ノ運賃ヲ拂フヘキモノトス

第七條 在郷軍人召集ノトキハ召集令狀若ハ之ヲ證明スヘキ文書又ハ憲兵若ハ警察官ノ證明ヲ以テ乘車證券ニ代フルコトヲ得

兵卒入營ノトキハ現役兵證書補充兵證書六週間現役兵合格證書ヲ以テ乘車證券ニ代フルコトヲ得

士官候補生一年志願兵下士候補生及陸軍衛生隊入隊入校ノトキハ入隊入校ヲ證明スヘキ文書ヲ以テ乘車證券ニ代フルコトヲ得

前三項ノ場合ニハ乘車ノ都度令狀證書若ハ其ノ他ノ文書ノ端末ニ「自支隊至某驛」ト乘車本人各自ニ記入シテ之ヲ乘車券出札務務者ニ示シ其ノ認印ヲ受クヘシ

●海軍軍人軍屬鐵道乘車物品輸送手續

明治三十七年十一月二十四日
海軍省告示第二十八號
第三五號第三號

海軍軍人軍屬鐵道乘車物品輸送手續

第一條 海軍軍人軍屬明治三十九年秋通信省告示第四百三十二號鐵道乘車法第六十九條ニ依リ

往復スルトキ及物品輸送スルトキハ所屬ノ各部機關ニ於テ左ニ掲ケル格式ノ證券ヲ附與ス

第二條 證券ハ軍人軍屬ノ單獨旅行ニ在リテハ各本人ニ隊伍旅行及物品輸送ニ在リテハ引導者若ハ輸送担当者ニ各一葉ヲ附與ス

隊伍旅行ノトキハ引導者ノ官職氏名ノ外ニ一行ノ人員ヲ記入シ客車等級ヲ異ニスル場合ニ於テハ客車等級毎ニ其ノ人員ヲ區分スヘシ

物品輸送ノトキハ發送部隊名品名箇數及重量ヲ記入シ一時數種ノ物品ヲ輸送シ證券面ニ列記シ能ハサルトキハ別紙ニ記入添付スヘシ

第三條 證券ハ各部機關ニ於テ所屬ノ數ヲ限定シ東京所在各部ハ海軍省經理局ニ其ノ他ノ各部機關ハ最寄海軍經理部ニ要求シ備ヘ置クヘシ

第四條 證券ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ附與ス但シ本人ノ希望ニ依リ若ハ相當客車ノ設ケナキ等ノ爲其ノ等級ヲ變換スルハ妨ケナシ

一 高等官以上
二 候補生、學生、生徒及列任官
三 二等室
三 卒、雇員及備員

第五條 證券ハ其地ニ往復シテ旅行各地ニ互リ乘換ヲ要スルコトアル者ニハ其ノ度數ヲ量リ乘車券ニ附與スルコトヲ得但シ不用トナリタルトキハ返付スヘシ

第六條 水火盜難等ノ爲ニ證券ヲ失ヒタルカ或ハ臨時證券ヲ要スルコトキハ其ノ附近ノ海軍各部機關ニ就キ請求スルコトヲ得

第七條 在郷軍人召集若ハ新兵入隊ノトキハ證券ヲ用ヒスニ在リテハ召集令狀、志願兵ニ在リテハ採用證書、徵兵ニ在リテハ現役證書若ハ之ヲ證明スヘキ文書ヲ示シ又ハ憲兵若ハ警察官ノ證明ニ依リ海軍乘車證券ニ代フルコトヲ得但シ乘

車ノ都度令狀證書若ハ其ノ他ノ文書ノ端末ニ「自支隊至某驛」ト本人ニ於テ記入シ之ヲ乘車券出札務務者ニ示シ其ノ認印ヲ受クヘシ

第八條 此ノ手續ニ依リ海軍乘車モノトシテ乘車手荷物賃金ノ半額ハ客車客室同シ

附則

第九條 本手續ハ明治三十九年十月一日ヨリ施行ス

「何人」 「何人」 「馬匹」 「何頭」 「物名箇數斤量」

「發送部隊名」 「(發)」 「物名箇數斤量」 「發送請負者ニ托送スル物」 「(キ)左ノ如ク記入スヘシ」 「右ノ其會社ニ托送ス」

朱字ハ赤字ト爲シ必要ニ應ジテ記入附與スルモノトス

但シ記入ノ文字ハ鉛筆ヲ用井サルモノトス

表面乘車區間ノ下及裏面發送部隊名ノ下ノ小印ハ證券發行担当者ノ認印ナリ

第二條 軍人軍屬ニ附與スル乘車證券ハ軍人ニ在リテハ上長官以上一等室士官准士官二等室以下三等室軍屬ニ在リテハ高等官五等以上一等室同六等以下二等室列任官及雇員備員ハ三等室ヲ以テ定規トス然レトモ本人ノ希望ニ依リ等級ヲ變更シ又ハ各等級室ノ設ナキ列車ニ在リテハ附券面ノ一等室ニ乗リ二等室ニ變更スルモ妨ケナシ

第三條 一時數種ノ物品ヲ輸送スルトキ證券裏面ニ列記シ能ハサルトキハ別紙ニ物名、箇數、斤量ヲ記載シ添付スルコトヲ得

第四條 乘車證券ハ其地ニ往復スル者或ハ旅行各

「引導者」 「官氏名」 「何人」 「何人」 「馬匹」 「何頭」 「物名、名稱、箇數、重量」

「發送部隊名」 「(發)」 「物名、名稱、箇數、重量」 「發送請負者ニ托送スル物」 「(キ)左ノ如ク記入スヘシ」 「右ノ其會社ニ托送ス」

●海軍軍人軍屬鐵道乘車物品輸送手續

明治三十七年十一月二十四日
海軍省告示第二十八號
第三五號第三號

海軍軍人軍屬鐵道乘車物品輸送手續

第一條 海軍軍人軍屬明治三十九年秋通信省告示第四百三十二號鐵道乘車法第六十九條ニ依リ

往復スルトキ及物品輸送スルトキハ所屬ノ各部機關ニ於テ左ニ掲ケル格式ノ證券ヲ附與ス

第二條 證券ハ軍人軍屬ノ單獨旅行ニ在リテハ各本人ニ隊伍旅行及物品輸送ニ在リテハ引導者若ハ輸送担当者ニ各一葉ヲ附與ス

隊伍旅行ノトキハ引導者ノ官職氏名ノ外ニ一行ノ人員ヲ記入シ客車等級ヲ異ニスル場合ニ於テハ客車等級毎ニ其ノ人員ヲ區分スヘシ

物品輸送ノトキハ發送部隊名品名箇數及重量ヲ記入シ一時數種ノ物品ヲ輸送シ證券面ニ列記シ能ハサルトキハ別紙ニ記入添付スヘシ

第三條 證券ハ各部機關ニ於テ所屬ノ數ヲ限定シ東京所在各部ハ海軍省經理局ニ其ノ他ノ各部機關ハ最寄海軍經理部ニ要求シ備ヘ置クヘシ

第四條 證券ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ附與ス但シ本人ノ希望ニ依リ若ハ相當客車ノ設ケナキ等ノ爲其ノ等級ヲ變換スルハ妨ケナシ

一 高等官以上
二 候補生、學生、生徒及列任官
三 二等室
三 卒、雇員及備員

第五條 證券ハ其地ニ往復シテ旅行各地ニ互リ乘換ヲ要スルコトアル者ニハ其ノ度數ヲ量リ乘車券ニ附與スルコトヲ得但シ不用トナリタルトキハ返付スヘシ

第六條 水火盜難等ノ爲ニ證券ヲ失ヒタルカ或ハ臨時證券ヲ要スルコトキハ其ノ附近ノ海軍各部機關ニ就キ請求スルコトヲ得

第七條 在郷軍人召集若ハ新兵入隊ノトキハ證券ヲ用ヒスニ在リテハ召集令狀、志願兵ニ在リテハ採用證書、徵兵ニ在リテハ現役證書若ハ之ヲ證明スヘキ文書ヲ示シ又ハ憲兵若ハ警察官ノ證明ニ依リ海軍乘車證券ニ代フルコトヲ得但シ乘

「何人」 「官職氏名」

「發送部隊名」 「(發)」 「物名、名稱、箇數、重量」 「發送請負者ニ托送スル物」 「(キ)左ノ如ク記入スヘシ」 「右ノ其會社ニ托送ス」

朱字ハ赤字ト爲シ必要ニ應ジテ記入附與スルモノトス

但シ記入ノ文字ハ鉛筆ヲ用井サルモノトス

表面乘車區間ノ下及裏面發送部隊名ノ下ノ小印ハ證券發行担当者ノ認印ナリ

第二條 軍人軍屬ニ附與スル乘車證券ハ軍人ニ在リテハ上長官以上一等室士官准士官二等室以下三等室軍屬ニ在リテハ高等官五等以上一等室同六等以下二等室列任官及雇員備員ハ三等室ヲ以テ定規トス然レトモ本人ノ希望ニ依リ等級ヲ變更シ又ハ各等級室ノ設ナキ列車ニ在リテハ附券面ノ一等室ニ乗リ二等室ニ變更スルモ妨ケナシ

第三條 一時數種ノ物品ヲ輸送スルトキ證券裏面ニ列記シ能ハサルトキハ別紙ニ物名、箇數、斤量ヲ記載シ添付スルコトヲ得

第四條 乘車證券ハ其地ニ往復スル者或ハ旅行各

「引導者」 「官氏名」 「何人」 「何人」 「馬匹」 「何頭」 「物名、名稱、箇數、重量」

「發送部隊名」 「(發)」 「物名、名稱、箇數、重量」 「發送請負者ニ托送スル物」 「(キ)左ノ如ク記入スヘシ」 「右ノ其會社ニ托送ス」

●海軍軍人軍屬鐵道乘車物品輸送手續

明治三十七年十一月二十四日
海軍省告示第二十八號
第三五號第三號

海軍軍人軍屬鐵道乘車物品輸送手續

第一條 海軍軍人軍屬明治三十九年秋通信省告示第四百三十二號鐵道乘車法第六十九條ニ依リ

往復スルトキ及物品輸送スルトキハ所屬ノ各部機關ニ於テ左ニ掲ケル格式ノ證券ヲ附與ス

第二條 證券ハ軍人軍屬ノ單獨旅行ニ在リテハ各本人ニ隊伍旅行及物品輸送ニ在リテハ引導者若ハ輸送担当者ニ各一葉ヲ附與ス

隊伍旅行ノトキハ引導者ノ官職氏名ノ外ニ一行ノ人員ヲ記入シ客車等級ヲ異ニスル場合ニ於テハ客車等級毎ニ其ノ人員ヲ區分スヘシ

物品輸送ノトキハ發送部隊名品名箇數及重量ヲ記入シ一時數種ノ物品ヲ輸送シ證券面ニ列記シ能ハサルトキハ別紙ニ記入添付スヘシ

第三條 證券ハ各部機關ニ於テ所屬ノ數ヲ限定シ東京所在各部ハ海軍省經理局ニ其ノ他ノ各部機關ハ最寄海軍經理部ニ要求シ備ヘ置クヘシ

第四條 證券ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ附與ス但シ本人ノ希望ニ依リ若ハ相當客車ノ設ケナキ等ノ爲其ノ等級ヲ變換スルハ妨ケナシ

一 高等官以上
二 候補生、學生、生徒及列任官
三 二等室
三 卒、雇員及備員

第五條 證券ハ其地ニ往復シテ旅行各地ニ互リ乘換ヲ要スルコトアル者ニハ其ノ度數ヲ量リ乘車券ニ附與スルコトヲ得但シ不用トナリタルトキハ返付スヘシ

第六條 水火盜難等ノ爲ニ證券ヲ失ヒタルカ或ハ臨時證券ヲ要スルコトキハ其ノ附近ノ海軍各部機關ニ就キ請求スルコトヲ得

第七條 在郷軍人召集若ハ新兵入隊ノトキハ證券ヲ用ヒスニ在リテハ召集令狀、志願兵ニ在リテハ採用證書、徵兵ニ在リテハ現役證書若ハ之ヲ證明スヘキ文書ヲ示シ又ハ憲兵若ハ警察官ノ證明ニ依リ海軍乘車證券ニ代フルコトヲ得但シ乘

又ハ貿易事務官ニ其船ノ積載ノ測定ヲ申請スルコトヲ得

第五條 日本船舶ノ所有者ハ登記ヲ爲シタル後船籍簿ヲ管轄スル管海官廳ニ備ヘタル船舶原簿ニ登録ヲ爲スコトヲ要ス

前項ニ定メタル登録ヲ爲シタルトキハ管海官廳ハ船舶國籍證書ヲ交付スルコトヲ要ス

第六條 日本船舶ハ法令ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ヲ請受ケタル後ニ非サルハ日本ノ國旗ヲ掲ケ又ハ之ヲ航行セシムルコトヲ得ス

第七條 日本船舶ハ法令ノ定ムル所ニ從ヒ日本ノ國旗ヲ掲ケ且其名稱、船籍港、番號、積載、喫水ノ尺度其他ノ事項ヲ標示スルコトヲ要ス

第八條 日本船舶ノ名稱ハ船籍港ヲ管轄スル管海官廳ノ許可ヲ得ルニ非サルハ之ヲ變更スルコトヲ得ス

第九條 船舶所有者カ其船舶ヲ修繕シタル場合ニ於テ其積載ニ變更ヲ生シタルモノト認ムルトキハ運海官廳ニ報告シ管轄スル管海官廳ニ其船舶ノ積載ノ改測ヲ申請スルコトヲ要ス

第四條第二項及ヒ第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十條 登録シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ船舶所有者ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ二週間内ニ變更ノ登録ヲ爲スコトヲ要ス

第十一條 船舶國籍證書ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ船舶所有者ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ二週間内ニ其書換ヲ申請スルコトヲ要ス

第十二條 船舶國籍證書カ滅失シタルトキハ船舶所有者ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ二週間内ニ更正ノ申請ヲ爲ス

第十三條 日本船舶カ外國ノ港ニ碇泊スル間ニ於テ船舶國籍證書カ滅失若クハ毀損シ又ハ之ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ船長ハ其地ニ於テ假船舶國籍證書ヲ請受ケルコトヲ得

第十四條 日本船舶カ外國ノ港ニ碇泊スル間ニ於テ船舶國籍證書カ滅失若クハ毀損シ又ハ之ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ船長ハ其地ニ於テ假船舶國籍證書ヲ請受ケルコトヲ得

第十五條 日本ニ於テ船舶ヲ取得シタル者カ其取得地ヲ管轄スル管海官廳ノ管轄區域内ニ船舶港ヲ定メ登録スルハ其管海官廳ノ所在地ニ於テ假船舶國籍證書ヲ請受ケルコトヲ得

第十六條 外國ニ於テ船舶ヲ取得シタル者ハ其取得地ニ於テ假船舶國籍證書ヲ請受ケルコトヲ得

第十七條 外國ニ於テ交付スル假船舶國籍證書ノ有効期間ハ一年ヲ越スルコトヲ得ス

第十八條 船舶カ船籍港ニ到着シタルトキハ假船舶國籍證書ハ有効期間満了前ト雖モ其效力ヲ失フ

第十九條 第十一條乃至第十四條ノ規定ハ假船舶國籍證書ニ之ヲ準用ス

第二十條 前十六條ノ規定ハ總噸數二十噸未満又ハ積石數二百石未満ノ船舶及ヒ機舫其他機舫ノミナリテ運轉シ又ハ主トシテ機舫ヲ以テ運轉スル舟ニハ之ヲ適用セズ

第二十一條 前條ニ掲ケタル船舶ノ船籍及ヒ其積載ノ測定ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十二條 日本船舶ニ非シテ國籍ヲ詳ル目的ヲ以テ日本ノ國旗ヲ掲ケタルトキハ船長ハ其船舶ノ積載ニ關シテ日本ノ國旗ヲ掲ケタルトキニ同シ

第二十三條 第三條ノ規定ニ違反シタルトキハ船長ヲ二百圓以上二千圓以下ノ罰金ニ處シ積載重キトキハ其船舶ヲ沒收ス但捕獲ヲ避ケンタル目的ヲ以テ日本ノ國旗ヲ掲ケタルトキハ此限ニ在ラス

第二十四條 官吏カ欺キ船舶原簿ニ不實ノ登録ヲ爲シタル者ハ二月以上三年以下ノ懲禁處ニ處シ百圓以上千圓以下ノ罰金ヲ附加ス

前項ノ罪ヲ犯サントシテ未タ送ケサル者ハ刑法

未遂犯罪ノ例ニ依リテ處断ス

第二十五條 第六條ノ規定ニ違反シタルトキハ船長ヲ十圓以上千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條 第七條ノ規定ニ從ヒ日本ノ國旗ヲ掲ケサルトキハ船長ヲ五百圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十七條 第七條ニ定メタル事項ヲ船舶ニ標示セサルトキ又ハ第八條乃至第十二條若クハ第十四條ノ規定ニ違反シタルトキハ船舶所有者ヲ五百圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十八條 第二十二條、第二十三條、第二十五條及ヒ第二十六條ノ規定ハ船長ニ代ハリテ其職務ヲ行フ者ニモ亦之ヲ適用ス

第二十九條 第二十二條、第二十三條、第二十五條及ヒ第二十六條ニ定メタル罪ニ付テハ刑法犯人共犯ノ例ヲ適用セズ

第三十條 第二十七條ノ場合ニ於テ刑法第七十八條乃至第八十條ノ規定ニ依リ船舶所有者ノ罪ヲ論スヘカラサルトキハ其法定代理人ヲ罰ス

第三十一條 第二十七條ノ規定ハ船舶管理人又ハ商會社其他ノ法人ノ代表者若クハ清算人ニ之ヲ適用ス

第三十二條 管海官廳ノ事務ハ外國ニ在リテハ日本ノ領事又ハ貿易事務官ノ之ヲ行フ

附則

第三十三條 本法ハ商法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第三十四條 船舶ノ登記ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

明治十九年法律第一號登記法中船舶ノ登記ニ關スル規定ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第三十五條 商法第五編ノ規定ハ商行為ヲ爲ス目

第二十輯 運輸 第四章 船舶 第一款 船舶 船籍

ニ之ヲ請受ケルコトヲ要ス

第十三條 日本船舶カ外國ノ港ニ碇泊スル間ニ於テ船舶國籍證書カ滅失若クハ毀損シ又ハ之ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ船長ハ其地ニ於テ假船舶國籍證書ヲ請受ケルコトヲ得

第十四條 日本船舶カ外國ノ港ニ碇泊スル間ニ於テ船舶國籍證書カ滅失若クハ毀損シ又ハ之ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ船長ハ其地ニ於テ假船舶國籍證書ヲ請受ケルコトヲ得

第十五條 日本ニ於テ船舶ヲ取得シタル者カ其取得地ヲ管轄スル管海官廳ノ管轄區域内ニ船舶港ヲ定メ登録スルハ其管海官廳ノ所在地ニ於テ假船舶國籍證書ヲ請受ケルコトヲ得

第十六條 外國ニ於テ船舶ヲ取得シタル者ハ其取得地ニ於テ假船舶國籍證書ヲ請受ケルコトヲ得

第十七條 外國ニ於テ交付スル假船舶國籍證書ノ有効期間ハ一年ヲ越スルコトヲ得

第十八條 船舶カ船籍港ニ到着シタルトキハ假船舶國籍證書ハ有効期間満了前ト雖モ其效力ヲ失フ

第十九條 第十一條乃至第十四條ノ規定ハ假船舶國籍證書ニ之ヲ準用ス

第二十條 前十六條ノ規定ハ總噸數二十噸未満又ハ積石數二百石未満ノ船舶及ヒ機舫其他機舫ノミナリテ運轉シ又ハ主トシテ機舫ヲ以テ運轉スル舟ニハ之ヲ適用セズ

第二十一條 前條ニ掲ケタル船舶ノ船籍及ヒ其積載ノ測定ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十二條 日本船舶ニ非シテ國籍ヲ詳ル目的ヲ以テ日本ノ國旗ヲ掲ケタルトキハ船長ハ其船舶ノ積載ニ關シテ日本ノ國旗ヲ掲ケタルトキニ同シ

第二十三條 第三條ノ規定ニ違反シタルトキハ船長ヲ二百圓以上二千圓以下ノ罰金ニ處シ積載重キトキハ其船舶ヲ沒收ス但捕獲ヲ避ケンタル目的ヲ以テ日本ノ國旗ヲ掲ケタルトキハ此限ニ在ラス

第二十四條 官吏カ欺キ船舶原簿ニ不實ノ登録ヲ爲シタル者ハ二月以上三年以下ノ懲禁處ニ處シ百圓以上千圓以下ノ罰金ヲ附加ス

前項ノ罪ヲ犯サントシテ未タ送ケサル者ハ刑法

的ヲ以テセサルモ航海ノ用ニ供スル船舶ニ之ヲ準用ス但官廳又ハ公器ノ所有ニ屬スル船舶ニ付ニハ此限ニ在ラス

第三十六條 明治三年正月二十七日布告商船規則、同十二年第五號布告、同年第十九號布告、同十四年第十二號布告其他ノ法令ニシテ本法ノ規定ニ低價スルモノハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第三十七條 本法施行ノ際登録簿免狀又ハ船籍札ヲ受有スル船舶ノ所有者カ本法ノ規定ニ依リ船舶國籍證書ヲ請受ケルコトヲ要ス

第三十八條 本法施行ノ際登録簿免狀ヲ受有スル船舶ノ所有者カ本法ノ規定ニ依リ船舶國籍證書ヲ請受ケルコトヲ要ス

第三十九條 本法施行ノ際登録簿免狀ヲ受有スル船舶ノ所有者カ本法ノ規定ニ依リ船舶國籍證書ヲ請受ケルコトヲ要ス

第四十條 本法施行ノ際登録簿免狀ヲ受有スル船舶ノ所有者カ本法ノ規定ニ依リ船舶國籍證書ヲ請受ケルコトヲ要ス

第四十一條 本法ノ施行ニ關スル細則ハ主務大臣ノ之ヲ定ム

●船舶法施行細則

明治三十二年六月十二日
逓信省令第二十四號
第三十八條第一項

船舶法施行細則左ノ通定ム

第一章 總則

第一條 本則ニ於テ船舶ノ種類ヲ稱スルハ汽船、帆船ノ別ヲ謂フ

機械力ヲ以テ運轉スル機舫又ハ汽船ハ機舫トシテ稱ス

主トシテ帆ヲ以テ運轉スル船舶ハ機舫トシテ稱ス

第二條 汽船ハ推進器ヲ有セサルハ之ヲ船舶トシテ稱ス

第三條 船舶ハ各市町村ノ名ニ依リ但市制、町村制ヲ施行セサル地方ニ在リテハ市町村ニ準シテ稱ス

第四條 左ノ場合ニ於テ船舶國籍證書又ハ假船舶國籍證書ヲ交付前ト雖モ其管海官廳ノ許可ヲ受ケ船舶ヲ航行セシムルコトヲ得

一 試運轉ノトキ
 二 積載ノ測定ヲ受ケントスルトキ
 三 正當ノ事由アルトキ
 第五條 左ノ場合ニ於テハ船舶船籍證書又ハ假船船籍證書ノ交付前ト雖モ船舶ニ國旗ヲ掲ケルコトヲ得
 一 祝日、大祭日但外國ノ祝祭日ニ付テハ其國ノ港ニ碇泊スル場合ニ限ル
 二 前號ノ外祝意又ハ敬意ヲ表スルトキ
 三 進水ノトキ
 四 前條ノ規定ニ依リ船舶ヲ航行セシムルトキ
 第六條 船舶ノ積載若クハ登録ニ關スル事項又ハ其標示ヲ照査スル爲メ必要アリト認ムルトキハ検査官吏ハ何時ニテモ船舶ニ臨檢スルコトヲ得
 第七條 本則ノ規定ニ依リ管海官廳ニ書類ヲ提出スヘキ場合ニ於テ代理人ヲ使用スルトキハ其權限ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ
 第二章 積載ノ測定
 第八條 船舶法第四條第一項ノ規定ニ依リ船舶ノ積載ノ測定ヲ申請セントスル者ハ第一號書式ノ申請書ヲ管海官廳ニ提出スヘシ
 前項ノ申請書ニハ左ノ事項ヲ添附スヘシ
 一 製造ニ依リ船舶ヲ取得シタル場合又ハ製造後未ダ積載ノ測定ヲ申請セサル船舶ヲ取得シタル場合ニ在リテハ造船者ニ於テ製造地、進水ノ年月日ヲ記スル書面及機關ヲ有スル船舶ニ在リテハ汽機、汽鐘ノ製造者ニ於テ汽機、汽鐘製造ノ年月日ヲ記スル書面
 二 所有權ノ取得、持分ノ移轉、所有者ノ同籍

取得ニ依リ又ハ商會社其他ノ法人ニシテ船舶法第一條第一項第三號第四號若クハ第二項ニ掲ケタル條件ノ具備ニ依リ船舶ノ國籍ヲ取得シタル場合ニ在リテハ前號ニ掲ケタル事項ノ外造船者、汽機及汽鐘ノ製造者ノ氏名又ハ名稱並船舶ノ原名ヲ記スル書面
 船舶法第二十條ニ掲ケタル船舶ノ積載噸數ニ十噸以上又ハ積石數二百石以上ト爲リタル場合ニ在リテハ地方長官ニ於テ前項第二號ニ掲ケタル事項ヲ記スル書面ヲ申請書ニ添附スヘシ
 第九條 積載ノ測定ハ船舶検査執行地ニ於テ之ヲ行フ但船舶ノ構造、航路ノ状況又ハ其他ノ事由ニ依リ船舶ヲ検査執行地マテ航行セシムルコト能ハサル場合ニ於テ管海官廳ノ認可ヲ得タルトキハ此限ニ在ラス
 第十條 積載ノ測定ヲ申請スル者ハ測定ヲ受ケルニ必要ナル準備ヲ爲スヘシ
 第十一條 第八條及前條ノ規定ハ船舶法第四條第三項ノ規定ニ依リ外國ニ於テ船舶ノ積載ノ測定ヲ申請スル場合ニ之ヲ準用ス
 前項ノ場合ニ於テ積載ノ測定ヲ行フ場所ハ當該官廳ノ指定ス
 第十二條 管海官廳ニ於テ積載ノ測定ノ申請ヲ受ケタル船舶ハ検査官吏シテ船舶ニ臨檢シ第二號書式ノ船舶件名書ヲ調製セシムヘシ
 管海官廳ハ船舶件名書ノ原本ヲ申請者ニ交付シ同時ニ第八條第二項及第三項ニ依リ差出シタル證書ヲ送付スヘシ
 第十三條 前條ノ規定ハ第十一條ノ場合ニ之ヲ準用ス
 前項ノ場合ニ於テハ當該官廳ハ還滯ナク船籍港

ヲ管轄スル管海官廳ニ關係書類ヲ送付スヘシ
 第十四條 第九條但書ノ場合ニ於テ船舶ノ所在地當該管海官廳ノ管轄區域外ナルトキハ該官廳ハ其所在地ヲ管轄スル管海官廳ニ第十二條ノ規定スル事務ヲ囑託スルコトヲ得
 前項ノ規定ニ依リ囑託ヲ受ケタル管海官廳ハ囑託ヲ爲シタル管海官廳ニ船舶件名書ヲ送付スヘシ
 第十五條 船舶法第九條ノ規定ニ依リ船舶ノ積載ノ測定ヲ申請セントスル者ハ申請書ニ改測ヲ受ケントスル部分及測定ノ爲メ検査官吏ノ臨檢ヲ受ケントスル場所ヲ記載シ船舶港ヲ管轄スル管海官廳ニ之ヲ差出スヘシ
 第九條第十條第十二條及前條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
 第十六條 國籍ヲ取得スル目的ヲ以テ外國ニ於テ製造スル船舶ニ付テハ其竣工前ト雖モ最寄管海官廳ニ積載ノ部分測定ヲ申請スルコトヲ得但積載ノ測定ノ噸數及甲板間ノ噸數ヲ測定スルコトヲ得ルニ至ラザルトキハ此限ニ在ラス
 第十七條 船舶法第十二條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
 第十八條ノ申請書ヲ爲ス者前項ノ規定ニ依リ船舶件名書ノ原本ヲ受ケタルトキハ之ヲ申請書ニ添附スヘシ
 第三章 船舶ノ登録
 第十七條 船舶法第五條第一項ノ規定ニ依リ船舶ノ登録ヲ爲スニハ申請書ニ登記ノ原本ヲ添へ之ヲ管海官廳ニ提出スヘシ
 管海官廳ハ關係書類ヲ調製シ汽機及機關ヲ有スル船舶ニ在リテハ左ノ事項ヲ船舶原簿ニ登録

一	船籍	船籍標ノ噸數	二十四
二	種類	船尾標ノ噸數	二十五
三	名稱	船員常用室ノ噸數	二十六
四	名額	機器室ノ噸數	二十七
五	船籍港	汽機ノ種類及噸數	二十八
六	甲板ノ層數及種類	汽鐘ノ種類及噸數	二十九
七	外板ノ材料	汽鐘ノ材料	三十
八	船骨ノ材料	汽鐘ノ徑	三十一
九	欄ノ數	汽鐘ノ行長	三十二
十	船具ノ裝置	汽鐘ノ種類及噸數	三十三
十一	船首ノ形狀	推進器ノ種類及噸數	三十四
十二	船尾ノ形狀	公稱馬力	三十五
十三	造船規程ニ定ムル方法ニ依リテ測タル長	製造地	三十六
十四	造船規程ニ定ムル方法ニ依リテ測タル長	進水ノ年月日	三十七
十五	造船規程ニ定ムル方法ニ依リテ測タル長	汽機製造ノ年月日	三十八
十六	船體最廣部ニ於テ内張板ノ内面ヨリ内面マテノ幅	汽鐘製造者ノ氏名又ハ名稱	三十九
十七	造船規程ニ定ムル方法ニ依リテ測タル長	汽鐘製造者ノ氏名又ハ名稱	四十
十八	船舶積載測定方法ニ依リテ測タル長ノ中央ニ於テ該甲板ノ下面ヨリ船底内張板ノ上面マテノ深	所有者ノ氏名又ハ名稱及住所並共有者ナルトキハ其持分	四十一
十九	支水隔壁ノ數	帆船ニ在リテハ前項第一號乃至第二十六號第三十六號第三十七號第四十二號乃至第四十四號ノ事項ヲ登録ス	四十二
二十	二重底ノ位置及容量	石數ヲ以テ積載ヲ表示スル船舶ニ在リテハ第二項第一號第三號乃至第五號第七號乃至第九號第三十六號第三十七號第四十二號乃至第四十四號	四十三
二十一	最大喫水		四十四
二十二	最前甲板下部ノ噸數		
二十三	最前甲板上部ノ噸數		
	甲板間ノ噸數		
	船骨標ノ噸數		

ル簿本ニ依リ其船籍原簿ニ記載ヲ移ス
 第二十一條 船籍港甲管海官廳ノ管轄區域内ヨリ
 乙管海官廳ノ管轄區域内ニ轉屬シタルトキハ管
 海官廳ハ申請ヲ待タズ前條第二項乃至第四項ノ
 手續ヲ爲ス
 第二十二條 第十七條第二項第二號乃至第十二號
 第十九號乃至第二十一號第二十八號乃至第三十
 五號ノ事項ニ變更ヲ生シタル場合ニ於テ變更ノ
 登録ヲ爲サントスル者ハ變更ニ係ル新舊事項ヲ
 申請書ニ列記シ船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ之
 ヲ提出スヘシ
 第二十三條 前項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス
 第二十四條 船籍港ヲ管轄スル管海官廳ノ管轄區
 域外ニ船舶ノ所在スル場合ニ於テ前條ノ登録ヲ
 爲サントスルトキハ船舶所在地ノ管轄スル管海
 官廳ニ申請シ該管海官廳ニ交付ヲ受ケル
 コトヲ得
 前項ノ申請報告書ハ前條第一項ノ申請書ニ之ヲ
 添附スヘシ
 第二十五條 第十七條第二項第十三號乃至第十八
 號第二十二號乃至第二十七號又ハ第四項各號ノ
 事項ニ變更ヲ生シタル場合ニ於テ變更ノ登録ヲ
 爲サントスル者ハ第十五條ノ申請ト同時ニ之ヲ
 爲スヘシ
 第二十六條 船舶所有者ノ變更アリタルトキハ新
 所有者ハ申請書ニ變更ノ事實ノ登記ノ登記ノ簿
 本、抄本又ハ登記簿添附シ變更ノ登録ヲ
 申請スヘシ
 第二十七條 行政區畫、土地ノ名稱又ハ地番號ノ
 變更アリタルトキハ船舶原簿ニ記載シタル區
 畫、名稱又ハ番號ハ當然之變更シタルモノト
 看做ス但第二十一條ノ場合ハ此限ニ在ラス
 第二十八條 船舶法第十四條第一項ノ規定ニ依
 リ抹消ノ登録ヲ爲サントスル者ハ申請書ニ登記簿
 添付シ船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ之ヲ提出
 スヘシ
 前項ノ場合及船舶法第十四條第二項ノ規定ニ依
 リ職權ヲ以テ抹消ノ登録ヲ爲シタル場合ニ於テ
 管海官廳ハ其船舶ノ登録用紙ヲ閉鎖ス
 第二十九條 船舶法第十四條第二項ノ規定ニ
 依リ職權ヲ以テ抹消ノ登録ヲ爲シタルトキハ當
 該管海官廳ハ運簿ナク左ノ事項ヲ船籍港ヲ管轄
 スル登記所ニ通知スヘシ
 一 船舶ノ種類、名稱及噸數又ハ積石數
 二 船舶所有者ノ住所、氏名又ハ名稱
 三 抹消ノ登録ヲ爲シタル原因
 四 抹消ノ登録ヲ爲シタル年月日
 第三十條 船舶所有者ニ於テ登録ニ錯誤又ハ遺
 漏アリコトヲ發見シタルトキハ其旨ヲ確明シ登
 録ノ訂正ヲ申請スヘシ
 第三十一條 船舶法第十四條第二項ノ規定ニ
 依リ職權ヲ以テ登録ニ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ
 發見シタルトキハ其旨ヲ船舶所有者ニ通知スヘ
 シ
 第三十二條 何人ト雖モ手数料ヲ納付シテ船舶原
 簿ノ簿本又ハ抄本ノ交付ヲ申請シ又利害ノ關係
 アル部分ニ限リ船舶原簿ノ閱覽ヲ請求スルコト
 ヲ得
 手数料ノ外郵送料ヲ納付シテ船舶原簿ノ簿本又
 ハ抄本ノ送付ヲ請求スルコトヲ得
 第四十條 船舶國籍證書及假船國籍證書
 第三十條 管海官廳ニ於テ第十七條ニ依リ船舶
 ノ登録ヲ爲シタルトキハ第三號式ノ船舶國籍
 證書ヲ申請者ニ交付ス
 第三十一條 船舶國籍證書ニ記載シタル事項ノ變
 更ニ依リ該證書ノ書換ヲ申請セントスル者ハ變
 更ノ登録ノ申請ト同時ニ之ヲ爲スヘシ
 第三十二條 第二十六條ノ規定ハ船舶國籍證書ニ
 記載シタル行政區畫、土地ノ名稱又ハ地番號ノ
 變更アリタル場合ニ之ヲ準用ス
 第三十三條 船舶國籍證書ノ毀損ニ依リ該證書ノ
 書換ヲ申請セントスル者ハ申請書ニ其事由ヲ記
 載シ船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ之ヲ提出スヘ
 シ船舶國籍證書ノ滅失ニ依リ變更ノ申請受ケン
 トスルトキ亦同シ
 第三十四條 第三十一條又ハ前條ノ申請受ケケ
 ル管海官廳ハ船舶國籍證書ヲ調製シ之ヲ申請者
 ニ交付ス但第二十二條第一項ノ場合ニ於テハ乙管
 海官廳ニ之ヲ交付ス
 第三十五條 船舶國籍證書ノ書換ヲ申請シタル場
 合ニ於テ其交付アリタルトキハ運簿ナク該證書
 ヲ返還スヘシ
 第三十六條 船舶法第十三條ノ規定ニ依リ假船國
 籍證書ヲ請受ケントスル船長ハ申請書ニ其事
 由ヲ記載シ假船國籍證書ニ記載スヘキ事項ヲ
 證明スルニ必要ナル書類アリタルトキハ其書類ヲ添
 へ當該管海官廳ニ提出スヘシ
 船舶國籍證書ノ毀損又ハ船舶國籍證書ニ記載シ

タル事項ノ變更ニ依リ前項ノ申請書ヲシタル場
 合ニ於テ假船國籍證書ノ交付アリタルトキハ
 運簿ナク船舶國籍證書ヲ返還スヘシ
 假船國籍證書ノ格式ハ第四號式ニ依ル
 第三十七條 船舶法第十五條又ハ第十六條ノ規定
 ニ依リ假船國籍證書ヲ請受ケントスル者ハ第
 五號式ノ申請書ニ所有權ノ取得ヲ證明スル書面
 ヲ添へ當該管海官廳ニ提出スヘシ
 第三十八條 假船國籍證書ノ有效期間ハ其船舶
 ノ船籍港ニ回航セントスル場合ニ於テハ到達ス
 ヘキ期間ヲ標準トシ其他ノ場合ニ於テハ船舶國
 籍證書ヲ請受ケルコトヲ得ル期間ヲ標準トシ船
 舶法第十七條ニ定ムル期間内ニ於テ當該管海官
 廳ニ之ヲ定ム
 第三十九條 假船國籍證書ニ記載シタル事項ニ
 變更ヲ生シタルトキハ申請書ニ新舊事項ヲ列記
 シ最寄管海官廳ニ之ヲ提出スヘシ
 第四十條 假船國籍證書ニ記載シタル事項ニ
 變更ヲ生シタルトキハ申請書ニ新舊事項ヲ列記
 シ最寄管海官廳ニ之ヲ提出スヘシ
 第四十一條 本章ノ規定ニ依リ船舶國籍證書又ハ
 假船國籍證書ヲ返還スヘキ場合ニ於テ之ヲ返
 還スルコト能ハサルトキハ其事由ヲ説明スヘ
 シ
 船舶國籍證書又ハ假船國籍證書ノ滅失シタル
 トキ又ハ之ヲ返還スヘキ場合ニ於テ返還セザル
 トキハ管海官廳ハ其無効ナルコトヲ官報ニ公告
 第四十二條 第二十八條ノ規定ハ船舶國籍證書又
 ハ假船國籍證書ニ記載シタル事項ニ錯誤又ハ
 遺漏アリタル場合ニ之ヲ準用ス
 第四十三條 國旗及船舶ノ標示
 一 帝國軍艦ヨリ要求セラレタルトキ
 二 帝國ノ燈臺又ハ海岸燈臺ヨリ要求セラレタ
 ルトキ
 三 外國ノ港ヲ出入スルトキ
 四 外國貿易船帝國ノ港ヲ出入スルトキ
 五 法令ニ別段ノ定アルトキ
 第四十四條 船舶ニ標示スヘキ事項及其方法ハ左
 ノ如シ但石數ヲ以テ積載ヲ表示スル船舶ニ付テ
 ハ第四十五條ノ規定ニ依ル
 一 船首兩舷ノ外部ニ船舶ノ名稱、船尾外部ノ
 見易キ所ニ船舶及船籍港ノ名稱ヲ四吋以上
 ノ國字及羅馬字ヲ以テ記スルコト
 二 中央ノ船梁ニ船舶ノ番號、總噸數及登録噸
 數ヲ彫刻シ又ハ其番號及噸數ヲ彫刻シタル
 板ヲ釘着スルコト
 三 船首材及船尾材、船尾材ナキトキハ舵柱ノ
 外部兩側面ハ喫水ヲ示ス爲メ龍骨ノ下面、
 副龍骨ナクハ喫水ノ其下面直線ヨリ最大
 喫水ニ至ルマテ一呎毎ニ六吋ノ羅馬數字又
 ハ圓形ノ亞數字ヲ以テ其尺度ヲ記シ數字ノ
 下端ハ其數字ノ表示セル喫水線ト一致スル
 コト
 第四十五條 石數ヲ以テ積載ヲ表示スル船舶ハ前
 條ニ定ムル方法ニ依リ船尾ニ船舶及船籍港ノ
 名稱、船梁ニ船舶ノ番號及積石數ヲ標示スヘ
 シ
 第四十六條 船舶ノ標示ハ明瞭ニシテ久シ耐ユル
 方法ヲ以テ之ヲ爲スヘシ
 第四十七條 標示スヘキ事項ニ變更ヲ生シタルト
 キハ運簿ナク其標示ヲ改ムヘシ
 第四十八條 登録稅、手数料、燈費及日當
 スルニハ左ノ區別ニ依リ相當ノ收入印紙ヲ貼用
 シタル登録稅納付書ヲ登録ノ申請書ニ添へテ送
 出スヘシ
 一 第十七條第一項ノ場合ニ於テハ登録稅法第
 四條第一項第一號
 二 船舶ノ名稱、船舶所有者ノ氏名又ハ名稱及
 住所又ハ共有者ノ持分ノ變更ニ依リ登録ヲ
 爲ス場合、第二十二條又ハ第二十四條ノ場
 合ニ於テハ登録稅法第四條第一項第四號
 三 第二十七條ノ場合ニ於テハ登録稅法第四條
 第一項第三號
 四 船籍港變更ノ場合ニ於テハ登録稅法第四條
 第一項第二號
 第四十九條 登録稅法第四條第一項第四號ニ付テ
 ハ第十七條第二項各號又ハ第四項各號ノ事項ノ
 變更ヲ以テ每一箇トス
 第五十條 登録稅納付書ニハ船舶ノ名稱、積載及
 稅金額ヲ記載シ登録稅法第四條第一項第四號ノ

第五十條ノ二 船舶法第十四條第二項ノ規定ニ依
リ艦橋ヲ以テ抹消シ登録ヲ爲シタル場合ニ於テ
ハ當該管海官廳ハ運漕ナク左ノ事項ヲ船舶所有
者ノ住所又ハ船舶管理人ノ住所ヲ管轄スル稅務
署ニ通知スヘシ

一 船舶ノ種類、名稱及噸數又ハ積石數
二 船舶所有者又ハ船舶管理人ノ住所、氏名又
ハ名稱
三 抹消ノ登錄ヲ爲シタル年月日
四 登録稅額
第五十一條 第二十九條ノ手数料ハ左ノ金額ニ相
當スル收入印紙ヲ申請書ニ貼用シテ之ヲ納付ス
ヘシ

一 原本ノ交付 一枚ニ付金二十錢
二 抄本ノ交付 一枚ニ付金二十錢
三 船舶原簿ノ閲覧 金二十錢

第五十二條 登録稅納付書又ハ前條ノ申請書ニ貼
用シタル收入印紙ハ管海官廳ニ於テ指印ヲ爲ス
ヘキモノトス但申請者ニ於テ自己ノ便宜上指印
ヲ爲スハ妨ナシ

第五十三條 船舶所有者ノ申請ニ依リ船舶検査執
行地以外ニ検査官吏ノ出張シタルトキハ船舶所
有者ハ成規ノ旅費及日常ヲ當該管海官廳ニ納付
スヘシ

第七條 罰則
第五十四條 本則ノ規定ニ依リ船舶國籍證書又ハ
假船舶國籍證書ヲ返還スヘキ場合ニ於テ正當ノ
事由ナクシテ其職務ヲ怠リタルトキハ船舶所有
者ヲ二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

附則
第五十五條 本則ハ船舶法施行ノ日ヨリ之ヲ施行
ス
第五十六條 明治二十六年ハ逕信省令第三號、同
年三選信省令第六號及明治二十九年ハ逕信省令
第三號ハ薄紙免狀取扱規則ハ本則施行ノ日ヨリ
廢止ス

第五十七條 船舶法施行ノ際發給免狀又ハ船監
札ヲ受有スル船舶ニシテ船舶法ノ規定ニ依リ登
録ヲ爲シ且船舶國籍證書ヲ請受ケヘキモノハ所
有者ハ登録噸數十五噸以上又ハ積石數百五十石
以上ノ船舶ニ付テハ船舶法施行ノ後始テ定期檢
査又ハ特別検査ヲ申請スルトキ當該検査官廳ニ
登録噸數十五噸未満ノ汽船及検査ヲ要セザル
船舶ニ付テハ船舶法施行ノ日ヨリ起算シテ二年
内ニ船籍港ヲ管轄スル管海官廳ニ積量ノ測定ヲ
申請スヘシ

前項ノ船舶ニシテ登録免狀又ハ船監札ニ記載
シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ船舶所有者
ハ前項ノ規定ニ拘ハラズ逕信省令第三號管轄
スル管海官廳ニ前項ノ申請ヲ爲スヘシ

第五十八條 第十條及第十二條ノ規定ハ前條ノ場
合ニ之ヲ準用ス

前項ノ規定ニ依リ船舶ニ檢査シタル検査官吏ハ
積量ノ測定ノ一部ヲ省略スルコトヲ得

第五十九條 前條ノ規定ニ依リ積量ノ測定ヲ受ケ
タル船舶ノ所有者ハ運漕ナク船籍港ヲ管轄スル
管海官廳ニ登録及船舶國籍證書ノ交付ヲ申請ス
ヘシ

前項ノ申請ハ左ニ掲クル事項ヲ記載シタル申請
書ヲ提出シテ之ヲ爲スヘシ

一 船舶ノ種類、名稱及積量
二 船舶所有者ノ住所、氏名及名稱
三 船舶共有者ニ在リテハ各共有者ノ住所、氏
名又ハ名稱及持分
第六十條 前條ノ申請書ニハ左ニ掲クル書面ヲ添
附スヘシ

一 登記ノ原本
二 機關ヲ有スル船舶ニ在リテハ汽機及汽鐘ノ
製造者ニ於テ其製造ノ年月日ヲ證スル書面
三 船監札ヲ受有スル船舶ニ在リテハ當該地方
官廳ニ於テ原名、製造地、進水ノ年月日及
造船者ノ氏名又ハ名稱ヲ證スル書面

第六十一條 管海官廳ニ於テ第五十九條ノ申請ニ
依リ登録ヲ爲ストキハ登録免狀又ハ船監札ニ
記載シタル製造年月日ヲ以テ進水ノ年月ト爲
ス

第六十二條 登録免狀ヲ受有スル船舶ノ所有者
船舶國籍證書ヲ請受ケタルトキハ運漕ナク該免
狀ヲ發給管海官廳ニ返還スヘシ

船監札ヲ受有スル船舶ノ所有者船舶國籍證書ヲ
請受ケタルトキハ運漕ナク該船監札ヲ地方官廳
ニ返還スヘシ

第六十三條 第五十四條ノ罰則ハ前條ノ職務ヲ怠
リタル船舶所有者ニ之ヲ適用ス

第六十四條 船舶法施行ノ際發給免狀又ハ船監
札ヲ受有スル船舶ハ登録ヲ了ルマテ第四十四條
又ハ第四十五條ノ標示ヲ爲サヘキモノトス得
第六十五條 第四十條及第五十四條ノ規定ハ船舶
法施行ノ際受有スル假免狀ニ之ヲ準用ス

(第一號書式)
積量測定申請書

船籍港 何市町村(何府縣何國何郡)
積量 幾噸何噸又ハ積石數何石
三 造船者ノ氏名 何某又ハ何會社(何府縣何
國何郡何市町村)
四 製造地 何府縣何國何郡何市町村
五 進水ノ年月日 明治又ハ西曆何年何月何日
六 汽機製造者ノ
氏名又ハ名稱 何某又ハ何會社
七 汽機製造ノ年
月日 明治又ハ西曆何年何月何日
八 汽機製造者ノ
氏名又ハ名稱 何某又ハ何會社
九 汽機製造ノ年
月日 明治又ハ西曆何年何月何日
十 原名 何々
十一 所有者ノ氏
名又ハ名稱 何府縣何國何郡何市町村何
者ナルト
十二 船舶管理人
ノ住所氏名 何府縣何國何郡何市町村何
者ナルト
十三 測量ヲ受ケ
ル所トスル場 某所

右者今般新造致シ(又ハ何國人何某ヨリ買受ケ
等)其管内ニ船籍港ヲ定メ候ニ付積量測定相成
度關係書類相通添此段及申請候也

明治 年 月 日 住所 何 某 印
御 中
(管海官廳名)
(備考)
一 船名、郡市町村名、氏名及名稱ニハ假假
第二十輯 運輸 第四章 船舶 第一款 船舶 船籍

名ヲ附記シ外國ノ名稱ナルトキハ外國
文字ヲ附記スヘシ
二 原名ト稱スルハ國籍取得前ニ於ケル最
近ノ船名ヲ謂フ
三 前記件名中船舶ノ種類ニ依リ事項ナキ
モノハ之ヲ省略スヘシ

(第二號書式)
船舶件名書

一 甲板ノ層數及 何層、重輕又ハ覆(甲板)
種類 鋼、鐵又ハ木
二 外板ノ材料 鋼、鐵又ハ木
三 船骨ノ材料 鋼、鐵又ハ木
四 橋ノ數 何本
五 綱具ノ裝置 「シブ」(「バーク」)、「バーク」
「グン」(「ブイ」)、「ブイ」(「ブイ」)
「カッター」(「スクリュー」)等
六 船首ノ形狀 圓形、斜形又ハ直形
七 船尾ノ形狀 圓形、橢圓形又ハ方形
八 造船規程ニ定
ムル方法ニ依
リテ測リタル
長 何呎何吋
九 船舶積量測定
方法ニ依リ測
定スル積量 何尺何吋何分
十 造船規程ニ定
ムル方法ニ依
リテ測リタル
幅 何呎何吋
十一 船體積廣部
ニ於テ内面ヨ
リ内面ニテ
ノ幅 何尺何吋何分

十二 造船規程ニ
依リテ測
定スル積量 何尺何吋何分
十三 甲板ノ長 何尺何吋何分
十四 甲板ノ幅 何尺何吋何分
十五 二重底ノ位
置及容積 幾何
十六 最大喫水 何呎何吋何分
十七 汽機ノ種類 何種
十八 汽機ノ種類 何種
十九 汽機ノ種類 何種
二十 汽機ノ種類 何種
二十一 汽機ノ種類 何種
二十二 汽機ノ種類 何種
二十三 汽機ノ種類 何種
二十四 汽機ノ種類 何種
二十五 推進器ノ
種類及數 幾何
二十六 右明治何年何月何日
記ノ通知無之候也

明治 年 月 日 所屬官廳
(備考)
一 船名、郡市町村名、氏名及名稱ニハ假假
第十七條第三項ノ規定ニ依リ更換
又ハ名稱スヘシ

(第三號書式) 汽船ニ用ユル分

横一尺一寸五分

(輪廓縮鏡)

船籍 國 船 船															
番 號	種 類	船 名	船 籍 港	製 造 地	進 水 日	甲 板 層 數	外 板 材 質	船 體 材 質	船 體 材 質	船 體 材 質	船 體 材 質	船 體 材 質	船 體 材 質	船 體 材 質	船 體 材 質
前記ノ事項ハ何レモ正確ニシテ本船ハ日本帝國ノ國籍ヲ有スルコトヲ證明ス															
明治 年 月 日 日本帝國 管海官廳名 印															

(第三號書式) 帆船ニ用ユル分

横一尺一寸五分

(輪廓縮鏡)

船籍 國 船 船															
番 號	種 類	船 名	船 籍 港	製 造 地	進 水 日	甲 板 層 數	外 板 材 質	船 體 材 質	船 體 材 質	船 體 材 質	船 體 材 質	船 體 材 質	船 體 材 質	船 體 材 質	船 體 材 質
前記ノ事項ハ何レモ正確ニシテ本船ハ日本帝國ノ國籍ヲ有スルコトヲ證明ス															
明治 年 月 日 日本帝國 管海官廳名 印															

(第三號書式) 西石敷ヲ以テ積載ヲ表示スル船舶ニ用ユル分

横九寸 横六寸

(第四號書式) 汽船ニ用ユル分

横一尺一寸五分

(輪廓縮鏡)

船籍 國 船 船															
番 號	種 類	船 名	船 籍 港	製 造 地	進 水 日	甲 板 層 數	外 板 材 質	船 體 材 質	船 體 材 質	船 體 材 質	船 體 材 質	船 體 材 質	船 體 材 質	船 體 材 質	船 體 材 質
前記ノ事項ハ何レモ正確ニシテ本船ハ日本帝國ノ國籍ヲ有スルコトヲ證明ス															
明治 年 月 日 日本帝國 管海官廳名 印															

船籍 國 船 船															
番 號	種 類	船 名	船 籍 港	製 造 地	進 水 日	甲 板 層 數	外 板 材 質	船 體 材 質	船 體 材 質	船 體 材 質	船 體 材 質	船 體 材 質	船 體 材 質	船 體 材 質	船 體 材 質
前記ノ事項ハ何レモ正確ニシテ本船ハ日本帝國ノ國籍ヲ有スルコトヲ證明ス															
明治 年 月 日 日本帝國 管海官廳名 印															

(第四號書式) 船舶二用ニ用ル分

横一尺一寸五分

(輪廓図)

種 類	船 名	船 籍 港	製 造 地	造 船 者	進 水 日		尺 寸	船 體 最 大 長 度 メ テ ル	船 體 最 大 幅 度 メ テ ル	船 體 最 大 深 度 メ テ ル	船 體 最 大 吃 水 メ テ ル	船 體 最 大 積 載 力 メ テ ル	船 體 最 大 積 載 力 メ テ ル
					年	月							
積載力ノ有無ハ又ハ積載力ノ有無ニ依リテ決定スルベシ 積載力ノ有無ハ又ハ積載力ノ有無ニ依リテ決定スルベシ													

本船ハ日本帝國ノ國籍ヲ有スルコトヲ證明スル此證書ハ來ル
 明治 年 月 日
 港ニ到著シタルトキハ直ニ其效力ヲ失フ
 日本帝國
 管海官廳名 印

(第四號書式) 丙石積載力ヲ表示スル船舶二用ニ用ル分

横一尺一寸五分

(輪廓図)

種 類	船 名	船 籍 港	製 造 地	造 船 者	進 水 日	尺 寸	船 體 最 大 長 度 メ テ ル	船 體 最 大 幅 度 メ テ ル	船 體 最 大 深 度 メ テ ル	船 體 最 大 吃 水 メ テ ル	船 體 最 大 積 載 力 メ テ ル	船 體 最 大 積 載 力 メ テ ル
積載力ノ有無ハ又ハ積載力ノ有無ニ依リテ決定スルベシ 積載力ノ有無ハ又ハ積載力ノ有無ニ依リテ決定スルベシ												

本船ハ日本帝國ノ國籍ヲ有スルコトヲ證明スル此證書ハ來ル
 明治 年 月 日
 港ニ到著シタルトキハ直ニ其效力ヲ失フ
 日本帝國
 管海官廳名 印

(第五號書式)

假船籍證書交付申請書

一 船籍港 何市町村(何府縣何國何郡)	二 製造地 何府縣何國何郡何市町村	三 進水年月日 明治又ハ四曆何年何月何日	四 甲板ノ材料 鋼鐵又ハ木	五 船體ノ材料 鋼鐵又ハ木	六 船體ノ構造 鋼鐵又ハ木	七 船體ノ構造 鋼鐵又ハ木	八 船體ノ構造 鋼鐵又ハ木	九 船體ノ構造 鋼鐵又ハ木	十 船體ノ構造 鋼鐵又ハ木	十一 船體ノ構造 鋼鐵又ハ木	十二 船體ノ構造 鋼鐵又ハ木	十三 船體ノ構造 鋼鐵又ハ木	十四 船體ノ構造 鋼鐵又ハ木	十五 船體ノ構造 鋼鐵又ハ木	十六 船體ノ構造 鋼鐵又ハ木
------------------------	----------------------	-------------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------

何市町村(何府縣何國何郡)
 何府縣何國何郡何市町村
 明治又ハ四曆何年何月何日
 鋼鐵又ハ木
 鋼鐵又ハ木
 鋼鐵又ハ木
 鋼鐵又ハ木
 鋼鐵又ハ木
 鋼鐵又ハ木
 鋼鐵又ハ木
 鋼鐵又ハ木
 鋼鐵又ハ木
 鋼鐵又ハ木
 鋼鐵又ハ木
 鋼鐵又ハ木
 鋼鐵又ハ木
 鋼鐵又ハ木

御中

備考 本書式ノ件名ハ汽船ヲ標準トシ
 第四號書式ノ乙、丙ノ書式ニ記載シタル件
 名ニ對照シ變換又ハ省略スルベシ

明治六年八月九日
 太政官布告第百九十二號

一 汽船ノ積載力ノ表示ニ關シテハ本條ノ規定ニ依リテ決定スルベシ
 一 汽船ノ積載力ノ表示ニ關シテハ本條ノ規定ニ依リテ決定スルベシ
 一 汽船ノ積載力ノ表示ニ關シテハ本條ノ規定ニ依リテ決定スルベシ

一 此ノ證書ハ船主ノ責任ニ依リテ發行スルベシ
 一 此ノ證書ハ船主ノ責任ニ依リテ發行スルベシ
 一 此ノ證書ハ船主ノ責任ニ依リテ發行スルベシ

保護人ヲ立テ之ヲ海中ニ投棄シ港之上位ニ
其次第書及ヒ荷主之姓名ヲ其地之管轄廳或
ハ裁判所ヘ可届出ス
但投棄シタル荷物及ヒヨリ生シル荷主之損
失ヲ辨償スルニ不及
一船長及ヒ運賃會社等荷主ト申合ヒ此等物品ノ尋常
之荷物トシテ積積シ或ハ船積セシト認ム者ハ金
五百圓以内又之ヲ見出ストイヘ厄官ニ訴ヘ出サ
ル時ハ金二百圓以内之罰ニ處スヘキ事

火藥類船舶運送及貯藏規程

明治三十五年九月三日
逕信省令第三十九號

火藥類船舶運送及貯藏規程左ノ通定メ明治三十五
年十月一日ヨリ施行ス

第一條 船舶ニ依リ火藥類ヲ運送シ又ハ船舶ニ火
藥類ヲ貯藏スルトキハ本規程ヲ遵守スヘシ
第二條 本規程ハ船舶ノ全部ヲ以テ軍事情報送ノ用
ニ供スル場合ニハ之ヲ適用セズ
開港場ノ他ノ港ニ於テ本規程ニ定ムル事項ト同
一ノ事項ニ付特別ノ規程ヲ設ケル場合ニ於テハ
第三條 火藥類ノ荷送人ハ火藥類取捨法施行
規則ニ依リ當該官廳ノ運送許可證ヲ受ケヘキ場
合ニ於テハ船長ハ其ノ許可證ヲ檢閲シタル後ニ
アラサレハ之ヲ船積スルコトヲ得ス
第四條 火藥類ハ銃砲火藥類取捨法施行規則ノ規
定ニ依リ容器ニ收納スヘシ但軍用ノ託送ニ係ル
モノハ當該軍衙所定ノ容器ニ收納スルコトヲ
得
前項ノ火藥類ハ其ノ容器ノ外部見易キ所ニ火藥
ト標記スヘシ

船舶ノ前二項ニ該當スルモノニアラサレハ火藥
類ヲ積積スルコトヲ得ス
第五條 警察官ハ火藥類ヲ積積スル船舶ノ出入、
碇泊又ハ火藥類ノ積積若クハ陸揚ニ關シ危害防
防ノ爲メ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得
第六條 火藥類ハ所轄警察官署ノ許可ヲ得タル場
合ヲ除ク外日没ヨリ日出マテノ間ニ於テ積積、
陸揚又ハ荷積ヲ爲スコトヲ得ス
第七條 甲板ナキ船舶ニ於テ旅客ヲ運送スルトキ
ハ火藥類ヲ積積スルコトヲ得ス
第八條 火藥類ハ旅客ノ上船又ハ下船ト同時ニ船
積又ハ陸揚ヲ爲スコトヲ得ス
第九條 銃砲火藥類取捨法施行規則ニ依リ同所ニ
積積コトヲ得サル火藥類又ハ別庫ニ貯藏スヘキ
火藥類ハ之ヲ各別館ニ積積スヘシ
前項ノ火藥類ハ甲板ナキ船舶ニ在リテハ同時ニ
之ヲ運送スルコトヲ得ス
銃砲火藥類取捨法施行規則ニ依リ離隔ヲ要スル
火藥類ヲ同一ノ館内ニ積積スルトキハ之ヲ離隔
スヘシ

第十條 火藥類ハ容易ニ燃焼シ又ハ爆發ノ誘因ト
爲ルヘキ虞アル物品ニ接近シテ積積シ又ハ他ノ
貨物ノ下ニ積積スルコトヲ得ス
第十一條 火藥類ハ摩擦、動搖、衝突又ハ轉頓セ
サル様態ニ積積スヘシ
第十二條 火藥類ノ積積、陸揚又ハ荷積ヲ爲スト
キハ之ヲ投下スルコトヲ得ス又革、麻布若クハ
毛布ノ類ヲ以テ其ノ經過スヘキ場所ヲ蔽ヒタル
場合ヲ除ク外之ヲ轉頓スルコトヲ得ス
火藥類ノ取扱ハ運搬ノ時ヲ了スヘシ
第十三條 火藥類ハ機關室、料理場、石炭庫其ノ
他火氣アル場所ニ接近シテ積積スルコトヲ得ス

第十四條 火藥類ハ旅客室又ハ旅客室ノ近傍ニ積
積スルコトヲ得ス但旅客室ニ於テ旅客ヲ運送セザ
ル場合ハ此ノ限ニ在ラス
第十五條 火藥類ヲ積積スル場所ニ碇釘其ノ他鐵
具アルトキハ木板、皮又ハ布ノ類ヲ以テ之ヲ覆
フヘシ
第十六條 火藥類ヲ積積シタルトキハ船口
ヲ閉閉シ覆布ヲ以テ之ヲ覆フヘシ
第十七條 火藥類ノ積積場所又ハ火藥類ヲ
積積シタル場所ニ於テハ安全燈ヲ除ク外燈火ヲ
使用スルコトヲ得ス
前項ノ場所ニ於テハ碇釘等ヲ附シタル靴類ヲ穿
テ積積シタル火氣物品ヲ携帶シ又ハ喫煙
スルコトヲ得ス
第十八條 火藥類ノ取扱ヲ始ムル前及ヒ之ヲ終リ
タル後ハ其ノ都度其ノ場所ヲ掃除スヘシ
第十九條 火藥類ヲ積積スル船舶港内ニ出入碇泊
スルトキハ日出ヨリ日没ニ至ル間ハBノ信號旗
、日没ヨリ日出ニ至ル間ハ紅燈ヲ掲揚シ又ハ他見
易キ場所ニ掲揚スヘシ但軍用ノ火藥類及ヒ第二十
三條ニ掲ゲル火藥類ノ積積場所ニ於テハ此ノ
限ニ在ラス
第二十條 船舶ニハ其ノ常用外ノ火藥類ヲ貯藏ス
ルコトヲ得ス但第二十一條ノ場合ハ此ノ限ニ在
ラス
開港場則施行規則第五條ノ規定ハ前項ノ場合ニ
之ヲ準用ス
船舶ノ常用ノ火藥類ハ第四條ノ規定ニ依リ容器
ニ收納シタル上更ニ木製ノ箱ニ容レ且容易ニ取
出シ得ヘキ場所ニ之ヲ貯藏スヘシ
第二十一條 警察官又ハ倉庫船ニ火藥類ヲ貯藏セ
ントスル者ハ船舶ノ構造、積積ノ位置及貯藏ス

ヘキ火藥類ノ種類數量ヲ明記シタル申請書ヲ所
轄警察官署ニ提出シ其ノ許可ヲ受ケヘシ
銃砲火藥類取捨法施行規則中倉庫ニ關スル規定
ハ前項ノ警察官署又ハ倉庫船ニモ亦之ヲ準用ス
警察官ハ危害防防ノ爲メ第一項ノ警察官署又ハ倉
庫船ノ位置ヲ變更セシメ其ノ他必要ナル命令ヲ
爲スコトヲ得
第二十二條 旅客ハ火藥類ヲ携帯シテ乘船スルコ
トヲ得ス但少量ノ小銃用火藥類ヲ携帯スル場合
ハ此ノ限ニ在ラス
第二十三條 小銃用火藥類、雷管若クハ爆竹ノ
ミナ裝着セル銃砲ノ空銃筒、安全導火線、信管、
門管及ヒ起爆劑ヲ附セサル黄色藥筒(火藥筒)等
ノ類(以下「火藥類」とシテ之ヲ稱ス)ハ第六條乃至
第九條、第十四條乃至第十六條及ヒ第十八條
ノ規定ヲ適用セズ
第二十四條 左ノ場合ニ於テハ船長ヲ二十五圓以
下ノ罰金ニ處ス
一 第三條、第四條第三項、第六條乃至第十一
條、第十八條、第十九條又ハ第二十二條第一項
ニ違反シタル者
二 第五條ノ命令ニ違反シタルトキ
三 第六條第一項第二項、第十二條第一項、第十七
條、第二十一條第一項若クハ第二十二條
ニ違反シタル者又ハ第二十一條第三項ノ命令ニ
違反シタル者亦前項ニ同シ

西洋形船へ大小砲設備方

明治八年五月三十一日
太政官布告第九十八號

海軍官船ヲ除ク外西洋形船へ砲防禦ノ爲大小砲
設備ノ權差許條左ノ通可相心得此旨布告候事
第一條 海軍官船ヲ除ク外諸省(使)府縣所轄ノ西
洋形官船並ニ人民所持ノ西洋形商船へ大砲口徑

四寸以内二門小銃三挺擬設備スル事若シカラ
ス
但船ノ噸數ニ因リ本文ニ掲ケル銃砲ノ數ヲ減
スルカ又ハ銃砲ノ種類ヲ取捨スルハ其便宜ニ
任スト雖モ若シ増置セントスルハ更ニ顯出
許可ヲ受ケヘシ
第二條 (大砲)一門ニ彈藥五拾發小銃一挺ニ同百
發ヲ超ユヘカラス
第三條 船内へ銃砲ヲ設備スル時若シ使ハ正院
上請シ府縣ハ内務省へ申出許可ヲ受ケヘシ
但人民所持船ノ分ハ其管轄廳へ願出許可ヲ受
ケヘシ而シテ該廳ニ於テハ免許狀ヲ與ヘ其旨
内務省へ届出ヘシ
第四條 銃砲ノ設備ノ許可ヲ受ケシキハ其旨海軍省へ
通知スル事トス尤若シ使ハ正院ヨリ府縣
並ニ人民ノ分ハ内務省ヨリ通知スヘシ
第五條 諸省(使)府縣並ニ人民ニ於テ外國ヨリ
買入レノ船内ニ附屬セシ分モ前條ノ手續ニ依ル
ヘシ
但銃砲(彈藥)等買入ル、節ハ(明治五年正月第
廿八號)布告銃砲取捨規則ニ從フヘシ

商法第五百六十二條第一項第二號乃至第五號ニ掲
ケル書類ノ件左ノ通定ム
第一條 海員名簿ハ第一號書式、屬具目錄ハ第二
號書式、航海日誌ハ第三號書式、旅客名簿ハ第
四號書式ニ依リ之ヲ調製スヘシ
前項ノ書類ハ書式ニ示ス順序ニ依リ之ヲ編綴
シ且各頁ニ頁數ヲ附スヘシ但其紙數ハ適宜ト

第二條 前條ノ書類ニハ書式ニ定ムル事項ヲ記
載スル爲メ欄ヲ設ケルコトヲ得
内國沿岸ノミナ航行スル船舶ニ在リテハ航海日
誌及旅客名簿ノ書式ニ定ムル事項ヲ省略スルコ
トヲ得
沿海航路ノミナ航行スル船舶ニ在リテハ旅客名
簿ヲ備ヘサルコトヲ得
前項ノ場合ニ於テハ船舶港ヲ管轄スル海軍局
ノ認可ヲ受ケヘシ
第三條 第一條ノ書類ニハ各事項ニ付封筒ヲ附シ
又ハ頁ノ上部ニ船舶及船舶所有者ノ名稱等ヲ附
記シ又ハ記載心得等ヲ掲ケルコトヲ得
第一條ノ書類ハ書式ニ定ムル事項ノ位置ヲ變更
シテ之ヲ調製スルコトヲ得但其順序ヲ變更スル
コトヲ得ス
第一號書式

海員名簿
船積量
航海日誌
旅客名簿

(備考) 番號ノ欄内ニハ(三)ニ示シタル番號ヲ記載スヘシ例ヘハ規定ノ航路ヲ變更シタルコトヲ航海日誌ニ記載シタルトキハ一ト記載スルカ如シ

名	男女	出生年月日	出生地	父		出生年月日	出生地	名	男女	出生年月日	出生地
				氏名	職業						
船長		明治 年 月 日		船長	(本籍地、職業)			船長		明治 年 月 日	
船主				船主	(本籍地、職業)			船主			
船員				船員	(本籍地、職業)			船員			
船客				船客	(本籍地、職業)			船客			

(備考) 各事項不明ナルモノアルトキハ相當欄内ニ不詳ト記載スヘシ(ハ)ニ付テモ亦同シ

第四號書式

船名	船種	積載	船籍
丸	船	旅客定員	航路 定限
		上等 中等 下等	
		合計	

明治三十二年六月十六日 逕信省告示第百七十八號
 本年五選信省令第十九號第二條ニ依リ海員名簿其
 他ノ書類ニ關シ認可ヲ申請セントスル者ハ其住所
 ナ管轄スル海事局ニ之ヲ爲スヘシ

臺灣船舶規則
 明治三十一年五月二十一日
 律令第四條
 逕信省府評議會ノ議決ヲ經タル臺灣船舶規則勅
 裁ヲ得テ茲ニ之ヲ發布ス

臺灣船舶規則
 第一條 臺灣ニ住所ヲ有スル日本臣民ノ所有ニ屬
 スル船舶又ハ臺灣ニ本店ヲ有スル商會社ニシ
 テ合資會社ニ在テハ社員ノ全員、合資會社及株
 式合資會社ニ在テハ無限責任社員ノ全員株式會
 社ニ在テハ取締役ノ全員カ日本臣民ナルモノノ
 所有ニ屬スル船舶又ハ臺灣ニ主ナル事務所ヲ有
 スル法人ニシテ其代表者ノ全員カ日本臣民ナル
 モノノ所有ニ屬スル船舶ハ日本船舶トシテ臺灣
 ニ船籍港ヲ定メ所轄地方官廳ニ船籍ニ編入スヘ
 キモノトス

臺灣ニ住所ヲ有セサル日本臣民又ハ内地ニ本店
 若ハ主ナル事務所ヲ有スル前項法人ノ所有ニ屬
 スル船舶ト雖内地ニ於テ船籍ヲ定メシテ臺灣
 沿岸ヲ航行シ又ハ臺灣ヲ起點トシテ内地若ハ外
 國ニ航行スルモノハ前項ニ依ル

名	出生年月日	出生地	本籍地	船長 (氏名印)
船長	明治 年 月 日		本籍地	船長 (氏名印)
船主			本籍地	船主 (氏名印)
船員			本籍地	船員 (氏名印)
船客			本籍地	船客 (氏名印)

(備考) 各事項不明ナルモノアルトキハ相當欄内ニ不詳ト記載スヘシ(ハ)ニ付テモ亦同シ

等級	乗客名	國籍	住所	年	月	日	年	月	日		
一等				明治	年	月	日	明治	年	月	日
二等				明治	年	月	日	明治	年	月	日
三等				明治	年	月	日	明治	年	月	日
四等				明治	年	月	日	明治	年	月	日
五等				明治	年	月	日	明治	年	月	日
六等				明治	年	月	日	明治	年	月	日
七等				明治	年	月	日	明治	年	月	日
八等				明治	年	月	日	明治	年	月	日
九等				明治	年	月	日	明治	年	月	日
十等				明治	年	月	日	明治	年	月	日

前二項ノ船舶ニシテ船籍ニ編入セントスルトキ
 ハ地方官廳ニ其積載ノ測度ヲ申請スヘシ
 第二條 船籍ニ編入シタル船舶ニシテ噸數十
 五噸以上ノ西洋形船舶百五十石以上ノ日本形船及
 支那形船ハ其船籍港ヲ管轄スル地方官廳ニ經由
 シテ船舶國籍證書ノ交付ヲ臺灣總督府ニ申請ス
 ヘシ但左記ノ船舶ハ船舶國籍證書ノ交付ヲ受ケ
 ハキ噸數及石數ニ依リテ船舶國籍證書ヲ受ケ
 ルニ及ハス

一 港灣河川ヲ限リ運送スル船舶及倉庫船
 二 船隻其他機關ノミテ以テ運轉シ又ハ主ト
 シテ機軸ヲ以テ運轉スル舟
 十五噸未満ノ西洋形船舶百五十石未満ノ日本形船
 支那形船及前項但書ニ據クル船舶ニ在テハ船籍

港ヲ管轄スル地方官廳ニ船籍札ノ交付ヲ申請スヘシ

第三條 船籍港外ニ於テ船舶ヲ製造シ若ハ之ヲ取得シタルトキハ其船籍港ニ到着スルマテ内國ニ在テハ本船所在地ノ地方官廳ニ外國ニ在テハ本船所在地若ハ其近傍駐在帝國領事館ニ假令船舶籍證書若ハ假令船籍札ノ交付ヲ申請シ船舶籍證書若ハ假令船籍札ニ代用スルコトヲ得

第四條 船籍港外ニ於テ船舶ヲ製造シ若ハ之ヲ取得シタルトキハ六箇月領事館ヨリ交付シタルモノハ一箇年ヲ以テ限トス但引續キ再度以上假令船舶籍證書若ハ假令船籍札ノ交付ヲ受ケタル場合ニハ其效力ハ初度ノ假令船舶籍證書若ハ假令船籍札ニ記載シタル日附ヨリ起算シ本文ノ期限ヲ超過スルコトヲ得

第五條 船籍港外ニ於テ船舶ヲ製造シ若ハ之ヲ取得シタルトキハ日本國旗ヲ掲揚スルコトヲ得

第六條 船籍港外ニ於テ船舶ヲ製造シ若ハ之ヲ取得シタルトキハ日本國旗ヲ掲揚スルコトヲ得

第七條 船籍港外ニ於テ船舶ヲ製造シ若ハ之ヲ取得シタルトキハ日本國旗ヲ掲揚スルコトヲ得

第八條 船籍港外ニ於テ船舶ヲ製造シ若ハ之ヲ取得シタルトキハ日本國旗ヲ掲揚スルコトヲ得

第九條 船籍港外ニ於テ船舶ヲ製造シ若ハ之ヲ取得シタルトキハ日本國旗ヲ掲揚スルコトヲ得

第十條 船籍港外ニ於テ船舶ヲ製造シ若ハ之ヲ取得シタルトキハ日本國旗ヲ掲揚スルコトヲ得

第十一條 船籍港外ニ於テ船舶ヲ製造シ若ハ之ヲ取得シタルトキハ日本國旗ヲ掲揚スルコトヲ得

第十二條 船籍港外ニ於テ船舶ヲ製造シ若ハ之ヲ取得シタルトキハ日本國旗ヲ掲揚スルコトヲ得

第十三條 船籍港外ニ於テ船舶ヲ製造シ若ハ之ヲ取得シタルトキハ日本國旗ヲ掲揚スルコトヲ得

第十四條 船籍港外ニ於テ船舶ヲ製造シ若ハ之ヲ取得シタルトキハ日本國旗ヲ掲揚スルコトヲ得

第十五條 船籍港外ニ於テ船舶ヲ製造シ若ハ之ヲ取得シタルトキハ日本國旗ヲ掲揚スルコトヲ得

第十六條 船籍港外ニ於テ船舶ヲ製造シ若ハ之ヲ取得シタルトキハ日本國旗ヲ掲揚スルコトヲ得

第十七條 船籍港外ニ於テ船舶ヲ製造シ若ハ之ヲ取得シタルトキハ日本國旗ヲ掲揚スルコトヲ得

第十八條 船籍港外ニ於テ船舶ヲ製造シ若ハ之ヲ取得シタルトキハ日本國旗ヲ掲揚スルコトヲ得

第十九條 船籍港外ニ於テ船舶ヲ製造シ若ハ之ヲ取得シタルトキハ日本國旗ヲ掲揚スルコトヲ得

第二十條 船籍港外ニ於テ船舶ヲ製造シ若ハ之ヲ取得シタルトキハ日本國旗ヲ掲揚スルコトヲ得

第二十輯 運輸 第四章 船舶 第一款 船舶 船籍

第二十一條 船籍港外ニ於テ船舶ヲ製造シ若ハ之ヲ取得シタルトキハ日本國旗ヲ掲揚スルコトヲ得

第二十二條 船籍港外ニ於テ船舶ヲ製造シ若ハ之ヲ取得シタルトキハ日本國旗ヲ掲揚スルコトヲ得

第二十三條 船籍港外ニ於テ船舶ヲ製造シ若ハ之ヲ取得シタルトキハ日本國旗ヲ掲揚スルコトヲ得

第二十四條 船籍港外ニ於テ船舶ヲ製造シ若ハ之ヲ取得シタルトキハ日本國旗ヲ掲揚スルコトヲ得

第二十五條 船籍港外ニ於テ船舶ヲ製造シ若ハ之ヲ取得シタルトキハ日本國旗ヲ掲揚スルコトヲ得

第二十六條 船籍港外ニ於テ船舶ヲ製造シ若ハ之ヲ取得シタルトキハ日本國旗ヲ掲揚スルコトヲ得

第二十七條 船籍港外ニ於テ船舶ヲ製造シ若ハ之ヲ取得シタルトキハ日本國旗ヲ掲揚スルコトヲ得

第二十八條 船籍港外ニ於テ船舶ヲ製造シ若ハ之ヲ取得シタルトキハ日本國旗ヲ掲揚スルコトヲ得

第二十九條 船籍港外ニ於テ船舶ヲ製造シ若ハ之ヲ取得シタルトキハ日本國旗ヲ掲揚スルコトヲ得

第三十條 船籍港外ニ於テ船舶ヲ製造シ若ハ之ヲ取得シタルトキハ日本國旗ヲ掲揚スルコトヲ得

第三十一條 船籍港外ニ於テ船舶ヲ製造シ若ハ之ヲ取得シタルトキハ日本國旗ヲ掲揚スルコトヲ得

第三十二條 船籍港外ニ於テ船舶ヲ製造シ若ハ之ヲ取得シタルトキハ日本國旗ヲ掲揚スルコトヲ得

第三十三條 船籍港外ニ於テ船舶ヲ製造シ若ハ之ヲ取得シタルトキハ日本國旗ヲ掲揚スルコトヲ得

第三十四條 船籍港外ニ於テ船舶ヲ製造シ若ハ之ヲ取得シタルトキハ日本國旗ヲ掲揚スルコトヲ得

第三十五條 船籍港外ニ於テ船舶ヲ製造シ若ハ之ヲ取得シタルトキハ日本國旗ヲ掲揚スルコトヲ得

第三十六條 船籍港外ニ於テ船舶ヲ製造シ若ハ之ヲ取得シタルトキハ日本國旗ヲ掲揚スルコトヲ得

第三十七條 船籍港外ニ於テ船舶ヲ製造シ若ハ之ヲ取得シタルトキハ日本國旗ヲ掲揚スルコトヲ得

第三十八條 船籍港外ニ於テ船舶ヲ製造シ若ハ之ヲ取得シタルトキハ日本國旗ヲ掲揚スルコトヲ得

第三十九條 船籍港外ニ於テ船舶ヲ製造シ若ハ之ヲ取得シタルトキハ日本國旗ヲ掲揚スルコトヲ得

第四十條 船籍港外ニ於テ船舶ヲ製造シ若ハ之ヲ取得シタルトキハ日本國旗ヲ掲揚スルコトヲ得

第四十一條 船籍港外ニ於テ船舶ヲ製造シ若ハ之ヲ取得シタルトキハ日本國旗ヲ掲揚スルコトヲ得

第四十二條 船籍港外ニ於テ船舶ヲ製造シ若ハ之ヲ取得シタルトキハ日本國旗ヲ掲揚スルコトヲ得

第四十三條 船籍港外ニ於テ船舶ヲ製造シ若ハ之ヲ取得シタルトキハ日本國旗ヲ掲揚スルコトヲ得

第四十四條 船籍港外ニ於テ船舶ヲ製造シ若ハ之ヲ取得シタルトキハ日本國旗ヲ掲揚スルコトヲ得

第四十五條 船籍港外ニ於テ船舶ヲ製造シ若ハ之ヲ取得シタルトキハ日本國旗ヲ掲揚スルコトヲ得

第四十六條 船籍港外ニ於テ船舶ヲ製造シ若ハ之ヲ取得シタルトキハ日本國旗ヲ掲揚スルコトヲ得

第四十七條 船籍港外ニ於テ船舶ヲ製造シ若ハ之ヲ取得シタルトキハ日本國旗ヲ掲揚スルコトヲ得

第四十八條 船籍港外ニ於テ船舶ヲ製造シ若ハ之ヲ取得シタルトキハ日本國旗ヲ掲揚スルコトヲ得

第四十九條 船籍港外ニ於テ船舶ヲ製造シ若ハ之ヲ取得シタルトキハ日本國旗ヲ掲揚スルコトヲ得

第五十條 船籍港外ニ於テ船舶ヲ製造シ若ハ之ヲ取得シタルトキハ日本國旗ヲ掲揚スルコトヲ得

積量		機 關 室 / 積 量													
第 三 號		第 一 號				第 二 號				第 一 號 第 二 號 第 三 號 第 四 號					
内側ノ長= 分長點間隔=		平均ノ長= 同 深=				平均ノ長= 同 深=				合計= 除數=100					
番 號	乘 數	幅	得 數	番 號	乘 數	幅	得 數	番 號	乘 數	幅	得 數	番 號	乘 數	幅	得 數
1	1			1	1			1	1			1	1		
2	4			2	4			2	4			2	4		
3	1			3	1			3	1			3	1		
合 計= 分長點間隔 } = 平均ノ高=		合 計= 平均ノ長ノ } = 平均ノ深=				合 計= 平均ノ長ノ } = 平均ノ深=				機 關 室 / 翻 合 / 噸 數 =					
甲板上諸室噸數		第 三 號				第 四 號				噸 數 噸 數 噸 數 噸 數 噸 數					
一 號 =										噸 數 =					
二 號 =		平均ノ長= 同 深=				平均ノ長= 同 深=				噸 數 = 除去スヘキ噸數					
三 號 =		番 號	乘 數	幅	得 數	番 號	乘 數	幅	得 數	乘組人常用 室噸數 } = 合 計 機 關 室 / 噸 數					
四 號 =		1	1			1	1			登簿噸數 =					
五 號 =		2	4			2	4			測 度 員 官 氏 名					
六 號 =		3	1			3	1								
合 計 =		合 計 = 平均ノ長ノ } = 平均ノ深 =				合 計 = 平均ノ長ノ } = 平均ノ深 =									

四 洋 形 船 測

船 名	船 / 長	船 /							
甲板上測度ノ 長	甲 板 / 厚	船首傾度=對 スル距離	船尾傾度=對 スル距離	船尾船梁矢三 分ノ一					
分 長 點 番 號	1	2	3	4	5	6	7	8	9
分長點最大ノ深									
船梁ノ矢三分ノ一									
船底内板ノ厚									
矢三分ノ一並ニ其他減 スヘキ數									
分長點ニ於ル測度ノ深									
本 船 中 央 / 深 十 六 尺 = 付									
分 深 點 間 隔	幅 得 數	幅 得 數	幅 得 數	幅 得 數	幅 得 數	幅 得 數	幅 得 數	幅 得 數	幅 得 數
分深點間隔 乘 數									
1	1								
2	4								
3	2								
4	4								
5									
6									
7									
合 數									
分深點間隔 分ノ一									
橫 截 面 積									

日本形船測

(第五號書式)

船名	船ノ長	船ノ幅	船ノ		
----	-----	-----	----	--	--

分長點	乘數	幅	得數
1	1		
2	4		
3	9		
4	16		
5	25		
6	36		
7	49		
8	64		
9	81		
合計			

防禦甲板上船積ノ積 =

防禦甲板下船積ノ積 =

合計

十ニテ除ス

石 數

測度員官氏名

分長點	1	2	3	4	5	6	7	番號	分長點ノ積
分長點ノ積								1	
分長點ニ於ル深サ								2	
								3	
								4	
1								5	
2								6	
3								7	
4								合計	
5									船ノ下部ノ長 =
6									
7									
合計									
平均ノ幅									同上下部 =
									平均ノ深
									立方積 =

表 度

(第四號書式)

深	船ノ下部ノ長				
---	--------	--	--	--	--

甲板間ノ長 = 分長點間隔 =				第一號				第二號			
分長點	乘數	幅	得數	番號	乘數	幅	得數	番號	乘數	幅	得數
1	1			1	1			1	1		
2	4			2	4			2	4		
3	9			3	9			3	9		
4	16			4	16			4	16		
5	25			5	25			5	25		
6	36			6	36			6	36		
7	49			7	49			7	49		
8	64			8	64			8	64		
9	81			9	81			9	81		
10	100			10	100			10	100		
11	121			11	121			11	121		
12	144			12	144			12	144		
13	169			13	169			13	169		
合計				合計				合計			
分長點間隔	}			分長點間隔	}			分長點間隔	}		
平均ノ高	}			平均ノ高	}			平均ノ高	}		
船積上部石數 =				船積上部石數 =				船積上部石數 =			
船積下部石數 =				船積下部石數 =				船積下部石數 =			
總石數 =				總石數 =				總石數 =			
分長點ニ於ル平均ノ高	}			分長點ニ於ル平均ノ高	}			分長點ニ於ル平均ノ高	}		
校核面積 =				校核面積 =				校核面積 =			
測度員官氏名				測度員官氏名				測度員官氏名			

支那形船測度表

船名	船ノ長	船ノ幅	船ノ深

分長點番號	1		2		3		4		5		6		7		8	
	噸	尺	噸	尺	噸	尺	噸	尺	噸	尺	噸	尺	噸	尺	噸	尺
1																
2																
3																
4																
5																
6																
7																
8																
合計																
分長點番號																

乘分長點番號	噸	尺	得數
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
合計			
分長點番號			

平均ノ高ヲ乗ス
防禦甲板上船籍ノ積

(第六號書式) (輪廓鑄鐵汽船ニ用ユル分 一尺一寸五分 横一尺)

雷號	種類	船名	船籍港	製造地	製造者	進水年月日	甲板ノ面積	船身長	船幅	船深	船體最廣部ノ長	船體最廣部ノ幅	船體最廣部ノ深	船身長ノ内テテノ長	船幅ノ内テテノ幅	船深ノ内テテノ深	船身長ノ内テテノ長	船幅ノ内テテノ幅	船深ノ内テテノ深

第二十輯 運輸 第四章 船舶 第一款 船舶 船籍

(第七號書式) (輪廓鑄鐵帆船ニ用ユル分 一尺一寸五分 横一尺)

雷號	種類	船名	船籍港	製造地	製造者	進水年月日	甲板ノ面積	船身長	船幅	船深	船體最廣部ノ長	船體最廣部ノ幅	船體最廣部ノ深	船身長ノ内テテノ長	船幅ノ内テテノ幅	船深ノ内テテノ深	船身長ノ内テテノ長	船幅ノ内テテノ幅	船深ノ内テテノ深

船籍

船籍港	船名	種類	番號
船首ノ内面ヨリ船尾ノ内面ニ至ル船底水平ノ長	船體最廣部ニ於テ外板ノ内面ヨリ内面マテノ幅	船體最廣部ニ於テ外板ノ内面ヨリ内面マテノ幅	船體最廣部ニ於テ外板ノ内面ヨリ内面マテノ幅
船首ノ内面ヨリ船尾ノ内面ニ至ル船底水平ノ長	船體最廣部ニ於テ外板ノ内面ヨリ内面マテノ幅	船體最廣部ニ於テ外板ノ内面ヨリ内面マテノ幅	船體最廣部ニ於テ外板ノ内面ヨリ内面マテノ幅
船首ノ内面ヨリ船尾ノ内面ニ至ル船底水平ノ長	船體最廣部ニ於テ外板ノ内面ヨリ内面マテノ幅	船體最廣部ニ於テ外板ノ内面ヨリ内面マテノ幅	船體最廣部ニ於テ外板ノ内面ヨリ内面マテノ幅

第 九 章 式

但支那形船舶船籍證書ハ尺度ノ欄に於テ中央ニ於テ其上面ヨリ船底ニ至ル深ニ記ス

但支那形船舶船籍證書ハ尺度ノ欄に於テ中央ニ於テ其上面ヨリ船底ニ至ル深ニ記ス

但支那形船舶船籍證書ハ尺度ノ欄に於テ中央ニ於テ其上面ヨリ船底ニ至ル深ニ記ス

但支那形船舶船籍證書ハ尺度ノ欄に於テ中央ニ於テ其上面ヨリ船底ニ至ル深ニ記ス

第 十 一 章 式

但支那形船舶船籍證書ハ尺度ノ欄に於テ中央ニ於テ其上面ヨリ船底ニ至ル深ニ記ス

但支那形船舶船籍證書ハ尺度ノ欄に於テ中央ニ於テ其上面ヨリ船底ニ至ル深ニ記ス

但支那形船舶船籍證書ハ尺度ノ欄に於テ中央ニ於テ其上面ヨリ船底ニ至ル深ニ記ス

但支那形船舶船籍證書ハ尺度ノ欄に於テ中央ニ於テ其上面ヨリ船底ニ至ル深ニ記ス

第 十 章 式

但支那形船舶船籍證書ハ尺度ノ欄に於テ中央ニ於テ其上面ヨリ船底ニ至ル深ニ記ス

但支那形船舶船籍證書ハ尺度ノ欄に於テ中央ニ於テ其上面ヨリ船底ニ至ル深ニ記ス

但支那形船舶船籍證書ハ尺度ノ欄に於テ中央ニ於テ其上面ヨリ船底ニ至ル深ニ記ス

但支那形船舶船籍證書ハ尺度ノ欄に於テ中央ニ於テ其上面ヨリ船底ニ至ル深ニ記ス

第 九 章 式

但支那形船舶船籍證書ハ尺度ノ欄に於テ中央ニ於テ其上面ヨリ船底ニ至ル深ニ記ス

但支那形船舶船籍證書ハ尺度ノ欄に於テ中央ニ於テ其上面ヨリ船底ニ至ル深ニ記ス

但支那形船舶船籍證書ハ尺度ノ欄に於テ中央ニ於テ其上面ヨリ船底ニ至ル深ニ記ス

但支那形船舶船籍證書ハ尺度ノ欄に於テ中央ニ於テ其上面ヨリ船底ニ至ル深ニ記ス

第 十 一 章 式

但支那形船舶船籍證書ハ尺度ノ欄に於テ中央ニ於テ其上面ヨリ船底ニ至ル深ニ記ス

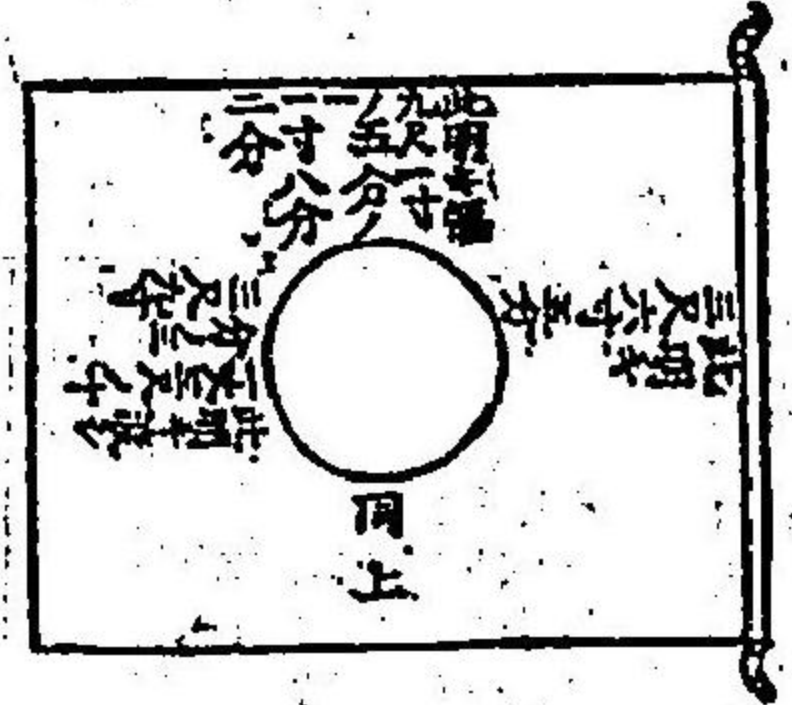
但支那形船舶船籍證書ハ尺度ノ欄に於テ中央ニ於テ其上面ヨリ船底ニ至ル深ニ記ス

但支那形船舶船籍證書ハ尺度ノ欄に於テ中央ニ於テ其上面ヨリ船底ニ至ル深ニ記ス

但支那形船舶船籍證書ハ尺度ノ欄に於テ中央ニ於テ其上面ヨリ船底ニ至ル深ニ記ス

臺灣船籍規則ニ依リ船舶ニ掲揚スル帝國國旗雜形

明治三十一年十二月十八日 臺灣總督府令第百十二號
明治三十一年律令第四號臺灣船籍規則ニ依リ船籍證書若シテ船體札ヲ受ケタル船舶ニ掲揚スル帝國國旗ハ左記ノ雜形ニ依リ掲揚スルモ但シ五十噸未満ノ四洋形船並ニ五百石未満ノ日本形船及支那形船ハ小旗ノミヲ用井ルコトヲ得



中旗寸法(船體用) 流一丈 日ノ丸差渡四尺二寸 同先ノ明キ三尺 同乳ノ方明キ二尺八寸
小旗寸法(船體用) 流六尺 日ノ丸差渡二尺五寸 同先ノ明キ一尺八寸 同乳ノ方明キ一尺六寸

第二款 造船 造船獎勵法

明治二十九年三月二十四日 法律第十六號 造船獎勵法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
造船獎勵法
第一條 帝國臣民又ハ帝國臣民ノ子ナシテ社員若シハ株主トスル商會社ニシテ通信大臣ノ定ムル資格ヲ備フル造船所ヲ設ケ船舶ヲ製造スル者ニハ此ノ法律ノ規程ニ依リ其ノ製造船舶ニ對シ造船獎勵金ヲ下付ス
第二條 此ノ法律ニ依リ造船獎勵金ヲ受ケヘキ船舶ハ鐵製又ハ鋼製ニシテ總噸數七百噸以上ナリシ通信大臣ノ定ムル造船規程ニ從ヒ其ノ監督ヲ受ケ製造シタルモノニ限ル
第三條 造船獎勵金ハ總噸數七百噸以上一千噸未満ノ船舶ニ在テハ船體總噸數一噸ニ付金十二圓、一千噸以上ノ船舶ニ在テハ一噸ニ付金二十圓ヲ支給シ其ノ機關ヲ併セ製造シタル場合ニハ一實馬力ニ付金五圓ヲ増給ス但シ帝國内ノ他ノ工場ニ於テ機關ヲ製造セシメタルトキト雖モ通信大臣ノ許可ヲ得タルトキ亦同シ
第四條 造船獎勵金ヲ受ケヘキ船舶ノ船體及機關ニハ通信大臣ノ定ムル規程ニ依リ外國製造品ヲ供用スルコトヲ得ス
第五條 船舶ノ所爲ヲ以テ造船獎勵金ヲ受ケタル者ハ一年以上五年以下ノ重懲罰ニ處シ二百圓以上千圓以下ノ罰金ヲ附加ス其ノ因テ得タル造船獎勵金ハ之ヲ償還セシム
前項ノ罪ヲ犯サムトシテ未ダ逃ケサル者ハ刑法未遂犯罪ノ例ニ依リ處断ス
第六條 此ノ法律ヲ犯シタル者ニハ刑法裁罰俱發ノ例ヲ用井ス

第七條 前二條ノ罰則ハ商會社ニ在テハ其ノ所爲ヲ爲シタル業務擔當ノ任アル社員若シハ取締役ニ之ヲ適用ス
第八條 此ノ法律ハ明治二十九年十月一日ヨリ十五年間ニテ施行ス
●造船獎勵法施行細則
明治二十九年九月五日 通信省令第十六號
造船獎勵法施行細則
第一條 造船獎勵法ニ依リ造船獎勵金ヲ受ケントスル者ハ願書ニ左ノ書類ヲ添ヘ之ヲ通信省ニ提出スヘシ
一 船舶件名書(第一號書式)
二 船圖
三 船體機關製造任證書
四 資格證明書
五 造船所ノ位置
六 工場及船體ノ面積(略圖ヲ添付スヘシ)
七 機械ノ種類
八 技術ノ族籍、氏名、履歷
第九條 船圖ハ左ノ十九種ニ分テ寸法ヲ附記シ各二通ツツ提出スヘシ但シ其ノ一通ハ鐵引布ヲ以テ製シタルモノナルコトヲ要ス
一 船體總圖
二 船體中心線縱斷面圖
三 船體中心線橫斷面圖
四 船體各甲板及艙内平面圖

- 六 船體各甲板及艙内平面ノ鐵鋼材構造圖
七 外板展開圖
八 二重底内板展開圖
九 支水隔壁ノ圖
十 舵及船尾骨材ノ圖
十一 鐵鋼製橋梁展開圖
十二 裝帆圖
十三 機關室ヨリ海水又ハ浚水ニ通スル諸管及噴子配置ノ平面圖
十四 汽機圖(汽機室ヨリ艙外ヨリ及汽機室ヨリ艙内ヨリ)
十五 汽機圖(汽機室ヨリ艙外ヨリ)
十六 汽機圖(汽機室ヨリ艙内ヨリ)
十七 安全網裝設圖
十八 機關室諸管裝設圖
十九 車軸、船尾管及推進器ノ圖
第二十條 同一ノ造船所ニシテ所有者二人以上アルトキハ其ノ一人ヲ總代トシ總所有者ノ氏名及其ノ所有ノ關係ヲ記載シタル書面ヲ添ヘ第一條ノ書類ヲ提出スヘシ
第二十五條 商會社ニ在テハ業務擔當ノ任アル社員又ハ取締役ヨリ左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ添ヘ第一條ノ書類ヲ提出スヘシ
一 會社ノ種類
二 社員又ハ株主ノ氏名
三 會社契約又ハ定款
四 業務擔當ノ任アル社員又ハ取締役ノ氏名
第六條 造船獎勵法第三條ノ但書ニ依リ他ノ工場ニ於テ機關ヲ製造セシメントスル者ハ願書ニ其ノ旨ヲ記載シテ船舶ノ書類ノ外其ノ工場ノ位置、面積、機械ノ種類並ニ該工場ノ機關專任技師ノ族籍、氏名及履歷ヲ記載シタル書面並ニ製造請

區負契約書ヲ提出スヘシ
第七條 造船獎勵金ヲ受ケントスル者ハ左ノ資格ヲ備フル造船所ヲ有スル者ニ限ル
一 造船獎勵金ヲ受ケントスル船舶ヲ製造スルニ必要ナル船體及諸機械ヲ備フルコト但シ體ノミヲ製造スル造船所ニ於テハ機關ヲ製造スルニ必要ナル諸機械ヲ備フルコトヲ要セス
二 船體專任技師及機關專任技師各一人以上ナリ且クコト但シ體ノミヲ製造スル造船所ニ於テハ機關專任技師一人以上ナリ且クコトヲ要セシムルコトヲ要ス
第八條 第七條ニ定ムル技師ハ左ニ掲グル者ナルコトヲ要ス
一 東京帝國大學工科大學、京都帝國大學理工科大學又ハ之ト同等以上ノ學科ヲ備フル學校卒業シ三年以上船舶若シハ機關ノ製造ニ從事シタル者
二 前號ニ掲ケタル學校卒業シ五年以上船舶若シハ機關ノ製造ニ從事シタル者
三 六箇年以上船舶又ハ機關ノ製造ニ從事シタル者
四 八箇年以上船舶若シハ機關ノ製造ニ從事シタル者
五 製造監督又ハ其ノ検査ニ從事シタル者
六 製造監督又ハ其ノ検査ニ從事シタル者

前項各該中船體若シハ機關ノ製造、修補、製造ノ監督又ハ検査ニ從事シタル履歷ノ通信大臣ノ認許ヲ得タルモノナルコトヲ要ス
第九條 通信大臣ハ第一條第四條第五條又ハ第六條ノ書類ヲ受理スヘキモノト認ムルトキハ検査官吏ヲシテ造船所又ハ機關工場ノ資格、製造任證書及船圖ヲ調査セシムヘシ
第十條 検査官吏ハ製造任證書及船圖ヲ調査ナリシト認ムルトキハ之カ訂正若シハ新製圖ヲ命ジ又必要ナリト認ムルトキハ第三條ニ掲ケタル書類ヲ提出シタルモノトキハ第三條ニ掲ケタル書類ヲ提出スルコトヲ得
第十一條 検査官吏ノ報告ニ依リ通信大臣ニ於テ造船獎勵金ヲ下付スヘキモノト認ムルトキハ製造船舶ニ對シ出願人ニ第二號書式ノ認許證書ヲ下付スヘシ
第十二條 認許證書ヲ受ケタル者ハ其ノ船舶ノ製造ニ關シ検査官吏ノ監督ヲ受ケヘシ
通信大臣ハ造船所又ハ機關工場ニ於テ検査官吏ノ指揮ニ背反シ又ハ其ノ命令ヲ違背セサル所爲アリト認ムルトキハ認許證書ヲ取消スヘシ
第十三條 認許證書ヲ受ケ製造スル船舶ノ船體及機關ニハ左ニ掲グルモノノ外國製造品ヲ供用スルコトヲ得ス
一 船首材
二 船尾骨材
三 雙槳旋軸支肘
四 雙槳以上ノ諸輪
五 雙槳
六 船體可動性諸部、海骨骨網及機骨網製造品

七 船形及肋形火爐

第十四條 認許證書ヲ受ケ製造スル船舶竣工シタルトキハ検査官吏ハ之ヲ検査シ其ノ總噸數ヲ算定スヘシ
 検査官吏ハ前項ノ手續ヲ終リタル後試運轉ヲ執行セシメ實馬力ヲ算定スヘシ
 第十五條 總噸數ハ船舶積載測定規則ニ依リ算定スヘシ
 實馬力ハ航海獎勵法施行細則第七條ノ手續ニ依リ船舶ヲ航走セシメ毎回各汽機ヨリ取りタル示壓圖ニ依リ算定シタル實馬力ノ平均數トス但汽機回轉數ハ示壓圖ヲ取ル時間ニ於ケル平均數ヲ用テヘシ
 汽船ノ進航ニ直接ノ關係ヲ有スル副汽機ノ平均實馬力ハ前項ノ實馬力ニ加算ス但外國ニ於テ製造セラレタル副汽機ナルトキハ此ノ限ニテアラズ
 第十六條 認許證書ヲ有スル者第十四條ノ手續ヲ了ラタルトキハ第三號書式ノ請求書ニ認許證書ヲ添ヘ送信者ニ造船獎勵金ノ下付ヲ出願スヘシ
 第十七條 選信者ニ於テ前條ノ出願ヲ受ケタルトキハ審査ノ上造船獎勵金ヲ出願人ニ下付スヘシ第十八條 此ノ規則ノ規定ナキモノニ付テハ航海獎勵法施行規則ノ規定ヲ準用ス
 (第一號書式)
 船舶件名書
 船ノ種類
 機關ノ種類
 計量總噸數
 計量實馬力

製造起工年月日
 限定竣工年月日
 製造費概算
 右ノ通候也
 何造船所所有者
 氏 名 印
 住 所
 氏 名 印
 何造船所所有者
 氏 名 印
 住 所
 氏 名 印
 何造船所所有者
 氏 名 印
 住 所
 氏 名 印

(第二號書式)

認許證書
 何造船所所有者
 氏 名 印
 住 所
 氏 名 印
 一何製(汽)船
 計量總噸數
 計量實馬力
 前記ノ船舶ハ造船獎勵法ノ規則ニ適合スト認ムルヲ以テ此ノ證書ヲ下付ス
 年 月 日 通信大臣氏 名印
 (第三號書式)
 造船獎勵金請求書
 一 金
 但船體 噸ニ對ス (總噸數一噸ニ付) 總噸數 噸獎勵金 (金) 四
 (機關ニ對シ獎勵金ヲ受ルトキハ左ノ例ニ依ルヘシ)
 (内 附)
 金 船體總噸數ニ對スル 總噸數一噸ニ付 噸獎勵金 噸獎勵金
 金 機關實馬力ニ對スル 實馬力ニ付 噸獎勵金 噸獎勵金
 右ノ明治 年 月 日付第 號認許證書ノ下付ヲ受ケ明治 年 月 日起工致シ同年 年 月

日竣工シ候間前記ノ獎勵金支給相成度依テ認許證書相添ヘ此段及請求候也
 何造船所所有者
 住 所
 氏 名 印
 年 月 日
 通信大臣氏 名印
 ●造船規程
 明治三十三年四月三十日
 選信者令第十六號
 第三號書式(第一號書式)ニ依リ製造スル船舶
 造船規程左ノ規定メ明治三十三年六月一日ヨリ施行ス
 造船規程目次
 第一章 總則
 第二章 材料試驗
 第三章 工事
 第四章 龍骨、肋骨材及ヒ船尾骨材
 第五章 正肋材
 第六章 肋板
 第七章 副肋材
 第八章 中心線內龍骨
 第九章 轉曲部內龍骨及ヒ其內龍骨
 第十章 各內龍骨及ヒ龍骨內龍骨材ノ接合法
 第十一章 梁
 第十二章 梁ノ配置
 第十三章 龍骨內龍骨材ノ配置
 第十四章 特設肋骨
 第十五章 深式肋骨
 第十六章 梁柱

第十七章 特設梁柱及ヒ特設梁柱下通材
 第十八章 梁上側板
 第十九章 梁上帶板
 第二十章 船首甲板、船尾甲板及ヒ船首防撓構造
 第二十一章 外板
 第二十二章 覆板及ヒ填板
 第二十三章 鉸釘
 第二十四章 支水隔壁
 第二十五章 甲板
 第二十六章 二重底及ヒ水艙
 第二十七章 肋骨每ニ肋板ヲ有スル區畫式二重底
 第二十八章 肋骨一本置ニ肋板ヲ有スル區畫式二重底
 第二十九章 肋板上ニ縱通桁板ヲ用テテ構造シタル二重底
 第三十章 內張板
 第三十一章 車軸隧道
 第三十二章 覆甲板船及ヒ部分覆甲板船
 第三十三章 船首樓、船尾樓及ヒ船橋樓
 第三十四章 低船首樓及ヒ低船尾樓
 第三十五章 適當比例ノ船舶
 第一節 總則
 第二節 深ノ十一倍ヲ超エ十二倍以下ノ長ヲ有スル船舶
 第三節 深ノ十二倍ヲ超エ十三倍以下ノ長ヲ有スル船舶
 第四節 深ノ十三倍ヲ超エ十四倍以下ノ長ヲ有スル船舶
 第五節 深ノ十四倍ヲ超エ十五倍以下ノ長ヲ有スル船舶
 第六節 深ノ十五倍ヲ超エ十六倍以下ノ長ヲ有スル船舶
 第七節 船口、機艙室口其ノ他甲板上ノ諸口
 第八節 船尾門及ヒ載貨門
 第九節 排水裝置
 第十節 通風器
 第十一節 舵及ヒ操舵器
 第十二節 橋、帆架、斜橋及ヒ家具等
 第十三節 汽機
 第十四節 汽鍋
 第十五節 齒子及ヒ管
 第十六節 補助汽機及ヒ補助汽鍋
 附則
 造船規程
 第一編 船體
 第一章 總則
 第一條 此ノ規程ハ特ニ明文アルモノヲ除クノ外鋼ヲ以テ造レル船舶ノ構造方法ヲ示スモノトス
 第二條 此ノ規程ニ於テ第一級船、第二級船、第三級船及ヒ第四級船ト稱スルハ船舶検査規程ノ規定ニ依ル
 第三條 此ノ規程ニ於テ最上甲板ヲ上甲板、第二層ノ甲板ヲ第二甲板、第三層ノ甲板ヲ第三甲板ト謂ヒ以下ノニ準ス
 第四條 此ノ規程ニ於テ重甲板船ト稱スルハ其ノ上甲板下ニ隨意ニ重畳ノ貨物ヲ積載シ得ヘキ船舶ト謂フ但三層重甲板船ト稱スルハ第二甲板梁ノ上面迄ノ深十七呎以上ニシテ二層以上ノ甲板及ヒ檢査若ハ之ニ代用スヘキ特設肋骨又ハ深式肋骨ヲ有スル汽船ト謂フ
 輕甲板船ト稱スルハ二層以上ノ甲板ヲ有シ其ノ構造輕甲板船ニ比シ尙輕軟ニシテ其ノ第二甲板上ニハ穩健蓋、海圖室等ヲ除クノ外特ニ補強構造ナカシアル汽船ト謂フ
 特種三層重甲板船ト稱スルハ第五號圖ニ據リ第二甲板以下ノ甲板ニ鋼製ニシテ其ノ第二甲板以下ノ木甲板ヲ廢シタル三層重甲板船ト謂フ
 特種三層輕甲板船又ハ特種二層輕甲板船ト稱スルハ第五號圖ニ據リ第二甲板以下ノ甲板ニ鋼製ニシテ其ノ第二甲板以下ノ木甲板ヲ廢シタル三層輕甲板船ト謂フ
 輕甲板船ト稱スルハ重甲板船ノ上甲板ヲ輕甲板、覆甲板船ノ上甲板ヲ覆甲板ト謂フ
 第五條 此ノ規程ニ於テ船ノ長ト稱スルハ重甲板船ニ於テハ重甲板梁上ニテ、輕甲板船ニ於テハ輕甲板梁上ニテ船首材ノ後面ヨリ單線旋汽船及ヒ三線旋汽船ナルトキハ舵柱ノ前面迄、雙線旋汽船、外

スルヲ要ス若シ一致セザルトキハ適當ニ選擇シ
必要ト認ムルトキハ再ヒ埋頭法ヲ施スヘシ
鉸釘ノ充分鉸釘ヲ埋充シ且板ノ表面上ニ適當
ノ剩餘アルヲ要ス

第九條 船尾ノ心距ハ成ルヘク等距離ニ配置スルヲ要ス
第十一條 正肋材ノ下端ハ龍骨ニ密接セシムヘシ
又船ノ首尾ニ於ケル兩舷ノ肋材ハ其ノ間隔ニ於
テ充分工事ヲ爲シ得ヘキ様相隔離スヘシ

第四章 龍骨、船首材及ヒ船尾材

第一條 方形龍骨、船首材及ヒ船尾材ノ寸法ハ
第二號表ニ據ルヘシ但第二號表ニ於テハ各材ノ
幅ヲ二分ノ一吋以内減スルコトヲ得又其ノ板接
ノ長ハ用材ノ厚ノ九倍ト爲スヘシ

第二條 龍骨ノ厚ハ第二號表ニ據ルヘシ
第三條 龍骨ノ厚ト同一ト爲スヘシ
第四條 龍骨ノ厚ト同一ト爲スヘシ

第五條 船首材ノ寸法ハ最大喫水線ヨリ上部ニ至
ルニ從ヒ漸次減少シテ頂上ニ於ケル載面ハ第二
號表ニ據ルヘシ且四分之三ト爲スコトヲ得

第六條 單螺旋汽船及ヒ三螺旋汽船ノ船尾材ノ厚
ノ軸孔ノ兩側ニ於ケル厚ハ第二號表ニ據ルヘシ
其ノ龍骨ト密接スヘキ部分ニ於テハ漸次龍骨ノ
寸法迄ニ減少スヘシ

第七條 船尾材ノ龍骨ニ接合スル板接ノ後端ヨリ
船尾材ノ前面迄ノ距離ハ外車汽船及ヒ帆船ニ於
テハ肋材ノ心距ノ一五倍又螺旋汽船ニ於テハ
二五倍ヨリ少カルヘカラス

第八條 第二號表ニ據ル以上ノ單螺旋汽船及ヒ三螺旋
汽船ニ於テハ船尾材ノ上部ニ延長シテ肋材及ヒ
梁上ニ張りタル板接若ハ鋼板ニ固著スヘシ

第九條 單螺旋汽船及ヒ三螺旋汽船ノ舵柱、雙螺
旋汽船、外車汽船及ヒ帆船ノ船尾材ハ其ノ兩側
ニ適當ノ山形材ヲ附シテ船尾肋板ニ固著スヘ
シ

第十條 舵柱ノ鍍金ハ深ハ舵心材ノ徑ノ十分ノ
七ヨリ少カラス厚ハ舵針ノ徑ノ二分ノ一ヨリ少
カラスシテ五呎六吋以内ノ心距ニ於テ舵柱若ハ
船尾材ニ密接スヘシ

第五章 正肋材

第一條 正肋材ノ寸法ハ第一號表ニ據ルヘシ
第二號表ニ於テハ第一號表ニ據ル正肋材ノ厚
副肋材ヨリ厚キモノニ限リ正肋材ノ厚ヲ二十分
ノ一吋減スルコトヲ得但二十分ノ五吋ヨリ小ナ
ルヘカラス

第二條 龍骨ノ厚ト同一ト爲スヘシ

第三條 龍骨ノ厚ト同一ト爲スヘシ

第四條 龍骨ノ厚ト同一ト爲スヘシ

第五條 龍骨ノ厚ト同一ト爲スヘシ

第六條 龍骨ノ厚ト同一ト爲スヘシ

第七條 龍骨ノ厚ト同一ト爲スヘシ

第八條 龍骨ノ厚ト同一ト爲スヘシ

第九條 龍骨ノ厚ト同一ト爲スヘシ

第十條 龍骨ノ厚ト同一ト爲スヘシ

至ル間ニ重正肋材ヲ取附クヘシ

第三條 正肋材ヲ龍骨ノ上面ニ於テ接續スルトキ
ハ中央部ニ於テ少クモ船ノ長ノ四分ノ三間ハ其
ノ兩邊ノ和ノ五倍ヨリ少カラス三呎ヨリ多カラ
サル山形材ヲ附シテ固著スヘシ但平板龍骨ニ其
通板内龍骨ヲ用ルトキ又船底ノ形状銳尖ニシ
テ兩舷ノ正肋材カ船底ニ於テ交ル角度力六十度
以下ナル部分ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第四條 龍骨ノ厚ト同一ト爲スヘシ

第五條 龍骨ノ厚ト同一ト爲スヘシ

第六條 龍骨ノ厚ト同一ト爲スヘシ

第七條 龍骨ノ厚ト同一ト爲スヘシ

第八條 龍骨ノ厚ト同一ト爲スヘシ

第九條 龍骨ノ厚ト同一ト爲スヘシ

第十條 龍骨ノ厚ト同一ト爲スヘシ

第十一條 龍骨ノ厚ト同一ト爲スヘシ

第十二條 龍骨ノ厚ト同一ト爲スヘシ

第十三條 龍骨ノ厚ト同一ト爲スヘシ

第十四條 龍骨ノ厚ト同一ト爲スヘシ

第十五條 龍骨ノ厚ト同一ト爲スヘシ

第十六條 龍骨ノ厚ト同一ト爲スヘシ

第十七條 龍骨ノ厚ト同一ト爲スヘシ

第十八條 龍骨ノ厚ト同一ト爲スヘシ

第十九條 龍骨ノ厚ト同一ト爲スヘシ

第二十條 龍骨ノ厚ト同一ト爲スヘシ

第二十一條 龍骨ノ厚ト同一ト爲スヘシ

第二十二條 龍骨ノ厚ト同一ト爲スヘシ

第二十三條 龍骨ノ厚ト同一ト爲スヘシ

第二十四條 龍骨ノ厚ト同一ト爲スヘシ

第二十五條 龍骨ノ厚ト同一ト爲スヘシ

第二十六條 龍骨ノ厚ト同一ト爲スヘシ

第二十七條 龍骨ノ厚ト同一ト爲スヘシ

第二十八條 龍骨ノ厚ト同一ト爲スヘシ

第二十九條 龍骨ノ厚ト同一ト爲スヘシ

第三十條 龍骨ノ厚ト同一ト爲スヘシ

第三十一條 龍骨ノ厚ト同一ト爲スヘシ

第三十二條 龍骨ノ厚ト同一ト爲スヘシ

第三十三條 龍骨ノ厚ト同一ト爲スヘシ

第三十四條 龍骨ノ厚ト同一ト爲スヘシ

第三十五條 龍骨ノ厚ト同一ト爲スヘシ

第三十六條 龍骨ノ厚ト同一ト爲スヘシ

第三十七條 龍骨ノ厚ト同一ト爲スヘシ

第三十八條 龍骨ノ厚ト同一ト爲スヘシ

第三十九條 龍骨ノ厚ト同一ト爲スヘシ

第四十條 龍骨ノ厚ト同一ト爲スヘシ

第四十一條 龍骨ノ厚ト同一ト爲スヘシ

第四十二條 龍骨ノ厚ト同一ト爲スヘシ

第四十三條 龍骨ノ厚ト同一ト爲スヘシ

第四十四條 龍骨ノ厚ト同一ト爲スヘシ

第四十五條 龍骨ノ厚ト同一ト爲スヘシ

第四十六條 龍骨ノ厚ト同一ト爲スヘシ

第四十七條 龍骨ノ厚ト同一ト爲スヘシ

第四十八條 龍骨ノ厚ト同一ト爲スヘシ

第四十九條 龍骨ノ厚ト同一ト爲スヘシ

第五十條 龍骨ノ厚ト同一ト爲スヘシ

第五十一條 龍骨ノ厚ト同一ト爲スヘシ

第五十二條 龍骨ノ厚ト同一ト爲スヘシ

第五十三條 龍骨ノ厚ト同一ト爲スヘシ

第五十四條 龍骨ノ厚ト同一ト爲スヘシ

第五十五條 龍骨ノ厚ト同一ト爲スヘシ

第五十六條 龍骨ノ厚ト同一ト爲スヘシ

第五十七條 龍骨ノ厚ト同一ト爲スヘシ

第五十八條 龍骨ノ厚ト同一ト爲スヘシ

第五十九條 龍骨ノ厚ト同一ト爲スヘシ

第六十條 龍骨ノ厚ト同一ト爲スヘシ

第六十一條 龍骨ノ厚ト同一ト爲スヘシ

第六十二條 龍骨ノ厚ト同一ト爲スヘシ

第六十三條 龍骨ノ厚ト同一ト爲スヘシ

第六十四條 龍骨ノ厚ト同一ト爲スヘシ

第六十五條 龍骨ノ厚ト同一ト爲スヘシ

第六十六條 龍骨ノ厚ト同一ト爲スヘシ

第六十七條 龍骨ノ厚ト同一ト爲スヘシ

第六十八條 龍骨ノ厚ト同一ト爲スヘシ

第六十九條 龍骨ノ厚ト同一ト爲スヘシ

第七十條 龍骨ノ厚ト同一ト爲スヘシ

第七十一條 龍骨ノ厚ト同一ト爲スヘシ

第七十二條 龍骨ノ厚ト同一ト爲スヘシ

第七十三條 龍骨ノ厚ト同一ト爲スヘシ

第七十四條 龍骨ノ厚ト同一ト爲スヘシ

第七十五條 龍骨ノ厚ト同一ト爲スヘシ

第七十六條 龍骨ノ厚ト同一ト爲スヘシ

第七十七條 龍骨ノ厚ト同一ト爲スヘシ

第七十八條 龍骨ノ厚ト同一ト爲スヘシ

第七十九條 龍骨ノ厚ト同一ト爲スヘシ

第八十條 龍骨ノ厚ト同一ト爲スヘシ

第八十一條 龍骨ノ厚ト同一ト爲スヘシ

第八十二條 龍骨ノ厚ト同一ト爲スヘシ

第八十三條 龍骨ノ厚ト同一ト爲スヘシ

第八十四條 龍骨ノ厚ト同一ト爲スヘシ

第八十五條 龍骨ノ厚ト同一ト爲スヘシ

第八十六條 龍骨ノ厚ト同一ト爲スヘシ

第八十七條 龍骨ノ厚ト同一ト爲スヘシ

第八十八條 龍骨ノ厚ト同一ト爲スヘシ

第八十九條 龍骨ノ厚ト同一ト爲スヘシ

第九十條 龍骨ノ厚ト同一ト爲スヘシ

第九十一條 龍骨ノ厚ト同一ト爲スヘシ

第九十二條 龍骨ノ厚ト同一ト爲スヘシ

第九十三條 龍骨ノ厚ト同一ト爲スヘシ

第九十四條 龍骨ノ厚ト同一ト爲スヘシ

第九十五條 龍骨ノ厚ト同一ト爲スヘシ

第九十六條 龍骨ノ厚ト同一ト爲スヘシ

第九十七條 龍骨ノ厚ト同一ト爲スヘシ

第九十八條 龍骨ノ厚ト同一ト爲スヘシ

第九十九條 龍骨ノ厚ト同一ト爲スヘシ

第一百條 龍骨ノ厚ト同一ト爲スヘシ

第七條 肋骨毎三附スルモ差支ナシ
龍骨ノ上面ヨリ船梁ノ上面迄ノ深十七呎以上ナ
ルカ若ハ第二數一萬五千以上ノ船舶ニ於テハ増
設副肋材ハ之ニ彎曲部縱通材ヲ固著シ得ヘキ高
迄達セシムヘシ

第五條 越テ内龍骨其ノ他縱通材ヲ取附ケル部分
ニハ肋骨毎ニ副肋材ト寸法ノ山形材ヲ三箇以
上ノ釘釘ヲ以テ肋骨ニ固著スヘシ但肋骨ニ球
形材ヲ用ルトキハ肋骨毎ニ第一號表ニ掲ケル
副肋材ト寸法ノ山形材二本ヲ三箇以上ノ釘釘
ヲ以テ肋骨ニ固著スルカ若ハ副肋材二本ト同一
ノ効力ヲ有スル山形材一本ヲ三箇以上ノ釘釘
ヲ以テ肋骨ニ固著シ四本以上ノ釘釘ヲ以テ縱通材
ニ固著スヘシ

第六條 副肋材ノ銜接ニハ山形材ヲ附シ其ノ兩
邊ハ銜合ノ前後ニ於テ各二箇以上ノ釘釘ヲ以テ
固著スヘシ但内龍骨ノ下部ニテ銜接スル場合ニ
於テ肋板ノ他面ニ増設副肋材ヲ附スルトキハ此
ノ限ニ在ラス

第七條 第二數二萬以上ノ船舶ニ於テハ船尾兩壁
ノ後部ニ於ケル副肋材ハ總テ上甲板ノ梁上側板
迄達セシムヘシ但第二數三萬未満ニシテ最速速
力十一節未満ノ第二級船ニ於テハ此ノ限ニ在ラ
ズ又船尾突出部ノ形狀平坦ナルトキハ適當ナル
長ノ間上甲板ノ第二甲板トノ中央ニ於テ二枚合
セノ山形材ヲ肋骨ニ取附ケ肋板ヲ以テ之ヲ船尾
肋板ニ固著スヘシ

第八章 中心線内龍骨

第一條 單板内龍骨ノ堅板ノ寸法ハ第三號表ニ據
リ其ノ兩面上下ニハ同表ニ掲ケル山形材ヲ取附
ケ且中央部ニ於テ船ノ長ノ四分ノ三間ハ上端ニ
附シタル山形材ニ冠板ヲ附著スヘシ其ノ幅ハ堅
板ノ厚及ヒ其ノ上端ニ附シタル山形材ノ上端ノ
幅ノ和ニ等クシ其ノ厚ハ同表ニ據ルヘシ

第二條 三合ナ加ヘタル厚ヲ有スル二重覆板ヲ附
シ三列釘固著ト爲スヘシ但之ヲ累接ト爲シ三列
釘固著ト爲スモ妨ナシ

第三條 銜接ハ上面ニ冠板ヲ附シ三列釘固著ト爲
シ又山形材ノ銜接ハ山形材ヲ附シ其ノ兩邊ハ
銜合ノ前後ニ於テ各三箇ノ釘釘ヲ以テ固著スヘ
シ

第四條 第二數三萬三千以上ノ船舶ニ於テハ幅十八吋厚
二十分ノ十吋ノ硬板ヲ船ノ首尾ヲ通シテ堅板ノ
下ニ取附ケヘシ

第五條 斷切板内龍骨ノ斷切板ハ第三號表ニ據
ル厚ト爲シ龍骨ヨリ肋板ノ上端迄達セシム第一
號表ニ掲ケル副肋材ト寸法ノ山形材ヲ以テ之
ヲ肋板毎ニ固著シ肋骨一本ニ取附ケヘキ梁柱
一列ヲ有スル第二甲板梁ヨリ二吋深キ球板ヲ肋
板ノ部分ニ於テ適當ニ切取リ斷切板ニ固著シ得
ヘキ所迄達下セシム第三號表ニ掲ケル山形材ヲ
肋板ノ上端ニ於テ球板ノ兩側ニ固著スヘシ但斷
切板ハ山形材ノ上端迄達セシムルトキハ球板ヲ
垂下セシムルヲ要セス

第六條 方形龍骨ヲ有シ第二數一萬三千以上一萬
八千未満ノ船舶若ハ平板龍骨ヲ有シ第二數一萬
三千以上一萬五千未満ノ船舶又ハ深ノ十倍ヲ超
スル長ヲ有スル船舶ニ斷切板内龍骨ヲ用ルト

キハ前條ニ掲ケル球板ノ代リニ堅板ヲ肋板ノ上
面ニ設ケ之ヲ肋板ノ部分ニ於テ適當ニ切取リ肋
板間ニ於テ斷切板ニ固著シ得ヘキ所迄達下セシ
ム其ノ兩面上下ニ第三號表ニ掲ケル山形材ヲ附
シ之ニ冠板ヲ附著スヘシ其ノ厚及ヒ冠板ハ第
五號表ノ最上欄ニ掲ケル梁上側板ト同厚ニシテ
堅板ノ肋板上ノ深ハ其ノ兩面上下ニ山形材ヲ附
スルニ充分ナルヲ要ス

第七條 方形龍骨ヲ有シ第二數一萬八千以上ノ船舶若ハ
平板龍骨ヲ有シ第二數一萬五千以上ノ船舶ニ於
テハ堅板及ヒ冠板ノ厚ハ第三號表ニ掲ケル單板
内龍骨ノ堅板ニ等クシ肋板上堅板ノ深ハ其ノ深
ノ四分ノ三ト爲スヘシ

第八條 貫通板内龍骨ヲ側板龍骨ニ附スルトキハ
貫通板ハ其ノ厚ヲ第三號表ニ掲ケル斷切板ヨリ
二十分ノ二吋増シテ之ヲ肋板ノ上端迄達セシム且
其ノ肋板ノ兩面ニ第一號表ニ掲ケル副肋材ト寸
法ノ山形材ヲ附シテ之ヲ貫通板ニ固著スルノ
外第二號表ニ掲ケル龍骨板ト同厚ニシテ其ノ
四分ノ三ノ幅ヲ有スル板ヲ肋板上ニ平置シ二重
副肋材及ヒ貫通板ノ上端兩面ニ附スル山形材ニ
固著スヘシ

第九條 第二數一萬五千以上一萬八千未満ノ船舶ニ於テ
ハ肋骨一本ニ取附ケヘキ梁柱一列ヲ有スル第
二甲板梁ト寸法ノ球板ヲ平板板上ニ設ケ其ノ
兩面ニ第三號表ニ掲ケル山形材ヲ取附ケ之ヲ平
置板及ヒ二重副肋材ニ固著スヘシ但貫通板ヲ肋
板ノ上端ヨリ上部ニ延長スルトキハ其ノ兩側ニ
第三號表ニ掲ケル斷切板ヨリ二十分ノ二吋多キ
厚ト龍骨板ノ三分ノ一ニ等キ幅トヲ有スル平
置板ヲ設ケ之ヲ二重副肋材ニ固著シ且貫通板ノ
兩面ニ第三號表ニ掲ケル山形材ヲ附シテ之ヲ平

第九條 貫通板ノ銜合ハ前條ノ規定ニ依ルヘシ

第十條 船底彎曲部ノ下部ニハ船ノ首尾ヲ通シテ
第三號表ニ掲ケル寸法ノ山形材ヲ二枚合セト爲
シタル彎曲部内龍骨ヲ設ケヘシ

第十一條 第二數一萬三千以上一萬五千未満ノ船舶
ニハ中心線内龍骨ト彎曲部内龍骨トノ大約中央
ニ於テ船ノ首尾ヲ通シテ第三號表ニ掲ケル寸法
ノ山形材ヲ二枚合セト爲シタル翼内龍骨ヲ設ケ
ヘシ但船首ノ船底扁平ニシテ龍骨ニ二重底ヲ備
ヘサル汽船ニ於テハ船首ヨリ船ノ長ノ五分ノ一
ニ相當スル箇所ヨリ前方船首隔壁ニ至ル間翼内
龍骨ニ第三號表ニ掲ケル斷切板ヲ取附ケヘシ

第十二條 第一數一萬五千以上ノ船舶ノ翼内龍骨ニハ肋板
間ニ第三號表ニ掲ケル斷切板ヲ取附ケ之ヲ肋板

ノ上端迄達セシム第二數二萬一千七百未満ノ船
舶ニ於テハ幅三吋三十分厚二十分ノ七吋 第二
數二萬一千七百以上三萬四千未満ノ船舶ニ於テ
ハ幅三吋半三十分厚二十分ノ九吋 第二數三
萬四千以上ノ船舶ニ於テハ幅三吋半三十分厚
二十分ノ十吋ノ山形材ヲ以テ之ヲ外板ニ固著シ
且前項ニ掲ケタル二枚合セト爲シタル山形材ニ斷切板
ニ要スルモノト同厚ノ縱通板ヲ挿入シ之ヲ肋板
ノ上端下ニ垂下セシメテ斷切板ニ固著スヘシ但
斷切板ハ山形材ノ上端迄達セシムルトキハ縱通
板ヲ挿入スルヲ要セス

第十三條 第二數二萬四千以上二萬七千未満ノ船舶
ニ於テハ中央部ニテ船ノ長ノ三分ノ二間ハ肋骨
一本ニ取附ケヘキ梁柱一列ヲ有スル第二甲板
梁ニ用クヘキモノト寸法ノ球板ヲ翼内龍骨ニ
取附ケ且中央部ニ一分ノ一間ハ彎曲部内龍骨ニ第
三號表ニ掲ケル斷切板ヲ取附ケヘシ

第十四條 第二數二萬七千以上三萬未満ナルトキハ中央部
三分ノ二間ハ深ハ第三號表ニ掲ケル中心線單板
内龍骨ノ堅板ノ二分ノ一ニシテ厚ハ之ニ等キ板
ヲ翼内龍骨ニ取附ケテ其ノ上端兩面ニ山形材ヲ
固著シ之ニ冠板ヲ附スヘシ該山形材ハ第三號表
ニ掲ケル上甲板ノ梁上側板ニ附スル山形材ト同
寸法ニシテ冠板ハ翼内龍骨板ト同厚ナルヲ要ス
且中央部ニ一分ノ一間ハ彎曲部内龍骨ニ第三號表
ニ掲ケル斷切板ヲ取附ケ又中央部五分ノ三間ハ
肋骨一本ニ取附ケヘキ梁柱一列ヲ有スル第二
甲板梁ニ用クヘキモノト寸法ノ球板ヲ挿入ス
ヘシ

第十五條 第二數三萬以上三萬三千未満ナルトキハ中央部
三分ノ二間ハ翼内龍骨ニ深ハ第三號表ニ掲ケル
中心線單板内龍骨ノ堅板ノ四分ノ三ニシテ厚ハ

之ニ等キ板ヲ取附ケ其ノ上端兩面ニ山形材ヲ固
著シ之ニ冠板ヲ附スヘシ該山形材ハ第三號表ニ
掲ケル上甲板ノ梁上側板ニ附スルモノト寸法
ニシテ冠板ハ翼内龍骨板ト同厚ト爲スヘシ且中
央部三分ノ二間ハ彎曲部内龍骨ニ第三號表ニ掲
ケル斷切板ヲ取附ケ又中央部五分ノ三間ハ肋骨
一本ニ取附ケヘキ梁柱一列ヲ有スル第二甲板梁
ニ用クヘキモノト寸法ノ球板ヲ挿入スヘシ

第十六條 幅十四呎以上ニシテ中心線内龍骨ニ貫通
板及ヒ斷切板ヲ有セサル船舶及ヒ斷切板内龍
骨ヲ要セサル船舶ニ於テハ中央部ニ於テ船ノ長
ノ二分ノ一間ハ第一號表ニ掲ケル斷切板上部ニ
用クヘキ板ト同厚ノ制水板ヲ設ケヘシ但船ノ幅
二十六呎未満ノ船舶ニ於テ中心線内龍骨ニ貫通
板及ヒ斷切板ヲ附スルトキハ制水板ヲ設ケサル
モ妨ナシ

第十七條 各内龍骨及ヒ縱内縱通材ノ銜合
法等

第一條 球板ヲ銜接スルトキハ二重覆板ヲ附シテ
堅牢ニ固著シ各覆板ノ厚ハ球板ノ厚ノ三分ノ二
以上其ノ長ハ球板ノ深ノ三倍以上ト爲スヘシ又
球板ヲ累接スルトキハ其ノ累接ノ幅ハ球板ノ深
ノ二倍以上ト爲スヘシ

第二條 球板及ヒ中心線内龍骨ノ各板ノ銜接及ヒ
累接ハ三列釘固著ト爲シ其ノ他ノ各板ノ銜接及
ヒ累接ハ二列釘固著ト爲スヘシ

第三條 山形材ノ銜接ハ山形材又ハ覆板ヲ附シテ固著
スヘシ但山形材又ハ覆板ノ厚ハ銜合スヘキ山
形材ノ厚ニ等クシ其ノ長ハ二呎以上ト爲スヘ
シ

第四條 各内龍骨及ヒ縱内縱通材ハ支水隔壁ヲ貫
通シテ船ノ首尾ニ達セシム其ノ兩側ヲ貫通スル

中央ニ於ケル正肋材ノ厚ニ等クスヘシ
 第十四條 特設肋梁ハ梁上側板ト同厚ノ撥形板ヲ以テ之ヲ梁上側板ニ固著スヘシ
 第十五條 梁上ニ甲板ヲ張ルトキハ前數條ノ規定ニ拘ハラズ梁ノ心距ハ肋骨ノ心距ノ二倍ヲ超スヘカラス
 第十六條 鋼甲板ノ厚十六分ノ六吋以下、鋼甲板ノ厚二十分ノ七吋以下ニシテ之ニ木甲板ヲ張ラサル場合ニ於テハ第四號甲表ニ掲ケル梁上側板ノ厚ニ取附クヘシ但鐵甲板ノ厚十六分ノ六吋ヲ超ス鋼甲板ノ厚二十分ノ七吋ヲ超スルトキニ於テモ之ニ木甲板ヲ張ラサル場合ニ於テハ半梁ハ肋骨毎ニ之ヲ取附クヘシ
 第十七條 艙口、汽機室又ハ汽鐘室等ノ部分ニ於テ本章ノ規定ニ依リ梁ヲ配置スルコト能ハサルトキハ特設肋梁若ハ特設肋骨ヲ以テ該部ヲ補強スヘシ
 第十八條 機艙室内ニハ各層梁ノ位置ニ成ルヘク多クノ特設肋梁ヲ設クヘシ
 第十九條 選信大臣ノ認可ヲ受ケルトキハ特種三層重甲板船、特種輕甲板船ニ於テハ第二層梁ヲ肋骨一本置ニ取附ク代リニ適當ノ特設肋梁、特設肋骨又ハ取附肋骨ヲ用ルコトヲ得
 第二十條 艙内縱通材ノ配置
 第一條 艙内縱通材ノ配置ハ船ノ中央ニ於テ龍骨ノ上面ヨリ上甲板梁ノ上面迄ノ深サ以テ之ヲ定ムヘシ但第二甲板梁ノ上面迄ノ深サ未滿ノ覆甲板船ニ於テハ第二甲板梁ノ上面迄ノ深サ以テ之ヲ定ムヘシ
 第二條 深三呎未滿ノ船舶ニ於テハ彎曲部内龍骨ト甲板梁トノ大約中央ニ船ノ首尾ヲ通シテ第三號表ニ掲ケル山形材ニ枚合セテ縱通材ヲ設クヘシ
 第三條 深十三呎以上十四呎未滿ノ船舶ニ於テハ中央部ニ於テ船ノ長ノ五分ノ三間ハ前條ニ掲ケル山形材ノ中間ニ肋骨一本置ニ取附クヘキ梁柱一列ヲ有スル甲板梁ニ用ウヘキモノト寸法ノ球板ヲ挿入スヘシ又球板ノ代リニ球板ヲ挿入シ山形材ヲ以テ之ヲ外板ニ固著スルモ妨ナシ
 第四條 深十四呎以上十五呎未滿ノ船舶ニ於テハ前條ニ掲ケル球板ノ代リニ幅十二吋厚二十分ノ七吋ノ板ヲ挿入シテ之ヲ外板ニ固著シ且該板内縁ノ兩面ニハ船ノ首尾ヲ通シテ第三號表ニ掲ケル内龍骨山形材ト同寸法ノ山形材、固著スヘシ
 第五條 深十五呎未滿ノ船舶ニシテ第二號表ニ二百以上ナルトキハ本章第二條ニ規定シタル縱通材ノ外彎曲部ニ第三號表ニ掲ケル山形材ニ枚合セテ縱通材ヲ設クヘシ
 第六條 深十五呎以上ノ船舶ニ於テハ彎曲部内龍骨ト最下層梁トノ大約中央ニ船ノ首尾ヲ通シテ第三號表ニ掲ケル山形材ニ枚合セテ縱通材ヲ設クヘシ
 第七條 深二十三呎以上二十四呎未滿若ハ第二層梁ノ上面迄ノ深十六呎以上十七呎未滿ノ船舶ニ於テハ前條ニ掲ケル各層縱通材ノ山形材間ニ肋骨一本置ニ取附クヘキ梁柱一列ヲ有スル第二甲板梁ニ用ウヘキモノト寸法ノ球板ヲ船ノ首尾ヲ通シテ挿入スヘシ
 第八條 深二十四呎以上二十六呎未滿若ハ第二層梁ノ上面迄ノ深十七呎以上十八呎未滿ノ船舶ニ於テハ前條ニ掲ケル各層縱通材ノ山形材間ニ肋骨一本置ニ取附クヘキ梁柱一列ヲ有スル第二甲板梁ニ用ウヘキモノト寸法ノ球板ヲ船ノ首尾ヲ通シテ挿入スヘシ

第九條 深二十六呎以上二十七呎未滿若ハ第二層梁ノ上面迄ノ深十八呎以上十九呎未滿ノ船舶ニ於テハ前條ニ掲ケル上部ノ縱通材ニハ船ノ首尾ヲ通シテ又下部ノモノハ船尾ニ於テ船ノ長ノ四分ノ一間ヲ除キ第三號表ニ掲ケル切板ヲ挿入シテ之ヲ外板ニ固著スヘシ
 第十條 深二十七呎以上二十八呎未滿若ハ第二層梁ノ上面迄ノ深十九呎以上二十呎未滿ノ船舶ニ於テハ前條ニ規定シタル上部縱通材ノ代リニ第五號表ニ掲ケル山形材ヲ以テ外板及ヒ副肋板ニ固著シ肋骨一本置ニ取附クヘキ梁柱一列ヲ有スル第二甲板梁ニ用ウヘキモノト寸法ノ球板ヲ挿入スヘシ
 第十一條 深二十二呎以上二十三呎未滿ノ汽船ニ於テハ彎曲部内龍骨ト第二層梁トノ間ニ船ノ首尾ヲ通シテ第三號表ニ掲ケル山形材ニ枚合セテ縱通材ニ枚設クヘシ
 第十二條 深二十三呎以上二十四呎未滿ノ汽船ニ於テハ前條ニ規定シタル各層縱通材ノ山形材間ニ船ノ首尾ヲ通シテ肋骨一本置ニ取附クヘキ梁柱一列ヲ有スル第二甲板梁ニ用ウヘキモノト寸法ノ球板ヲ挿入スヘシ
 第十三條 深三十呎以上三十二呎未滿若ハ第二層梁ノ上面迄ノ深二十二呎以上二十四呎未滿ノ汽船ニ於テハ彎曲部内龍骨ト第三層梁トノ間ニ船ノ首尾ヲ通シテ第三號表ニ掲ケル山形材ニ枚合セテ縱通材ニ枚設クヘシ且其ノ上部縱通材ノ山形材間ニ船ノ首尾ヲ通シテ肋骨一本置ニ取附クヘキ梁柱一列ヲ有スル第二甲板梁ニ用ウヘキモノト寸法ノ球板ヲ挿入スヘシ
 第十四條 同寸法ノ球板ヲ挿入スヘシ
 第十五條 深三十二呎以上三十四呎未滿若ハ第三層梁ノ上面迄ノ深三十呎以上三十二呎未滿ノ船舶ニ於テハ前條ニ規定シタル上部縱通材ノ代リニ第三號表ニ掲ケル山形材ヲ以テ外板及ヒ副肋板ニ固著シ肋骨一本置ニ取附クヘキ梁柱一列ヲ有スル第二甲板梁ニ用ウヘキモノト寸法ノ球板ヲ挿入スヘシ
 第十六條 同寸法ノ球板ヲ挿入スヘシ
 第十七條 同寸法ノ球板ヲ挿入スヘシ
 第十八條 同寸法ノ球板ヲ挿入スヘシ
 第十九條 同寸法ノ球板ヲ挿入スヘシ
 第二十條 同寸法ノ球板ヲ挿入スヘシ
 第二十一條 同寸法ノ球板ヲ挿入スヘシ
 第二十二條 同寸法ノ球板ヲ挿入スヘシ
 第二十三條 同寸法ノ球板ヲ挿入スヘシ
 第二十四條 同寸法ノ球板ヲ挿入スヘシ
 第二十五條 同寸法ノ球板ヲ挿入スヘシ
 第二十六條 同寸法ノ球板ヲ挿入スヘシ
 第二十七條 同寸法ノ球板ヲ挿入スヘシ
 第二十八條 同寸法ノ球板ヲ挿入スヘシ
 第二十九條 同寸法ノ球板ヲ挿入スヘシ
 第三十條 同寸法ノ球板ヲ挿入スヘシ
 第三十一條 同寸法ノ球板ヲ挿入スヘシ
 第三十二條 同寸法ノ球板ヲ挿入スヘシ
 第三十三條 同寸法ノ球板ヲ挿入スヘシ
 第三十四條 同寸法ノ球板ヲ挿入スヘシ
 第三十五條 同寸法ノ球板ヲ挿入スヘシ
 第三十六條 同寸法ノ球板ヲ挿入スヘシ
 第三十七條 同寸法ノ球板ヲ挿入スヘシ
 第三十八條 同寸法ノ球板ヲ挿入スヘシ
 第三十九條 同寸法ノ球板ヲ挿入スヘシ
 第四十條 同寸法ノ球板ヲ挿入スヘシ
 第四十一條 同寸法ノ球板ヲ挿入スヘシ
 第四十二條 同寸法ノ球板ヲ挿入スヘシ
 第四十三條 同寸法ノ球板ヲ挿入スヘシ
 第四十四條 同寸法ノ球板ヲ挿入スヘシ
 第四十五條 同寸法ノ球板ヲ挿入スヘシ
 第四十六條 同寸法ノ球板ヲ挿入スヘシ
 第四十七條 同寸法ノ球板ヲ挿入スヘシ
 第四十八條 同寸法ノ球板ヲ挿入スヘシ
 第四十九條 同寸法ノ球板ヲ挿入スヘシ
 第五十條 同寸法ノ球板ヲ挿入スヘシ
 第五十一條 同寸法ノ球板ヲ挿入スヘシ
 第五十二條 同寸法ノ球板ヲ挿入スヘシ
 第五十三條 同寸法ノ球板ヲ挿入スヘシ
 第五十四條 同寸法ノ球板ヲ挿入スヘシ
 第五十五條 同寸法ノ球板ヲ挿入スヘシ
 第五十六條 同寸法ノ球板ヲ挿入スヘシ
 第五十七條 同寸法ノ球板ヲ挿入スヘシ
 第五十八條 同寸法ノ球板ヲ挿入スヘシ
 第五十九條 同寸法ノ球板ヲ挿入スヘシ
 第六十條 同寸法ノ球板ヲ挿入スヘシ
 第六十一條 同寸法ノ球板ヲ挿入スヘシ
 第六十二條 同寸法ノ球板ヲ挿入スヘシ
 第六十三條 同寸法ノ球板ヲ挿入スヘシ
 第六十四條 同寸法ノ球板ヲ挿入スヘシ
 第六十五條 同寸法ノ球板ヲ挿入スヘシ
 第六十六條 同寸法ノ球板ヲ挿入スヘシ
 第六十七條 同寸法ノ球板ヲ挿入スヘシ
 第六十八條 同寸法ノ球板ヲ挿入スヘシ
 第六十九條 同寸法ノ球板ヲ挿入スヘシ
 第七十條 同寸法ノ球板ヲ挿入スヘシ
 第七十一條 同寸法ノ球板ヲ挿入スヘシ
 第七十二條 同寸法ノ球板ヲ挿入スヘシ
 第七十三條 同寸法ノ球板ヲ挿入スヘシ
 第七十四條 同寸法ノ球板ヲ挿入スヘシ
 第七十五條 同寸法ノ球板ヲ挿入スヘシ
 第七十六條 同寸法ノ球板ヲ挿入スヘシ
 第七十七條 同寸法ノ球板ヲ挿入スヘシ
 第七十八條 同寸法ノ球板ヲ挿入スヘシ
 第七十九條 同寸法ノ球板ヲ挿入スヘシ
 第八十條 同寸法ノ球板ヲ挿入スヘシ
 第八十一條 同寸法ノ球板ヲ挿入スヘシ
 第八十二條 同寸法ノ球板ヲ挿入スヘシ
 第八十三條 同寸法ノ球板ヲ挿入スヘシ
 第八十四條 同寸法ノ球板ヲ挿入スヘシ
 第八十五條 同寸法ノ球板ヲ挿入スヘシ
 第八十六條 同寸法ノ球板ヲ挿入スヘシ
 第八十七條 同寸法ノ球板ヲ挿入スヘシ
 第八十八條 同寸法ノ球板ヲ挿入スヘシ
 第八十九條 同寸法ノ球板ヲ挿入スヘシ
 第九十條 同寸法ノ球板ヲ挿入スヘシ
 第九十一條 同寸法ノ球板ヲ挿入スヘシ
 第九十二條 同寸法ノ球板ヲ挿入スヘシ
 第九十三條 同寸法ノ球板ヲ挿入スヘシ
 第九十四條 同寸法ノ球板ヲ挿入スヘシ
 第九十五條 同寸法ノ球板ヲ挿入スヘシ
 第九十六條 同寸法ノ球板ヲ挿入スヘシ
 第九十七條 同寸法ノ球板ヲ挿入スヘシ
 第九十八條 同寸法ノ球板ヲ挿入スヘシ
 第九十九條 同寸法ノ球板ヲ挿入スヘシ
 第一百條 同寸法ノ球板ヲ挿入スヘシ

ムヘシ又二層重甲板船ニ於テ特設肋骨ヲ重甲板
 板ノ梁上側板迄ト最上ノ特設肋骨間側板迄トニ
 造セシムヘシ

第八條 深十五呎以上十六呎未満ノ船舶ニ於テ
 ハ幅十四呎又深十六呎以上十七呎未満ノ船舶ニ
 於テハ幅十五呎ノ特設肋骨ヲ肋骨八本毎ニ設ケ
 且其ノ間ニ於テ特設肋骨間側板ノ上部ニ特設肋
 骨間側板一條ヲ取附ケ山形材及ヒ鱗形板ヲ以テ
 之ヲ特設肋骨ニ取附ケスヘシ

第九條 深十七呎以上十八呎未満ノ船舶ニ於テハ
 幅十五呎ノ特設肋骨ヲ肋骨八本毎ニ設ケ特設肋
 骨間側板二條ヲ取附ケヘシ但此ノ場合ニ於テハ
 鱗形板間側板ヲ取附ケサルモ妨ナシ

第十條 深十八呎以上二十呎未満ノ船舶ニ於テハ
 幅十五呎ノ特設肋骨ヲ肋骨六本毎ニ設ケ特
 設肋骨間側板二條ヲ取附ケヘシ

第十一條 深二十一呎以上二十二呎未満ノ船舶
 船ニ於テハ幅十五呎ノ特設肋骨ヲ肋骨六本毎ニ
 設ケ特設肋骨間側板三條ヲ取附ケヘシ但二重底
 ナ備フル船舶ニ於テハ幅十八呎ノ特設肋骨ヲ用
 ルトキハ特設肋骨間側板二條ニ減スルコトヲ
 得此ノ場合ニ於テハ二重底板ノ外部ニ附スル

肋骨ノ總テ轉曲部ニ於テ船ノ中央ニ用ウヘキ肋
 板ノ深ノ三倍ノ高迄造セシムルヲ要ス

第十三條 深二十三呎以上二十四呎未満ノ船舶
 船ニ於テハ幅十六呎ノ特設肋骨ヲ肋骨六本毎ニ
 設ケ特設肋骨間側板三條ヲ取附ケヘシ

第十四條 龍骨ノ上面ヨリ低船尾樓甲板梁ノ上面
 迄ノ深二十四呎以上二十六呎未満ノ船舶ノ低船
 尾樓ノ部分ニ於テ特設肋骨及ヒ特設肋骨間側板
 ナ第二層梁ノ第三層梁及ヒ龍骨材ニ代用スルコ
 トキハ幅十六呎ノ特設肋骨ヲ肋骨五本毎ニ設ケ特
 設肋骨間側板三條ヲ取附ケ板ノ兩面上下ニ山形
 材ヲ附シタル特設肋骨四本ヲ特設肋骨間側板ニ
 取付ケ一層及ヒ特設肋骨ニ取付ケ且汽機室後端ノ
 隔壁ト船尾隔壁トノ大約中央ニ支柱隔壁ヲ増設
 スヘシ

第十五條 低船尾樓甲板梁ノ上面迄ノ深二十六呎
 以上二十八呎未満ノ船舶ノ低船尾樓ノ部分ニ於

テ特設肋骨及ヒ特設肋骨間側板ヲ第二層梁ノ第
 三層梁及ヒ龍骨材ニ代用スルコトキハ幅十八呎ノ
 特設肋骨ヲ肋骨四本毎ニ設ケ特設肋骨間側板三
 條ヲ取附ケ且前條ノ規定ニ依リ特設肋骨及ヒ増
 設支柱隔壁ヲ取附ケヘシ但深二十七呎以上ナル
 トキハ特設肋骨間側板ハ四條ト爲スヘシ

第十六條 汽機室及ヒ汽機室ニ於テ第二層一萬六
 千以上三萬未満ノ船舶ニ於テハ肋骨ノ心距ノ五
 倍以内ノ距離ニ又第二層三萬以上ナルトキハ肋
 骨ノ心距ノ四倍以内ノ距離ニ於テ前條ノ規定
 シタル特設肋骨及ヒ増設支柱隔壁ノ下部ハ肋骨
 座ノ總板ニ取附ケ上部ハ重甲板若ハ輕甲板ノ梁
 上側板迄造セシムヘシ

第十七條 特設肋骨ヲ梁ノ位置ニ設ケサルトキハ
 梁上側板ノ上下ニ於テハ山形材及ヒ肋骨ヲ以テ
 之ヲ取付ケスヘシ

第十八條 特設肋骨ニ龍骨材ヲ貫通スルコトキハ其
 ノ部分ニ適當ノ補強構造ヲ加フヘシ

第十九條 特設肋骨及ヒ肋骨ノ接合スルニハ黒漆
 又ハ折接ト爲シ三列釘ヲ用フヘシ但第一層一
 四十一未滿ノ第二層船ニ於テハ之ヲ二列釘ヲ用
 ト爲スコトヲ得

第二十章 深式肋骨

第一條 汽船ニ於テ深式肋骨ヲ以テ龍骨一層ニ代
 用スルコトキハ該肋骨ノ深ノ第一層梁ニ減スルヘシ
 但二重底ヲ備ヘタル船舶ニ於テハ該梁ニ減スル
 幅ヨリ二分ノ一吋増加スヘシ

第二條 船ニ於テ前項ニ掲ケタル深式肋骨ノ深六
 吋以上ナルトキハ其ノ深ニ二分ノ一吋減スルコ
 トヲ得

第二條 深式肋骨ニ於テ深式肋骨ヲ用ウルト
 キハ該板ノ外部ニ取附ケル肋骨ノ中央ニ於

ケル普通肋骨ノ深ノ二・五倍ヨリ少カラサル高
 迄彎曲上部ニ造セシムヘシ

第二條 深式肋骨ノ正肋材及ヒ副肋材ノ厚竝ニ縱
 邊ノ幅ノ第一層梁ニ掲ケル普通正肋材ノ厚竝ニ
 縱邊ノ幅ヨリ少カルヘカラス

第三條 深式肋骨ノ正肋材及ヒ副肋材ハ黒漆ヲ一列釘
 ナ以テ取付ケスヘシ其ノ黒漆ノ幅ノ固着釘ノ徑
 八分ノ五吋ナルトキハ二吋半、徑四分ノ三吋ナ
 ルトキハ三吋、徑八分ノ七吋ナルトキハ三吋半
 ト爲スヘシ

第四條 深式肋骨ノ副肋材ハ二層重甲板船ニ於テ
 ハ重甲板梁上側板迄造セシム其ノ他ノ船舶ニ於
 テハ第七章ニ規定スル高迄造セシムヘシ

第五條 深式肋骨ノ副肋材ノ造スル高迄造セサ
 ルトキハ該部ニ於ケル正肋材ノ横邊ノ幅ノ第一
 層梁ニ掲ケル正肋材ノ横邊ノ幅ヨリ少カルヘカ
 ラス

第六條 深式肋骨ノ正肋材及ヒ副肋材ノ代リニ溝
 形材又ハ乙字形材ヲ用ウルトキハ其ノ厚ノ第一
 層梁ニ掲ケル正肋材ノ厚ニ十分ノ一吋ヲ加ヘ
 又球山形材ヲ用ウルトキハ其ノ厚ノ十分ノ二
 吋ヲ加ヘタルモノヲ用フ深式肋骨ノ深ノ本第
 一層ノ規定ニ依ルヘシ

第七條 深式肋骨ヲ機關室ニ用ウル船舶ニ於テハ
 機關室ニ特設肋骨ヲ肋骨十本毎ニ設ケヘシ

第八條 龍骨ノ上面ヨリ肋骨一本置ニ設ケル最下
 層梁ノ上面迄ノ深十七呎以上二十一呎未満ナル
 トキハ龍骨材ニ減スルコトヲ得

第九條 龍骨材ニ減スルコトヲ得

第十條 龍骨材ニ減スルコトヲ得

第十一條 龍骨材ニ減スルコトヲ得

第十二條 龍骨材ニ減スルコトヲ得

第十三條 龍骨材ニ減スルコトヲ得

第十四條 龍骨材ニ減スルコトヲ得

第十五條 龍骨材ニ減スルコトヲ得

第十六條 龍骨材ニ減スルコトヲ得

第十七條 龍骨材ニ減スルコトヲ得

第十八條 龍骨材ニ減スルコトヲ得

第十九條 龍骨材ニ減スルコトヲ得

第二十條 龍骨材ニ減スルコトヲ得

前項ノ斷切板及ヒ山形材ノ厚ハ正肋材ノ厚ニ等
 クシ又外板ト斷切板トノ固着山形材ノ寸法ハ外
 板トノ固着釘ノ徑四分ノ三吋ナルトキハ幅三
 吋ニ三吋、徑八分ノ七吋ナルトキハ幅三吋半ニ
 三吋半ト爲スヘシ

第二條 山形材ノ肋骨毎ニ少クモ二箇ノ釘ヲ
 以テ副肋材ニ固着シ隔壁ニ於テハ之ヲ止メ船側
 ニ於テ肋骨ノ心距ノ二倍隔壁ニ於テ肋骨ノ心距
 ニ等キ柱幅ヲ有シ厚ハ斷切板ノ厚ニ十分ノ一
 吋ヲ加ヘタル厚板及ヒ山形材ヲ以テ隔壁ニ固
 着スヘシ

第三條 三層重甲板船及ヒ三層輕甲板船ニ於テハ
 其ノ上甲板梁ト第二甲板梁トノ間ノ高七呎以上
 八呎未満ノ船舶ニアラサレハ本章ノ規定ヲ適用
 セス

第四條 低船尾樓甲板下ニ深式肋骨ヲ用ウルトキ
 ハ該肋骨ノ幅ノ正肋材ノ副肋材及ヒ龍骨材ノ寸法
 ハ第一層梁ニ掲ケル龍骨材ノ高ヲ加ヘタル第一層
 梁及ヒ第三層甲板ノ第一層梁ニ充テ又龍骨材ノ數
 ハ龍骨ノ上面ヨリ低船尾樓甲板梁ノ上面ニ至ル
 深ニ據リ之ヲ定ムヘシ

第五條 低船尾樓ノ部分ニ設ケヘキ特設肋骨及ヒ増設支
 柱隔壁ハ第十四章第十四條及ヒ第十五條ニ依ル
 ヘシ

第十六章 梁柱

第一條 梁柱ハ第一層甲板ニ據リ其ノ寸法ヲ定ム
 ヘシ

第二條 各梁ニ取附ケル梁柱ノ數ハ第四條表及ヒ第十一
 章第四條ノ規定ニ依リ且船ノ中央ニ於ケル梁ノ
 長四十三呎ヲ超スルコトキハ二列以上、五十五呎
 ナラズニ列トキハ三列以上ナルヲ要ス

第三條 上層梁ニ梁柱ノ設ケ要スルコトキハ其ノ下層ノ梁

ニモ亦之ヲ設ケヘシ

第一條 肋骨毎ニ梁柱ヲ取附ケタルトキハ梁ノ下部ニ第一
 層梁ニ掲ケル副肋材ト同寸法ノ二枚合セ山形材
 若ハ之ト同一ノ數力ヲ有スル山形材ト丁字形
 材又ハ溝形材ヲ用フ山形材ヲ以テ梁柱ニ固着シ
 テ梁一本置ニ梁柱ヲ取附ケヘシ但梁柱ノ固着材
 ハ龍口梁其ノ他深キ梁及ヒ隔壁ニ於テ之ヲ止メ
 山形材ヲ以テ固着スヘシ

第二條 梁柱ノ長十呎以上十八呎未満ナルトキハ
 ハ梁柱ノ徑二吋八分ノ五以上四吋未滿ナルトキ
 ハ徑八分ノ七吋ノ釘二箇、長十八呎以上二十
 四呎未滿ナルトキハ徑四吋以上ナルトキハ徑
 一吋ノ釘三箇又長二十四呎以上ナルトキハ徑
 一吋ノ釘三箇ヲ以テ其ノ兩端ヲ固着スヘシ

第三條 二重底上ニ於ケル梁柱ト下層ノ内板ニ固着セ
 ル短キ山形材又ハ丁字形材ニ固着スヘシ

第四條 梁柱ニ列又ハ三列ヲ取附ケヘキ寸法ノ梁
 柱用ウルトキハ甲板開口ノ各個ノ梁柱ハ他ノ部
 分ニ於ケル梁柱ニ等ク之ヲ設ケヘシ

第五條 肋骨ノ心距ノ二倍ヲ超スル心距ヲ有スル
 梁柱ニ取附ケル梁柱ノ寸法ハ其ノ上層ノ甲板梁
 ニ取附ケヘキ同長ノ梁柱ト同一ト爲スコトヲ
 得

第六條 上甲板ト第二甲板トノ間ヲ旅客室ニ專用
 スルトキハ第二甲板ト船底トノ間ニ設ケル梁柱
 ノ徑ハ第一層甲板三層梁ノ間ヨリ四分ノ一吋
 減シ、第二甲板ト第三甲板トノ間トキハ亦旅客室
 ニ專用スルコトキハ第三甲板ト船底トノ間ニ設ケ
 ル梁柱ノ徑ハ同表ニ掲ケルモノヨリ二分ノ一吋
 減スルコトヲ得

第七條 梁柱ニ列ヲ取附ケヘキ寸法ノ梁柱ト肋骨
 ニ設ケルトキハ龍口ノ兩側ニ於ケル梁柱ノ距離

ハ肋骨ノ心距ノ四倍ト爲スコトナ得但此ノ場合ニ於テハ梁柱ノ徑ヲ二分ノ一時増加シ且船口ノ兩端ヨリ前後各肋骨ノ心距ニ相當スル所迄船口ノ兩側ニ斷切板ヲ側梁柱ノ頭部ニ於ケル縦通材ニ取附ケ鐵甲板若ハ鋼甲板ニ山形材ヲ以テ固著スルヲ要ス

第七條 肋骨毎ニ梁柱取附ケル場合ニ於テ肋骨一本置ニ中心線梁柱ヲ設ケ且肋骨四本毎ニ側梁柱ヲ設ケルトキハ梁柱ニ列ヲ完全ニ設ケタルモノト同一效力ヲ有スルモノト看做ス但斷切板ヲ側梁柱ノ頭部ニ於ケル縦通材ニ取附ケ鐵甲板若ハ鋼甲板ニ山形材ヲ以テ固著シ且船口ノ兩側ニ於ケル梁柱ノ徑ヲ二分ノ一時増加スルヲ要ス

第八條 水筒内ニ於テハ縦通隔壁ノ各側ニ側梁柱ヲ肋骨一本置ニ設ケ其ノ頭部ニ於ケル縦通材ニ斷切板ヲ取附ケヘシ

第九條 中心線梁柱ノミナ有スル船舶ノ船口線材ニハ肋骨ノ心距ノ四倍ヲ超セザル距離ニ梁柱ヲ取附ケ且長肋骨ノ心距ノ三倍以上ノ船口ニハ其ノ四割ニ梁柱ヲ取附ケヘシ又甲板室ノ船口線材ノ船機、揚貨機等ヲ支フル梁柱其ノ必要ノ箇所ニハ特ニ梁柱ヲ取附ケヘシ

第十條 仕切板ヲ取附ケル爲メニ梁柱ヲ二重ニ設ケルトキハ其ノ徑ハ第一號丙表ニ掲ケルモノノ四分ノ三ト爲スコトナ得

第十一條 車軸隧道ニ梁柱ヲ取附ケルトキハ隧道頂板ニ適當ノ補強構造ヲ爲スヘシ

第十二條 機室室内ノ梁ニハ成ルヘク梁柱ヲ取附ケヘシ但眞直ナル石炭庫隔壁又ハ圍壁ヲ以テ梁ヲ支ヘ且該隔壁又ハ圍壁ニ充分ノ防撓材ヲ設ケルトキハ機室室内ノ側梁柱ハ之ヲ省略スルコトヲ得

第十三條 適當ノ構造ヲ有スル縦通隔壁ヲ設ケルトキハ梁柱ヲ省略スルコトヲ得

第十四條 船機甲板又ハ覆甲板ノ上ニ尚二層以上ノ船機甲板ヲ有スルトキハ該部ノ下部ニ於ケル梁柱ハ適當ニ其ノ徑ヲ増スカ若ハ適當ノ構造ト爲スヘシ

第十七章 特設梁柱及ヒ特設梁柱下縱通材

第一條 特設梁柱及ヒ特設梁柱下縱通材ヲ以テ普通ノ梁柱及ヒ梁柱下縱通材ニ代用スルトキハ特設梁柱及ヒ特設梁柱下縱通材ノ構造寸法ハ本章ノ規定ニ依ルヘシ

第二條 特設梁柱ノ寸法ハ左ノ算式ニ依リ得タル數ト梁柱ノ長トニ依リ第一號乙表ニ掲ギ之ヲ定ムヘシ

$$N = S \times B \times H$$

100

Nハ特設梁柱ノ構造寸法ヲ定ムル數
Sハ梁柱間ノ中心ヨリ次ノ梁柱間ノ中心ニ至ル船ノ首尾ニ沿ヒテ測リタル距離(呎ニテ)
Bハ梁柱一列ヲ設ケルトキハ梁柱ノ頭部ニ於ケル甲板ノ幅ノ三分ノ一、梁柱ニ列ヲ設ケルトキハ甲板ノ幅ノ三分ノ一、又梁柱三列ヲ設ケルトキハ甲板ノ幅ノ四分ノ一(呎ニテ)
Hハ最上甲板梁柱ノ上面ヨリ梁柱下附スル梁柱ノ上面迄ノ甲板間ノ高ノ和ニ船機ナキ部分ノ最上甲板ニ在リテハ六呎ヲ加ヘタルモノ、又覆甲板、遮蓋甲板、船首樓、船橋樓及ヒ船尾樓ニ在リテハ五呎ヲ加ヘタルモノ

第三條 梁柱ヲ構成スル山形材又ハ溝形材ヲ互ニ固著スル釘ノ心距ハ釘徑ノ七倍ヲ超ユヘカフ

又山形材ノ邊ノ幅五吋以上ナルトキハ二列釘ト爲シ固著ト爲スヘシ圓錐形ノ梁柱ノ縱壁ニ於ケル釘ノ心距ハ釘徑ノ五倍ヲ超ユヘカラス

第四條 梁柱蓋ヲ設ケスレバ特設梁柱ヲ取附ケルトキハ之ヲ肋板ト側桁板又ハ内龍骨板トノ交又點ニ設ケルカ若ハ梁柱直下ノ肋板ノ兩側ニ肋板ヲ設ケヘシ

第五條 梁柱ノ頭部又ハ頭部ハ梁柱ノ形狀ニ從ヒ適當ノ山形材及ヒ肋板若ハ平盤板ヲ以テ堅牢ニ固著スヘシ

第六條 特設梁柱ヲ設ケルトキハ特設梁柱下縱通材ヲ設ケヘシ

特設梁柱下縱通材ノ寸法ハ左ノ算式ニ依リ得タル數ト梁柱ノ長トニ依リ第一號丙表ニ掲ギ之ヲ定ムヘシ

$$N = S \times B \times H$$

100

Nハ特設梁柱下縱通材ノ構造寸法ヲ定ムル數
Sハ梁柱ノ中心ヨリ中心迄船ノ首尾ニ沿ヒテ測リタル距離(呎ニテ)
Bハ梁柱一列ヲ設ケルトキハ梁柱ノ頭部ニ於ケル甲板ノ幅ノ三分ノ一、梁柱ニ列ヲ設ケルトキハ甲板ノ幅ノ三分ノ一、又梁柱三列ヲ設ケルトキハ甲板ノ幅ノ四分ノ一(呎ニテ)
Hハ梁柱下縱通材ノ直線ニ附スル梁柱ノ上面ヨリ其ノ上ノ梁柱ノ上面迄ノ高但船機ナキ部分ノ最上甲板ニ於ケルHハ六呎又覆甲板、遮蓋甲板、船首樓、船橋樓及ヒ船尾樓ニ於ケルHハ五呎ト爲スヘシ

梁柱ヲ堅ニ一直線ニ附セザルトキハHハ特設梁柱下縱通材ヲ附スル梁柱ノ上面ヨリ最上甲板梁柱

ノ上面迄ノ甲板間ノ高ノ和ニ船機ナキ部分ノ最上甲板ニ在リテハ六呎ヲ加ヘタルモノ、又覆甲板、遮蓋甲板、船首樓、船橋樓及ヒ船尾樓ニ在リテハ五呎ヲ加ヘタルモノト爲スヘシ

旅客室ニ專用スル甲板間ノ高ハ六呎ト看做ス

第七條 特設梁柱下縱通材ノ二重ノ溝形材、斷切板及ヒ冠板ヲ以テ構成シ其ノ寸法ハ第一號丙表ニ掲ケルヘシ

第八條 前條ノ溝形材及ヒ斷切板ハ成ルヘク長材ヲ用ヒ其ノ接合ハ銜接ト爲シ覆板ヲ附スルカ若ハ之ヲ異接ト爲シ堅牢ニ固著スヘシ

第九條 特設梁柱下縱通材ノ溝形材ハ溝形材ナルトキハ其ノ下邊ニ、山形材又ハ球山形材ナル時ハ梁柱ニ附スル短山形材ニ二箇ノ釘ヲ以テ固著シ且幅ハ特設梁柱下縱通材ノ溝形材ノ深ノ三倍ニ等ク厚ハ溝形材ニ等キ肋板ヲ以テ隔壁ニ固著スヘシ

第十條 特設梁柱下縱通材ノ斷切板ハ鋼甲板ニ取附ケル山形材ノ厚ハ斷切板ニ等クシ又山形材ノ幅ハ之ヲ固著スヘキ釘ノ徑八分ノ三時ナルトキハ幅三時三十分、釘ノ徑八分ノ七時ナルトキハ幅三時五分ト爲スヘシ

第十一條 特設梁柱下縱通材ノ溝形材ハ二列釘ト爲シ形ヲ以テ固著シ釘ノ心距ハ釘徑ノ七倍又斷切山形材ノ兩邊ニ於テハ釘徑ノ五倍ヲ超ユヘカラス

第十八章 梁上側板

第一條 總テ梁上ニハ梁上側板ヲ設ケヘシ其ノ寸法ハ第五號表ニ據リ中央部ニテ船ノ長ノ二分ノ一、前部ニテハ二分ノ一分、後部ニテハ二分ノ一分ト爲スヘシ其ノ厚ヲ減シ船ノ首尾ニ至リ兩端寸法ニ適合セシムヘシ

第五號表ニ掲ケル主要梁上側板ノ寸法ハ一層及

ヒ二層重甲板船ノ重甲板梁、三層重甲板船ノ重甲板梁及ヒ第二甲板梁、輕甲板船及ヒ重甲板船ノ第二甲板梁ニ附スヘキモノノ寸法トス但三層重甲板船ニ於テハ船ノ長ト輕甲板梁及ヒ第二甲板梁間ノ高ノ三分ノ一ノ所迄ノ深ト割合ナシ又二層重甲板船ニ於テハ船ノ長ト輕甲板梁及ヒ第二甲板梁間ノ高ノ三分ノ二ノ所迄ノ深ト割合ナシ又中ノ長ト深ト割合ニ充ツヘシ又二層重甲板船ノ第二層梁ノ梁上側板ニハ同表ニ掲ケル第三甲板ノ梁上側板ノ寸法ヲ用ウヘシ

第三號表ニ掲ケル輕甲板ノ梁上側板ノ厚ハ第五號表ニ掲ケル三層重甲板ノ梁上側板ノ厚ハ其ノ四分之三ト爲スヘシ

第二條 輕甲板ノ梁上側板ノ幅ハ第五號表ノ最上層ニ掲ケル第二甲板ノ梁上側板ニ等クシヘシ但中央部ニ於テ船ノ長ノ二分ノ一、前部ニテハ二分ノ一分、後部ニテハ二分ノ一分ト爲スヘシ又其ノ兩端ニ於テハ船ノ長ノ二分ノ一分ト減シ又其ノ兩端ニ於テハ船ノ長ノ二分ノ一分ト減スルコトヲ得

第三條 輕甲板ノ梁上側板ノ寸法ハ第三十二章ノ規定ニ從ヒ第二號甲表ニ據ルヘシ

第四條 輕甲板ノ梁上側板ノ全長又ハ中央部ニ於テ船ノ長ノ二分ノ一、前部ニテハ二分ノ一分、後部ニテハ二分ノ一分ト爲スヘシ又其ノ兩端ニ於テハ船ノ長ノ二分ノ一分ト減シ又其ノ兩端ニ於テハ船ノ長ノ二分ノ一分ト減スルコトヲ得但此ノ規程ニ依リ二層以上ノ重甲板若ハ鋼甲板ヲ要スルモノニ於テハ之ヲ減スルコトヲ得ス

第五條 梁上側板ノ構造ハ第二十二章ニ規定スルモノヲ除クノ外ニ列釘固著ト爲スヘシ

梁上側板ノ外板及ヒ肋材ニ固著スヘキ山形材ノ寸法ハ第三號表ニ據ルヘシ但正肋材上甲板ヲ貫通セルトキハ該部ニ於ケル上甲板梁上側板ヲ

外板及ヒ肋材ニ固著スヘキ山形材ハ第二層梁上ニ要スルモノト寸法ト爲スコトナ得

第二號五萬四千以上ナルトキハ七層重甲板ノ梁上側板ノ下面ニ第三號表ニ掲ケル山形材ヲ取附ケ之ヲ外板ニ固著スヘシ

第二甲板ノ梁上側板ヲ肋材ニ固著スル際山形材ト外板トノ間ハ水密ト爲スヘシ

特設梁柱ヲ用ウルトキハ肋板ヲ以テ該梁柱ノ上面ト外板ト支水隔壁トヲ固著スヘシ

第六條 適當ノ比例ノ爲メ肋板厚及ヒ梁上側板ノ厚ヲ増ストキハ上甲板ノ梁上側板ヲ外板ニ固著スル山形材ノ適當ニ其ノ寸法ヲ増スヘシ

第十九章 梁上帶板

第一條 鐵甲板若ハ鋼甲板ヲ備フル甲板梁及ヒ特設梁柱ヲ除キ各層梁上ニハ船ノ首尾ヲ通シテ梁上帶板ヲ二條ツツ設ケヘシ其ノ寸法ハ第五號表ニ據リ中央部ニテ船ノ長ノ二分ノ一、前部ニテハ二分ノ一分、後部ニテハ二分ノ一分ト爲スヘシ又其ノ兩端ニ於テハ船ノ長ノ二分ノ一分ト減シ又其ノ兩端ニ於テハ船ノ長ノ二分ノ一分ト減スルコトヲ得但此ノ規程ニ依リ二層以上ノ重甲板若ハ鋼甲板ヲ要スルモノニ於テハ之ヲ減スルコトヲ得

第二條 梁上ニ甲板ヲ張ラズ又ハ帶板ヲ取附ケザルトキハ帶板ノ代リニ第三號表ニ掲ケル第三甲板ノ梁上側板ニ附スヘキ山形材ト寸法ノ山形材ニ條ヲ船ノ首尾ヲ通シテ中心線若ハ船口ノ兩側ノ位置ニ設ケヘシ

第三條 帆船ニハ帶板ヲ設ケズヘシ又其ノ甲板ニ帶板ノ近傍ニ於テ船ノ中央部ニ要スル梁上帶板ト寸法ノ斜帶板ヲ取附ケ之ヲ梁、縱通帶板及ヒ梁上側板ニ固著スヘシ但第二號一萬五千以上ノモノニ於テハ上甲板ノ斜帶板ハ船ノ首尾ヲ通シテ取附ケヘシ

第四條 梁上帶板ノ構造ハ二列釘固著ト爲スヘシ

十分ノ一吋ヲ増シタル厚ト爲シ二列釘固著ト爲ス

第三條 第二數八千ヲ超エ一萬三千以下ノ船舶ニ於テハ中央部ニテ船ノ長ノ二分ノ一間ニ於ケル舷側甲板、輕甲板舷側板、主要梁上側板及ヒ彎曲部外板ニ條ノ銜接ニ用ヰヘキ覆板ハ接合スヘキ板ノ厚ニ十分ノ二吋ヲ増シタル厚ト爲シ三列釘固著ト爲ス

第四條 第二數一萬三千ヲ超エ一萬六千以下ナルトキハ中央部ニテ船ノ長ノ二分ノ一間ニ於ケル舷側甲板、輕甲板舷側板、主要梁上側板及ヒ彎曲部外板ニ條ノ銜接ニ用ヰヘキ覆板ハ接合スヘキ板ノ厚ヨリ十分ノ二吋ヲ増シタル厚ト爲シ三列釘固著ト爲ス

第五條 第二數一萬六千ヲ超エ二萬以下ナルトキハ中央部ニテ船ノ長ノ二分ノ一間ニ於ケル舷側甲板、輕甲板舷側板、主要梁上側板及ヒ彎曲部外板ニ條ノ銜接ニ用ヰヘキ覆板ハ接合スヘキ板ノ厚ヨリ十分ノ二吋ヲ増シタル厚ト爲ス

第六條 第二數二萬ヲ超エ二萬四千以下ナルトキハ中央部ニテ船ノ長ノ二分ノ一間ニ於ケル外板ノ銜接、重甲板又ハ輕甲板及ヒ第二甲板ノ梁上側板ノ銜接ニ用ヰヘキ覆板ハ接合スヘキ板ノ厚ニ十分ノ三吋ヲ増シタル厚ト爲シ三列釘固著ト爲シ其ノ前後ニ於ケル覆板ハ接合スヘキ板ノ厚ニ十分ノ二吋ヲ増シタル厚ト爲ス

第七條 第二數二萬四千ヲ超エ二萬八千以下ナルトキハ中央部ニテ船ノ長ノ二分ノ一間ニ於ケル外板ノ銜接、重甲板又ハ輕甲板及ヒ第二甲板ノ梁上側板ノ銜接ニ用ヰヘキ覆板ハ接合スヘキ板ノ厚ニ十分ノ四吋ヲ増シタル厚ト爲シ三列釘固著ト爲シ其ノ前後ニ於ケル覆板ハ接合スヘキ板ノ厚ニ十分ノ三吋ヲ増シタル厚ト爲ス

第八條 第二數二萬八千ヲ超エ三萬以下ナルトキハ中央部ニテ船ノ長ノ二分ノ一間ニ於ケル外板ノ銜接、重甲板又ハ輕甲板ノ梁上側板ノ銜接ニ用ヰヘキ覆板ハ接合スヘキ板ノ厚ニ十分ノ四吋ヲ増シタル厚ト爲シ三列釘固著ト爲シ其ノ前後ニ於ケル覆板ハ接合スヘキ板ノ厚ニ十分ノ三吋ヲ増シタル厚ト爲ス

第九條 第二數三萬ヲ超エ三萬八千以下ナルトキハ中央部ニテ船ノ長ノ二分ノ一間ニ於ケル外板及ヒ第七條ノ規定ニ拘ハラズ重甲板又ハ輕甲板ノ梁上側板ノ銜接ニ用ヰヘキ覆板ハ接合スヘキ板ノ厚ニ十分ノ四吋ヲ増シタル厚ト爲シ三列釘固著ト爲シ其ノ前後ニ於ケル覆板ハ接合スヘキ板ノ厚ニ十分ノ三吋ヲ増シタル厚ト爲ス

第十條 第二數三萬八千ヲ超エ四萬以下ナルトキハ中央部ニテ船ノ長ノ二分ノ一間ニ於ケル外板及ヒ第七條ノ規定ニ拘ハラズ重甲板又ハ輕甲板ノ梁上側板ノ銜接ニ用ヰヘキ覆板ハ接合スヘキ板ノ厚ニ十分ノ五吋ヲ増シタル厚ト爲シ三列釘固著ト爲シ其ノ前後ニ於ケル覆板ハ接合スヘキ板ノ厚ニ十分ノ四吋ヲ増シタル厚ト爲ス

第十一條 三層重甲板船及ヒ三層輕甲板船ニ於テハ前條ノ規定ニ該當セザルトキト雖モ第二甲板ノ梁上側板ハ中央部ニテ船ノ長ノ二分ノ一間ニ於ケル外板ノ銜接ト爲ス

第十二條 外板ニ條ノ銜接ト爲ストキハ其ノ内外板トモ銜接ニハ覆板ヲ附シテ前條ノ規定ニ從ヒ二列釘又ハ三列釘ヲ以テ之ヲ固著シ且内外板トモ肋骨ニ固著スルノ外肋骨間ノ中央及ヒ縱線ニ於テ相互ニ固著ス

第十三條 平板肋骨ノ銜接ニ用ヰヘキ覆板ノ厚ハ彎曲部外板ノ覆板ノ厚ニ要スル割合ヲ以テ平板肋骨ノ厚ヨリ之ヲ増ス

第十四條 外板ノ銜接ニ用ヰヘキ重覆板ノ外部ニ附スル覆板ノ幅ハ一列釘少ナキ固著ニ要スル覆板ノ幅ト爲シ一列釘少ナキ固著ト爲スコトヲ得

第十五條 外層外板ト正肋材トノ間ニハ正肋材ノ縱邊ト同幅ノ覆板ヲ附スヘシ但支水隔壁ノ部分ニ於テハ其ノ前後ニ於ケル肋骨迄之ヲ延長セシムルカ又ハ疊甲形填板ヲ附スヘシ

前項ノ覆板及ヒ疊甲形填板ハ適當ノ構造ヲ爲ストキハ之ヲ爲サザルモ妨ナシ

第二十三章 釘

第一條 釘ノ徑ハ第七條及ヒ第二條ノ固著スヘキ板又ハ山形材ノ厚キモノト表ノ板ノ厚ニ充テ之ヲ定ムヘシ但正肋材ト外板ト固著スヘキ釘ノ徑ハ正肋材ノ縱邊ノ幅三吋ヲ超エザルトキハ八分ノ七吋又縱邊ノ幅三吋半ナルトキハ一吋ヲ超ユヘカラス

外板ト船首材、船尾材及ヒ龍骨ト固著スヘキ釘ノ徑ハ外板ノ厚ニ依リテ定ムル釘ノ徑ハ八分ノ五吋以下ナルトキハ八分ノ一吋ヲ、徑四分ノ三吋以上ナルトキハ四分ノ一吋ヲ増スヘシ但一吋四分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ス

第二條 左ニ掲ケル場合ノ他特ニ規定アル場合ヲ除クノ外二列以上ノ釘ヲ要スル接合ニ於テハ釘ノ配置ハ並列法ヲ用ヰヘシ

一 外板ト船首材、船尾材、龍骨及ヒ螺旋管ト固著スルトキ

二 肋板及ヒ特設肋板ヲ接合スルトキ

三 外板ノ縱線ニ三列釘ヲ用ヰルトキ

四 山形材ノ固著ニ二列釘ヲ用ヰルトキ

五 其ノ他適宜大臣ノ認可ヲ受ケタルトキ

第三條 總テ板ノ縱線ノ固著ニ於ケル釘列線ノ距離ハ銜接ニ在リテハ釘徑ノ三倍、累接ニ在リテハ釘徑ノ三・五倍ト爲ス

第四條 板ノ銜接ノ固著ニ三列釘又ハ四列釘ヲ用ヰル場合ニハ銜接ニ限リ終列ニ於ケル釘數ハ半數迄ニ減スルコトヲ得但鋼板ニ於テハ第二數二萬ヲ超ユルトキハ終列ニ於ケル釘ノ心距ハ釘徑ノ五・二五倍ヲ超ユルコトヲ得ス

第五條 釘ハ固著スヘキ板若ハ山形材等ノ縁ヲ距ルコト釘徑以上又外板ノ縱線ニ於ケル釘列線ノ距離ハ釘徑ノ二・五倍ト爲ス

第二十二章 第十四條ニ規定スル二重覆板ノ内部ニ附スル覆板ノ外列ニ於ケル釘ノ心距ハ釘徑ノ七倍ト爲スコトヲ得

第四條 釘ノ心距ハ左ノ規定ニ依ルヘシ

一 外板ノ縱線、重甲板、輕甲板又ハ三層甲板船ノ第二甲板ノ梁上側板ノ縱線及ヒ中央部ニ於テ船ノ長ノ三分ノ一ヲ超ユル長ヲ有スル船體甲板ノ梁上側板ノ縱線ハ四列釘累接

ノ二吋ヲ増シタル厚ト爲シ中央部ニテ船ノ長ノ四分ノ三間ハ三列釘固著ト爲ス

第八條 第二數二萬八千ヲ超ユルトキハ中央部ニテ船ノ長ノ四分ノ三間ニ於ケル外板ノ銜接、重甲板又ハ輕甲板及ヒ第二甲板ノ梁上側板ノ銜接ニ用ヰヘキ覆板ハ接合スヘキ板ノ厚ニ十分ノ四吋ヲ増シタル厚ト爲シ三列釘固著ト爲シ其ノ前後ニ於ケル覆板ハ接合スヘキ板ノ厚ニ十分ノ三吋ヲ増シタル厚ト爲ス

第九條 第二數三萬ヲ超エ三萬八千以下ナルトキハ中央部ニテ船ノ長ノ二分ノ一間ニ於ケル外板及ヒ第七條ノ規定ニ拘ハラズ重甲板又ハ輕甲板ノ梁上側板ノ銜接ニ用ヰヘキ覆板ハ接合スヘキ板ノ厚ニ十分ノ四吋ヲ増シタル厚ト爲シ三列釘固著ト爲シ其ノ前後ニ於ケル覆板ハ接合スヘキ板ノ厚ニ十分ノ三吋ヲ増シタル厚ト爲ス

第十條 第二數三萬八千ヲ超エ四萬以下ナルトキハ中央部ニテ船ノ長ノ二分ノ一間ニ於ケル外板及ヒ第七條ノ規定ニ拘ハラズ重甲板又ハ輕甲板ノ梁上側板ノ銜接ニ用ヰヘキ覆板ハ接合スヘキ板ノ厚ニ十分ノ五吋ヲ増シタル厚ト爲シ三列釘固著ト爲シ其ノ前後ニ於ケル覆板ハ接合スヘキ板ノ厚ニ十分ノ四吋ヲ増シタル厚ト爲ス

第十一條 三層重甲板船及ヒ三層輕甲板船ニ於テハ前條ノ規定ニ該當セザルトキト雖モ第二甲板ノ梁上側板ハ中央部ニテ船ノ長ノ二分ノ一間ニ於ケル外板ノ銜接ト爲ス

第十二條 外板ニ條ノ銜接ト爲ストキハ其ノ内外板トモ銜接ニハ覆板ヲ附シテ前條ノ規定ニ從ヒ二列釘又ハ三列釘ヲ以テ之ヲ固著シ且内外板トモ肋骨ニ固著スルノ外肋骨間ノ中央及ヒ縱線ニ於テ相互ニ固著ス

第十三條 平板肋骨ノ銜接ニ用ヰヘキ覆板ノ厚ハ彎曲部外板ノ覆板ノ厚ニ要スル割合ヲ以テ平板肋骨ノ厚ヨリ之ヲ増ス

第十四條 外板ノ銜接ニ用ヰヘキ重覆板ノ外部ニ附スル覆板ノ幅ハ一列釘少ナキ固著ニ要スル覆板ノ幅ト爲シ一列釘少ナキ固著ト爲スコトヲ得

第十五條 外層外板ト正肋材トノ間ニハ正肋材ノ縱邊ト同幅ノ覆板ヲ附スヘシ但支水隔壁ノ部分ニ於テハ其ノ前後ニ於ケル肋骨迄之ヲ延長セシムルカ又ハ疊甲形填板ヲ附スヘシ

前項ノ覆板及ヒ疊甲形填板ハ適當ノ構造ヲ爲ストキハ之ヲ爲サザルモ妨ナシ

第二十三章 釘

第一條 釘ノ徑ハ第七條及ヒ第二條ノ固著スヘキ板又ハ山形材ノ厚キモノト表ノ板ノ厚ニ充テ之ヲ定ムヘシ但正肋材ト外板ト固著スヘキ釘ノ徑ハ正肋材ノ縱邊ノ幅三吋ヲ超エザルトキハ八分ノ七吋又縱邊ノ幅三吋半ナルトキハ一吋ヲ超ユヘカラス

外板ト船首材、船尾材及ヒ龍骨ト固著スヘキ釘ノ徑ハ外板ノ厚ニ依リテ定ムル釘ノ徑ハ八分ノ五吋以下ナルトキハ八分ノ一吋ヲ、徑四分ノ三吋以上ナルトキハ四分ノ一吋ヲ増スヘシ但一吋四分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ス

第二條 左ニ掲ケル場合ノ他特ニ規定アル場合ヲ除クノ外二列以上ノ釘ヲ要スル接合ニ於テハ釘ノ配置ハ並列法ヲ用ヰヘシ

一 外板ト船首材、船尾材、龍骨及ヒ螺旋管ト固著スルトキ

二 肋板及ヒ特設肋板ヲ接合スルトキ

三 外板ノ縱線ニ三列釘ヲ用ヰルトキ

四 山形材ノ固著ニ二列釘ヲ用ヰルトキ

五 其ノ他適宜大臣ノ認可ヲ受ケタルトキ

第三條 總テ板ノ縱線ノ固著ニ於ケル釘列線ノ距離ハ銜接ニ在リテハ釘徑ノ三倍、累接ニ在リテハ釘徑ノ三・五倍ト爲ス

第四條 板ノ銜接ノ固著ニ三列釘又ハ四列釘ヲ用ヰル場合ニハ銜接ニ限リ終列ニ於ケル釘數ハ半數迄ニ減スルコトヲ得但鋼板ニ於テハ第二數二萬ヲ超ユルトキハ終列ニ於ケル釘ノ心距ハ釘徑ノ五・二五倍ヲ超ユルコトヲ得ス

第五條 釘ハ固著スヘキ板若ハ山形材等ノ縁ヲ距ルコト釘徑以上又外板ノ縱線ニ於ケル釘列線ノ距離ハ釘徑ノ二・五倍ト爲ス

第二十二章 第十四條ニ規定スル二重覆板ノ内部ニ附スル覆板ノ外列ニ於ケル釘ノ心距ハ釘徑ノ七倍ト爲スコトヲ得

第四條 釘ノ心距ハ左ノ規定ニ依ルヘシ

一 外板ノ縱線、重甲板、輕甲板又ハ三層甲板船ノ第二甲板ノ梁上側板ノ縱線及ヒ中央部ニ於テ船ノ長ノ三分ノ一ヲ超ユル長ヲ有スル船體甲板ノ梁上側板ノ縱線ハ四列釘累接

二 外板ノ銜接ノ固著ニ三列釘又ハ四列釘ヲ用ヰル場合ニハ銜接ニ限リ終列ニ於ケル釘數ハ半數迄ニ減スルコトヲ得但鋼板ニ於テハ第二數二萬ヲ超ユルトキハ終列ニ於ケル釘ノ心距ハ釘徑ノ五・二五倍ヲ超ユルコトヲ得ス

第五條 釘ハ固著スヘキ板若ハ山形材等ノ縁ヲ距ルコト釘徑以上又外板ノ縱線ニ於ケル釘列線ノ距離ハ釘徑ノ二・五倍ト爲ス

第二十二章 第十四條ニ規定スル二重覆板ノ内部ニ附スル覆板ノ外列ニ於ケル釘ノ心距ハ釘徑ノ七倍ト爲スコトヲ得

第四條 釘ノ心距ハ左ノ規定ニ依ルヘシ

一 外板ノ縱線、重甲板、輕甲板又ハ三層甲板船ノ第二甲板ノ梁上側板ノ縱線及ヒ中央部ニ於テ船ノ長ノ三分ノ一ヲ超ユル長ヲ有スル船體甲板ノ梁上側板ノ縱線ハ四列釘累接

トキハ二層重甲板船ニ於テハ重甲板、三層重甲板船ニ於テハ重甲板若ハ第二甲板、輕甲板船ニ於テハ輕甲板若ハ第二甲板ニ之ヲ設クヘシ

中央部ニ於テ船ノ長ノ二分ノ一ニ鋼甲板ヲ張ルトキハ其ノ前後ニ於テ船ノ長ノ八分ノ一ニ鋼甲板ヲ張リテ漸次其ノ幅ヲ減シテ梁上側板ニ之ヲ會セシムヘシ

第十條 鋼甲板ノ橫線ハ中央部ニ於テ船ノ長ノ二分ノ一ニ列釘固著ト爲シ首尾ニ於テハ一列釘固著ト爲スヘシ但上甲板ニ要スル鋼甲板ノ厚ニ十分ノ九時ナルトキハ船ノ幅ノ三分ノ一以上ノ幅ヲ有スル甲板口縁材ニ接スル甲板ノ甲板口ノ兩側及ヒ其ノ前後ニ於テ鋼甲板ノ中央部ニ於テ船ノ長ノ二分ノ一ニ列釘固著ト爲シ首尾ニ於テハ一列釘固著ト爲スヘシ又上甲板ニ要スル鋼甲板ノ厚ニ十分ノ十時以上ナルトキハ船ノ幅ノ三分ノ一以上ノ幅ヲ有スル甲板口縁材ニ接スル甲板ノ兩側及ヒ其ノ前後ニ於テ鋼甲板ノ中央部ニ於テ船ノ長ノ二分ノ一ニ列釘固著ト爲シ首尾ニ於テハ一列釘固著ト爲スヘシ

第十一條 鋼甲板ヲ要スル船船ニ於テ其ノ上甲板其ノ他ノ甲板設ケルトキハ口ノ四隅ニハ二重鋼板ヲ爲シ開口ノ大サニ應ジ適當ナル長ノ間口ノ

兩側ノ板ノ厚ヲ増スヘシ

第二甲板ノ鋼甲板ヲ要スル船船ニ於テ第二甲板ニ特ニ巨大ナル開口ヲ設ケルトキハ適當ノ補強ヲ爲スヘシ

第十二條 上甲板及ヒ第二甲板ノ梁上側板及ヒ之ニ鋼接スル鋼甲板ニ甲板口ヲ設ケルトキハ適當ノ補強ヲ爲スヘシ

第二十六條 二重底及ヒ水艙

第一條 二重底ヲ構成スル各部ノ寸法及ヒ固著方ハ第六條表及ヒ第六條甲表ニ據ルヘシ但一部ニ二重底ヲ設ケル場合ニ於テハ各部ノ寸法ヲ適當ニ斟酌スルコトヲ得

第二條 二重底ニ於テハ二重底ノ各材ハ第六條表ニ據ルモノヨリ各其ノ厚ヲ十分ノ一吋ヲ減スルコトヲ得但十分ノ六吋ヨリ少カルヘカラス

第三條 二重底ノ内底板及ヒ水艙ノ頂板ニハ密閉シ得ヘキ出入口ノ設ケルニ鐵製又ハ鋼製ノ蓋板ヲ備ヘ且内底板又ハ頂板ノ厚鐵製ニテ十六分ノ六吋、鋼製ニテ十分ノ七吋以下ニシテ設ケ釘ヲ以テ蓋板ヲ内底板又ハ頂板ニ取附ケルトキハ其ノ周圍ニ鑿板ヲ受ケル爲メ鑿板ヲ取附ケヘシ

第四條 二重底ノ桁板及ヒ區畫式ニ重底ノ肋板ニハ入孔、充分ナル通氣孔及ヒ通水孔ヲ設ケヘシ但中心線桁板ニハ入孔ヲ設ケヘカラス

第五條 二重底及ヒ水艙ノ總テ水艙ニ構造シ且之ニ充分ノ排氣管ヲ設ケヘシ排氣管ノ内徑ニ二吋ヨリ小ナルヘカラス

第六條 船首隔壁ノ前部及ヒ船尾隔壁ノ後部ニ於ケル水艙ニハ制水板又其ノ他ノ水艙ニハ縱通隔壁ヲ中央部ニ設ケヘシ但小ナル水艙ハ此ノ限ニ在ラズ

開室後端ノ隔壁ノ前部ニ於テ之ニ鑿板スル肋骨ノ心距ノ二倍ノ間ニ塗水溝ヲ設ケルコトヲ得

船内ニ設ケル塗水溝ノ肋骨ノ心距ノ二倍以內トシ車輪腔内ニ設ケルモノハ心距ノ二倍ノ間ニ設ケスヘシ

開室室及ヒ船内ニ設ケル塗水溝ノ塗水孔ニハ不運轉ヲ設ケヘシ

第五條 二重底内ニハ彎曲部内龍骨及ヒ其内龍骨ヲ設ケルトキハ要セス但二重底ノ全週セサルトキハ之ヲ肋骨ノ心距ノ三倍ノ間ニ重底内ニ延長シ且爲シ得ヘキ部分ニ於テハ之ヲ縱通桁板ニ固著スルカ若ハ縱通桁板ヲ二重底外ニ延長シテ之ヲ固著スヘシ

第六條 二重底内ノ側板ハ爲シ得ヘキ部分ニ於テハ之ヲ首尾ニ延長スヘシ中心線ニ鑿板スル鋼桁板ハ船首隔壁ノ形狀尖ナル場合ノ外成ルヘク之ヲ船首隔壁迄延セシムヘシ

第七條 二重底ノ最大噴水ニ相當スル水高壓カヲ以テ其ノ水密ヲ試驗スヘシ

第八條 中央部ニテ船ノ長ノ五分ノ三間ノ前後ニ於テハ鋼板上ニ鋼板ヲ除キタル幅ノ船首ニ於テ十分ノ一、船尾ニ於テ十分ノ三第六條表ニ據ケル幅ヨリ漸次減スルコトヲ得又或十二分ノ規定ニ依リ甲板梁及ヒ船梁ノ層數ヲ備フル船船又ハ

第二十輯	運輸	第四章	船舶	第二款	造船
第二十輯	運輸	第四章	船舶	第二款	造船

第二十輯 運輸 第四章 船舶 第二款 造船

第二十條 鋼甲板ノ厚ニ十分ノ十時以上ナルトキハ船ノ幅ノ三分ノ一以上ノ幅ヲ有スル甲板口縁材ニ接スル甲板ノ兩側及ヒ其ノ前後ニ於テ鋼甲板ノ中央部ニ於テ船ノ長ノ二分ノ一ニ列釘固著ト爲シ首尾ニ於テハ一列釘固著ト爲スヘシ

第二十一條 鋼甲板ヲ要スル船船ニ於テ其ノ上甲板其ノ他ノ甲板設ケルトキハ口ノ四隅ニハ二重鋼板ヲ爲シ開口ノ大サニ應ジ適當ナル長ノ間口ノ

第二十輯	運輸	第四章	船舶	第二款	造船
第二十輯	運輸	第四章	船舶	第二款	造船

船二於テハ左ノ補強ヲ爲スヘシ
 一 舷側甲板ヲ中央部ニ於テ船ノ長ノ四分ノ三
 間ハ二重張ト爲スコト
 二 重甲板ノ梁上側板、輕甲板ノ梁上側板及ヒ
 覆甲板船ノ第二甲板ノ梁上側板ノ厚ヲ中央
 部五分ノ三間ニ増ス
 三 中心線内龍骨ノ梁上側板ノ第三號表ニ掲ケ
 ル寸法ニ其ノ四分ノ一ヲ増スコト
 四 翼内龍骨ニ中央部二分ノ一間球板ヲ挿入ス
 ルコト
 五 彎曲部内龍骨ニ中央部五分ノ三間球板ヲ挿
 入シ且中央部二分ノ一間斷切板ヲ取附ケル
 コト
 六 彎曲部縱通材ニ中央部五分ノ三間斷切板ヲ
 取附ケルコト
 第二十四條 第二號三萬五千以上四萬未滿ノ船舶
 ニ於テハ左ノ補強ヲ爲スヘシ
 一 舷側甲板ヲ中央部ニ於テ船ノ長ノ四分ノ三
 間ハ二重張ト爲スコト
 二 舷側甲板ノ下縁ニ繋接スル外板ヲ中央部二
 分ノ一間ハ二重張ト爲スコト
 三 重甲板ノ梁上側板、輕甲板ノ梁上側板及ヒ
 覆甲板船ノ第二甲板ノ梁上側板ノ厚ヲ中央
 部五分ノ三間ニ増ス
 四 中心線内龍骨ノ梁上側板ノ第三號表ニ掲ケ
 ル寸法ニ其ノ四分ノ一ヲ増スコト
 五 翼内龍骨ニ中央部二分ノ一間球板ヲ挿入ス
 ルコト但堅板ハ斷切板ニ取附ケ其ノ厚ハ第
 三號表ニ掲ケル中心線單板内龍骨ノ堅板ニ
 等クシ深ハ其ノ四分ノ三ニ等カラシメ其ノ
 兩面上下ニ同表ニ掲ケル山形材ヲ取附ケヘ
 シ
 六 彎曲部内龍骨ニ中央部二分ノ一間堅板ヲ取
 附ケルコト但堅板ハ斷切板ニ取附ケ其ノ厚
 ハ第三號表ニ掲ケル中心線單板内龍骨ノ堅
 板ニ等クシ深ハ其ノ兩面上下ニ同表ニ掲ケ
 ル山形材ヲ取附ケ得ヘキモノト爲スヘシ
 七 彎曲部縱通材ニ中央部五分ノ三間斷切板ヲ
 取附ケルコト
 第五節 深ノ十四倍ヲ超テ二十五倍以下
 ノ長ヲ有スル船舶
 第二十六條 第二號一萬四百五十未滿ノ船舶ニ於
 テハ左ノ補強ヲ爲スヘシ
 一 舷側甲板ニ中央部ニ於テ船ノ長ノ四分ノ三
 間ハ二重張ト爲スコト
 二 船ノ首尾ヲ通シテ二枚ノ山形材間ニ球板ヲ
 挿入シタル翼内龍骨ヲ設ケルコト
 三 彎曲部内龍骨ニ中央部五分ノ三間球板ヲ挿
 入スルコト
 四 彎曲部縱通材ニ中央部二分ノ一間球板ヲ挿
 入シ且中央部二分ノ一間斷切板ヲ取附ケル
 コト
 第二十七條 第二號一萬四百五十以上一萬五千五
 百未滿ノ船舶ニ於テハ左ノ補強ヲ爲スヘシ
 一 舷側甲板ヲ中央部ニ於テ船ノ長ノ四分ノ三
 間ハ二重張ト爲スコト
 二 舷側甲板ノ下縁ニ繋接スル外板ヲ中央部五
 分ノ二間ハ二重張ト爲スコト
 三 翼内龍骨ニ斷切板ヲ取附ケルコト
 四 彎曲部内龍骨ニ中央部五分ノ三間球板ヲ挿
 入スルコト
 五 彎曲部縱通材ニ中央部二分ノ一間斷切板ヲ
 取附ケルコト
 六 彎曲部縱通材ニ中央部二分ノ一間斷切板ヲ
 取附ケルコト若ハ彎曲部ニ於ケル外板一條ヲ
 中央部二分ノ一間ハ二重張ト爲スコト
 七 第二十九條 第二號一萬一千七百以上二萬六千未
 滿ノ船舶ニ於テハ左ノ補強ヲ爲スヘシ
 一 舷側甲板ヲ中央部ニ於テ船ノ長ノ四分ノ三
 間ハ二重張ト爲スコト
 二 舷側甲板ノ下縁ニ繋接スル外板ヲ中央部二
 分ノ一間ハ二重張ト爲スコト
 三 重甲板ノ梁上側板、輕甲板ノ梁上側板及ヒ
 覆甲板船ノ第二甲板ノ梁上側板ノ厚ヲ中央
 部二分ノ一間ニ増スコト
 四 中心線内龍骨ノ梁上側板ノ第三號表ニ掲ケ
 ル寸法ニ其ノ四分ノ一ヲ増スコト
 五 翼内龍骨ニ中央部二分ノ一間球板ヲ挿入ス
 ルコト
 六 彎曲部内龍骨ニ中央部五分ノ三間球板ヲ挿
 入スルコト
 七 彎曲部縱通材ニ中央部五分ノ三間斷切板ヲ
 取附ケルコト
 第三十條 第二號二萬六千以上三萬五千未滿ノ船
 船ニ於テハ左ノ補強ヲ爲スヘシ
 一 舷側甲板ヲ中央部ニ於テ船ノ長ノ四分ノ三
 間ハ二重張ト爲スコト
 二 舷側甲板ノ下縁ニ繋接スル外板ヲ中央部二
 分ノ一間ハ二重張ト爲スコト
 三 重甲板ノ梁上側板、輕甲板ノ梁上側板及ヒ
 覆甲板船ノ第二甲板ノ梁上側板ノ厚ヲ中央
 部五分ノ三間ニ増スコト
 四 中心線内龍骨ノ梁上側板ノ第三號表ニ掲ケ
 ル寸法ニ其ノ四分ノ一ヲ増スコト
 五 翼内龍骨ニ中央部二分ノ一間球板ヲ挿入ス
 ルコト
 六 彎曲部内龍骨ニ中央部五分ノ三間球板ヲ挿
 入スルコト
 七 彎曲部縱通材ニ中央部五分ノ三間斷切板ヲ
 取附ケルコト

三 彎曲部内龍骨ニ中央部五分ノ三間球板ヲ挿
 入スルコト
 四 彎曲部縱通材ニ中央部二分ノ一間斷切板ヲ
 取附ケルコト若ハ彎曲部ニ於ケル外板一條ヲ
 中央部二分ノ一間ハ二重張ト爲スコト
 第二十九條 第二號一萬一千七百以上二萬六千未
 滿ノ船舶ニ於テハ左ノ補強ヲ爲スヘシ
 一 舷側甲板ヲ中央部ニ於テ船ノ長ノ四分ノ三
 間ハ二重張ト爲スコト
 二 舷側甲板ノ下縁ニ繋接スル外板ヲ中央部二
 分ノ一間ハ二重張ト爲スコト
 三 重甲板ノ梁上側板、輕甲板ノ梁上側板及ヒ
 覆甲板船ノ第二甲板ノ梁上側板ノ厚ヲ中央
 部二分ノ一間ニ増スコト
 四 中心線内龍骨ノ梁上側板ノ第三號表ニ掲ケ
 ル寸法ニ其ノ四分ノ一ヲ増スコト
 五 翼内龍骨ニ中央部二分ノ一間球板ヲ挿入ス
 ルコト
 六 彎曲部内龍骨ニ中央部五分ノ三間球板ヲ挿
 入スルコト
 七 彎曲部縱通材ニ中央部五分ノ三間斷切板ヲ
 取附ケルコト
 第三十條 第二號二萬六千以上三萬五千未滿ノ船
 船ニ於テハ左ノ補強ヲ爲スヘシ
 一 舷側甲板ヲ中央部ニ於テ船ノ長ノ四分ノ三
 間ハ二重張ト爲スコト
 二 舷側甲板ノ下縁ニ繋接スル外板ヲ中央部二
 分ノ一間ハ二重張ト爲スコト
 三 重甲板ノ梁上側板、輕甲板ノ梁上側板及ヒ
 覆甲板船ノ第二甲板ノ梁上側板ノ厚ヲ中央
 部五分ノ三間ニ増スコト
 四 中心線内龍骨ノ梁上側板ノ第三號表ニ掲ケ
 ル寸法ニ其ノ四分ノ一ヲ増スコト
 五 翼内龍骨ニ中央部二分ノ一間球板ヲ挿入ス
 ルコト
 六 彎曲部内龍骨ニ中央部五分ノ三間球板ヲ挿
 入スルコト
 七 彎曲部縱通材ニ中央部五分ノ三間斷切板ヲ
 取附ケルコト
 第三十一條 第二號三萬五千以上四萬未滿ノ船舶
 ニ於テハ左ノ補強ヲ爲スヘシ
 一 舷側甲板ヲ中央部ニ於テ船ノ長ノ四分ノ三
 間ハ二重張ト爲スコト
 二 舷側甲板ノ下縁ニ繋接スル外板ヲ中央部二
 分ノ一間ハ二重張ト爲スコト
 三 重甲板ノ梁上側板、輕甲板ノ梁上側板及ヒ
 覆甲板船ノ第二甲板ノ梁上側板ノ厚ヲ中央
 部二分ノ一間ニ増スコト
 四 中心線内龍骨ノ梁上側板ノ第三號表ニ掲ケ
 ル寸法ニ其ノ四分ノ一ヲ増スコト
 五 翼内龍骨ニ中央部二分ノ一間球板ヲ挿入ス
 ルコト
 六 彎曲部内龍骨ニ中央部五分ノ三間球板ヲ挿
 入スルコト
 七 彎曲部縱通材ニ中央部五分ノ三間斷切板ヲ
 取附ケルコト
 第三十二條 第二號一萬四百五十以上一萬五千五
 百未滿ノ船舶ニ於テハ左ノ補強ヲ爲スヘシ
 一 舷側甲板ヲ中央部ニ於テ船ノ長ノ四分ノ三
 間ハ二重張ト爲スコト
 二 舷側甲板ノ下縁ニ繋接スル外板ヲ中央部五
 分ノ二間ハ二重張ト爲スコト
 三 翼内龍骨ニ斷切板ヲ取附ケルコト
 四 彎曲部内龍骨ニ中央部五分ノ三間球板ヲ挿
 入スルコト
 五 彎曲部縱通材ニ中央部二分ノ一間球板ヲ挿
 入シ且中央部二分ノ一間斷切板ヲ取附ケル
 コト
 第三十三條 第二號一萬五千以上一萬八千七
 百未滿ノ船舶ニ於テハ左ノ補強ヲ爲スヘシ
 一 舷側甲板ヲ中央部ニ於テ船ノ長ノ四分ノ三
 間ハ二重張ト爲スコト
 二 舷側甲板ノ下縁ニ繋接スル外板ヲ中央部五
 分ノ二間ハ二重張ト爲スコト
 三 翼内龍骨ニ斷切板ヲ取附ケルコト
 四 彎曲部内龍骨ニ中央部五分ノ三間球板ヲ挿
 入スルコト
 五 彎曲部縱通材ニ中央部二分ノ一間球板ヲ挿
 入シ且中央部二分ノ一間斷切板ヲ取附ケル
 コト
 第三十四條 第二號一萬一千七百以上二萬六千未
 滿ノ船舶ニ於テハ左ノ補強ヲ爲スヘシ
 一 舷側甲板ヲ中央部ニ於テ船ノ長ノ四分ノ三
 間ハ二重張ト爲スコト
 二 舷側甲板ノ下縁ニ繋接スル外板ヲ中央部二
 分ノ一間ハ二重張ト爲スコト
 三 重甲板ノ梁上側板、輕甲板ノ梁上側板及ヒ
 覆甲板船ノ第二甲板ノ梁上側板ノ厚ヲ中央
 部二分ノ一間ニ増スコト
 四 中心線内龍骨ノ梁上側板ノ第三號表ニ掲ケ
 ル寸法ニ其ノ四分ノ一ヲ増スコト
 五 翼内龍骨ニ中央部二分ノ一間球板ヲ挿入ス
 ルコト
 六 彎曲部内龍骨ニ中央部五分ノ三間球板ヲ挿
 入スルコト
 七 彎曲部縱通材ニ中央部五分ノ三間斷切板ヲ
 取附ケルコト
 第三十五條 第二號二萬六千以上三萬五千未滿ノ
 船舶ニ於テハ左ノ補強ヲ爲スヘシ
 一 舷側甲板ヲ中央部ニ於テ船ノ長ノ四分ノ三
 間ハ二重張ト爲スコト
 二 舷側甲板ノ下縁ニ繋接スル外板ヲ中央部五
 分ノ二間ハ二重張ト爲スコト
 三 重甲板ノ梁上側板、輕甲板ノ梁上側板及ヒ
 覆甲板船ノ第二甲板ノ梁上側板ノ厚ヲ中央部二
 分ノ一間ニ増スコト
 四 中心線内龍骨ノ梁上側板ノ第三號表ニ掲ケ
 ル寸法ニ其ノ四分ノ一ヲ増スコト
 五 翼内龍骨ニ中央部二分ノ一間球板ヲ挿入ス
 ルコト
 六 彎曲部内龍骨ニ中央部五分ノ三間球板ヲ挿
 入スルコト
 七 彎曲部縱通材ニ中央部五分ノ三間斷切板ヲ
 取附ケルコト

第八條 鋼製筒形汽缸ノ脚板ノ強力ハ左ノ算式ニ依リ之ヲ定ム

縦接合ノ種類	脚板ノ厚
縦接合ニシテ打貫	一五〇
縦接合ニシテ打貫	一七〇
縦接合ニシテ打貫	一八〇
縦接合ニシテ打貫	一九〇
縦接合ニシテ打貫	二〇〇

第九條 鋼製筒形汽缸ノ脚板ノ強力ハ左ノ算式ニ依リ之ヲ定ム

第十條 鋼製筒形汽缸ノ脚板ノ強力ハ左ノ算式ニ依リ之ヲ定ム

第十一條 鋼製筒形汽缸ノ脚板ノ強力ハ左ノ算式ニ依リ之ヲ定ム

第十二條 鋼製筒形汽缸ノ脚板ノ強力ハ左ノ算式ニ依リ之ヲ定ム

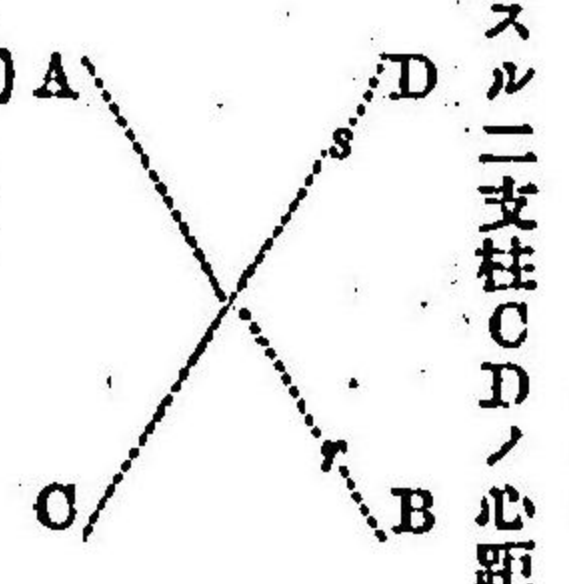
第十三條 鋼製筒形汽缸ノ脚板ノ強力ハ左ノ算式ニ依リ之ヲ定ム

第十四條 鋼製筒形汽缸ノ脚板ノ強力ハ左ノ算式ニ依リ之ヲ定ム

第十五條 鋼製筒形汽缸ノ脚板ノ強力ハ左ノ算式ニ依リ之ヲ定ム

第十六條 鋼製筒形汽缸ノ脚板ノ強力ハ左ノ算式ニ依リ之ヲ定ム

第十七條 鋼製筒形汽缸ノ脚板ノ強力ハ左ノ算式ニ依リ之ヲ定ム



第十八條 鋼製筒形汽缸ノ脚板ノ強力ハ左ノ算式ニ依リ之ヲ定ム

第十九條 鋼製筒形汽缸ノ脚板ノ強力ハ左ノ算式ニ依リ之ヲ定ム

第二十條 鋼製筒形汽缸ノ脚板ノ強力ハ左ノ算式ニ依リ之ヲ定ム

第二十一條 鋼製筒形汽缸ノ脚板ノ強力ハ左ノ算式ニ依リ之ヲ定ム

第二十二條 鋼製筒形汽缸ノ脚板ノ強力ハ左ノ算式ニ依リ之ヲ定ム

第二十三條 鋼製筒形汽缸ノ脚板ノ強力ハ左ノ算式ニ依リ之ヲ定ム

第二十四條 鋼製筒形汽缸ノ脚板ノ強力ハ左ノ算式ニ依リ之ヲ定ム

第二十五條 鋼製筒形汽缸ノ脚板ノ強力ハ左ノ算式ニ依リ之ヲ定ム

第二十六條 鋼製筒形汽缸ノ脚板ノ強力ハ左ノ算式ニ依リ之ヲ定ム

ルトキハ平坦部ノ外邊ノ徑(時ニテ)「ホルムス」式鋼製火爐ニシテ球形ノ心距十六時ヲ超エス其ノ高ニ時ヨリ下ラサルモノ、強力ハ左ノ算式ニ依リ之ヲ定ムヘシ

$$P = 9.5 \times (T-2)$$

Pハ最大汽壓(毎平方時磅ニテ) Tハ火爐平坦部ノ厚(時ノ十六分ノ一ニテ) Dハ火爐平坦部ノ外徑(時ニテ)

第十九條 汽鍋ノ毎平方時ノ最大汽壓九十磅以上ナルトキハ之ニ九十磅ヲ加ヘタルモノ、九十磅未滿ナルトキハ其ノ二倍ノ水壓力ヲ以テ試験ヲ行フヘシ

第五章 鍋、管子及ヒ管

第一條 汽鍋ニハ二箇以上ノ安全弁ヲ備ヘシ且テ全面積ハ第十一號表ニ據リ算定スヘシ但徑二時ヲ最小ノ限度トス

第二條 安全弁發條ハ最大汽壓ニ對シ其ノ受クヘキ壓縮力ヲ加ヘ全長ノ縮小少クトモ發條ノ四分ノ一タルヘキ充分ナル旋回數ヲ有シ尙之ヲ發條ノ四分ノ一壓縮スルモ原形ニ復スルモノナルヘシ

第三條 發條安全弁ノ適否ハ汽力ヲ以テ定ムヘシ若シ給水機及ヒ蒸氣機ヲ閉チ二十分間以上充分ニ昇騰最大汽壓ヨリ蒸氣溢出スルニ至リ尙汽壓若ハ鍋ヲ改造スヘシ

排汽管ノ面積ハ安全弁ノ全面積ヨリ少カルヘカラス
第五條 加熱器ニハ完全ナル安全弁ヲ備フヘシ
第六條 汽鍋ト汽管トノ間ニハ蒸氣機ヲ設クヘシ
第七條 汽鍋ニハ少クトモ硝子驗水器一箇、驗水硝子二箇及ヒ汽壓計一箇ヲ備ヘ又前後ヨリ放火スル汽鍋ニハ之ヲ前後ニ備フヘシ
第八條 放水機若ハ放水硝子ハ汽鍋ニ取附ケタルモノノ外船體外板ニモ亦之ヲ取附ケヘシ
第九條 外板ニ取附ケヘキ放水硝子ハ外板ヲ貫通スル取出口ヲ備ヘ外板ニハ眞鍮製又ハ鋼製ノ環ヲ取附ケヘシ且放水硝子ハ之ヲ閉鎖スルニアラサレハ其ノ閉鎖把手ヲ取附ケ得サル機裝置ヲ爲スヘシ
第十條 海水硝子ハ汽鍋室及ヒ汽機室ノ床板上ニ取附ケタル外板ニ取附ケタルカ又ハ「キングストン」製ニ取附ケタル外板ニ取附ケタルカニシテシムヘシ
第十一條 硝子及ヒ硝子外板ニ取附ケタル外板ニ取附ケタルカ若ハ埋頭ト爲スヘシ
第十二條 吸水管ヲ接續スル硝子ハ汽鍋室及ヒ汽機室ノ床板上ニ取附ケヘシ
第十三條 最大水壓以下ニ於ケル吸水口及ヒ吐水口ハ絶テ外板ニ接續シ得ヘキ機裝置スヘシ
第十四條 汽管ニハ充分ナル排水ノ裝置ヲ爲スヘシ
第十五條 汽管ハ伸縮ノ爲メ變形ヲ生セサル機裝置ヲ爲スヘシ
第十六條 炭庫ヲ通過スル汽管ニハ覆箱ヲ備フヘシ
第十七條 内部ヨリ壓力ヲ受クル汽管ノ強力ハ左ノ算式ニ依リ之ヲ定ムヘシ

$$P = 6,000 \times (T-10)$$

(二) 承接合鐵管
 $P = \frac{6,000 \times T}{D}$
(三) 無接合鋼管
 $P = \frac{9,000 \times T}{D}$
Pハ最大壓力(毎平方時磅ニテ) Dハ管ノ内徑(時ニテ) Tハ管ノ厚(時ニテ) Oハ定數ニシテ鋼管ニ付タルトキハ十六分ノ一又無接合ニシテ徑八時以下ナルトキハ三十分ノ一
第六條 補助汽機及ヒ補助汽鍋ノ汽管ハ厚四分ノ一時未滿ノモノヲ使用スルヲ得ス
第十八條 汽管及ヒ給水管ハ硝子取附ケ上ラシメタル後最大壓力ノ二倍ノ水壓力ヲ以テ試験ヲ行フヘシ
第一條 明治二十九年逓信省令第十七號造船規程ハ本規程施行ノ日ヨリ廢止ス
第二條 第一輯第一章第九條ノ規定ハ當分ノ内造船獎勵法ニ依リ製造スル船舶ニハ之ヲ適用セズ
第三條 造船獎勵法ニ依リ製造スル船舶ニシテ明治三十三年八月一日以前ニ頒布シテ出シタルモノ又ハ航海獎勵法ニ依リ航行スル船舶ニシテ本規程施行前ニ製造シタルモノニハ本規程施行ノ後ト雖モ明治二十九年逓信省令第十七號造船規程ヲ適用ス但本規程中明治二十九年逓信省令第十七號造船規程ヨリ輕減シタル部分ニ付テハ此ノ限ニ在ラス (別表)

第 字乙、材助副、材肋正、距心ノ骨肋

第 一		第 二		第 三		第 四		第 五		第 六	
間	幅	間	幅	間	幅	間	幅	間	幅	間	幅
26-31	26	31-37	26	37-45	26	45-52	26	52-57	26	57-61	26
61-65	26	65-68	26	68-71	26	71-73	26	73-76	26	76-80	26
80-85	26	85-91	26	91-97	26	97-103	26	103-109	26	109-115	26
115-122	26	122-130	26								

第二十輯 運輸 第四章 船舶 第二款 造船

柱梁キヘク附取ニ梁板甲三第												柱キク取梁甲第 梁ヘ附ニ板四				梁 柱 ノ 長
ルナ梁 ト取柱 キ附一 ク列			ト附列梁 キクナ柱 ル取二			ト附列梁 キクナ柱 ル取三			附取 ト列 キナ 柱		ト附列梁 キクナ柱 ル取三					
(呎)長ノ梁ルケ於ニ中央ノ船												(呎)長梁ケニ中船 ノル於央ノ				以上 未 載 呎 6-8
35	39	43	47	51	55	59	63	51	55	59	63	以上 未 載 呎 6-8				
3½	3½	3½	3½	3½	3½	3½	4	4½	4½	4½	4½	8-10				
4	4	3½	4	4	3½	4	4½	4½	4½	4½	4½	10-12				
4½	4½	4	4½	4½	4	4½	4½	4½	4½	4½	4½	12-14				
	4½	4½	4½	4½	4½	4½	4½	5	4½	4½	5	14-16				
		4½	4½	4½	4½	4½	5	5½	5	5½	5½	16-18				
			4½	4½	5	4½	5½	5½	5½	5½	5½	18-20				
				5	5½	5½	5½		5½	5½	5½	20-22				
					5½	5½	5½			6	6	22-24				
						6	6					24-26				
							6½					26-28				
												28-30				
												30-32				

第 一 數	肋 骨 ノ 心 距
26-31	20
31-37	20
37-45	21
45-52	21
52-57	22
57-61	22
61-65	23
65-68	23
68-71	23
71-73	24
73-76	24
76-80	24
80-85	24
85-91	24
91-97	24
97-103	25
103-109	25
109-115	26
115-122	26
122-130	27

表 號 一

法寸ノ板肋口及板壁隔、骨肋式深、骨肋形山球ノ若形溝、形

材 助 正	副 肋 材	形 形 若 若 骨 骨 乙 乙 字 字 ス 材 材 及	形 形 若 若 骨 骨 球 球 用 用 材 材 山 山 ス 材 材 及	骨 肋 式 深	
				深 ノ 骨 肋	甲 三 板 層 船 重
五 分 テ 船 中 部 央 二 ノ 長 三 間 ノ 於	分 船 ノ 尾 ノ 長 一 間 ノ 於 五 五	ノ 長 三 間 ノ 於	於 中 ノ 央 五 部 分 二	ノ 長 三 間 ノ 於	輕 板 二 甲 船 船 板 及 覆 層 船 甲 甲
2½×2×½	2½×2×½	2×2×½			
2½×2½×½	2½×2½×½	2½×2½×½			
3×2½×½	3×2½×½	2½×2½×½			
3×3×½	3×3×½	2½×2½×½			
3½×3×½	3½×3×½	3×2½×½	3½×3×3×½	4×3×½	4½
3½×3×½	3½×3×½	3×2½×½	3½×3×3×½	4½×3×½	5
4×3×½	4×3×½	3×3×½	4×3×3×½	5×3×½	6
4×3×½	4×3×½	3×3×½	4×3×3×½	5×3×½	6½
4½×3×½	4½×3×½	3×3×½	4½×3×3×½	5½×3×½	7
4½×3×½	4½×3×½	3×3×½	4½×3×3×½	5½×3×½	7½
5×3×½	5×3×½	3×3×½	5×3×3×½	6×3×½	8
5×3×½	5×3×½	3½×3×½	5×3×3×½	6×3×½	8½
5×3½×½	5×3½×½	3½×3½×½	5×3½×3½×½	6×3½×½	9
5½×3½×½	5½×3½×½	4×3½×½	5½×3½×3½×½	6½×3½×½	9½
5½×3½×½	5½×3½×½	4×3½×½	5½×3½×3½×½	6½×3½×½	10
6×3½×½	6×3½×½	4½×3½×½	6×3½×3½×½	7×3½×½	10½
6×3½×½	6×3½×½	4½×3½×½	6½×3½×3½×½	7½×3½×½	
6½×3½×½	6½×3½×½	4½×4×½	7×3½×3½×½	8×3½×½	
7×3½×½	6½×3½×½	4½×4×½	7½×3½×3½×½	8½×3½×½	
7×3½×½	6½×3½×½	4½×4×½	7½×3½×3½×½	8½×3½×½	

箱未呎四十上以呎二十長ノ柱梁			
形 筒 ○	板及材形溝重二		山 四 材 角 ノ +
	材 形 溝	板	
徑 外	材 形 溝	板	+
吋	吋	吋	吋
7× $\frac{1}{8}$	8×4×4× $\frac{1}{8}$		4×4× $\frac{1}{8}$
7 $\frac{1}{2}$ × $\frac{1}{8}$	8×4×4× $\frac{1}{8}$		4×4× $\frac{1}{8}$
8× $\frac{1}{8}$	8×4×4× $\frac{1}{8}$		4×4× $\frac{1}{8}$
8 $\frac{1}{2}$ × $\frac{1}{8}$	8×4×4× $\frac{1}{8}$		4 $\frac{1}{2}$ ×4 $\frac{1}{2}$ × $\frac{1}{8}$
8 $\frac{3}{4}$ × $\frac{1}{8}$	8×4×4× $\frac{1}{8}$		4 $\frac{1}{2}$ ×4 $\frac{1}{2}$ × $\frac{1}{8}$
9× $\frac{1}{8}$	8×4×4× $\frac{1}{8}$		5×5× $\frac{1}{8}$
10× $\frac{1}{8}$	8×4×4× $\frac{1}{8}$		5×5× $\frac{1}{8}$
10× $\frac{1}{4}$	8×4×4× $\frac{1}{8}$		5×5× $\frac{1}{8}$
11× $\frac{1}{8}$	8×4×4× $\frac{1}{8}$		5×5× $\frac{1}{8}$
12× $\frac{1}{8}$	9×3 $\frac{1}{2}$ ×3 $\frac{1}{2}$ × $\frac{1}{8}$	10× $\frac{1}{8}$	5×5× $\frac{1}{8}$
12× $\frac{1}{4}$	10×3 $\frac{1}{2}$ ×3 $\frac{1}{2}$ × $\frac{1}{8}$	11× $\frac{1}{8}$	6×6× $\frac{1}{8}$
13× $\frac{1}{8}$	11×3 $\frac{1}{2}$ ×3 $\frac{1}{2}$ × $\frac{1}{8}$	12× $\frac{1}{8}$	6×6× $\frac{1}{8}$
13× $\frac{1}{4}$	11×3 $\frac{1}{2}$ ×3 $\frac{1}{2}$ × $\frac{1}{8}$	12× $\frac{1}{8}$	6×6× $\frac{1}{8}$
14× $\frac{1}{8}$	11×3 $\frac{1}{2}$ ×3 $\frac{1}{2}$ × $\frac{1}{8}$	12× $\frac{1}{8}$	6×6× $\frac{1}{8}$
15× $\frac{1}{8}$	11×3 $\frac{1}{2}$ ×3 $\frac{1}{2}$ × $\frac{1}{8}$	12× $\frac{1}{8}$	6×6× $\frac{1}{8}$
16× $\frac{1}{8}$	11×3 $\frac{1}{2}$ ×3 $\frac{1}{2}$ × $\frac{1}{8}$	12× $\frac{1}{8}$	6×6× $\frac{1}{8}$
17× $\frac{1}{8}$	12×3 $\frac{1}{2}$ ×3 $\frac{1}{2}$ × $\frac{1}{8}$	13× $\frac{1}{8}$	7×7× $\frac{1}{8}$
18× $\frac{1}{8}$	12×3 $\frac{1}{2}$ ×3 $\frac{1}{2}$ × $\frac{1}{8}$	13× $\frac{1}{8}$	7×7× $\frac{1}{8}$
18× $\frac{1}{4}$			8×8× $\frac{1}{8}$
18× $\frac{1}{2}$			8×8× $\frac{1}{8}$

梁 柱 ノ 長	柱梁キヘク附				
	ト キ	ト ク	ト ナ ル	ト ナ ル	ト ナ ル
長	(呎)長ノ梁				
以上未滿	15	19	23	27	31
6-8	2 $\frac{1}{2}$	2 $\frac{1}{2}$	2 $\frac{1}{2}$	2 $\frac{1}{2}$	2 $\frac{1}{2}$
8-10	2 $\frac{3}{8}$	2 $\frac{3}{8}$	2 $\frac{3}{8}$	2 $\frac{3}{8}$	2 $\frac{3}{8}$
10-12	2 $\frac{1}{2}$	2 $\frac{1}{2}$	2 $\frac{3}{8}$	2 $\frac{3}{8}$	2 $\frac{3}{8}$
12-14	2 $\frac{3}{8}$	2 $\frac{3}{8}$	2 $\frac{3}{8}$	3	3
14-16		2 $\frac{3}{8}$	3	3 $\frac{1}{8}$	3 $\frac{1}{8}$
16-18			3 $\frac{1}{8}$	3 $\frac{1}{8}$	3 $\frac{1}{8}$
18-20			3 $\frac{1}{8}$	3 $\frac{3}{8}$	3 $\frac{3}{8}$
20-22				3 $\frac{3}{8}$	3 $\frac{3}{8}$
22-24				4	4
24-26					4 $\frac{1}{8}$
26-28					
28-30					
30-32					
梁柱キヘク附取ニ取板甲					
6-8	2 $\frac{1}{2}$	2 $\frac{1}{2}$	2 $\frac{1}{2}$	2 $\frac{1}{2}$	2 $\frac{1}{2}$

表 甲 號 一 第
徑ノ柱梁質中キヘク附取ニ取板一骨肋

取ニ取板甲輕ノ若梁板甲重						柱梁キヘク附取ニ取板甲二第												
梁 柱 一	ト 附 列 キ ク ナ ル 取 二		ト 附 列 梁 キ ク ナ ル 取 三		ト 附 列 梁 キ ク ナ ル 取 一	ト 附 列 梁 キ ク ナ ル 取 二		ト 附 列 梁 キ ク ナ ル 取 三										
	ル 取 二	ル 取 三	ル 取 一	ル 取 二		ル 取 三												
ルケ於ニ央中ノ船						(呎)長ノ梁ルケ於ニ央中ノ船												
35	39	43	47	51	55	59	63	23	27	31	35	39	43	47	51	55	59	63
2 $\frac{1}{2}$	2 $\frac{1}{2}$	2 $\frac{1}{2}$	2 $\frac{1}{2}$	2 $\frac{1}{2}$	2 $\frac{1}{2}$	2 $\frac{1}{2}$	3	2 $\frac{1}{2}$	3	3 $\frac{1}{8}$	3 $\frac{1}{8}$	3 $\frac{1}{8}$	3 $\frac{1}{8}$	3 $\frac{1}{8}$	3 $\frac{1}{8}$	3 $\frac{1}{8}$	3 $\frac{1}{8}$	3 $\frac{1}{8}$
2 $\frac{3}{8}$	2 $\frac{3}{8}$	2 $\frac{3}{8}$	2 $\frac{3}{8}$	3	2 $\frac{3}{8}$	3	3 $\frac{1}{8}$	3	3 $\frac{1}{8}$	3 $\frac{1}{8}$	3 $\frac{1}{8}$	3 $\frac{1}{8}$	3 $\frac{1}{8}$	3 $\frac{1}{8}$	3 $\frac{1}{8}$	3 $\frac{1}{8}$	3 $\frac{1}{8}$	3 $\frac{1}{8}$
2 $\frac{3}{8}$	3	2 $\frac{3}{8}$	3	3 $\frac{1}{8}$				3 $\frac{1}{8}$	3 $\frac{3}{8}$	3 $\frac{3}{8}$	3 $\frac{3}{8}$	3 $\frac{3}{8}$	3 $\frac{3}{8}$	3 $\frac{3}{8}$	3 $\frac{3}{8}$	3 $\frac{3}{8}$	3 $\frac{3}{8}$	3 $\frac{3}{8}$
3 $\frac{1}{8}$	3 $\frac{1}{8}$	3	3 $\frac{1}{8}$	3 $\frac{1}{8}$					3 $\frac{3}{8}$	3 $\frac{3}{8}$	4	4 $\frac{1}{8}$	4 $\frac{1}{8}$	4 $\frac{1}{8}$	4 $\frac{1}{8}$	4	4	
3 $\frac{1}{8}$	3 $\frac{1}{8}$	3 $\frac{1}{8}$	3 $\frac{1}{8}$	3 $\frac{1}{8}$						4 $\frac{1}{8}$	4 $\frac{1}{8}$	4 $\frac{1}{8}$	4 $\frac{1}{8}$	4 $\frac{1}{8}$	4 $\frac{1}{8}$	4 $\frac{1}{8}$	4 $\frac{1}{8}$	
3 $\frac{1}{8}$	4	3 $\frac{1}{8}$	3 $\frac{1}{8}$	4						4 $\frac{1}{8}$	5	4 $\frac{1}{8}$	4 $\frac{1}{8}$	4 $\frac{1}{8}$	4 $\frac{1}{8}$	4 $\frac{1}{8}$	4 $\frac{1}{8}$	
4	4 $\frac{1}{8}$	3 $\frac{3}{8}$	4	4 $\frac{1}{8}$						5	5 $\frac{1}{8}$	4 $\frac{1}{8}$	5	5	5	4 $\frac{1}{8}$		
4 $\frac{1}{8}$	4 $\frac{1}{8}$	4	4 $\frac{1}{8}$	4 $\frac{1}{8}$						5 $\frac{1}{8}$	5	5 $\frac{1}{8}$	5 $\frac{1}{8}$	5 $\frac{1}{8}$	5			
4 $\frac{1}{8}$	4 $\frac{1}{8}$	4 $\frac{1}{8}$	4 $\frac{1}{8}$	4 $\frac{1}{8}$						5 $\frac{1}{8}$	5 $\frac{1}{8}$	5 $\frac{1}{8}$	5 $\frac{1}{8}$	5 $\frac{1}{8}$	5 $\frac{1}{8}$			
4 $\frac{1}{8}$	5	4 $\frac{1}{8}$	4 $\frac{1}{8}$	5						5 $\frac{1}{8}$	5 $\frac{1}{8}$	5 $\frac{1}{8}$	5 $\frac{1}{8}$	5 $\frac{1}{8}$	5 $\frac{1}{8}$			
	5 $\frac{1}{8}$	4 $\frac{1}{8}$	5	5 $\frac{1}{8}$						5 $\frac{1}{8}$	6	6	5 $\frac{1}{8}$					
	5	5 $\frac{1}{8}$	5 $\frac{1}{8}$															
梁柱キヘク附取ニ取板甲						梁柱キヘク附取ニ取板甲												
2 $\frac{1}{2}$						2 $\frac{1}{2}$												

其ノ二

呎十三上以呎八十二長ノ柱梁				滿未呎六十上以呎四十長ノ柱梁			
板及材形溝重二		山四 形材ノ	數	形筒 ○	板及材形溝重二		山四 形材ノ
材形溝	板				材形溝	板	
吋	吋	吋	S×B×H 100	徑外	吋	吋	吋
10×3½×3½×½	11×½	6×6×½	11-13	7×½	8×4×4×½		4×4×½
10×3½×3½×½	11×½	6×6×½	13-16	7½×½	8×4×4×½		4×4×½
11×3½×3½×½	12×½	6×6×½	16-19	8×½	8×4×4×½		4½×4½×½
11×3½×3½×½	12×½	6×6×½	19-22	8½×½	8×4×4×½		4½×4½×½
11×3½×3½×½	12×½	6×6×½	22-25	9×½	8×4×4×½		5×5×½
11×3½×3½×½	12×½	6×6×½	25-29	9×½	8×4×4×½		5×5×½
11×3½×3½×½	12×½	6×6×½	29-33	10×½	8×4×4×½		5×5×½
11×3½×3½×½	12×½	6×6×½	33-37	10×½	9×3½×3½×½	10×½	5×5×½
11×3½×3½×½	12×½	6×6×½	37-42	11×½	9×3½×3½×½	10×½	5×5×½
11×3½×3½×½	12×½	6×6×½	42-47	12×½	10×3½×3½×½	11×½	6×6×½
12×3½×3½×½	13×½	7×7×½	47-52	12×½	11×3½×3½×½	12×½	6×6×½
12×3½×3½×½	13×½	7×7×½	52-58	13×½	11×3½×3½×½	12×½	6×6×½
12×3½×3½×½	13×½	7×7×½	58-64	14×½	11×3½×3½×½	12×½	6×6×½
		7×7×½	64-71	14×½	11×3½×3½×½	12×½	6×6×½
		8×8×½	71-78	15×½	11×3½×3½×½	12×½	6×6×½
			78-86	16×½	12×3½×3½×½	13×½	7×7×½
			86-94	17×½	12×3½×3½×½	13×½	7×7×½
			94-102	18×½	12×3½×3½×½	13×½	7×7×½
			102-110	18×½			7×7×½
			110-118	18×½			8×8×½
			118-126	18×½			8×8×½
			126-134				

滿未呎八十上以呎六十長ノ柱梁				滿未呎十二上以呎八十長ノ柱梁				滿
形筒 ○	板及材形溝重二		山四 形材ノ	形筒 ○	板及材形溝重二		山四 形材ノ	
	材形溝	板			材形溝	板		
徑外	吋	吋	吋	徑外	吋	吋	吋	吋
7½×½	8×4×4×½		4½×4½×½	8×½	8×4×4×½		4½×4½×½	8½×½
8×½	8×4×4×½		4½×4½×½	8½×½	8×4×4×½		4½×4½×½	9×½
8½×½	8×4×4×½		5×5×½	9×½	8×4×4×½		5×5×½	9×½
9×½	8×4×4×½		5×5×½	9×½	8×4×4×½		5×5×½	10×½
9×½	8×4×4×½		5×5×½	10×½	9×3½×3½×½	10×½	5×5×½	10×½
10×½	9×3½×3½×½	10×½	5×5×½	10×½	9×3½×3½×½	10×½	5×5×½	10×½
10×½	9×3½×3½×½	10×½	5×5×½	10×½	9×3½×3½×½	10×½	5×5×½	10×½
11×½	9×3½×3½×½	10×½	5×5×½	11×½	10×3½×3½×½	11×½	6×6×½	11×½
12×½	10×3½×3½×½	11×½	6×6×½	12×½	11×3½×3½×½	12×½	6×6×½	12×½
12×½	11×3½×3½×½	12×½	6×6×½	12×½	11×3½×3½×½	12×½	6×6×½	12×½
13×½	11×3½×3½×½	12×½	6×6×½	13×½	11×3½×3½×½	12×½	6×6×½	13×½
14×½	11×3½×3½×½	12×½	6×6×½	13×½	11×3½×3½×½	12×½	6×6×½	13×½
14×½	11×3½×3½×½	12×½	6×6×½	14×½	12×3½×3½×½	13×½	7×7×½	14×½
15×½	11×3½×3½×½	12×½	6×6×½	15×½	12×3½×3½×½	13×½	7×7×½	15×½
16×½	12×3½×3½×½	13×½	7×7×½	16×½	12×3½×3½×½	13×½	7×7×½	16×½
17×½	12×3½×3½×½	13×½	7×7×½	17×½	12×3½×3½×½	13×½	7×7×½	17×½
18×½	12×3½×3½×½	13×½	7×7×½	18×½			7×7×½	18×½
18×½			7×7×½	18×½			7×7×½	18×½
18×½			7×7×½	18×½			8×8×½	18×½
18×½			8×8×½	18×½			8×8×½	18×½

其ノ三

十 吋 二 十			數	滿未呎四十二上以呎二十二長ノ柱梁			
縱				形筒	板口及材形溝重二		山四筒ノ材
板冠	材形溝重二	板冠	徑外	材形溝	板	山四筒ノ材	
吋	吋	吋	吋	吋	吋	吋	
			9 × 2 5/8	8 × 4 × 4 × 1 1/8		5 × 5 × 1 1/8	
			9 × 2 5/8	8 × 4 × 4 × 1 1/8		5 × 5 × 1 1/8	
			10 × 2 5/8	9 × 3 1/2 × 3 1/2 × 7/8	10 × 1 1/8	5 × 5 × 1 1/8	
			10 × 2 5/8	9 × 3 1/2 × 3 1/2 × 7/8	10 × 1 1/8	5 × 5 × 1 1/8	
			10 × 2 5/8	9 × 3 1/2 × 3 1/2 × 7/8	10 × 1 1/8	5 × 5 × 1 1/8	
			10 × 2 5/8	9 × 3 1/2 × 3 1/2 × 7/8	10 × 1 1/8	5 × 5 × 1 1/8	
			10 × 2 5/8	9 × 3 1/2 × 3 1/2 × 7/8	10 × 1 1/8	5 × 5 × 1 1/8	
			10 × 2 5/8	9 × 3 1/2 × 3 1/2 × 7/8	10 × 1 1/8	5 × 5 × 1 1/8	
	5 × 3 × 3 × 2 5/8		11 × 2 5/8	10 × 3 1/2 × 3 1/2 × 7/8	11 × 1 1/8	6 × 6 × 1 1/8	
	6 × 3 × 3 × 2 5/8		12 × 2 5/8	11 × 3 1/2 × 3 1/2 × 7/8	12 × 1 1/8	6 × 6 × 1 1/8	
	7 × 3 × 3 × 2 5/8		12 × 2 5/8	11 × 3 1/2 × 3 1/2 × 7/8	12 × 1 1/8	6 × 6 × 1 1/8	
	7 × 3 1/2 × 3 1/2 × 2 5/8		13 × 2 5/8	11 × 3 1/2 × 3 1/2 × 7/8	12 × 1 1/8	6 × 6 × 1 1/8	
	8 × 3 1/2 × 3 1/2 × 2 5/8		13 × 2 5/8	11 × 3 1/2 × 3 1/2 × 7/8	12 × 1 1/8	6 × 6 × 1 1/8	
	8 × 3 1/2 × 3 1/2 × 1 1/8		14 × 2 5/8	11 × 3 1/2 × 3 1/2 × 1 1/8	12 × 1 1/8	6 × 6 × 1 1/8	
	9 × 3 1/2 × 3 1/2 × 1 1/8		15 × 2 5/8	12 × 3 1/2 × 3 1/2 × 2 5/8	13 × 1 1/8	7 × 7 × 1 1/8	
	9 × 3 1/2 × 3 1/2 × 1 1/8		16 × 2 5/8	12 × 3 1/2 × 3 1/2 × 1 1/8	13 × 1 1/8	7 × 7 × 1 1/8	
	10 × 3 1/2 × 3 1/2 × 1 1/8		17 × 2 5/8	12 × 3 1/2 × 3 1/2 × 1 1/8	13 × 1 1/8	7 × 7 × 1 1/8	
	11 × 3 1/2 × 3 1/2 × 1 1/8		18 × 2 5/8			7 × 7 × 1 1/8	
	12 × 3 1/2 × 3 1/2 × 1 1/8		18 × 2 5/8			7 × 7 × 1 1/8	
	12 × 3 1/2 × 3 1/2 × 1 1/8		18 × 2 5/8			8 × 8 × 1 1/8	
8 × 1 1/8	12 × 4 × 4 × 1 1/8		18 × 2 5/8			8 × 8 × 1 1/8	
9 × 1 1/8	12 × 3 1/2 × 3 1/2 × 1 1/8	8 × 1 1/8					
10 × 1 1/8	12 × 4 × 4 × 1 1/8	9 × 1 1/8					
	12 × 4 × 4 × 1 1/8	11 × 1 1/8					

滿未呎六十二上以呎四十二長ノ柱梁				滿未呎八十二上以呎六十二長ノ柱梁				滿未
形筒	板口及材形溝重二		山四筒ノ材	形筒	板口及材形溝重二		山四筒ノ材	形筒
徑外	材形溝	板	山四筒ノ材	徑外	材形溝	板	山四筒ノ材	形外
吋	吋	吋	吋	吋	吋	吋	吋	吋
9 × 2 5/8	8 × 4 × 4 × 1 1/8		5 × 5 × 1 1/8	10 × 2 5/8	9 × 3 1/2 × 3 1/2 × 7/8	10 × 1 1/8	5 × 5 × 1 1/8	10 × 2 5/8
10 × 2 5/8	9 × 3 1/2 × 3 1/2 × 7/8	10 × 1 1/8	5 × 5 × 1 1/8	10 × 2 5/8	9 × 3 1/2 × 3 1/2 × 7/8	10 × 1 1/8	5 × 5 × 1 1/8	10 × 2 5/8
10 × 2 5/8	9 × 3 1/2 × 3 1/2 × 7/8	10 × 1 1/8	5 × 5 × 1 1/8	10 × 2 5/8	9 × 3 1/2 × 3 1/2 × 7/8	10 × 1 1/8	5 × 5 × 1 1/8	11 × 2 5/8
10 × 2 5/8	9 × 3 1/2 × 3 1/2 × 7/8	10 × 1 1/8	5 × 5 × 1 1/8	10 × 2 5/8	9 × 3 1/2 × 3 1/2 × 7/8	10 × 1 1/8	5 × 5 × 1 1/8	11 × 2 5/8
10 × 2 5/8	9 × 3 1/2 × 3 1/2 × 7/8	10 × 1 1/8	5 × 5 × 1 1/8	11 × 2 5/8	11 × 3 1/2 × 3 1/2 × 7/8	12 × 1 1/8	6 × 6 × 1 1/8	11 × 2 5/8
10 × 2 5/8	10 × 8 1/2 × 3 1/2 × 7/8	11 × 1 1/8	6 × 6 × 1 1/8	11 × 2 5/8	11 × 3 1/2 × 3 1/2 × 7/8	12 × 1 1/8	6 × 6 × 1 1/8	11 × 2 5/8
11 × 2 5/8	11 × 3 × 3 1/2 × 7/8	12 × 1 1/8	6 × 6 × 1 1/8	12 × 2 5/8	11 × 3 1/2 × 3 1/2 × 7/8	12 × 1 1/8	6 × 6 × 1 1/8	12 × 2 5/8
12 × 2 5/8	11 × 3 1/2 × 3 1/2 × 7/8	12 × 1 1/8	6 × 6 × 1 1/8	12 × 2 5/8	11 × 3 1/2 × 3 1/2 × 7/8	12 × 1 1/8	6 × 6 × 1 1/8	12 × 2 5/8
12 × 2 5/8	11 × 3 1/2 × 3 1/2 × 7/8	12 × 1 1/8	6 × 6 × 1 1/8	12 × 2 5/8	11 × 3 1/2 × 3 1/2 × 7/8	12 × 1 1/8	6 × 6 × 1 1/8	13 × 2 5/8
13 × 2 5/8	11 × 3 1/2 × 3 1/2 × 7/8	12 × 1 1/8	6 × 6 × 1 1/8	13 × 2 5/8	11 × 3 1/2 × 3 1/2 × 7/8	12 × 1 1/8	6 × 6 × 1 1/8	13 × 2 5/8
13 × 2 5/8	11 × 3 1/2 × 3 1/2 × 7/8	12 × 1 1/8	6 × 6 × 1 1/8	13 × 2 5/8	11 × 3 1/2 × 3 1/2 × 7/8	12 × 1 1/8	6 × 6 × 1 1/8	14 × 2 5/8
14 × 2 5/8	11 × 3 1/2 × 3 1/2 × 7/8	12 × 1 1/8	6 × 6 × 1 1/8	14 × 2 5/8	11 × 3 1/2 × 3 1/2 × 7/8	12 × 1 1/8	6 × 6 × 1 1/8	15 × 2 5/8
15 × 2 5/8	12 × 3 1/2 × 3 1/2 × 7/8	13 × 1 1/8	7 × 7 × 1 1/8	15 × 2 5/8	12 × 3 1/2 × 3 1/2 × 7/8	13 × 1 1/8	7 × 7 × 1 1/8	16 × 2 5/8
16 × 2 5/8	12 × 3 1/2 × 3 1/2 × 7/8	13 × 1 1/8	7 × 7 × 1 1/8	16 × 2 5/8	12 × 3 1/2 × 3 1/2 × 7/8	13 × 1 1/8	7 × 7 × 1 1/8	17 × 2 5/8
17 × 2 5/8	12 × 3 1/2 × 3 1/2 × 7/8	13 × 1 1/8	7 × 7 × 1 1/8	17 × 2 5/8			7 × 7 × 1 1/8	18 × 2 5/8
18 × 2 5/8			7 × 7 × 1 1/8	18 × 2 5/8				
19 × 2 5/8			7 × 7 × 1 1/8					
18 × 1 1/8			8 × 8 × 1 1/8					

第一號 第一節
一ノ分五ノ長ノ船七及板甲覆分部、板甲覆
ルス要ニ部項ノ船ノ例比當過但

Table with columns for ship length ranges (27500 to 52000) and corresponding structural dimensions for various parts of the hull.

一ノ分五ノ長ノ船七及樓尾船、樞首船 (二)

Table with columns for ship length ranges (21500 to 52000) and corresponding structural dimensions for deck and hull components.

Table with columns for ship length ranges (2000 to 6400) and corresponding structural dimensions for various parts of the hull.

第二號 第二節
法寸ノ板外七及材骨尾船、材首船、骨龍

Large table with multiple columns detailing structural dimensions for various parts of the hull, including deck, ribs, and keel, categorized by ship length ranges.

表 丙 號 三 第

法 寸 ノ 等 柄 舵 口 及 材 圓 舵 操 鎖 舵 操 ノ 船 汽

孔 舵 弧 舵 部 頭 ノ 柄	外 徑	弧 柄 舵 口 及 柄 舵 操 鎖				二 箇 ノ 徑	深
		有 ス ル ト キ	一 箇 ノ 腕 ナ キ	有 ス ル ト キ	二 箇 ノ 腕 ナ キ		
2½	5	3×1½					
3	5½	3½×2					
3½	5¾	3¾×2½					
3¾	6¼	3¾×2½					
3¾	6¼	4×2½					
4	7¼	4½×2¾					
4½	7¾	4½×2¾					
4½	8	5×2¾	3¾×2½				
4¾	8½	5½×2¾	4×2½				
5	9	5½×3	4½×2¾				
5½	9¾	5½×3	4½×2¾				
5½	9¾	6×3½	4½×2¾				
5½	10¼	6½×3½	5×2¾				
6	10¾	6½×3½	5½×2¾				
6½	11¼	6½×3½	5½×2¾				
6½	11¼	7×3½	5½×3				
6½	12	7½×3½	5½×3				
7	12¾	7½×4	6×3½			8×1½	2
7½	13	7½×4½	6×3½			8½×1½	2
7½	13½	8×4½	6½×3½			8½×1½	2
7½	14	8½×4½	½×3½			8½×1½	2
8	14½	8½×4½	6½×4	5½×3½		9×1½	½
8½	15½	9×5	7×4	6×3½		9½×1½	2½
9	16½	9½×5½	7½×4½	6½×3½		10×1½	2½
9½	17	10×5½	8×4½	7×4		10½×2	2½
10	18	10½×6	8½×4½	7½×4	7×3½	11×2½	2½
10½	19	11×6½	9×4½	8×4	7½×3½	11½×2½	2½
11	19¾	11½×6¾	9½×5	8½×4½	7½×4	12×2½	3
11½	20¾	12×7	10×5½	8½×5	8×4½	12½×2½	3
12	21¾	12½×7½	10½×5½	9×5	8½×4½	13×2½	3½
13	23¾	13½×7½	11½×5½	10×5	9×4½	14×2½	3½
14	25¾	14½×8	12×6	10½×5½	9½×4½	15×3	3½
15	27	15½×8½	12½×6½	11×5½	10×5	16×3½	4

法 寸

舵 鋼 鋼	舵 頭 ノ 徑	舵 心 材 下 端 ノ 徑	舵 心 材 下 端 ノ 截 面	舵 針 ノ 徑	ト ス ル 舵 心 材 二 接 近 ス ル 部 ニ 於 テ 補 強 骨 ノ 幅 及 ビ 厚
2000-2800	2½	2½	2×2	1½	2½×2
2800-4100	3½	2½	2½×2½	2	3½×2½
4100-5400	3½	3½	2½×2½	2½	3½×2½
5400-6700	3½	3	2½×3	2½	4×2½
6700-7900	4½	3½	2½×3½	2½	4½×2½
7900-9100	4½	3½	3×3½	2½	4½×2½
9100-10300	4½	3½	3×3½	2½	4½×2½
10300-11400	4½	3½	3½×3½	2½	4½×2½
11400-12600	5	3½	3½×4	3	5×3
12600-13800	5½	4	3½×4	3	5½×3½
13800-15100	5½	4½	4×4	3	5½×3½
15100-16500	5½	4½	4½×4	3	5½×3½
16500-18000	6½	4½	4½×4½	3½	6½×3½
18000-19700	7	5½	5½×4½	3½	7×3½
19700-21700	7½	5½	6×4½	3½	7½×3½
21700-24100	7½	5½	6½×5	3½	7½×3½
24100-27000	8	6	6½×5½	4	8×4
27000-30400	8½	6½	6½×5½	4½	8½×4½
30400-34300	9	6½	7×6	4½	9×4½
34300-38500	9½	7½	7½×6½	4½	9½×4½
38500-43000	10	7½	8×6½	5	10×4½
43000-49000	10½	8	8½×7	5½	10½×4½
49000-56000	10½	8	8½×7	5½	10½×4½
56000-63000	11	8½	8½×7½	5½	11×5
63000-70000	11	8½	8½×7½	5½	11×5